

博士論文

ガバナンスの観点から見た質の高い  
社会基盤デザインのメカニズムに関する事例分析  
Case study on the mechanism of good infrastructure  
design from the perspective of governance

太田 啓介

## 論文の内容の要旨

論文題目：ガバナンスの観点から見た質の高い社会基盤デザインのメカニズムに関する事例分析  
Case study on the mechanism of good infrastructure design from the perspective of governance

氏 名：太 田 啓 介

近年、少子高齢化や人口減少など、地域の活力の維持や持続可能性が問題になっている。そこでは地方創生や今後の地域間競争の生き残りかけた質の高い社会基盤の整備・運営に期待されることも大きく、デザイン性を重視し、地域の活性化につなげる取り組みなどが行われている。中でも、質の高いデザインとして評価されている社会基盤の事例は、優れた造形だけでなく、地域のヴィジョンや新たな利活用などの価値の創造を実現している。

一方で、優れた設計者が選ばれても、その後のさまざまな状況により、事業が中止となったり、供用後に改築が必要となる例もみられ、公共施設として求められる質の高い社会基盤の実現のためには、設計段階以降のプロセスも重要であると考えられる。近年質の高い事例では、そのプロセスに従来の行政と設計者だけでなく、優秀なデザイナーや学識経験者に加え、市民などが参加し、デザインを検討し、合意形成している事例がみられる。これらは、多様な主体の相互作用やそれらを方向付ける仕組みによるプロセスであり、ガバナンスの観点から捉えられる。

そこで、本論文においては、行政担当と建設コンサルタントだけでなく、住民、専門家、市民団体等の関係者が参加することが多く、他事業との複合や、土木、建築、造園等の分野がみられる駅前広場整備のうち、主にデザイン賞等を受賞し質が高いと評価されている事例を対象として、ガバナンスの観点から社会基盤デザインの質を高めるメカニズムを明らかにすることを目的とした。

分析手法としては、デザインのプロセスを整理し、質の高いデザインの実現に当たって重要なプロセスを検討プロセスとして抽出したうえで、それぞれの検討プロセスにおいてアクターと行動に対し影響を与えた要因と関与者群で構成される実現構造、それに影響を与える事業特性及びアウトプ

ットとしての質の高いデザインとの関係を示した枠組みを提案した。ここで、アクターと行動に影響を与える要因は、事業主体が質の高いデザインを生み出すためにコントロール可能なツールとしてガバナンスツールと呼ぶこととし、事業を推進するためのツールとデザインを判断するための評価ツールを、明文化された公式ツールと慣習や規範などによる非公式ツールに分類した。

ガバナンスの観点から見た事例分析の結果、一般的な事例に比較して質の高いデザインの事例は検討プロセスが多く、内容に応じてアクターの役割と種類及び用いられるガバナンスツールが多様である。優秀なデザイナーを指名して目指すデザインを立案し、さらにブラッシュアップするために学識経験者の助言や委員会の設置、試作検証や現場監理業務の発注など調達方式（公式事業推進ツール）が用いられる。さらに、製品試作や現場調整を行うことから、メーカーや施工者の協力を得る組織文化等（非公式事業推進ツール）が用いられる。また、デザイン評価では、学識経験者や市民参加など（非公式デザイン評価ツール）が用いられていることが明らかとなった。

また、事例分析結果を踏まえ、質の高いデザインを実現するための課題を乗り越えるアクターとその役割及びガバナンスツールの組み合わせによるメカニズムを以下の通り明らかにした。

調和を目指す全体デザインでは、都市構造との関係が課題であり、それを乗り越えるために、都市計画コンサルタント等を指名する調達方式（公式事業推進ツール）を用い、関係機関と調整・合意形成ができる委員会を調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置し、学識者等の助言（非公式デザイン評価ツール）によりその妥当性を判断するプロセスがみられる。統合性を目指す全体デザインでは、地域らしさを抽出しモチーフとしたデザインへの反映が課題であり、それを乗り越えるために、ノウハウのある優秀なデザイナーを調達方式（公式事業推進ツール）で選定し、その妥当性を判断する委員会等を調整会議（非公式事業推進ツール）として設置することがみられる。一体性を目指す全体デザインでは、主に行政内や関係機関との共通するデザイン要素を統合の調整と決定した統一的内容を実施設計図や仕様書として工事発注時に統一することが課題であり、それを乗り越えるために、関係機関と調整・合意形成ができる調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置することがみられる。

また、各施設のデザインでは、景観性を重視したオリジナルデザインの質の実現のためには、標準仕様や既製品などの採用といった行政規範が課題であり、それを乗り越えるために、優れたデザイナーへの委託やその妥当性を評価する学識経験者を含む委員会等の設置、及びオリジナルデザインを図面化するための法令基準に則った仕様書に記載した設計計算や現場監理・デザイン監修業務（公式事業推進ツール）やメーカーの協力等原寸模型や現場での社会実験によりその品質や利用性を検証（非公式デザイン評価ツール）することがみられる。緑地等デザインでは、維持管理が課題であり、それを乗り越えるために市民参加（非公式デザイン評価ツール）による維持管理方法の確立が重要である。また地域の気候風土に根差したデザインとするために在来種の採用等が課題であり、それを乗り越えるために専門家の助言（非公式デザイン評価ツール）を受ける樹木を生産地で確認するといった現場監理（公式事業推進ツール）がみられる。

さらに、質の高いデザインを実現するメカニズムを有効に機能させるために、多様なアクターの相互作用を促進させる学識経験者やコーディネーターを配置した体制構築のための調達方式（公式な事業推進ツール）は事業の早い段階から現場まで一貫して用いること、デザイナーの選定を行った学識経験者は引き続きデザインの妥当性を評価しより質の高いデザインへと導く助言機能を発揮する仕様書等（非公式デザイン評価ツール）のガバナンスツールの有効な使い方の例を示した。

本論文では、質の高いデザインを実現するための課題とそれを乗り越えるためのガバナンスツールを用いた課題解決のメカニズムを明らかにすることができた。実際に事業を進める行政担当にとっては、このメカニズムを理解し、ガバナンスツールを有効に用いることで、目指すデザインの質の実現に役立つものとする。また、建設コンサルタント等が行政のパートナーとして事業の組み立てや推進を支援する際のコンサルティングにも役立つものとする。

最後に、今後の課題として、比較事例を増やして本論文で得られたメカニズムの一般化を図るとともに、課題解決のためのガバナンスツールの改良や開発、事業特性そのものを変えることによって乗り越えるべき課題のハードルを低くするなど、制度や体制、仕組みの改善の研究が必要である。さらに、アクターの質の向上、人材育成も今後の課題であると考えられる。

# 目 次

第1章 序論.....	1
1.1 本研究の背景.....	2
1.1.1 質の高い社会基盤デザイン.....	2
1.1.2 社会基盤デザインのガバナンス.....	2
1.2 既往の研究.....	4
1.2.1 質の高い社会基盤デザインに関する研究.....	4
(1) 土木のデザインの定義に関する研究.....	4
(2) 質の高いデザインを実現する仕組みに関する研究.....	4
(3) 社会基盤デザインにおける質の高いデザインに関する研究.....	6
(4) 他分野における質の高いデザインの定義.....	8
(5) 海外における質の高いデザインに関する研究.....	11
(6) インフラの特徴, 考慮すべき諸条件 等.....	12
(7) 質の高い社会基盤デザインの定義.....	13
(8) デザイン対象ごとの質の高い社会基盤デザイン.....	14
1.2.2 ガバナンスに関する研究.....	23
(1) ガバナンスの概念と定義.....	23
(2) 公共政策における実施ガバナンスに関する研究.....	25
(3) ガバナンスのメカニズムに関する研究.....	26
(4) 海外におけるデザインガバナンス.....	27
(5) 社会基盤デザインのガバナンス.....	29
1.3 本研究の目的と意義.....	30
1.4 研究範囲と対象事例.....	31
1.4.1 研究範囲.....	31
1.4.2 対象事例.....	31
(1) ガバナンスを分析するための対象事例の要件.....	31
(2) 対象分野の絞り込み.....	31
(3) 分析対象施設の決定 (駅前広場).....	32
(4) 対象事例.....	32
1.5 研究の方法.....	36
1.5.1 研究の方法.....	36
1.5.2 分析の手順.....	36
1.5.3 分析の枠組み.....	37
1.6 本論文の構成.....	38

<b>第2章 駅前広場整備事業における社会基盤デザインの検討プロセス</b> .....	<b>39</b>
2.1 本章の目的.....	40
2.2 駅前広場整備事業のプロセスとガバナンスツール.....	41
2.2.1 事業プロセスの整理.....	41
2.2.2 駅前広場整備における計画プロセス.....	42
2.2.3 建設コンサルタンツ協会の報酬の手引きにおける景観設計の段階.....	43
2.2.4 ガバナンスツール.....	45
(1) 公式・非公式なガバナンスツール.....	45
(2) 事業推進・デザイン評価のためのガバナンスツール.....	45
(3) ガバナンスツールの分類.....	46
2.3 駅前広場整備事業における社会基盤デザインの要素.....	49
2.3.1 国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）における検討項目.....	49
2.3.2 本研究におけるデザインの検討項目.....	50
2.3.3 駅前広場におけるデザイン項目.....	51
2.3.4 駅前広場におけるデザインの要素.....	52
(1) 全体デザイン.....	52
(2) 施設デザイン.....	52
2.1 社会基盤デザインの検討プロセス.....	55
2.1.1 デザイン対象ごとの法的制約等によるプロセスの特徴.....	55
2.1.2 デザイン対象ごとの制約，規範，建設産業とプロセスの関係.....	57
2.1.3 社会基盤デザインの検討プロセス.....	59
(1) 全体デザインの検討プロセス.....	59
(2) 施設デザインの検討プロセス.....	59
2.2 結論.....	60
<b>第3章 駅前広場整備事業を対象とした社会基盤デザインの事例分析手法の提案</b> .....	<b>61</b>
3.1 本章の目的.....	62
3.2 分析の枠組みと手順.....	63
3.2.1 分析枠組みの全体像.....	63
(1) 実現構造.....	63
(2) 事業特性.....	64
(3) デザインのアウトプット.....	64
3.2.2 デザインプロセスとアウトプットの関係.....	64
3.2.3 分析の手順.....	66
3.3 情報収集と整理.....	67
3.3.1 収集情報.....	67
3.3.2 収集方法.....	69
3.3.3 デザインプロセスの整理.....	70

3.3.4	デザインプロセスにかかわるアクターの整理.....	71
(1)	行政（担当，首長）.....	71
(2)	関係機関（関係行政機関（国，県），鉄道事業者）.....	71
(3)	委員会.....	71
(4)	学識者.....	72
(5)	地域（住民）.....	72
(6)	設計者（建設コンサルタント）.....	72
(7)	設計者（都市計画，建築設計事務所）.....	72
(8)	デザイナー.....	73
(9)	施工者（施工会社）.....	73
(10)	運営者（運営維持管理者）.....	73
3.4	考察と取りまとめ.....	74
3.4.1	アウトプットとしてのデザインの質の考察.....	74
3.4.2	デザインの質と実現構造の関係の考察.....	75
3.4.3	分析のとりまとめ.....	76
3.5	結論.....	77
<b>第4章</b>	<b>駅前広場整備事業を対象とした社会基盤デザインの事例分析手法の事例への適用.....</b>	<b>78</b>
4.1	本章の目的.....	79
4.2	一般的な事例への適用例.....	80
(1)	対象事例.....	80
(2)	情報収集.....	80
(3)	デザインプロセスの整理.....	80
(4)	デザインプロセスにかかわるアクター.....	82
(5)	アウトプットとしてのデザインの質の分析.....	82
(6)	デザインプロセスにおける実現構造の分析.....	83
(7)	デザインの質と実現構造の関係の考察.....	86
(8)	ガバナンスツールのまとめ.....	87
(9)	考察.....	88
4.3	質の高いデザインの事例への適用例.....	89
(1)	対象事例，収集情報及び資料.....	89
(2)	収集資料.....	89
(3)	デザインプロセスの把握.....	90
(4)	アクターの把握.....	92
(5)	アウトプットとしてのデザインの質の分析.....	93
(6)	デザインプロセスにおける実現構造の分析.....	94
(7)	デザインの質と実現構造の関係の考察.....	98
(8)	デザイン決定及びデザイン実施プロセスのまとめ.....	100

(9) 考察.....	101
4.4 事例分析結果.....	102
4.4.1 全体デザインの質.....	102
(1) 全体デザインの3つのデザインの質と実現構造.....	104
(2) 全体デザインの特徴的な実現構造の事例.....	107
4.4.2 施設デザイン（舗装等）のデザインの質と実現構造.....	115
(1) 施設デザイン（舗装等）：2つのデザインの質と実現構造.....	117
(2) 施設デザイン（舗装等）の特徴的な実現構造の事例.....	119
4.4.3 施設デザイン（ストリートファニチャ）の質.....	121
(1) 施設デザイン（ストリートファニチャ）：4つのデザインの質と実現構造.....	123
(2) 施設デザイン（ストリートファニチャ）の特徴的な実現構造の事例.....	127
4.4.4 施設デザイン（緑地等）のデザインの質と実現構造.....	131
(1) 施設デザイン（緑地等）：3つのデザインの質と実現構造.....	133
(2) 施設デザイン（緑地等）：特徴的な実現構造の事例.....	136
4.5 結論.....	138
<b>第5章 質の高い社会基盤デザインを実現するためのメカニズム.....</b>	<b>140</b>
5.1 本章の目的.....	141
5.2 デザインの質を高めるためのメカニズム.....	142
5.2.1 全体デザインの質を高めるメカニズム.....	142
(1) デザインの質に応じた実現構造の関係性.....	142
(2) 質の高いデザインを実現するメカニズム.....	144
5.2.2 各施設デザインの質を高めるメカニズム.....	150
(1) 舗装等及びストリートファニチャの質の高いデザインを実現するメカニズム.....	150
(2) 緑地等の質の高いデザインを実現するためのメカニズム.....	158
(3) 質の高いデザインを実現するメカニズムの使い方.....	164
5.2.3 質の高いデザインを実現するプロセスとメカニズム.....	165
(1) デザインプロセスとメカニズムの関係.....	165
(2) 質の高いデザインを実現するためのプロセスとメカニズム.....	166
5.3 質の高いデザインの実現に寄与するガバナンスツール.....	167
5.3.1 事業推進のためのガバナンスツール.....	167
(1) 公式ツール.....	167
(2) 非公式ツール.....	168
5.3.2 デザインの評価のためのガバナンスツール.....	169
(1) 公式ツール.....	169
(2) 非公式ツール.....	170
5.4 結論.....	172
<b>第6章 結論.....</b>	<b>173</b>



6.1 本研究の成果.....	174
6.2 今後の研究課題.....	178
謝辞.....	179
参考文献.....	180
附録 事例概要と分析結果.....	附-1

# 第1章 序論

## 1.1 本研究の背景

### 1.1.1 質の高い社会基盤デザイン

近年、少子高齢化や人口減少など、地域の活力の維持や持続可能性が問題になっている。そこでは地方創生や今後の地域間競争の生き残りをかけた質の高い社会基盤の整備・運営に期待されることも大きく、公共施設の老朽化に伴い、再整備やリノベーション等で、デザイン性を重視し、地域の活性化につなげる取り組みなどが行われている。中でも、質の高いデザインとして評価されている社会基盤の事例は、優れた造形だけでなく、地域のヴィジョンや新たな利活用などの価値の創造を実現している。

社会基盤は、一般に規模が大きく、一度整備されると50年、100年と長く使われることが多い。そのため、それがどのような姿かたち、造形を持っているかは、それぞれの地域を訪れた時の印象やその後に生まれる文化、利活用などに及ぼす影響が大きい。そこで、本研究では、社会基盤の造形とその造形がどういった影響をもたらすか、といった意味でデザインをとらえ、研究の対象として考える。社会基盤におけるデザインは、景観・デザイン分野において、デザイン・設計を通じた実践やその方法論を中心とした研究が行われ、また、土木学会で景観・デザイン委員会がデザイン賞を主催し、毎年表彰している。これらの研究や表彰では、一定の社会資本の質の高いデザインについて言及されているため、本研究では、これらの社会基盤分野における質の高いデザインの既往の研究を取り上げる。

令和元年6月14日には、品確法の改正が行われ、公共工事に関する調査等の品質が公共工事の品質確保を図る上で重要な役割を担うとして、調査等（測量、地質調査その他の調査（点検及び診断を含む）及び設計）について広く本法律の対象として位置付けられた。さらに、土木学会では、日本の土木施設や公共空間のデザインの質向上を図るため、それらの設計に「デザインコンペ方式」を導入するためのガイドライン『土木設計競技ガイドライン・同解説+資料集』<sup>2)</sup>が出版された。これらは、質の高い公共施設について、設計の質、設計者の選定がいかに重要であるかの近年の認識を示しており、公共調達の方法に対する改善の提案である。

確かに正しく設計者を選び、優れたデザインを実現することは重要であるが、一方で、設計者を選んだだけで、優れたデザインになる保証はない。例えば、広島市の平和大橋のコンペでは、世界からデザインを公募し、優れたデザインを選んだが、設計まで終了してから事業がとん挫している。また建築であるが、邑楽町の庁舎建築の設計競技で選ばれた建築家が住民参加で設計案をまとめたにもかかわらず、中止となっている。さらに、土木の分野でも設計競技としてデザインを公募し、そのデザインをもとに設計監理により実現したにもかかわらず、のちにバリアフリーの観点から改築に至る例もみられる。

### 1.1.2 社会基盤デザインのガバナンス

一方で、社会基盤における関係者の重要性は設計者だけではない。これまで社会基盤整備は、一般的に行政内部での構想検討を経て計画、設計、施工を外部の協力により整備が行われてきたが、質の高いデザインを実現している事例では、行政と設計者だけでなく、

優秀なデザイナーや学識経験者に加え、市民など地域が参加し、議論しながらデザインを検討し、合意形成している事例がみられる。

これらは、単に優れたデザインと設計者を選ぶだけでは、不十分であり、そのデザインの実現にあたって、多様な主体が関係する中で、質の高いデザインに結びつくよう機能することが重要であることを示している。これらは、そのプロセスにおけるデザイナーや行政、住民等の主要な関係者への影響力であり、それらをガバナンスととらえれば、いかにそのガバナンスを機能させるか、が質の高いデザインを実現するための要因の一つになると考えられる。

「ガバナンス」は、「統治」や「共治」などと訳され、政治、行政、政策等様々な領域で考察、議論をされてきた概念である。特に政治の分野では、ガバナンスを「組織が目的を設定するときの意思決定と、その運営を規律する仕組み」や「利害関係者（stakeholder）のための規律付けメカニズム」と考え、メカニズムを整備することによって、ガバナンスの操作化を可能にし、異なるメカニズムの効果を比較したり、評価することを可能にする、といった研究がされている。本研究では、これらの考えを参照し、質の高いデザインを実現するガバナンスを、意思決定やそれを機能させるメカニズムととらえ、そのメカニズムを明らかにすることで質の高いデザインを実現する手法を検討する。

このメカニズムを明らかにするためには、多様な関係者の協働や相互作用により生み出されていくプロセスを、ガバナンスの概念を用いて分析することが有効であると考えられる。社会基盤分野における質の高いデザインに関する研究は、主にデザインの検討手法やその実現のための市民参加、それがもたらす波及効果、といった内容が主であり、ガバナンスの観点で見た研究は少ない。したがって、質の高いデザインを実現するガバナンスを検討するためには、それらを実現した事例をもとに分析することが現実的な手法であると考えられる。前述した土木学会のデザイン賞やその他にも社会基盤分野を対象にそのデザインを評価し、表彰する制度が複数あるため、これらで賞を受賞している事例を取り上げることで、質の高いデザインの事例分析を行うことができる。

以上の背景から、本研究では、ガバナンスを操作可能な規律づけの仕組みと理解することによって、デザインプロセスにおける検討主体とそこに影響する要因に着目した事例比較分析を行うことで質の高いデザインを実現した構造を明らかにし、そのうえで質の高い社会基盤デザインを実現するためのメカニズムを明らかにする。

## 1.2 既往の研究

### 1.2.1 質の高い社会基盤デザインに関する研究

#### (1) 土木のデザインの定義に関する研究

本研究では、社会基盤（インフラストラクチャ）のデザインは、社会基盤を土木や景観にとどまらず、人々の生活や種々の活動がそれなしでは円滑にできなくなるような財やサービス<sup>1</sup>としてとらえる。

そのような意味でのデザインの定義はされていないため、土木デザイン、景観・デザイン等の既往研究を参照する。篠原<sup>2</sup>は、土木のデザインについて、「文明を大地に造形化して美しい風景を形成し、文化遺産として後世に残す」と定義している。

佐々木<sup>3</sup>は、土木デザインの時代性と価値について、「美しい国の時代」のデザインとは、「シビックデザインの時代」における定義、つまり「異なる観点から求められる多様の機能的要請を統合してまとまりのある形に仕上げること」に加えて、「それによって価値を生み出すこと」を定義に組み込むことが必須であると考え、と述べている。

#### (2) 質の高いデザインを実現する仕組みに関する研究

(1) で述べた質の高い社会基盤デザインの実践事例の報告に対し、それがどのようなプロセス、仕組みで実現されたかを研究している論文がある。

### 1) 景観研究の動向の研究における仕組みの研究

柴田<sup>4</sup>は、2008年から17年までの19年間に発表された景観研究論文を対象に景観研究の動向と今後の課題について検討している。このなかで、目的別研究系譜図の導出と研究動向の一つとして、「制度の運用に対する評価・有効性の把握」の系譜に、景観法の運用課題や可能性、及びその事例検証型の研究の増加や海外の景観をめぐる政策に着目した研究などを見出しているが、今後の課題として、これまでの事例を中心とした具体的な構造物のデザイン評価はもとより、そうしたデザインを可能にさせた制度や設計前に貢献した調査方法上の工夫点等についても知見の蓄積が求められる、としている。

### 2) 委員会等のマネジメントに関する研究

辻<sup>5</sup>は、地方都市のデザイン会議を対象として、これが果たした複数の公共事業を統括するマネジメントの有効性について考察し、委員会等の役割を示す。

<sup>1</sup> 堀田昌秀・小澤一雅編，社会基盤マネジメント，技法堂出版，2015年，p.1

<sup>2</sup> 篠原修，土木デザイン論，東京大学出版会，2003年，p.128

<sup>3</sup> 佐々木葉，土木デザインの時代性と価値，土木学会論文集D3（土木計画学），Vol.67, No.5（土木計画学研究・論文集第28巻），I\_1-I\_14，2011

<sup>4</sup> 芝田久，斎藤勝弘，池田隆太郎，目的別系譜図にみる景観研究の動向（08年から17年を対象として），土木学会論文集D1（景観デザイン），Vol.76, No.1, 30-43，2020

<sup>5</sup> 辻喜彦，宮武哲信，出口近士：複数公共事業によるまちづくりプロジェクトマネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価，社会技術研究論文集，2010

### 3) 土木デザインの評価と景観検討の役割に関する研究

大村ら<sup>6</sup>は、土木学会デザイン賞で最優秀賞を受賞した内海ダム事業の評価の特徴と、それを体現したデザインや計画、マネジメント上の特徴との関係を考察し、デザイン上の特徴の実現に対する造成計画など事業早期の検討を含む継続的な景観検討の寄与、及び造成計画と景観検討の一体的取り組みの重要性を指摘している。ここでは分析においてデザインの評価を生んだ景観検討や景観委員会の役割について分析しているが、その景観検討や委員会がどのような仕組みによって機能しているかは触れられていない。

### 4) 事業プロセスにおける組織構成と進め方に関する研究

小野田ら<sup>7</sup>は、災害復興において、復興方針・計画・事業へと復興計画の事業化にあたって逐次展開していくプロセスの管理、合意構築の枠組み、組織体制などのマネジメントについて分析し、組織構成とプロセスの進め方について行政内部の復興主管課の組織体制と担当業務との関係を考察している。

---

<sup>6</sup> 大村瑛太，福島秀哉，内海ダム再開発事業にみる土木デザインの評価と景観検討の役割，土木学会論文集D 1（景観・デザイン），Vol.76，No.1，94-111，2020

<sup>7</sup>小野田泰明，加藤優一，畑悠：災害復興事業における計画実装と自治体の組織体制，日本建築学会計画系論文集，2015

### (3) 社会基盤デザインにおける質の高いデザインに関する研究

#### 1) 土木学会デザインの理念

社会基盤分野においては、土木学会のデザイン賞<sup>8</sup>において公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰が行われている。そこでの評価の視点は以下の5つである。

- ①技術と造形が調和したデザイン
- ②時間の蓄積に耐えるデザイン
- ③社会制度や仕組みのデザイン
- ④豊かな公共性を有するデザイン
- ⑤地域の性格・文化創造に向けたデザイン

これらは、デザインの理念として、「優れた土木構造物や公共的な空間のデザインとは、当該施設の機能、歴史・文化・景観を含む地域固有の履歴、当該施設と人々の暮らしの関係性が考慮された上で、適切なコスト・資源によって、統合的な構造物・空間として実現されたものである。それらは、既存の地形や水系、周囲の生態系とともに美しい風景をつくり、人々の豊かな生活を生み出す舞台となり、地域への誇りと愛着を醸成する生活・文化の創造に寄与するものである」を掲げている。

#### 2) 土木デザインの定義

篠原<sup>9</sup>は、土木のデザインについて、「文明を大地に造形化して美しい風景を形成し、文化遺産として後世に残す」と定義している。詳細な定義としては以下の4点から定義している。

(a) (不特定多数の利用者からの) 多様な要請を自覚しつつ、土木の構造物、施設が備えるべき要件 (長寿命, 高い公共性, 環境の形成力) を踏まえ、恣意性を排除して、工学的に美しい形 (必然の形) にまとめ上げる行為, である。

(b) 実現させようとする土木の構造物, 施設を大地 (地形, 推計, 植生) に定着し, 一体化して, 必要ならばそこに想定される自然の営為や人為をも一体化して, そこにゲシュタルト室を獲得しようとする行為, である。

(c) 美しい風景, 人々の心のよりどころとなる風景を形成しようとする行為である。

(d) 時間の経過という審判を受けて, 文化遺産として後世に残すことを目指す行為である。

佐々木<sup>10</sup>は、土木デザインの時代性と価値について、「「美しい国の時代」のデザインとは、シビックデザインの時代」における定義、つまり「異なる観点から求められる多様の機能的要請を統合してまとまりのある形に仕上げること」に加えて、「それによって価値を

<sup>8</sup> 土木学会デザイン賞 HP <http://design-prize.sakura.ne.jp/>

<sup>9</sup> 篠原修, 土木デザイン論, 東京大学出版会, 2003年, P.128

<sup>10</sup> 佐々木葉, 土木デザインの時代性と価値, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol67, No.5 (土木計画学研究・論文集第28巻), I\_1-I\_14, 2011

生み出すこと」を定義に組み込むことが必須であると考え、デザインは、それ自体が価値創造行為として自立的な役割を現代社会において果たすこと、創造される価値がどのようなものであるか、それを直感的に感じられるよう表現すること、これがデザインの社会的意義と考える」と述べている。

### 3) 公共デザインの系譜

これまで社会基盤整備は、一般的に行政内部での構想検討を経て計画、設計、施工を外部の協力により整備を行ってきたが、質の高いデザインの実現にあたって、行政だけでなく、地域や優秀なデザイナーや学識者に加え、市民など地域が参加し、議論しながら合意形成している事例がみられる。

福島<sup>11</sup>は、土木デザインの系譜を整理した「論考1 土木デザインから公共デザインへ」(p.17)で、2000年代の特徴として、複数の事業分野にまたがるトータルデザインとまちづくりやNPO、住民、行政、研究者らが議論を重ねた地域の暮らしに根差した魅力的な公共空間デザインについて言及している。

これらは、多様な関係者の協働や相互作用のプロセスにより生み出されており、一般的な行政中心の意思決定のプロセスでは実現されていないことが想像される。そこで、多様な主体間の関係性の中で遂行されていくプロセスである、ガバナンスの概念を用いて分析することで、より明確になると考えられる。

---

<sup>11</sup>山口敬太、福島秀哉、西村亮彦編、街を再生する公共デザイン、学芸出版社、2019



#### (4) 他分野における質の高いデザインの定義

本節では、社会基盤デザインに近いと考えられるいくつかの他分野における質の高いデザインの定義や考え方についてレビューする。

##### 1) 日本建築学会 作品賞の選考基準

日本建築学会では、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかるとともに、わが国の建築文化を高める目的で、建築に関する特に優秀な業績を表彰されている。このうち、作品賞では、「近年中、国内に竣工した建築（庭園・インテリア、その他を含む）の単独の作品であり、社会的、文化的、環境的見地からも極めて高い水準が認められる独創的なもの、あるいは新たな建築の可能性を示唆するもので、時代を画すると目される優れた作品を対象とする。」<sup>12</sup>とされている。

すなわち建築分野では、独創的なもの、新しい建築の可能性を示唆するもの、時代を画すると目されるものが、質の高いデザインとして考えられている。

##### 2) 日本造園学会 設計作品の選考基準

日本造園学会では造園学分野のすぐれた業績を讃え、もって分野の進歩発展をはかるため「学会賞」「奨励賞」「上原敬二賞」「田村剛賞」を授与している。このうち、学会賞の設計作品では、「設計作品により造園学の進歩、発展に顕著な貢献をした個人」<sup>13</sup>が表彰されているが、具体的な質の高いデザインについての記述は見られない。

##### 3) 都市整備のデザイン

「都市整備に関する事業」景観形成ガイドライン<sup>14</sup>では、市街地再開発事業における景観形成の意義として以下の2つの意義を挙げている。

###### ① 都市のシンボルとなる景観の形成

市街地再開発事業は、駅周辺や中心市街地等の「まちの重要な地区」において実施され、新たに施設建築物と公共施設を整備することによって市街地の環境を抜本的に改善するものであり、まちの新しい拠点を形成するとともに、その都市のシンボルとなる景観を形成することとなる場合もある。このため、事業の実施にあたっては、都市全体の景観に対する影響に十分配慮することが求められる。

###### ② 地域イメージの向上

市街地再開発事業は、魅力ある景観を備えた都市空間を形成することによって、まちなかでの市民の活動や交流の場となり、地域イメージを向上させることができ、さらには地域の資産価値の向上も期待される。

さらに、景観形成の視点として、以下の2点を挙げている。

<sup>12</sup> 日本建築学会作品 賞の内容 <https://www.aij.or.jp/prize.html>

<sup>13</sup> 日本造園学会 2020年度 学会賞・奨励賞・田村剛賞の応募・推薦募集要項設計作品部門 <https://www.jila-zouen.org/award/11342>

<sup>14</sup> 「都市整備に関する事業」景観形成ガイドライン, 2011年 p.8

#### ① 総合的な景観形成

市街地再開発事業は、空間を構成する「施設建築物」と「公共施設」を、一体的かつ同時に整備するものであることから、周辺の地区の景観や地域の景観の特性との連続性や整合性に配慮した、総合的な景観形成を図ることが望ましい。

#### ② 地域の固有性の表現

歴史的な街並みのように、明確な地域の固有性が存在する地区においては、それらに配慮した景観形成を図ることが考えられる。一方、景観形成にあたって特筆すべき手がかりを持たない地区においては、地域の景観の特性を自然や歴史、生活の営みなどから読み解き、市街地再開発事業における景観形成に反映させることによって、地域の固有性を表現することが考えられる。

### 4) 日本デザイン学会 「作品集」投稿規定等

日本デザイン学会では、デザイン研究の進歩発展とデザイン実践の質向上に寄与することを目的に、デザインの成果物とそのデザインプロセスの論述を掲載する「デザイン学研究・作品集（以下、作品集）」<sup>15</sup>を掲載・発表している。

作品集の内容として、作品は以下の2類に大別している。

- a 類：具体化され社会的認知を得ている作品
- b 類：研究的あるいは実験的な提案としての試作品

また、作品論文を、自らが参加したデザインの成果物およびそのデザインプロセスに関する省察を論述したものとして、成果の具体的な内容と目的、その造形性、先見性、独創性、社会性などへの言及とともに、デザイン展開プロセスの構成とそれを展開した行為と思考の特性について論述されていること。合わせてそれらがデザイン学として価値ある知見を含んでいること。また、萌芽的なデザインであっても、成果物が先進性や独創性に富み、その展開プロセスに関する新しい探求や価値ある考察があり、その発展性が大いに期待できるものであることを求めている。

すなわちデザイン学会では質の高いデザインを、「造形性」「先見性」「独創性」「社会性」でとらえていることがわかる。

### 5) グッドデザイン賞 審査の基本的な考え方

グッドデザイン賞は、1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みで、デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として国内外の多くの企業やデザイナーが参加している。これまでの受賞件数50000件以上にのぼり、受賞のシンボルである「Gマーク」は、よりデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれている。

審査の考え方と方法<sup>16</sup>として、以下の通り示されている。

グッドデザイン賞では、かたちのある無しにかかわらず、人が何らかの理想や目的を果

---

<sup>15</sup> デザイン学会誌「デザイン学研究・作品集」投稿規定 作品審査委員会  
<http://jssd.jp/ja/wp-content/uploads/2018/07/c66d03d7d0545f744bd39391600842a1.pdf>

<sup>16</sup> グッドデザイン賞 審査の考え方と方法 <https://www.g-mark.org/guide/2020/guide2.html#guide2-7>

たすために築いたものごとをデザインにとらえ、その質を評価しています。応募されたデザインの背景・プロセス、目的と達成した成果を観察し、多角的な視点に立って審査を行います。

#### 審査の視点

グッドデザイン賞の審査では様々な観点による複眼的思考を基本に、以下の「審査の視点」についてその是非を問いながら、総合的なバランスにおいてグッドデザインか否かを判断します。

#### 人間的視点

- ・使いやすさ・分かりやすさ・親切さなど、ユーザーに対してしかるべき配慮が行われているか
- ・安全・安心・環境・身体的弱者など、信頼性を確保するための様々な配慮が行われているか
- ・ユーザーから共感を得るデザインであるか
- ・魅力を有し、ユーザーの創造性を誘発するデザインであるか

#### 産業的視点

- ・新技術・新素材などを利用または創意工夫によりたくみに課題を解決しているか
- ・的確な技術・方法・品質で合理的に設計・計画されているか
- ・新産業、新ビジネスの創出に貢献しているか

#### 社会的視点

- ・新しい作法、ライフスタイル、コミュニケーションなど、新たな文化の創出に貢献しているか
- ・持続可能な社会の実現に対して貢献しているか
- ・新たな手法、概念、様式など、社会に対して新たな価値を提案しているか

#### 時間的視点

- ・過去の文脈や蓄積を活かし、新たな価値を提案しているか
- ・中・長期的な観点から持続可能性の高い提案が行われているか
- ・時代に即した改善を継続しているか

以上から、グッドデザイン賞では、「常に人間を中心に考え、目的を見出し、その目的を達成する計画を描き実現化する行為」「今後の社会において起点となりうるものであるか」「今後の展開への期待や秘められた可能性」が質の高いデザインの定義として考えられている。

## (5) 海外における質の高いデザインに関する研究

### 1) 英国の good design (CABE) における質の高いデザインの定義と価値

1999年から2011年まで英国で都市デザイン政策を推進したCABE(The Commission for Architecture and the Built Environment)は、政府の都市及び建築にかかわるコンサルタントと業務を行う政府外郭団体として整備されたが、同時にデザインとは何か、またその価値評価について分かりやすく説明する役割もあり、デザインに言及する都市政策を進める一翼を担っていた。

CABEが出版した書籍のうち、By Design<sup>17</sup>では、都市デザインの目的を以下の7つの言葉で示している。

都市デザインの7つの目標 (By Design ,2000)

個性：その場所には固有の個性がある

連続性と閉鎖性：その場所は、公共空間と私的空間が明確に特徴づけられている

公共の領域の質：その場所が、魅力的に、上手に作られた屋外の空間である

行動のしやすさ：その場所がわかりやすく、かつ通りやすい空間である

認識しやすさ：その場所が明確なイメージを持つ、理解しやすい空間である

適応しやすさ：その場所は容易に変化できる空間である

多様性：その場所に変化があり、選択の余地のある空間である

ここでは、単体の個性だけでなく周辺の環境との関係の重要性を示すとともに、利用者の利用性や快適性を重視していることがわかる。

---

<sup>17</sup> 坂井文，小出和郎編著，英国 CABE と建築デザイン・都市景観，鹿島出版会，2014年，P. 98

## (6) インフラの特徴，考慮すべき諸条件 等

### 1) 『社会基盤マネジメント』におけるインフラの特徴，考慮すべき諸条件

社会基盤デザインの定義を考えるうえで，社会基盤の特徴，考慮すべき諸条件を考慮しておく必要がある。

堀田らは，『社会基盤マネジメント』<sup>18</sup>において，社会基盤マネジメントの特色として，以下の点を挙げている。

#### 【社会基盤施設の特徴】

- 1 事業目的として，地域住民を含む不特定多数のニーズを包含している。
- 2 属地的な条件に左右され，単品受注生産品である。
- 3 事業規模が大きく，その工期も長く，竣工後の供用期間は半永久的である。
- 4 事業資金は，市民からの税金もしくは公共料金からなる。

#### 【事業を進めるうえで考慮すべき諸条件】

- 1 多数のステークホルダー（利害関係者）が絡むということ。
- 2 社会環境．自然環境といった条件を克服して構築すること。
- 3 長い時間軸の中で取り巻く周辺環境が変化すること。
- 4 長期にわたって信頼性の高い品質と機能を求められること。

#### 【社会基盤事業が取り扱うべき不確実性】

- 1 社会環境：事業ニーズ，住民との合意形成，環境保全，法令順守，事故防止，需要等
- 2 自然環境：地形地質，気象，地震等
- 3 将来事象（時間変動）：工程確保，品質とその劣化，調達価格（人件費，資材費）等

このうち，不特定多数のニーズの包含，多数のステークホルダー，長期間の品質と機能等は，質の高い社会基盤デザインを考えるうえで外すことのできない課題であると考えられる。

---

<sup>18</sup> 堀田昌秀・小澤一雅編，社会基盤マネジメント，技法堂出版，2015年，p.8

## (7) 質の高い社会基盤デザインの定義

以上の既往研究等のレビューから、本研究における社会基盤デザインを構成する要素と質の高いデザインの内容を、造形と価値の二つの観点から以下の通り、定義する。

表 1-1 本研究における質の高い社会基盤デザインの定義

	社会基盤デザインの要素	質の高いデザインの内容
1. 造形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺施設・環境への配慮の考え方</li> <li>・統合的・一体的なデザインコンセプト、ガイドライン・指針、各施設の配置、位置、機能、全体形状</li> </ul>	1-1. 風景：周辺の施設・環境と調和し、統合性、一体性を持つデザイン
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の景観、歴史文化、技術等の理解</li> <li>・地域性を踏まえたデザインコンセプト</li> <li>・オリジナリティのあるデザイン（各施設の形状、素材、色彩、仕上げ等）</li> </ul>	1-2. 造形：地域固有の景観、歴史文化、技術等を踏まえたオリジナリティのあるデザイン
2. 地域の価値創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の愛着と誇りを醸成する活動</li> <li>・地域の新たな価値を創出するデザイン</li> </ul>	2-1. 地域価値の創出：地域への愛着と誇りの醸成、地域の価値を創出するデザイン
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不特定多数の利用の快適性を提供するデザイン</li> <li>・ライフサイクルコストを考慮した材料、工法等</li> </ul>	2-2. 利用性、維持管理性：不特定多数のだれにも利用の快適性を提供し、初期コストのみでなくライフサイクルコストを考慮した材料、工法等によるデザイン

## (8) デザイン対象ごとの質の高い社会基盤デザイン

### 1) デザイン対象ごとの質の高い社会基盤デザインの考察

前項で定義した質の高い社会基盤デザインの定義について、後の章で分析するアウトプットとしてのデザインの質を分析しやすくするため、一般的なデザインに対して、質の高いデザインを検討する。

本研究では、物理的なデザインの形成について具体的に事例分析を通してそのメカニズムを明らかにするため、前項の定義のうち、1. 造形を主な対象として質の高さを検討する。2. 地域の価値については、施工・供用開始の造形の現出後、時間の経過を伴い、効果を発揮するものとして考えられるため、分析対象に応じて考慮をする。

前節で定義した質の高いデザインの内容は、主にデザインの範囲とオリジナリティを観点とした内容であると考えられるため、デザインの対象が広範囲でオリジナリティのあるデザインを質の高いデザインとし、一般的なデザインを定義したうえで、ここでの設定では、前章で整理した対象ごとのプロセスも考慮して、以下の4つのデザインの対象ごとに考察する。

表 1-2 質の高い社会基盤デザインの詳細

対象		質の内容	
		一般的なデザイン	質の高いデザイン
全体デザイン		求められる機能により決定されたデザイン	周辺の施設・環境と調和し、統合性、一体性を持つデザイン
施設デザイン		標準仕様、既製品等のデザイン	地域固有の景観、歴史文化、技術等を踏まえたオリジナリティのあるデザイン (各施設の形状、素材、色彩、仕上げ等)
	舗装等（縁石・側溝・舗装）	標準仕様、既製品等のデザイン	地域の景観を踏まえ、不特定多数のだれにも利用の快適性を提供するオリジナルデザイン
	ストリートファニチャー（シェルター、ポラード・防護柵、照明、サイン等）	標準仕様、既製品等のデザイン	地域固有の景観、歴史文化、技術等を踏まえ、初期コストのみでなくライフサイクルコストを考慮した材料、工法等によるオリジナリティのあるデザイン
	緑地等（緑地、植栽）	最小限の植栽	地域固有の景観・気候風土、歴史文化及び維持管理性を踏まえた、地域への愛着と誇りの醸成し、地域の価値を創出するデザイン

## 2) デザイン対象ごとの質の高い社会基盤デザインの詳細

前項で導入した質の高いデザインについて、事例を交えて詳述する。

### ① 全体デザイン

#### イ) 一般的なデザイン

求められる機能により決定されたデザイン

一般的に駅前広場の全体計画は、前章で述べた駅前広場計画指針<sup>19</sup>に記載のあるように、都市の将来計画や現況・実態調査、周辺地区の開発・整備計画等の計画条件の整理を行ったうえ、駅前広場計画の基本方針を立案し、駅前広場の価格規模算定及び全体配置計画を行い、動線計画、施設配置計画を検討する基本構想で検討されている。計画指針では、この後に景観計画の検討があるが、一般的なデザインではそれ以降の景観計画や景観の検討段階で、本研究で定義した質の高いデザインへの有効な提案がなされず、機能的に配置された計画が全体デザインとなることが想定される。

#### ロ) 質の高いデザイン 1

統合性を持つデザイン

駅前広場としての統合性を持つデザインであるが、そのデザインの範囲が駅前広場にとどまっているデザインである。

天理駅前広場は、主に環境空間を対象にデザインプロポーザルが実施され、地域の風景のモチーフとして古墳を用いたデザインが特徴的であるが、全体的に古墳の同心円状の形態が反復され、全体が統合性、一体性を持ったデザインとなっている。ただし、事業が駅前広場単独の整備事業であったため、周辺の駅舎や街区とは調和的なデザインとはなっていないものである。



図 1-1 同心円状の形態をモチーフとした天理駅前広場

#### ハ) 質の高いデザイン 2

周辺の施設・環境と調和し、統合性、一体性を持つデザイン

駅前広場整備では、駅舎や高架橋、周辺の土地区画整理事業等と一体的な事業と

<sup>19</sup> 建設超都市局都市交通調査室，日本交通計画協会，駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—，技報堂出版，1998年



して行われることがあり，これらの場合は，「周辺の施設・環境と調和し，統合性，一体性を持つデザイン」となる条件がそろふと考えられる．

例えば，日向市駅では，三位一体事業として，高架化事業，土地区画整理事業，中心市街地活性化事業の3つの事業が一体的に進められており，特に事業として先行した高架橋や駅舎の地元産木材等を活用したオリジナルデザインを受けて，駅前広場も同様の素材やデザインのボキャブラリーを用いた，統合性，一体性を持つデザインが実現されている．



図 1-2 駅舎ラチ外コンコースの舗装や庇が駅前広場まで連続する日向市駅駅前広場

## ② 施設デザイン

### A) 縁石・側溝・舗装

#### イ) 一般的なデザイン

標準仕様，既製品等のデザイン

縁石・側溝・舗装は，国土交通省各地方整備局，都道府県，比較的大きな基礎自治体等については，土木設計標準図集等の標準図を持っていることが多い．これらの標準仕様を用いる場合は，実施設計図に記載する必要のない自治体も多い．

これらの設計慣習から，一般的には，縁石・側溝・舗装については，標準図を一般的と考えてよい．

#### ロ) 質の高いデザイン 1

不特定多数のだれにも利用の快適性を提供するデザイン

縁石・側溝・舗装を供給するメーカーは，自社製品の展開に景観製品やより価格の高い製品をラインナップしていることがある<sup>20</sup>．これらは，以下のホームページのように求められるニーズに合わせて，色や仕上げ，素材・質感などのバリエーションを用意しているものが多い．

<sup>20</sup> 太平洋プレコン工業株式会社 HP : <https://www.t-pc.co.jp/product/>

## PRODUCT (製品一覧)

機能性や安全性を盛り込みながら、街にさまざまな表情を作り出すインターロッキングブロックやコンクリート平板などのペイプメント。緑石や側溝、ストリートファニチャーや新しいコンクリート技術を取り入れたダクトルなど演出効果に長けた景観製品。様々な用途や目的、バリアフリーや環境に配慮した遮熱ブロックなど数多く取り揃え、より豊かで快適な都市空間の創造を目指します。

表示する製品を絞り込む

ペイプメント    その他製品

普通製品 (非透水)

透水製品

保水製品

東日本地区取扱い

西日本地区取扱い





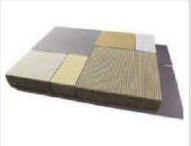






 <p><b>遮熱ILB</b> 路面温度の上昇を約11.5℃以上も抑える舗装ブロックです。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>タマパーム</b> 美しい景観を維持するだけでなく、非透水・透水・保水といった3つの機能が選べます。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>【新製品】スレンダーブロック</b> 4車両挿入可能なタフでスリムなブロックが街の意匠をより豊かにします。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>グランバムストーン</b> 顔料を使用せず、天然石の風合いを活かしたインターロッキングブロックです。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>グランKK</b> 表面に磨きをかけた、光沢のある上品な研磨仕上げが魅力の舗装ブロックです。</p> <p>東 西</p>
 <p><b>オーシャンスリット</b> 表層に刻まれた細かいスリットは、日差しによって表情を変える独特のテクスチャー。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>アーツルー</b> 口差しの具合で陰影を生み出す3種類のスリットが、さまざまな表情を作り出します。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>タマスリット</b> 色落ちしない骨材「カラーサンド」を使用したスリット入りブロックです。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>オーシャンペブルスルー</b> 透水機能を持たせることによって、美しさだけでなく機能性も確保しています。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>オーシャンハイスルー</b> 都市型水害に耐える特に高い透水性を確保した製品です。</p> <p>東 西</p>
 <p><b>オーシャングラニットスルー</b> 天然骨材を使用した景観性と、優れた透水力を誇る機能性を兼ね備えています。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>ゼロインター</b> 面取りを行わないことで、振動を感じさせない利用者すべてに快適な歩行を実現しました。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>オーシャンフラット</b> 目地幅を最小限にすることで、不快な振動を感じさせない快適な歩行感を提供します。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>【新製品】和色ブロック</b> これからの日本の景観を美しくあやかに彩る全く新しいコンセプトの舗装ブロックです。</p> <p>東 西</p>	 <p><b>シルキーストーン</b> パステル調の色合いながら、和の雰囲気を醸し出す柔らかさが特徴の舗装ブロックです。</p> <p>東 西</p>

図 1-3 舗装材インターロッキングブロックのメーカーHP の例

(太平洋プレコン工業株式会社 HP : <https://www.t-pc.co.jp/product/>)

### ハ) 質の高いデザイン 2

不特定多数のだれにも利用の快適性を提供し、初期コストのみでなくライフサイクルコストを考慮した材料、工法等によるオリジナルデザイン

質の高いデザイン 2 では、縁石・側溝・舗装でも、地域産材等の材料を用いたオ

リジナルデザインがある。

日向市駅では、舗装にレンガや小舗石等を用いてオリジナルのデザインを実現している。



図 1-4 ラチ外から駅前広場に広がるレンガ舗装の日向市駅駅前広場

## B) ストリートファニチャ（シェルター、ボラード・防護柵、照明、サイン等）

### イ) 一般的なデザイン

標準仕様，既製品等のデザイン

シェルター，ボラード・防護柵，照明，サイン等は，標準図は用意されていないが，それぞれ製造するメーカーが既製品をカタログで扱っており，一般的には要求される機能と構想段階で決めたコスト内で行政の持っている標準単価の既製品を選ぶことが多い。

### ロ) 質の高いデザイン 1

地域固有の景観，歴史文化，技術等を踏まえたデザイン

メーカーの既製品でも，素材や仕上げ，デザイン等により，標準的な単価に比較して高い製品も存在する。行政や建設コンサルタントの要望に応え，それらのグレードに合わせたラインアップを持っている場合がある。

## 製品紹介

### バス・タクシーシェルター・通路シェルター・広場シェルター

日軽エンジニアリングでは、駅前広場のバス停・タクシーのりばなど、多くの人々が利用する空間をより快適にご利用いただけるよう様々なタイプのシェルターをご用意しています。景観性はもちろん、人にやさしい施設として地域環境に溶け込む最適な施設のご提案をいたします。



長野駅善光寺口駅前広場 長野県



長野駅善光寺口駅前広場 長野県

### バス停/タクシーのりば上屋・シェルター（ユニバーサル）

### 耐雪仕様タイプ



新青森駅東口広場 青森県

旭川駅前広場 北海道

### 広場シェルター

図 1-5 シェルターのメーカーHP の例

(日軽エンジニアリング株式会社 HP <https://sne.co.jp/products/sst27.html>)

### 駅前広場・交通広場

#### 上屋・シェルター

アルミ接着ハニカムパネル  
AP・アルスリーム™

アルミろう付けハニカムパネル  
BP・アルノアール™

バス・タクシーシェルター・  
通路シェルター・広場シェルター

地下道上屋シェルター・地下  
駐輪場上屋シェルター

LED照明内蔵アルミハニカムパ  
ネル

形材シェルター/日軽アルス  
トラ™

デッキシェルター・連絡橋シ  
ェルター

#### 桁カバー（デッキ用）

トラス構造物

エレベーター塔内外装

転落防止柵

建 床 意 防 道  
防護柵

鉄道 土

基礎杭

防 ビ ポ ニ  
ホーム>取扱商品>防護柵



### 高度な安全性と快適性を目指して

わが国の道路交通実態は、車両の大型化や高速化など著しく変化してきており、また地域特性・道路景観に配慮した防護柵の要請など、ニーズがますます多様化しています。防護柵におきましては、「防護柵の設置基準」に準拠して、最新の技術で各種別ごとの商品をいち早く整備しました。

商品に関するお問い合わせ

冊子カタログ請求

お電話

メール

認定書・仕様書・PDFカタログ

### 商品別から選択



図 1-6 防護柵類のメーカーHP の例

(日鉄建材株式会社 HP <https://www.ns-kenzai.co.jp/c1top.html>)

## ハ) 質の高いデザイン 2

地域固有の景観，歴史文化，技術等を踏まえたオリジナリティのあるデザイン

シェルター，ボラード・防護柵，照明，サイン等は，設計基準や計算手法が確立されているため，標準図やメーカーの既製品以外にもオリジナルデザインを製作することができる。

日向市駅では，駅舎の庇と統一的な駅前広場のシェルターデザインとするため，同様の地元産材の木材を使用し，同様の仕上げ塗装を施した支柱等によるオリジナルのデザインが採用されている。



図 1-7 駅舎と同様のオリジナルデザインが採用された日向市駅駅前広場のシェルター  
日向市駅では同様に、周辺街区で先行して地元産杉材を活用してオリジナルデザインで開発された照明柱やポラード，地域の色を選定したサインなども採用されている。



図 1-8 オリジナルデザインのポラード，サインが設置された日向市駅駅前広場

### C) 緑地，植栽

#### イ) 一般的なデザイン

##### 最小限の植栽

一般的に駅前広場は交通機能が優先され，植栽や緑地は最小限の設置とすることが多いと考えられる。

#### ロ) 質の高いデザイン 1

##### 維持管理を考慮した緑地，植栽

植栽や緑地が採用される場合は，地元要望や地域の歴史，新たな顔づくりが求められた際に検討されることが多いが，駅前広場の他のデザイン要素に比較して，供用後の維持管理に手間と費用が掛かるため，それらを考慮しながら検討される。特に地元等から要望がない場合は，周辺の道路植栽で一般的な維持管理方法で管理されている樹種などが採用される。

#### ハ) 質の高いデザイン 2

##### 地域固有の景観，歴史文化を踏まえた，地域への愛着と誇りの醸成，地域の価値を創出するデザイン

地元要望や地域ん歴史新たな顔づくりが求められ，かつ維持管理段階の手間や費用が考慮された計画が作られる場合には，駅前広場に豊かな緑地や植栽を設けることができる。

日向市駅では，計画段階から地域住民が参加し，供用後の維持管理方法について，

地域と合意して，駅前広場に芝生の交流広場が設けられている。



図 1-9 日向市駅前の芝生の交流広場

## 1.2.2 ガバナンスに関する研究

### (1) ガバナンスの概念と定義

「ガバナンス」は、「統治」や「共治」などと訳され、政治、行政、政策等様々な領域で考察、議論をされてきた概念である。

曾根<sup>21</sup>は、ガバナンスを「組織が目的を設定するときの意思決定と、その運営を規律する仕組み」と非常に短く定義している。また、ガバナンスは、意思決定、マネジメントに規律をもたらし、それにはチェックやモニタリングが必要である、と述べている。さらに制定されたルールや制度によるフォーマルな制約と、慣習が体系化されたインフォーマルな制約にも言及している。

羽貝<sup>22</sup>は、「ガバメント」を統治機構及び統治に必要な諸制度と理解するとすれば、そうした機構・制度が現実に諸主体の関係性の中で、どう作動し、全体の秩序を規定しているのか、その結果として形成される諸主体の関係性の現実（ガバナンス）を分析・説明すると同時に、何処に問題があり、どう打開する必要があるのかを考える枠組みとして用いられている、と指摘している。また、2000年代以降の「ガバナンス」という概念について、「社会経済環境の変動を視野に入れて、広く政治すなわち統治行為（政策形成過程における政治・行政の選択決定行動）にかかわる多様な主体間の関係性、具体的には権力・影響力の分布状況を明らかにし、その関係性の中で現実の統治行為が遂行されていく過程・態様」と総合している。

河野<sup>23</sup>は、ガバナンスを「機能としてのガヴァナンス」と「状態としてのガヴァナンス」と区別し、機能としてのガバナンスは、「利害関係者（stakeholder）のための規律付けメカニズム」、さらに「stakeholderの利益のためにagentの規律付け」と定義し、機能としてのガヴァナンスが持つ効果としてガヴァナンスのパフォーマンスを想定し、メカニズムを整備することによって、ガヴァナンスの操作化を可能にし、異なるガヴァナンスメカニズムの効果を比較したり、評価することを可能にする、としている。

また、東京大学社会科学研究所「ガバナンスを問い直す」プロジェクト研究<sup>24</sup>では、ローカル・ガバナンスについて、「第一に、地方政府（議会を含む）と住民だけではなく、自治会、NPO・市民団体、職員団体、福祉団体、環境団体、企業、経済・業界団体といった多様なアクターを想定していること。第二に、これらのアクターの間の一方向的な統治・被統治、委任・請負の関係を想定するのではなく、相互的な影響関係を想定していること」と述べている。

質の高い社会基盤デザインの実現においても、従来の社会基盤整備とは異なるガバナ

---

<sup>21</sup> 曾根泰教, ガバナンス論—新展開の方向性—/岩崎正洋編著, ガバナンス論の現在, 勁草書房, 2011年,

<sup>22</sup> 羽貝正美「コメント1 都市研究とガバナンス概念—都市行政学の視点から—」/馬場哲ほか, 『二十世紀の都市ガバナンス』, 晃洋書房 2019, p. 113

<sup>23</sup> 河野勝編, 制度からガバナンスへ—社会科学における知の交差, 東京大学出版会, 2006年

<sup>24</sup> 東京大学社会科学研究所 全所的プロジェクト研究 (2010年度—13年度)「ガバナンスを問い直す」<https://web.iss.u-tokyo.ac.jp/gov/project/>



スが機能していることが想定されるため，これを分析し，その実態を明らかにすることにより，今後のさらなる質の高い社会基盤デザインの実現に貢献を果たすものとする。

## (2) 公共政策における実施ガバナンスに関する研究

公共政策の分野では、政策決定とその実施についての研究がある。

伊藤<sup>25</sup>は、屋外広告物政策を取り上げ、自治体に政策実施を促すガバナンスについて研究し、実施構造、関与者群、政策結果という3要素から構成される実施ガバナンスの分析枠組みを提案している(図1-10)。これらは、関与者を特定し、それらが実施構造の諸要素に影響を及ぼすことを示しており、関与者はどのように実施「規律付け機能」と「優先順位付け機能」を見出している。

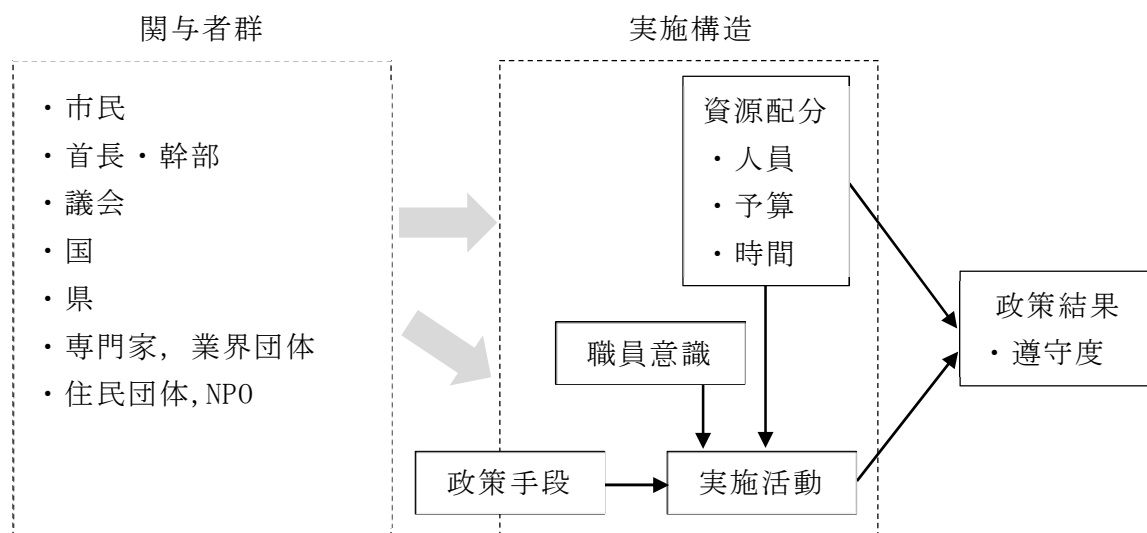


図 1-10 実施ガバナンスの分析枠組み（出典：伊藤<sup>25</sup> P. 74 図 4-1）

また、そのガバナンスの機能の中核に、関与者による規律付けがあり、それが実施職員を動かす鍵であり、関与者別に規律付けの8類型（首長・自治体幹部：官僚制型、議会：立法統制型・監視型、中央省庁：垂直統制型・相互依存型、都道府県：委任型ないし放任、専門家：規範的圧力型、市民・住民団体：資源依存型、外部委託：市場規律型、他の自治体：相互参照型）を示している。

実施構造のうち政策手段について、伊藤は、論文等によく目にするとした、15施策（①総量規制、②屋内広告物規制、③全域の許可対象化、④色彩基準、⑤地域景観特性に合わせた指導、⑥野立て看板の推奨デザイン、⑦広告景観形成団体の認定、⑧相談員制度・アドバイザー制度、⑨景観計画での屋外広告物規制、⑩不適格広告の撤去・改修への助成、⑪住民や企業との協定締結、⑫フランチャイズ店の統一デザインの変更交渉、⑬市民ボランティアやNPOとの連携、⑭モデル地区の指定、⑮規制緩和地区）を選んでいる。

伊藤の研究では、基底に行政の実施構造があることを重要視し、階統制型のガバナンスを前提としているのに対し、本研究では、同様の3要素を重要な分析の要素として見ながら、行政を事業主体の権限と責任を持つアクターとすることを前提に、デザインプロセスにおいては主たるアクターを他の関与者らが担うことを考慮することで、より広い関与者の行動がデザインの質にどのように影響するかを見ていく。

<sup>25</sup> 伊藤修一郎，政策実施の組織とガバナンス 広告景観規制をめぐる政策リサーチ，東京大学出版会，2020年

### (3) ガバナンスのメカニズムに関する研究

伊藤ら<sup>26</sup>は、政治学や行政学の文脈におけるガバナンス論について、2つの類型に分けている。

第1の類型は、社会内のアクターによって形成されているネットワーク内やネットワーク間の統合を育成し舵取りするために、国家にとっていかなる「道具」がありうるか、という点に主眼を置いた「道具的アプローチ」であり、考察の対象となるのは国家による舵取りの道具・技術・能力であり、基本的にはトップ・ダウン、ヒエラルキーの視点に立ったアプローチである。

第2の類型は、社会アクター間の水平的な相互学習というネットワーク的な関係性の中で、集合的な目標達成や戦略が展開していくという「相互行為アプローチ」であり、国家—社会関係はもちろん、国家内における政府間関係や社会内関係も含めて水平的な相互行為としてガバナンスがとらえられている。

そのうえで、ガバナンスは、理論的には①道具主義＝国家中心か②相互依存＝社会中心かなど、理念型としていくつかの志向性の違いを持ちながら展開しているが、ガバナンスの実態は、常に両者の視点を含み込み、それらの組み合わせによって構成されると考えられる、としている。

さらに、まとめとして分析結果を簡略化して図示するとともに（図3）、市民社会組織の参加と主体間の相互行為そのものが、政策過程や地方政府の組織・職員意識を変化させ、更なる参加を呼び込む「循環的なメカニズム」を見出し、このメカニズムが「自己組織的」に国家—社会関係を再編成していくと考えられる、としている。

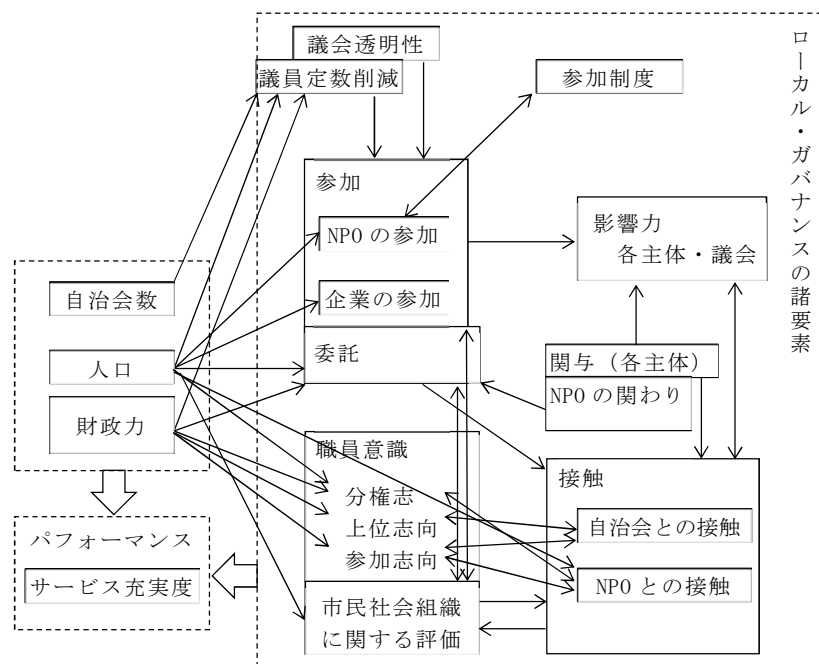


図 1-11 分析結果（出典：伊藤<sup>26</sup> P.219 図 11-1）

本研究は、これらの研究を参考に、かじ取りするための「道具」とアクター間の「相互作用」に着目してガバナンスの観点からメカニズムを分析する。

<sup>26</sup> 伊藤修一郎，近藤泰史，ガバナンス論の展開と地方政府・市民社会—理論的検討と実証に向けた操作化—，『ローカル・ガバナンス—地方政府と市民社会—』第1章，木鐸社，2010年

#### (4) 海外におけるデザインガバナンス

##### 1) 英国におけるデザインガバナンスに関する研究

Carmona ら<sup>27</sup>は、英国で 1999 年から 2011 年までデザイン政策の重要な役割を担った CABE(The Commission for Architecture and the Built Environment)の経験を通してデザインガバナンスについて解説している。その中で、デザインガバナンスを、「定義された公共の利益におけるプロセスと結果の両方を形成するために、構築環境 (built environment) を設計する手段とプロセスへの国家介入のプロセス」と定義するとともに、公式、非公式のデザインガバナンスのツールについて、紹介している。

Carmona らは、英国でデザイン政策の重要な役割を担った CABE の研究で、デザインガバナンスを、「定義された公共の利益におけるプロセスと結果の両方を形成するために、構築環境を設計する手段とプロセスへの国家介入のプロセス」と定義し、公式／非公式のガバナンスツールを紹介している。

##### 2) EU における都市デザインガバナンスツールに関する研究

EU の URBAN MAESTRO プロジェクト<sup>28</sup>で都市デザインガバナンスのツールについて、QUALITY CULTURE TOOLS/QUALITY DELIVERY TOOLS、INFORMAL TOOLS/FORMAL TOOLS の 4 つに分類している (図 1-12)。

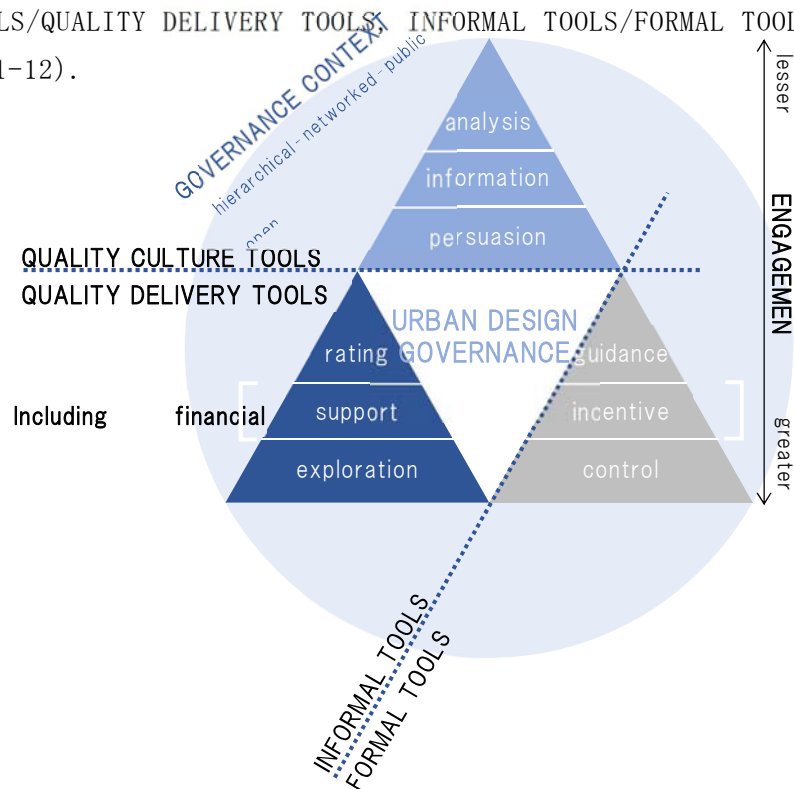


図 1-12 URBAN DESIGN BY GOVERNANCE (出典 : URBAN MAESTRO P. 5)

<sup>27</sup> Carmona M, Maglhaes C, Natarajan L, Design Governance the cabe experiment, routledge, 2017

<sup>28</sup> <https://urbanmaestro.org/tools/>, UCL, UNITED NATIONS HUMAN SETTLEMENTS PROGRAMME, BOUWMEESTERMAITREARCHITECTE, URBAN MAESTRO, TOWARDS A EUROPEAN TYPOLOGY OF TOOLS FOR URBAN DESIGN GOVERNANCE, 2020

それぞれのツールについて以下のように定義している（筆者が英要約）.

① Formal quality delivery tools (公式品質提供ツール)

A) ガイダンスツール

設計基準, 設計コード, 設計方針など, さまざまな方法で正式に提供されるツール  
(広域のものから特定のプロジェクトまで含む)

B) インセンティブツール-

補助金またはインフラストラクチャへの直接投資, 開発権 (ボーナスやプロセス管理の形態など)

C) 制御ツール

固定された法的枠組みに基づく行政上の意思決定または裁量的解釈ポリシー

② Informal quality culture tools (非公式品質文化ツール)

D) 分析ツール

構築環境のプロセスまたは状態の評価

E) 情報ツール

実践ガイドやケーススタディなどの独立した受動的な学習ツールまたは, 直接的な関与を伴う実践的でアクティブなトレーニングツール

F) 説得ツール

物理的またはメディアを通じた知識提供, 重要なメッセージのパッケージ化

③ Informal quality delivery tools (非公式品質提供ツール)

G) 評価ツール

デザインの品質についての体系的かつ構造化された方法での評価

H) サポートツール

特定の設計/開発チームを直接支援またはプロジェクトの試運転または育成/運営/へのサポート

I) 探索ツール

デザイン主導のコミュニティ参加や現場での実験などの積極的なエンゲージメントツール

## (5) 社会基盤デザインのガバナンス

本研究では、デザインの決定を「当該施設の周辺施設への考え方、デザインコンセプト、配置、位置、形状、素材、色彩等の造形及び地域の価値創造にかかる計画・設計の内容について、関係者で合意するための模型、パース等により統合的な構造物・空間として視覚化された資料（デザイン視覚化資料）の決定」、デザインの実施を「デザインの決定で視覚化された資料を施工のための設計図に反映し、現場で意図通りに実現できるよう指導、監督、監修等を行うこと」と定義し、

公共事業の権限と責任が原則的に事業主体である行政にあることを踏まえ、社会基盤デザインのガバナンスを以下の通り定義する。

デザインのプロセスにおける、検討主体（アクター）の行動・関係とアクターの行動に影響を及ぼす要因によるかじ取りの仕組み
--

### 1.3 本研究の目的と意義

以上で整理したように国内の既往の研究では、質の高いデザイン事例で、主にアクターがどういった体制で何をしたかが研究されている。これは、優秀なデザイナー等を選べ、必要な体制を整えれば、質の高いデザインができる、ととらえることができる。

一方で、事業を推進する行政担当の立場では、最初に優秀なデザイナーを選んだり、必要な体制を整えるのはハードルが高いと想像される。一般的には、行政が持っている標準仕様や標準図、3案比較の低価格もしくは中間を選定するといった慣習などによって事業が動いており、それらの課題をひとつずつ乗り越えていかなければ、質の高いデザインを実現できない。

そこで、本研究では、特定の質のデザインを生み出す、アクターの役割とその影響要因は何か、すなわちアクターがその能力を発揮するために機能している要因を明らかにしようとする(図中の赤字部分)。これらが明らかになれば、前述した体制を構想する前に解決すべき内容とそれを乗り越えるためのツールを手に入れることになる。すなわち、必要なアクターの役割を明確にし、それを機能させるメカニズムを理解することにより、行政担当レベルで質の高いデザインを目指す構想ができると考えられる。

ガバナンスの観点から見たメカニズムを明らかにすることで、行政担当が特定のデザインの質を目指す際に、検討すべきプロセスとハードルの乗り越え方を示唆し、質の高いデザインの事例がより多く実現することに貢献する。

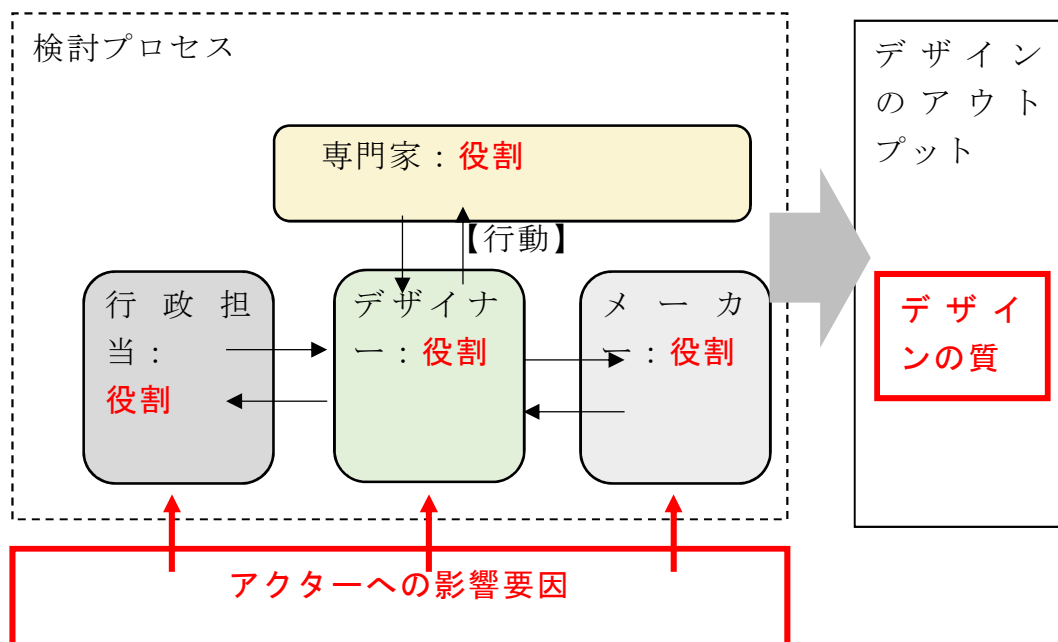


図 1-13 質の高いデザインを実現するメカニズムに関する概念図

## 1.4 研究範囲と対象事例

### 1.4.1 研究範囲

本研究の範囲は、質の高い社会基盤デザインを実現している事例について、ガバナンスの観点から分析し、その構造を観察することで、課題を乗り越えて質を高めたプロセスをメカニズムとして明らかにするものである。

### 1.4.2 対象事例

#### (1) ガバナンスを分析するための対象事例の要件

本研究で定義した社会基盤デザインのガバナンス（デザイン決定及び実施のための原案作成のプロセスと検討主体の関係、およびその主体に影響を及ぼすルール）から、以下が分析対象となる事例の要件である。

- 1) 質の高いデザインが求められること
- 2) デザインプロセスにデザイン決定、デザイン実施の各プロセスが明確であること。
- 3) プロセスと検討主体（アクター）が複数みられること
- 4) アクターに影響を及ぼすツールに多様性がみられること

また、事例を比較分析することから、一定の条件がそろった事例を複数抽出できる事例群である必要がある。

#### (2) 対象分野の絞り込み

前節の要件をもとに、対象分野を絞り込む。

対象分野の絞り込みのために、社会基盤事業を所掌する国土交通省の部局<sup>29</sup>のうち、事業分野に関連する部局及び主な所掌業務のうち事業に関連するものは以下の通りである。

- ・都市局（都市の再生等）
- ・水管理・国土保全局（河川・ダム・海岸島等）
- ・道路局（道路網，交通等）
- ・住宅局（建築物等）
- ・鉄道局（鉄道等）
- ・港湾局（港湾等）
- ・航空局（空港等）

これらのうち、前節の要件に最も該当する分野は都市分野であると考えられる。都市分野では、近年地方創生に伴い、地域の特徴的なまちづくりや景観形成が求められ、都市計画や事業認可等のプロセスが明確であり、土木構造物だけでなく、建築や造園といった施設を含むため、それらのデザイン決定には多様なツールが影響を及ぼしていることが想定される。

<sup>29</sup> [https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_002577.html](https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_002577.html) 国土交通省本省内部部局



### (3) 分析対象施設の決定（駅前広場）

本研究では、デザインの実現を目指す社会基盤全般に適用できる分析手法の提案を目指す。分析手法をわかりやすく具体化するために、前節で絞り込んだ都市分野のうち、近年地方創生における地域の顔として整備されることが多い駅周辺整備から、駅前広場を分析対象とする。駅前広場整備では、事業主体である地方自治体だけでなく、住民、専門家、市民団体、地元経済団体等の関係者が参加することが多く、単体事業だけでなく鉄道高架化、土地区画整備事業等との複合事業や、土木、建築、造園等の分野がみられるため、デザインに配慮する内容も多岐にわたり、長期間、多数の関係者が役割分担をしながら、様々な関係性により意思決定をしている。

したがって社会基盤デザインのガバナンスを分析するためには、道路や橋梁といった単一構造物の事業を対象にするよりも適当であると考えられる。分析にあたっては、駅前広場を分析の中心とするが、必要に応じて周辺の施設との関係や地域への価値、利活用等を分析するために必要な関連事業も対象とする。

### (4) 対象事例

分析対象はデザインの実現が評価されている事例として、2010年以降にグッドデザイン賞（以降、GDA）<sup>5)</sup>、土木学会デザイン賞（以降、デザイン賞）<sup>6)</sup>、都市景観大賞（以降、都景大賞）<sup>7)</sup>を受賞している17事例を対象とした。これらは、表彰関係のホームページ等で事業の概要や審査員の講評等が掲載されており、一時的な資料の収集として容易であること、また外部の評価をされていることで文献等の出版物の検索や事業主体へのヒアリングの依頼も比較的可能性が高いためである。また分析の比較のために一般的な事業の例としてN駅駅前広場、T駅北口駅前広場を追加して分析する（表 1-3）。

#### 1) 土木学会デザイン賞

土木学会デザイン賞は公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度で、2001年に創設され、正式名称は「土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞」という。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰が行われている。

#### 2) グッドデザイン賞

グッドデザイン賞は、1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みである。デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加している。これまでの受賞件数50000件以上にのぼり、受賞のシンボルである「Gマーク」は、よいデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれている。

#### 3) 都市景観大賞

平成3年度から続いてきた都市景観大賞「都市景観100選」の後を受けて、平成13年度から平成22年度までの10年間、「美しいまちなみ賞」を実施し、平成23年度からは、公共的空間と建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用さ

れている地区を対象にした「都市空間部門」と、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの課題として捉え、その解決に向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組等による活動を対象にした「景観まちづくり活動・教育発部門」の2つの部門で表彰を実施している。国土交通大臣賞である「大賞」のほか、「都市景観の日」実行委員会会長賞として、「特別賞」及び「優秀賞」がある。

#### 4) 対象事例

本研究で取り上げる対象事例一覧を以下に示す。

表 1-3 対象事例一覧

	事例（事業）	受賞歴年	写真
1	旭川駅 駅前広場	デザイン賞2014/都景大賞2015	
2	日向市駅 駅前広場	デザイン賞2014/都景大賞2015	
3	恵那駅 駅前広場	デザイン賞2015	
4	東京駅 丸の内駅前広場	GDA2018	
5	女川駅 駅前広場	デザイン賞2019/GDA2018	
6	富山駅 南口駅前広場	GDA2017	
7	天理駅 駅前広場	GDA2017	
8	南万騎が原駅 駅前広場	GDA2016	
9	姫路駅 北駅前広場	GDA2015	

10	西鉄柳川駅 西口駅前広場，東口駅前広場	GDA2015	
11	狭山市駅 駅前広場	GDA2014/都景大賞2015	
12	北本駅 西口駅前広場	GDA2013	
13	熊本駅 西口駅前広場	GDA2012/都景大賞2014	
14	日立駅 駅前広場	GDA2012/都景大賞2014	
15	博多駅 博多口駅前広場	GDA2011/都景大賞2013	
16	長野駅 善光寺口駅前広場地区	都景大賞2017	
17	福井駅 西口駅前広場	都景大賞2017	
18	N駅 駅前広場	—	
19	T駅北口駅前広場	—	

## 1.5 研究の方法

本研究は、質の高い社会基盤デザインと社会基盤デザインのガバナンスについて、既往研究のレビューから本研究における定義を行い、社会基盤デザインを分析するための分析手法を提案し、質の高い社会基盤の複数の事例について分析を行う。そのうえで、複数の事例を比較し、ガバナンスとデザインの質の関係から、質の高いデザインを実現するメカニズムを明らかにする。

### 1.5.1 研究の方法

本研究の方法としては、文献調査として、質の高い社会基盤デザイン、ガバナンスの既往研究成果、旧建設省を含む国土交通省の指針や建設コンサルタント協会等のガイドライン等を用いた。また、事例分析として、グッドデザイン賞、土木学会デザイン賞、都市景観賞を受賞した駅前広場整備の事例を対象に、現地調査、事業に関する文献や公表資料、整備当時における行政担当者へのヒアリングデータを用いた。

### 1.5.2 分析の手順

本研究では、ガバナンスの特徴を、デザイン決定・実現のプロセスとアクターおよびガバナンスツールに着目して分析する。

主な分析手順は以下のとおりである。

- 1) デザインプロセスの整理
- 2) デザインプロセスに関わるアクターとその役割の整理
- 3) アウトプットとしてのデザインの質の考察
- 4) 全体デザイン及び各施設デザインの実現構造の分析
  - ①検討プロセスの特定
  - ②ガバナンスツールの抽出
  - ③事業特性の整理
  - ④関与者群の整理
- 5) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

### 1.5.3 分析の枠組み

1.2.1 で社会基盤デザインのガバナンスを「デザイン決定のための原案作成のプロセスと検討主体（＝アクター）の関係，およびその主体に影響を及ぼすルール（＝ガバナンスツール）」と定義した。

また，前章では，デザインのプロセスを事業の構想・計画段階で機能，配置等の計画が決定した後の設計段階における景観設計以降とすることとした。

さらに，分析の対象を，全体デザインと施設デザインに整理し，施設デザインはさらにその検討プロセスにより，3つの対象に整理した。

以上の整理を踏まえ，事例分析のための枠組みは，以下の図のように，デザインのアウトプットを検討する実現プロセスを中心に，実現プロセスを構成するアクターの行動に影響を与える事業特性，関与者群，ガバナンスツールによる枠組みを想定する。この分析枠組みは，デザインを実現する構造と考えられるため，ここでは実現構造と呼ぶこととする。

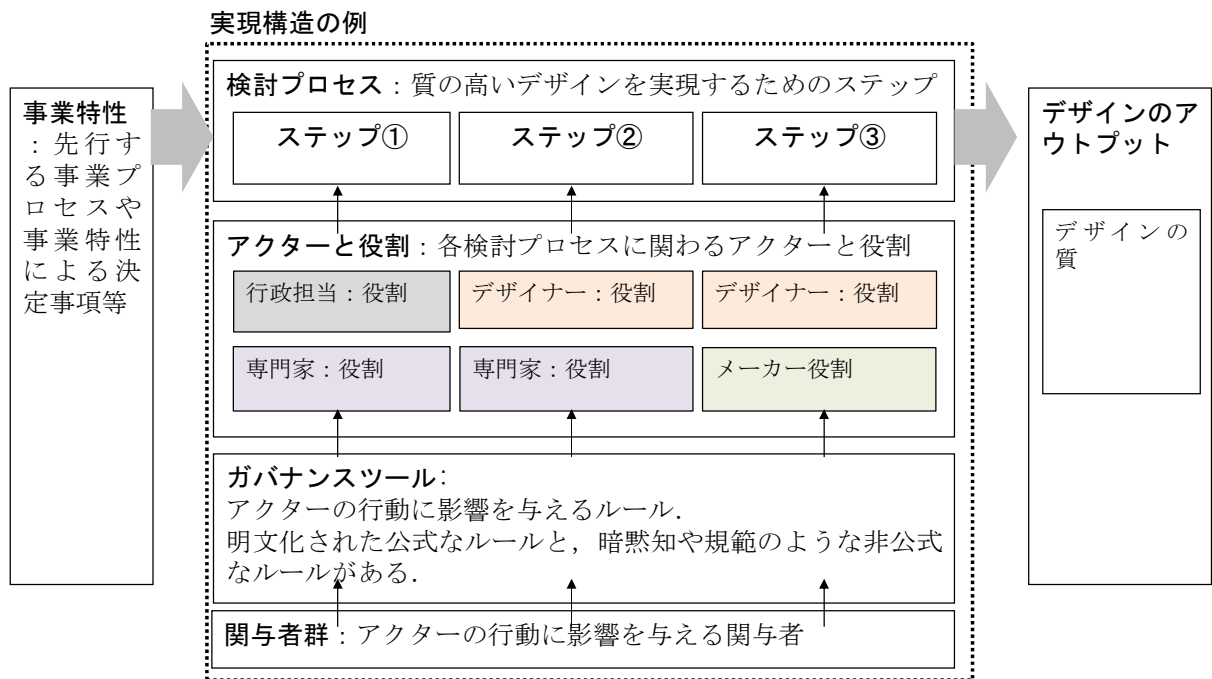


図 1-14 本研究における事例分析の枠組み

## 1.6 本論文の構成

本論文は、6章からなる。

第1章は序論として、本研究の背景、既往の研究、目的と意義、研究範囲と対象及び研究の方法を示した。

第2章は、既往の指針・文献等から、社会基盤デザイン、駅前広場整備における事業プロセスとデザインプロセスを整理し、アクターに影響を与える要因をガバナンスツールとして導入する。また、デザインの検討項目からデザイン検討の要素を整理し、対象ごとの法的制約等を考慮した検討プロセスを整理する。

第3章では、質の高い社会基盤デザインを実現した事例を対象に、デザインのプロセスにおける、検討主体（アクター）の行動・関係とアクターの行動に影響を及ぼす要因によるかじ取りの仕組みを明らかにするために、実現構造、事業特性、関与者群といったガバナンスの観点から、分析する手法を提案する。

第4章では、第3章で提案したガバナンスの観点からの事例分析手法を、質の高い社会基盤デザインの17事例と比較のために一般的と考えられる2事例の計19事例に適用し分析を行う。また分析結果から、質の高いデザインごとにそれに共通する実現構造を整理する。そのうえで、事例ごとに特徴がみられる実現構造を例示し、ガバナンスのあり方とデザインの質の関係を明らかにする。

第5章では、第4章の事例分析でみられた質の高いデザインを実現した構造を、それぞれの検討プロセスが乗り越えた課題とそこに機能したアクターのあり方やガバナンスツールの内容を考察し、質の高いデザインを実現するメカニズムを明らかにする。また、事例分析で見られたガバナンスツールについて、事業推進／デザイン評価と公式／非公式のツールとして、事例で見られた内容を紹介しながら、質の高いデザインを実現するための考え方を提示する。

第6章では、本研究の成果を取りまとめ、今後の課題について総括する。

## 第2章 駅前広場整備事業における 社会基盤デザインの検討プロセス



## 2.1 本章の目的

本章では、既往の指針・文献等から、社会基盤デザイン、駅前広場整備における事業プロセスとデザインプロセスを整理し、アクターに影響を与える要因をガバナンスツールとして導入する。また、デザインの検討項目からデザイン検討の要素を整理し、対象ごとの法的制約等を考慮した検討プロセスを整理することを目的とする。

## 2.2 駅前広場整備事業のプロセスとガバナンスツール

社会基盤のデザインプロセスを整理するにあたり，一般的な事業のプロセスを整理したうえで，そのうち本研究で対象とする駅前広場のデザインにかかわるプロセスをデザインプロセスとして整理する。

### 2.2.1 事業プロセスの整理

市街地再開発事業，土地区画整理事業，街路事業，都市公園事業，下水道事業，都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）などの都市整備に関する事業を対象とした景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」<sup>30</sup>では，事業の各段階として，構想・計画段階，設計・施工段階，維持管理段階を提示している。

また，国土交通省所管事業における景観検討の基本方針（案）<sup>31</sup>景観でも，「景観整備方針」は，構想段階から計画段階，設計段階，施工段階，維持・管理段階へと継承していく，と各段階を提示している。

これらも参照し，駅前広場の事業のプロセスについては，行政の手続きと業務発注の2面から，構想，計画，設計，施工，供用の5段階に整理できる。駅前広場整備の行政手続きの節目としては都市計画決定と事業認可が捉えられる。

表 2-1 一般的な事業プロセス

段階	作業内容と成果（アウトプット）
構想	駅前広場の機能，性格，構想の理念，テーマを明らかにするとともにイメージ及びそれを規定する主要な施設について検討し，基本的な方向を決定する。基本構想としてまとめられることが多い。 行政手続きの成果としては，目標，区域，方針を定めた都市計画図書
計画	現況・計画を整理し，駅前広場の整備方針を検討し，必要となる規模の算定を行い，区域を確定する。配置計画素案を検討し，基本計画図を作成する。基本計画としてまとめられることが多い。 行政手続きの成果としては，区域，目的，方針，施設計画，事業期間，事業費を定めた事業計画書
設計	計画条件を整理し，関係機関と十分に調整し，配置計画の深度化評価を行い，景観計画を含めた基本設計図を作成する。基本設計を受けて，実施図面を作成する。工事発注図書の実施図面としてまとめられる。
施工	実施図面にに基づき，工事を実施する。成果は当該施設の完成出来形である。
維持管理	工事完成後，利活用及び維持管理を行う。

<sup>30</sup> 国土交通省都市・地位整備局，景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」，平成23年6月

<sup>31</sup> 国土交通省技術調査課，国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案），平成21年4月1日最終改定

## 2.2.2 駅前広場整備における計画プロセス

駅前広場計画指針<sup>32</sup>では、計画条件の整理、基本方針、基本構想、詳細設計の計画手順を示している(図)。このうち、デザインに関する項目は、基本構想内における景観計画があげられ、本指針の該当箇所としては駅前広場の配置で記載されている。ただし、本指針では具体的な景観計画の内容の記載はなく、環境空間の役割の一つとして、景観機能<sup>33</sup>が改札されている。

駅前広場計画条件の整理

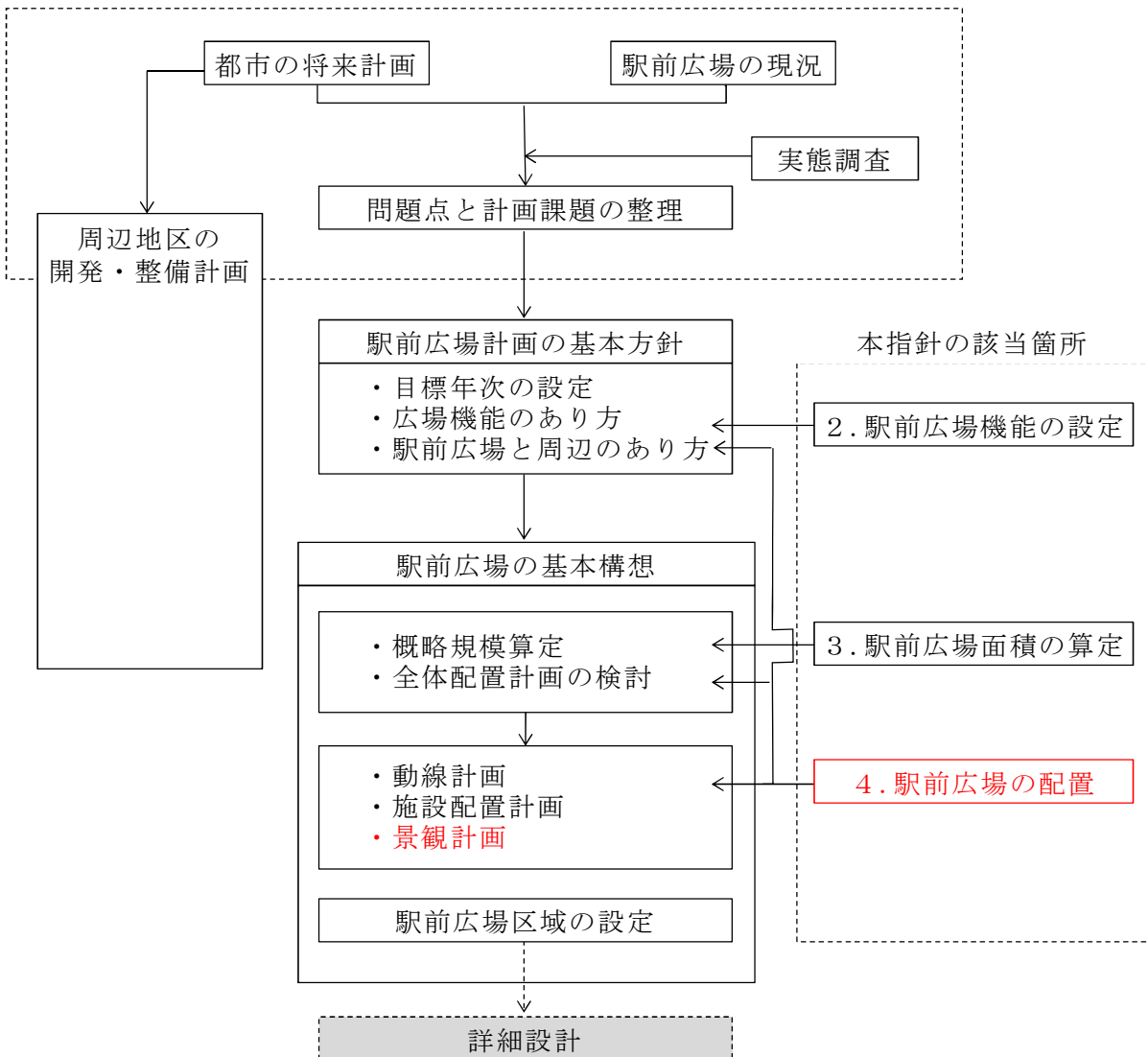


図 2-1 駅前広場の計画手順 (出典：建設省都市局交通調査室<sup>29</sup> P.7 図 1-1)

<sup>32</sup> 建設省都市局都市交通調査室，日本交通計画協会，駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—，技報堂出版，1998年

<sup>33</sup> 駅前広場計画指針の景観機能は、「駅前広場は、都市の顔であり、それに附す美しい美しさとシンボル性を備えていなければならない。広場としての美しさを備えるとともに、歴史や風土といったその都市の特徴を踏まえ、駅市や周辺建物との調和に配慮して計画されなければならない」とされている。P.15

## 2.2.3 建設コンサルタンツ協会の報酬の手引きにおける景観設計の段階

業務発注としては、「鉄道路木関係の調査・設計に関する報酬積算の手引き」<sup>34</sup>に、基本計画、基本設計、実施設計の各段階の項目と作業内容及び摘要が記載されているが、このうち、「基本計画を受け、駅前広場の計画条件を整理し、関係機関と十分に調整し、配置計画案の深度が評価を行い、景観計画を含めた基本設計図を作成する」とした基本設計において、景観設計の検討項目が出ている。ここでは、作業内容及び適用について、以下の通り記載されている。

最終整備案について、駅前広場内の配置計画・利用計画や植栽計画、舗装材の検討等を含めた景観設計を行い、駅前広場全体の整備イメージを検討する。検討にあたっては、景観計画案について3案の比較検討を行い、イメージ比較検討の結果、各案のイメージスケッチ3枚を作成する。

( (一社) 建設コンサルタンツ協会<sup>30</sup> P. 68-69)

事業によって異なるが、おおむねデザインの検討は上述した基本設計の段階で行われることが多いと考えられる。

表 2-2 駅前広場基本計画 直接人件費標準歩掛表

No.	種別	作業内容及び摘要
1	企画立案	作業内容を理解し、作業の進め方、作業工程、まとめ方を計画立案する。
2	現状と計画の整理	既存調査資料より、対象駅前広場周辺地区の土地利用状況や交通状況を把握し、上位計画・関連計画を整理する。必要に応じて、交通実態調査等を行う。
3	基本方針の検討	駅前広場整備の目的、駅前広場の性格を明確にし、計画指標についての目標年次の設定を行う。
4	将来乗降客数の設定	駅勢圏の設計を行い、目標年次における駅勢圏入口、将来乗客数等を予測する。
5	規模の算定	将来予測に基づいて、駅前広場の必要施設数・面積を算定する。
6	構想立案	駅前広場の整備と周辺交通のあり方を検討し、駅前広場区域および取付道路の決定を行う。
7	基本計画	駅前広場の配置計画案を3案作成し、概略的な比較検討を作成し、課題の抽出・整理を行う。
8	計画図の作成	基本計画図 (S=1/500程度) を作成する。また、イメージパース1点を作成する (別途積算)
9	概算工事費の算定	基本計画図に基づいて、概算工事費の算出を行う。
10	報告書の作成	検討結果をとりまとめ、報告書を作成する。
11	照査	

<sup>34</sup> (一社) 建設コンサルタンツ協会、鉄道路木関係の調査・設計に関する報酬積算の手引き (改訂11版) , 2018, P. 66-71

駅前広場の計画・調査等の発注者となる地方自治体が一般的に歩掛算出等に用いている。

表 2-3 駅前広場基本設計 直接人件費標準歩掛表

No.	種別	作業内容及び摘要
1	基本条件の整理	現地踏査及び既存調査資料より、駅前広場の現況や交通状況及び周辺開発計画等を把握するとともに、基本計画の内容を理解し、計画にあたっての前提条件を整理する。
2	設計方針の検討	将来における駅前広場の需要や関係機関との協議結果等、及び取付道路の交通処理方針を考慮に入れて、駅前広場に導入すべき施設及び施設規模の詳細な検討を行い、整備案の作成を行う上での設計条件として整理する。
3	整備案の検討	基本計画の3案に対し、新たな設計条件を追加して比較検討を行った上で最終整備案を選定する。
4	景観設計	最終整備案について、駅前広場内の配置計画・利用計画や植栽計画、舗装材の検討等を含めた景観計画を行い、駅前広場全体の整備イメージを検討する。検討に当たっては、景観計画案について3案の比較検討を行い、イメージ比較検討の結果、各案のイメージスケッチ3枚を作成する。
5	基本設計図の作成	これまでの検討結果に基づき、駅前広場基本設計図を作成する。配置計画平面図(S=1/250程度)、必要に応じて、イメージパース1枚を作成する。(別途積算)
6	交差点計画	
7	排水設計	基本設計図に基づいて、概算工事費の算出を行う。
8	概算工事費の算定	駅前広場配置計画を決定するまでの鉄道事業者、交通管理者等の関係機関との協議用資料の作成を行う。
9	協議資料の作成	検討結果をとりまとめ、報告書を作成する。
10	報告書の作成	
11	照査	

表 2-4 駅前広場実施設計 直接人件費標準歩掛表

No.	種別	作業内容及び摘要
1	基本事項の確認	設計対象施設に関する基本設計の内容について確認を行い、設計に必要な資料を収集整理し、設計計画を行う。
2	詳細検討	次の項目について、材質・形状・配置計画等を詳細に検討する。舗装・給水・排水・照明・植栽・ストリートファニチャー(上屋、ベンチ、車止め、横断防止柵等)・擁壁・小構造物等(ただし、噴水、滝、モニュメント等の特殊施設については、別途積算)。
3	平面設計	実測平面図及び線形座標計算に基づき、計算平面図(詳細配置計画図)を作成する。
4	縦横断設計	実測縦横断図に基づき、駅前広場の計画高を検討し、排水等を考慮した縦横断の設計を行う。
5	交差点設計	必要に応じて、取付道路との交差点設計を行う費用については、別途積算。
6	実施設計図の作成	これまでの検討に基づき、実施設計図面を作成する。(図面縮尺はS=1/250~1/20程度)。また、完成予想図(イメージパース)を作成する。用地の処理について図示する。
7	仮設構造物・排水設計	
8	施工法の検討	造成工事の施工法、工程等。
9	数量計算	各工種・材料ごとの数量を計算する。
10	報告書の作成	検討結果をとりまとめ、設計報告書を作成する。
11	照査	

## 2.2.4 ガバナンスツール

ここでは、前節であげたプロセスに属するアクターに対し影響を与える要因のうちコントロール可能な要因をガバナンスツールと呼ぶことにする。影響を与えているツールは、収集した資料から、前節で整理したアクターの検討や決定に対して影響を与えていると考えられる項目を抽出し、以下で述べる分類に当てはめて整理し、次章での事例分析に用いる。

### (1) 公式・非公式なガバナンスツール

ガバナンスにおけるルールは、法律などのように制定されたものと、慣習が体系化されたようなインフォーマルなものがある。フォーマルなルールは、人間が考案し制定した清楚で、法律や指針のような明文化されたものであり、インフォーマルな制度は、長期にわたって形成されてきた慣習や行為のコード、定型化された行動パターンなどである。社会基盤整備においては、法律や指針、各種計画、事業等をフォーマルなルール（公式なガバナンスツール）、アクターの行動に影響を与える組織の文化や規範、情報、意見等はインフォーマルなルール（非公式なガバナンスツール）とみることができる。

### (2) 事業推進・デザイン評価のためのガバナンスツール

前章でレビューした EU の URBAN MAESTRO プロジェクト<sup>35</sup>で都市デザインガバナンスのツールについて、改めて考察する。(1) で述べた公式・非公式のほかに、quality culture tools と quality delivery tools について、それぞれ以下のように説明している。

#### 1) quality culture tools (品質文化ツール) :

設計の品質が優先される幅広い文化に影響を与えることに焦点を当て、コンセンサスが徐々に得られる前向きな意思決定環境の確立を目指しており、高品質の構築環境が場所の価値を提供し、努力する価値があることを構築する。

#### 2) quality delivery tools (品質提供ツール) :

実際のプロジェクトや場所の形成に集中し、これらの意思決定プロセスをより焦点を絞った方法で操作し、介入から介入まで、デザインの質が確実に提供されるようにする。

また、これらの分類は厳密なものではなく、相互に関連するものであると述べている。

具体的なツールとしては、ガイダンスツール、インセンティブツール、制御ツール、分析ツール、情報ツール、説得ツール、評価ツール、サポートツール、探索ツールなどを挙げている。

これらのガバナンスツールは、デザインガバナンスを「定義された公共の利益におけるプロセスと結果の両方を形成するために、構築環境を設計する手段とプロセスへの国家介入のプロセス」と定義されたうえで整理されているものであり、国家介入の際のツールと

---

<sup>35</sup> <https://urbanmaestro.org/tools/>, UCL, UNITED NATIONS HUMAN SETTLEMENTS PROGRAMME, BOUWMEESTERMAITREARCHITECTE, URBAN MAESTRO, TOWARDS A EUROPEAN TYPOLOGY OF TOOLS FOR URBAN DESIGN GOVERNANCE, 2020

して挙げられている。

本研究では、国内の公共事業を対象とするため、ガバナンスツールをより広くとらえ、アクターに対し影響を与える要因のうち、事業主体である行政がコントロール可能な要因をガバナンスツールとする。

EU の考え方も参考に、ガバナンスツールを事業推進のためのツールとデザイン評価のためのツールで整理することとする。

事業推進のためのツールは、質の高いデザインを実現するための事業推進にかかわるツールで、調達方式や業務の仕様書、事業推進のための行政の組織規範などである。

デザイン評価のためのツールは、検討や決定で質の高いデザインを評価するため、選択するための指標であり、法令に定められたものから、ガイドライン等の指針、判断に影響する組織文化等である。

### (3) ガバナンスツールの分類

以上の考察から、ガバナンスツールを、公式／非公式、事業推進／デザイン評価の 2 軸で 4 つに分類できる (表 2-5)。

表 2-5 ガバナンスツールの分類

	公式	非公式
事業推進のための ガバナンス ツール	A1 調達方式 (法令等) A2 事業形態 (補助制度等) A3 仕様書等 (業務特記等)	a1 組織規範 (行政, 地域, 団体) a2 情報・相互参照 (関連事業・先行事業) a3 調整会議 (関係者協議・会議)
デザインの 評価のための ガバナンス ツール	B1 法令・基準 (道路構造令, 標準図) B2 指針・ガイドライン (駅広指針, 景観 GL) B3 景観計画等 (総合計画, 景観条例等)	b1 組織文化 (行政, 地域, 団体) b2 情報・相互参照 (先進事例・歴史文化) b3 直接支援 (専門家レビュー, 市民意見)

#### 1) 公式事業推進ツール

法令等で明文化された事業推進のためのツールであり、以下の 3 つに分類される。

##### A1 調達方式

主に地方自治法、会計法等法令に定められた公共調達であり、各種入札やプロポーザル

等を含む随意契約などがあり、行政を支援する組織や設計者、施工者等の調達方法に関係し、受注者の能力により、質の高さに影響を与える。

## A2 事業形態

補助制度等を含む事業形態であり、駅前広場は土地区画整理事業や総合交付金事業等で行われ、鉄道高架化事業や中心市街地活性化事業などと一体的に行われることも多く、質の高いデザインの範囲や方向性に影響を与える。

## A3 仕様書等

業務特記仕様書等、明文化された委託内容であり、質の高いデザインの検討内容や手順などに影響を与える。

## 2) 非公式事業推進ツール

### a1 組織規範

行政、地域、団体等の組織規範であり、事業推進にあたり、前例主義や保守的、先進的、協力的、といった組織の慣習的な行動パターンに影響する。

### a2 情報・相互参照

関連事業や先行事業の情報であり、相互参照することで、事業推進のあり方に影響を与える。

### a3 調整会議

関係者協議や調整会議等であり、事業推進のために、関係機関やアクターなどが集まって協議や調整を行うことで、事業推進の方向性に影響を与える。

## 3) 公式デザイン評価ツール

### B1 法令、基準

道路構造令や行政が定めている標準図等であり、法令等はデザインの検討、決定にあたって課題となり、標準図、基準等は事業の性格によって適用され、デザインの質に影響を与える。

### B2 指針・ガイドライン

駅前広場設計指針<sup>36</sup>や「都市整備に関する事業」景観形成ガイドライン<sup>37</sup>等の事業に関連する分野の全国共通の指針、ガイドラインであり、基本的な考え方や事例等が掲載されており、デザインの方向性に影響を与える。

### B3 景観計画等

総合計画、景観条例等、当該地域が策定した上位計画や関連計画であり、地域の目指すヴィジョンや土地利用、形態等に制約を与え、デザインの質に影響を与える。

## 4) 非公式デザイン評価ツール

### b1 組織文化

---

<sup>36</sup>建設省都市局都市交通調査室，日本交通計画協会，駅前広場計画指針 ー新しい駅前広場計画の考え方ー，技法堂出版，1998年

<sup>37</sup>「都市整備に関する事業」景観形成ガイドライン，2011年 p.8



行政，地域，団体等の組織の文化であり，デザインの評価にあたり，前例主義や保守的，先進的といった組織のデザインに対する評価に影響する．

**b2 情報・相互参照**

先進事例や地域の歴史文化の情報であり，その参照により，デザインの評価に影響する．

**b3 直接支援**

専門家によるレビューや市民の意見により，直接的にデザインの評価に影響を与えるものである．

## 2.3 駅前広場整備事業における社会基盤デザインの要素

### 2.3.1 国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）における検討項目

国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）<sup>38</sup>は、国土交通省所管の公共事業において、適切な景観評価を含む景観検討を実施するため、当該事業の影響が及ぶ地域住民その他関係者や学識経験者等の意見を聴取しつつ事業を実施するための手順と体制を定めている。また、「景観検討」とは、事業の構想・計画・設計段階における景観整備の方針の策定、景観の予測と評価、その結果を踏まえた計画・設計案への反映、施工段階における景観整備の方針に則した事業の実施及び維持・管理段階における景観の保全並びに事業完了後の事後評価による改善方策の検討や類似事業、景観検討手法への反映をいう、としている。さらに、景観検討の結果を「景観整備方針（重点検討事業版）」に取りまとめることとしている。

「景観整備方針（重点検討事業版）」とは、当該事業により整備する施設や空間及びその周辺景観との関係などについて示す景観形成の基本的な考え方や方向性などであり、事務所等が景観検討を行う上で基本となるものであるとして、以下の事項を定めることとしている。

- 当該事業における景観形成の目標像
  - － 当該事業における整備の「対象となる施設や空間」と「対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係」の両者を包括した景観形成の目標像
- 対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係における基本的な考え方
  - － 周辺の景観等への配慮の考え方
  - － 住民等の利用を考慮した整備の考え方 等
- 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針
  - － 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
    - （例） ・背景となる自然地物と調和する構造物の規模設定の考え方
    - ・構造特性等を活用した形状の洗練等の考え方
    - ・構造物及び施設全体のデザイン等の統一性、一貫性を確保するための考え方
  - － 細部設計、材料等選定の考え方
  - － コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方 等

これらは、景観検討で検討する項目、アウトプットに該当する。

---

<sup>38</sup> 国土交通省、国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）、平成 21 年 4 月 1 日最終改定

### 2.3.2 本研究におけるデザインの検討項目

以上の考察を踏まえ、本研究におけるデザインプロセスと検討項目は、事業段階においては基本設計段階以降とし、プロセスは、デザイン検討とデザイン実施の2つのプロセスに整理したうえで、それぞれについて、以下の通りとする。

また、これらの検討項目は、検討内容によって大きく、全体デザインと施設デザインに分類できる。

表 2-6 デザイン検討の項目

プロセス		アウトプット	検討項目
デザイン決定		ン 全体 デザ イ	コンセプト作成
			全体デザイン作成
		施設 デザ イ	施設デザイン作成
詳細デザイン作成			
実施設計図決定			
施工図作成			
仕様材料等承認			
施工状況の確認			
完成出来形の確認			
デザイン実施	作成 実施設計図の		
	施工		

### 2.3.3 駅前広場におけるデザイン項目

これら各項目の検討，決定のための手順は，おおむねアウトプットごとに，条件整理，検討，確認・議論，原案作成，決定であり，それらの手順が繰り返されて全体から施設のデザインが実現される．これらのプロセスと各プロセスで検討・決定の対象を整理したものが以下である．

表 2-7 デザインプロセスと検討・決定対象

プロセス	アウトプット		決定までのプロセス	検討，決定対象		
デザイン決定	全体デザイン	コンセプト	1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	
			2	コンセプトの検討	コンセプト，配慮事項	
			3	コンセプトの確認，議論	同上	
			4	コンセプト原案作成	同上	
	イン全体デザ	ン	5	全体デザインの検討	空間構成，空間イメージ	
			6	全体デザインの確認，議論	同上	
			7	全体デザイン原案作成	同上	
	施設デザイン	ン施設デザイ	8	施設デザインの検討	シェルター，ベンチ，舗装，照明，サイン，植栽その他施設の形状，配置及び機能等	
			9	施設デザインの確認，議論	同上	
			10	施設デザイン原案決定	同上	
デザイン実施	実施設計図の作成	ン施設詳細デザイ	1	基本事項の確認	基本設計内容の確認，必要な資料収集整理	
			2	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	
			3	詳細デザインの確認，議論	同上	
			4	詳細デザイン原案作成	同上	
	実施設計図	ン	5	実施設計図の作成	同上	
			6	実施設計図原案決定	同上	
	施工	施工図	ン	1	施工計画書，施工図の作成	実施設計図の確認，施工条件の確認，施工計画図，施工図の作成
				2	施工図の確認，議論	施工図
		使用材料	ン	3	施工図の原案作成	同上
				4	使用材料等の原案承認	使用材料サンプル，原寸模型等
				5	施工	出来形
		出来形	ン	6	施工状況の確認	同上
				7	完成出来形の確認	同上

## 2.3.4 駅前広場におけるデザインの要素

前項で検討したデザインプロセスのそれぞれの段階における検討の詳細を整理する。ここでは検討等の主体となるアクターは、発注者である行政、受注者である建設コンサルタント、施工者等の一般的な事業を想定する。

### (1) 全体デザイン

#### 1) コンセプト

##### ① 基本条件の整理

全体デザインのコンセプトを検討するにあたり、行政担当から提供された現況や交通状況及び周辺開発計画等の基本条件を建設コンサルタントが整理する。

##### ② コンセプトの検討

基本条件の整理を踏まえ、建設コンサルタントが全体デザインのコンセプトを検討する。コンセプトは、コンセプト及び配慮事項等により構成される。

##### ③ コンセプトの確認、議論

②で検討したコンセプトを行政担当が確認し、場合により、検討した建設コンサルタントや行政内の関係者、外部の関係者と議論する。必要に応じて修正、追加検討を指示する。

##### ④ コンセプト原案作成

③の確認、議論を踏まえ、修正したコンセプトを建設コンサルタントが原案として作成する。

こののち、行政内での稟議等手続きを踏まえてコンセプトが決定される。

#### 2) 全体デザイン

##### ① 全体デザインの検討

コンセプトの決定を踏まえ、駅前広場全体の空間構成、空間イメージをダイアグラムやイメージパース等を用いて建設コンサルタントが検討する。

##### ② 全体デザインの確認、議論

①の建設コンサルタントの検討を行政担当が確認し、場合により、検討した建設コンサルタントや行政内の関係者、外部の関係者と議論する。必要に応じて修正、追加検討を指示する。

##### ③ 全体デザイン原案作成

②の確認、議論を踏まえ、修正した全体デザインを建設コンサルタントが原案として作成する。

こののち、行政内での稟議等手続きを踏まえて全体デザインが決定される。

### (2) 施設デザイン

#### 1) 施設デザイン

##### ① 施設デザインの検討

決定した全体デザインをもとに、駅前広場の構成要素である、シェルター、ベン

チ、舗装、照明、サイン、植栽その他施設の形状、配置及び機能等について検討する。

## ② 施設デザインの確認、議論

①の建設コンサルタントの検討を行政担当が確認し、場合により、検討した建設コンサルタントや行政内の関係者、外部の関係者と議論する。必要に応じて修正、追加検討を指示する。

## ③ 施設デザイン原案決定

②の確認、議論を踏まえ、修正した全体デザインを建設コンサルタントが原案として作成する。原案は、基本設計レベルの一般図とイメージ図等により表現される。こののち、行政内での稟議等手続きを踏まえて全体デザインが決定される。

## 2) 施設詳細デザイン

### ① 基本事項の確認

基本設計内容の確認、必要な資料収集整理を行い、実施設計図作成のための基本事項の確認を行う。

### ② 決定したデザインの詳細検討

決定した施設デザインをもとに、具体的な材質・形状・配置計画等の詳細を検討する。表 3-3 で示した通り、施設により検討のプロセスは異なる。

### ③ 詳細デザインの確認、議論

②の建設コンサルタントの検討を行政担当が確認し、場合により、検討した建設コンサルタントや行政内の関係者、外部の関係者と議論する。必要に応じて修正、追加検討を指示する。

### ④ 詳細デザイン原案作成

③の確認、議論を踏まえ、修正した全体デザインを建設コンサルタントが原案として作成する。原案は、実施設計レベルの一般図と詳細を表現したイメージ図等により表現される。

こののち、行政内での稟議等手続きを踏まえて全体デザインが決定される。

## 3) 実施設計図

### ① 実施設計図の作成

④の詳細デザインの決定を受け、建設コンサルタントが実施設計図を作図する。

### ② 実施設計図原案決定

⑤の作図を受け、行政担当が内容を確認し、発注図書とする原案を決定する。こののち、行政内で設計成果を確認し、決定する。

## 4) 施工図の作成

### ① 施工計画書、施工図の作成

主に施工者が実施設計図及び施工条件を確認し、施工計画図、施工図を作成する。

### ② 施工図の確認

①の施工計画書、施工図について、行政担当が確認し、必要に応じて施工者と協

議，修正指示を行う。

**③ 施工図の原案作成**

②の修正指示等を受けて，施工者が施工図承認のための原案を作成する。  
こののち，行政内の承認手続きを行い，施工図が承認される。

**5) 使用材料等の確認**

**① 使用材料等の原案承認**

施工図をもとに使用材料等の承認図を施工者が作成する。対象施設によっては，材料等を提供するメーカーが承認図を作成し，施工者が行政担当に提出する。  
こののち行政内の手続きを踏まえて承認される。

**6) 出来形**

**① 施工**

施工図及び材料承認図をもとに現場に施工者が施工する。

**② 施工状況の確認**

定期的にまた節目となる段階で行政担当が施工状況を確認する。

**③ 完成出来形の確認**

施工完了後，行政担当により完成出来高の確認を行う完了検査により，出来高が承認される。

## 2.1 社会基盤デザインの検討プロセス

前節で整理したデザインの要素は、主にデザインの検討、決定、実現の作業を示しているが、これらの作業は質の高いデザインの実現にあたって特に重要なプロセスを一つのまとまりとして考えることができる。このまとまりは、質の高いデザインを実現するために越えなければいけない、達成しなければいけないという意味で、検討プロセスと考えることができる。例えば、オリジナルデザインのシェルターを実現する場合、質の高いデザインに関連する検討は、質の高いオリジナルデザインの発想、それが妥当であるかを判断して採用する手続き、法令基準等に適合する製作可能な図面化などが重要な検討プロセスとして考えられる。

ここでは、検討プロセスについて、デザイン対象とその法的制約等を踏まえて、整理を行う。

### 2.1.1 デザイン対象ごとの法的制約等によるプロセスの特徴

第1章の質の高い社会基盤デザインの定義で、全体デザイン及び施設デザインのデザイン対象を分類した、これらは、前述のデザインプロセスにおける段階も異なるが、質の高いデザインを実現するために越えなければいけない、達成しなければいけない検討プロセスも異なる。ガバナンスの観点からは、こういった検討プロセスは、アクターの行動に対し、影響を与えている法的な制約や設計等のプロセスにおける規範、さらにメーカーや施工者といった建設産業との関係で捉えられる。

全体デザインでは、駅前広場の検討範囲や事業の形態、周辺の都市構造、先行する事業や上位計画の影響を受けると考えられる。

また、施設デザインでは、決定した全体デザインをもとに、駅前広場の構成要素である、シェルター、ベンチ、舗装、照明、サイン、植栽その他施設の形状、配置及び機能等について検討するが、それぞれの検討のプロセスは、検討対象のもつ法的な制約や標準的な仕様の有無、建設産業との関係、行政の規範等によって異なる。

これらのプロセスを考慮して検討対象を分類したものが以下の表である。



表 2-8 デザイン対象ごとの制約，規範，建設産業の関係

デザイン対象	法的な制約や標準的な仕様の有無	行政の規範等	建設産業	検討プロセス
全体デザイン	事業形態，検討範囲，先行事業，上位計画等により，全体デザインの検討の方向性や範囲が決められる．面積は駅前広場指針 <sup>39</sup> 等により算出される．	基本的なレイアウトや形状は，駅前広場指針等を参考に交通計画が先行して検討されるため，交通機能優先に決められることが多い．	(全体デザインの時点では特に関係しない)	一般的には，駅前広場指針等を参照しながら，交通事業者，交通管理者，公安管理者等と協議をしてレイアウトが決まる．
縁石・側溝・舗装	道路構造令等の法令により基準が決まっており，標準図等により形状・仕様等型が決まっている．	標準図の仕様通りで特に図面にしないこともある．	行政の標準図をもとに各メーカーで製造	一般的には道路の機能に応じて形状・仕様等を標準図から建設コンサルタントが選択する．高質のものはよりグレードの高い製品をメーカー品から選択するか，新規に開発するなどがある．設計計算は行われない．
ストリートファニチャー（シェルター，ボラード・防護柵，照明，サイン等）	建築基準法や防護柵設置基準，各業界の指針等 <sup>40</sup> により，設計基準が決まっている．	メーカーのカタログから機能・価格の観点で選択する．	各メーカーが基準に応じて開発した製品をラインナップ．設計者の要望や相談にも対応．	一般的には要求性能に応じて製品を建設コンサルタントがメーカーカタログから選択する．性能に合致しないものがない場合は，メーカーと相談し新規開発するか，新しく独自に設計計算を行う．
緑地，植栽	特に法的な基準がなく，既製品，標準品がない．	維持管理面から最小限の方向となることがある．	施工段階で地元造園業者が設計図に応じて樹木等を調達し施工	一般的には行政の維持管理面を考慮して，建設コンサルタントが計画する．

<sup>39</sup>建設省都市局都市交通調査室，日本交通計画協会，駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—，技報堂出版，1998年

<sup>40</sup>一般的に，シェルターは建築基準法，防護柵等は防護柵設置基準，照明ポールは，（一社）日本照明工業会が発行している JIL 1003：2009「照明用ポール強度計算基準」により強度計算が行われている．

## 2.1.2 デザイン対象ごとの制約，規範，建設産業とプロセスの関係

前項のデザイン対象ごとの検討プロセスを2.3.5の表に当てはめると，各段階で制約となる法令基準や行政の規範，建設産業の慣習などとの関係ができる。

これらは各段階で質の高いデザインを実現するために乗り越えたり，達成する制約や規範ともなっているため，それぞれのまとまりを検討プロセスとして考えられる。

表 2-9 全体デザインのプロセスと制約，規範，建設産業との関係 1

プロセス	アウトプット		決定までのプロセス	検討，決定対象	法的な制約や標準的な仕様の有無	行政の規範等	建設産業	
デザイン決定	全体デザイン	コンセプト	1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	事業形態，検討範囲，先行事業，上位計画等により，全体デザインの検討の方向性や範囲	駅前広場指針等を参考に交通計画が先行して検討 交通機能優先	/
			2	コンセプトの検討	コンセプト，配慮事項			
			3	コンセプトの確認，議論	同上			
			4	コンセプト原案作成	同上			
	全体デザイン	5	全体デザインの検討	空間構成，空間イメージ				
		6	全体デザインの確認，議論	同上				
		7	全体デザイン原案作成	同上				
	施設デザイン	施設デザイン	8	施設デザインの検討	シェルター，ベンチ，舗装，照明，サイン，植栽その他施設の形状，配置及び機能等	道路構造令，建築基準法等の法令の基準	3案比較など	
			9	施設デザインの確認，議論	同上			
			10	施設デザイン原案決定	同上			

表 2-10 全体デザインのプロセスと制約, 規範, 建設産業との関係 2 (デザイン実施)

プロセス		アウトプット		決定までのプロセス	検討, 決定対象	法的な制約や標準的な仕様の有無	行政の規範等	建設産業	
デザイン実施	実施設計図の作成	施設デザイン	施設詳細デザイン	1	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	標準図等による形状・仕様等	標準図や標準仕様 維持管理面から植栽は縮小傾向	標準仕様の既製品 ニーズに対応する既製品 ラインナップ
				2	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等			
				3	詳細デザインの確認, 議論	同上			
				4	詳細デザイン原案作成	同上			
		実施設計図	5	実施設計図の作成	同上				
			6	実施設計図原案決定	同上				
	施工	施工図 使用材料 出来形	施工図 使用材料 出来形	1	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	各施設の法令基準に応じた仕様書, 品質確認等	施工図承認, 使用材料承認, 出来形完了検査等でチェックするが, 標準品の場合は簡略化	標準図をもとに各メーカーで製造 各メーカーが基準に応じて開発した製品を製造. 設計者の要望にも対応. 造園業者が設計図に応じて樹木等を調達し施工
				2	施工図の確認, 議論	施工図			
				3	施工図の原案作成	同上			
				4	使用材料等の原案承認	使用材料サンプル, 原寸模型等			
5				施工	出来形				
6				施工状況の確認	同上				
7				完成出来形の確認	同上				

## 2.1.3 社会基盤デザインの検討プロセス

以上の考察を踏まえ、質の高いデザインを実現するための全体デザイン及び施設デザインにおける検討プロセスは以下のように考えられる。

### (1) 全体デザインの検討プロセス

#### 1) 全体デザインの立案

デザイン決定プロセスのコンセプト検討、全体デザイン検討の段階において、事業形態、検討範囲、先行事業、上位計画等により、全体デザインの検討の方向性や範囲により事業特性が課される中で、駅前広場全体について、周辺の施設・環境と調和し、統合性、一体性を持つデザインを検討するプロセスである。事業の形態による制約や周辺の施設・環境との調和を検討するため、都市計画的な観点からの検討も必要になると考えられる。

### (2) 施設デザインの検討プロセス

#### 1) 施設デザインの立案

道路構造令、建築基準法等の法令の基準などを考慮し、3案比較などにより、施設デザインを検討するプロセスである。

法令基準等を考慮しつつ優れたデザインを提案するため、施設の種類によりデザイン検討の主体が、デザイナー、プロダクトデザイナー、建築家、建設コンサルタント等と異なる場合もある。

#### 2) 施設詳細デザイン検討、実施設計図作成

標準図等による形状・仕様等の制約を考慮しつつ、施設デザインで検討したデザインの実現のための設計計算、図面作成を行うプロセスである。

メーカーの既製品や標準品のラインアップがある場合はそこからの選択を行い、ない場合は標準仕様等を考慮しつつ新規の開発を行う必要がある。また、施設が準拠する法令基準等も異なるため、標準仕様でないものは新規に設計計算が必要なものもある。

緑地等の場合は、維持管理面からも検討を行う必要がある。

#### 3) 製作、施工

各施設の法令基準に応じた仕様書、施工図承認、使用材料承認、出来形完了検査等のチェックを踏まえつつ、質の高いデザインを実現するための製品の製作、現場への設置、現場での施工等を行うプロセスである。

工場製作品、現場施工物については、実施設計図通り製作、施工されているか、図面に書かれていない質にかかわる要素は、現場での指示や調整を行う。

緑地等では、図面に樹種等は書かれているが姿かたちは一つ一つの樹木や緑化材料によって異なるため、場合によっては現物を生産場まで確認することもある。

これらの検討プロセスの考え方は、第3章での事例分析手法の提案で具体化する。

## 2.2 結論

本章では、既往の指針・文献等から、社会基盤デザインの検討プロセスを整理した。

2.2 では、事業プロセス、駅前広場整備における計画プロセスについて、行政の手続きと業務発注の2面から、構想、計画、設計、施工、供用の5段階に整理し、駅前広場計画指針、建設コンサルタンツ協会の報酬の手引きにおける景観設計の記述から、デザイン検討は基本設計の段階から行われることを整理した。次に、プロセスに属するアクターに対し影響を与える要因のうちコントロール可能な要因をガバナンスツールとして、公式／非公式、事業推進／デザイン評価の観点から分類した。

2.3 では、国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）における検討事項から、景観形成の目標像、対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係における基本的な考え方、施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針から、デザイン検討で検討する項目を抽出した。そのうえで、本研究におけるデザインプロセスの検討項目及び決定対象を全体デザイン、施設デザインの順に時系列に、デザイン検討の要素を整理した。

2.4 では、前述した詳細プロセスは、主にデザインの検討、決定、実現の作業を示したが、これらの作業は質の高いデザインの実現にあたって特に重要なプロセスを一つのまとまりとして考えることができると考え、そのまとまりは、デザインを実現するために越えなければいけない、達成しなければいけないという意味で、検討プロセスと呼ぶことにした。検討プロセスは、ガバナンスの観点から、アクターの行動に対し、影響を与えている法的な制約や設計等のプロセスにおける規範、さらにメーカーや施工者といった建設産業との関係を整理し、全体デザイン及び施設デザインにおける検討プロセスを抽出した。

### 第3章 駅前広場整備事業を対象とした 社会基盤デザインの事例分析手法の提案

### 3.1 本章の目的

本章では、質の高い社会基盤デザインを実現した事例を対象に、デザインのプロセスにおける、検討主体（アクター）の行動・関係とアクターの行動に影響を及ぼす要因によるかじ取りの仕組みを明らかにするために、実現構造、事業特性、関与者群といったガバナンスの観点から、分析する手法を提案することを目的とする。

まず、事例分析のための枠組みとして、デザインのアウトプットを検討する実現構造、実現構造全体に影響を与える事業特性、アウトプットとしての質の高いデザインによる枠組み図を示す。

つぎに、事業プロセス、アクターと役割、関与者、適用法令、デザインの評価といった事例分析に必要な情報等と当時の行政担当者へのヒアリング等といった収集方法を示したうえで、デザインプロセスの整理、アクターと役割の整理、アウトプットとしてのデザインの質の考察、実現構造の考察、分析のまとめを示す。

### 3.2 分析の枠組みと手順

第1章で社会基盤デザインのガバナンスを「デザインのプロセスにおける、検討主体（アクター）の行動・関係とアクターの行動に影響を及ぼす要因によるかじ取りの仕組み」と定義した。また、デザインのプロセスを事業の構想・計画段階で機能、配置等の計画が決定した後の設計段階における景観設計以降とすることとした。さらに、分析の対象を、全体デザインと施設デザインに整理し、施設デザインはさらにその検討プロセスにより、3つの対象に整理した。

これらを前提とし、事例を分析する枠組みを検討する。

#### 3.2.1 分析枠組みの全体像

事例分析で明らかにすることは、デザインに関わるアクターがだれがどのようにかわり、どのような行動によって、質の高いデザインが生まれたか、というガバナンスの観点から見たメカニズムである。

したがって、事例分析のための枠組みは、以下の図のように、デザインのアウトプットを検討する実現構造内に、質の高いデザインを生み出す検討プロセスと、それぞれの検討プロセスのアクターの行動に影響を与えるガバナンスツール、関与者群を配し、実現構造全体に影響を与える事業特性を左に、アウトプットとしての質の高いデザインを矢印の右側に配置する。

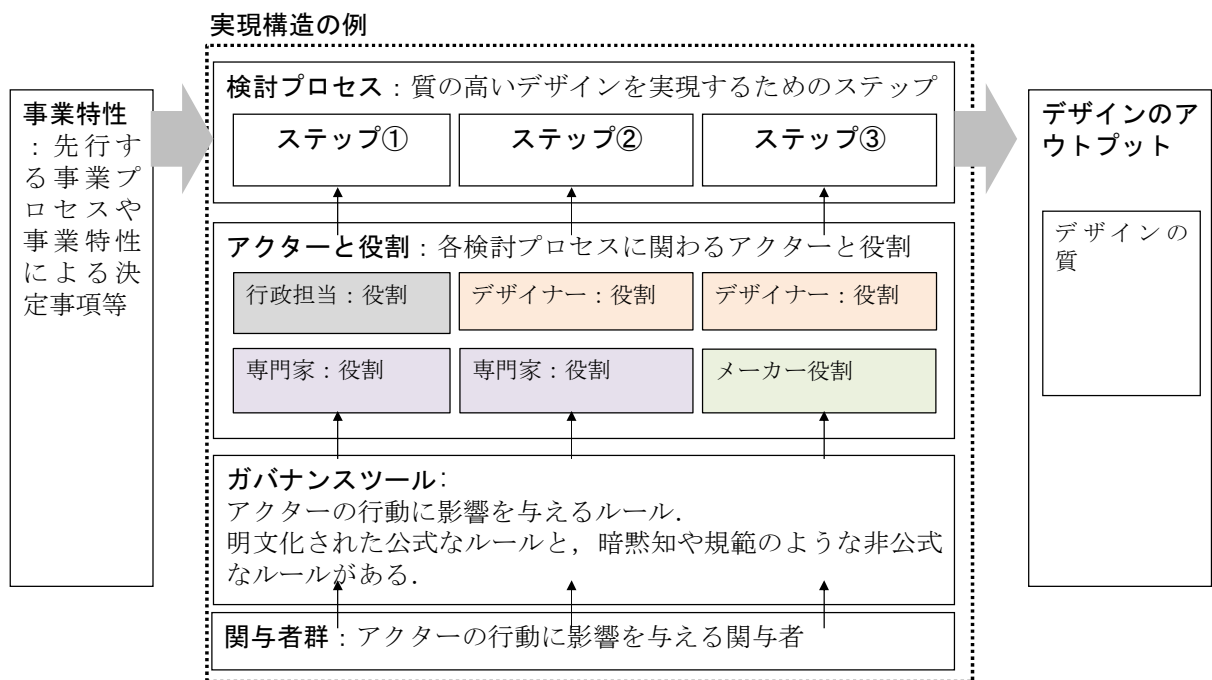


図 3-1 本研究における事例分析の枠組み

#### (1) 実現構造

実現構造は、質の高いデザインを生み出す検討プロセスと、それぞれの検討プロセスのアクターの行動に影響を与えるガバナンスツール、関与者群によって構成される。



## 1) 検討プロセス

アクターのかかわりや行動は、その立場やその他の制約、関係者からの影響を受け、その行動を変化させる。これらのことから、第2章で整理したデザインプロセスの中から、質の高いデザインを実現するために重要と思われるアクターの行為を主要な検討プロセスとしてまとめ、そのプロセスごとに何が影響するのか、といった観点で分析する。例えば、オリジナルデザインのシェルターを実現する場合、質の高いデザインに関連する検討は、質の高いオリジナルデザインの発想、それが妥当であるかを判断して採用する手続き、法令基準等に適合する製作可能な図面化などが重要なプロセスとして考えられる。

## 2) アクターと役割

図中の関係するアクター（色付き）の四角は、デザイン決定及び実施のための原案作成にかかわるアクター及びそのデザインにかかわる役割を示す。アクターは、デザインプロセスのデザイン決定に至るまでのデザイン立案、検討、確認・議論、決定等にかかわる関係者であり、組織と個人である。関係者は事業主体である行政のほか、設計者、施工者、学識経験者、市民などがある。行政でも、担当部局の担当者、その上司や決定するための行政会議や首長がある。

## 3) ガバナンスツール：

実現構造内のアクターの行動に影響を与えるルール。ガバナンスツールは、主体に影響を及ぼすルールであり、明文化された公式なルールと、暗黙知や規範のような非公式なルールがある。本研究では、主体に影響を与える、という観点で幅広く影響要因を見ていくことにする。

質の高いオリジナルデザインの発想には、それが発想できるデザイナーの選定が必要であるが、その選定方法や選定する審査員により変わりうるし、委託方法や仕様書の内容により発想の幅や提案内容も変わり、またより質の高いデザインにブラッシュアップするための専門家等の助言や市民からの意見などがあれば、影響を受ける。

## 4) 関与者群：実現プロセス内のアクターの行動に影響を与える関与者

アクターの行動に影響を与える関与者であり、主なものは市民である。アンケートやシンポジウム、社会実験などによって意見や要望を提示し、アクターの行動に影響を与える。

### (2) 事業特性

先行する事業プロセスにおける決定事項や事業の特性によりデザインを実現するプロセスを制約する条件である。実現構造内のアクターやガバナンスツールでは容易に変えられないものであり、例えば、駅前広場の検討範囲や関連する事業との検討体制、先行する事業ですでに決まっている事項などがある。

### (3) デザインのアウトプット

デザインプロセスにおけるデザイン面の成果である。これはデザインの対象によって変わるが、第1章で定義した質の高い社会基盤デザインを指標としてとらえられる。

## 3.2.2 デザインプロセスとアウトプットの関係

第2章で整理したようにデザインプロセスは、視覚化資料のデザインを決定するまでの

プロセスと、そのデザインを設計図に落とし、施工して実現するまでの実施プロセスで構成されている。さらにデザイン決定は、コンセプト原案作成、全体デザイン原案作成、施設デザイン原案作成、デザイン実施は、詳細デザイン原案作成、実施設計図原案作成、施工図原案作成、仕様材料原案承認、施工状況の確認、完成出来形の確認から構成される。

これらのうち、アウトプットとしての全体デザインは、デザイン決定プロセスのうち全体デザインにかかわる部分から、各施設デザインはデザイン決定及び実施のプロセスにおける施設デザインにかかわる部分と関係する。

本研究における分析はこれらのプロセスに対応する実現構造を分析することでガバナンスの観点から質の高いデザインの実現のメカニズムを明らかにしようとするものである。

プロセス	アウトプット	決定までのプロセス	検討, 決定対象				
デザイン決定	全体デザイン コンセプト	1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">全体デザインの実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">施設デザイン（舗装等）の実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">施設デザイン（ストリートファニチャ等）の実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">施設デザイン（緑地等）の実現構造</div>		
		2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項			
		3	コンセプトの確認, 議論	同上			
		4	コンセプト原案作成	同上			
	施設デザイン	施設デザイン	8	施設デザインの検討		シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽 その他施設の形状, 配置及び機能等	
			9	施設デザインの確認, 議論		同上	
			10	施設デザイン原案決定		同上	
	デザイン実施	実施設計図の作成	施設詳細デザイン	1		基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理
				2		決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等
				3		詳細デザインの確認, 議論	同上
4				詳細デザイン原案作成	同上		
施工		実施設計図	施設詳細デザイン	5	実施設計図の作成	同上	
				6	実施設計図原案決定	同上	
		出来形	施工図 使用材料	1	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	
				2	施工図の確認, 議論	施工図	
				3	施工図の原案作成	同上	
				4	使用材料等の原案承認	使用材料サンプル, 原寸模型等	
				5	施工	出来形	
				6	施工状況の確認	同上	
				7	完成出来形の確認	同上	

図 3-2 デザインプロセスと実現構造の関係

### 3.2.3 分析の手順

本研究では、第1章で述べた通り、ガバナンスの特徴を、デザイン決定・実現のプロセスとアクターおよびガバナンスツールに着目して分析する。

主な分析手順は以下のとおりである。

- 1) デザインプロセスの整理
- 2) デザインプロセスに関わるアクターとその役割の整理
- 3) アウトプットとしてのデザインの質の考察
- 4) 全体デザイン及び各施設デザインの実現構造の分析
  - ① 検討プロセスの特定
  - ② ガバナンスツールの抽出
  - ③ 事業特性の整理
  - ④ 関与者群の整理
- 5) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

### 3.3 情報収集と整理

#### 3.3.1 収集情報

第1章で分析の枠組みを以下の通り示した。

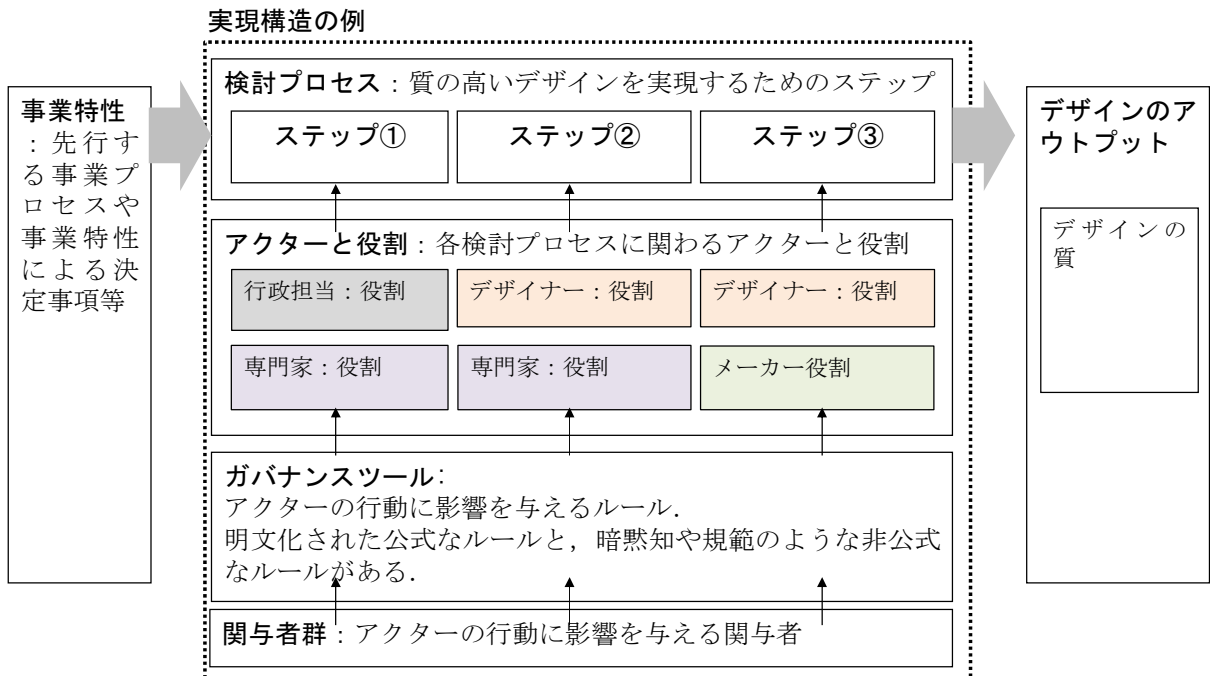


図 3-3 本研究における事例分析の枠組み

この分析の枠組みでは、事業特性、検討プロセス、アクターと役割、ガバナンスツール、関与者群に整理して、分析を行う。そのため、それぞれの分析に必要な情報は、課題を抽出するための事業の背景や制度を含むプロセス、アクターと役割、関与者の抽出のためのデザインに関わる関係者と立場・行動内容等、ガバナンスツールを抽出するための適用法令基準、契約関係、関連計画等、デザインのアウトプットを抽出するためのデザインの評価である。

これらの情報を収集し、分析を行うことで事業特性、検討プロセス、アクターと役割、ガバナンスツール、関与者群を整理し、その実現構造を明らかにする。

表 3-1 収集情報

種別	必要な情報内容
1. 事業プロセス	<p>アクターの事業との関係を見るための、事業の構想段階から供用まで一連のプロセスと成果</p> <p>デザインにかかわる主要な会議の開催、基本計画等成果の公表、設計期間、施工期間等の年月の情報</p>
2. アクターと役割、関与者	<p>デザインにかかわるアクターとしての人物と組織</p> <p>それぞれの人物と組織についての各事業段階における役割</p> <p>デザインプロセスに関わる関係機関、関与者等</p>
3. 適用法令、契約関係、関連計画等	<p>各業務や施工等の適用法令基準、契約関係、及び上位計画や景観・デザインに関する関連計画等</p>
4. デザインの評価	<p>デザインに関する表彰等における講評やコメント、雑誌等に記載された評価など</p>

### 3.3.2 収集方法

前項の必要な情報を収集するためには、まず事業主体である地方自治体のホームページ等で公表されている資料を収集する。あわせて、当該事業に関連する文献や論文等を収集する。公表資料は一定の期間を経過すると削除されるため、事業主体の地方自治体へのヒアリングを行うことが有効である。ヒアリングでは当時の役割、関係性、意思決定プロセスの情報を収集するため、事業当時の担当者に話を聞くことが望ましい。その際に必要な情報を提示し、業務報告書、事業記録誌等の文書が残っている場合はご提供いただく。

行政文書の保存期間は、地方自治体により異なるが、一般的に保存期間五年であることが多い。当該事業が何らかの表彰等を受賞している場合は、授与している主体のホームページに事業の趣旨や特徴、関係者、表彰理由、講評などが掲載されている。また、行政によって視察対応のための資料を用意している場合もある（表 3-2）。

表 3-2 収集資料

種別	資料例等
1. 公表資料	事業主体、地方自治体、関係機関等がホームページ等で公表している資料（例：事業説明、計画等）
2. 事業記録誌	事業主体等が作成した事業の記録誌
3. 文献	事業の関係者、第三者が当該プロジェクトについて執筆した著作、論文等文献
4. 表彰	当該プロジェクトが評価されて受賞した表彰等の公表資料、講評コメント
5. 公開資料	第三者が取り上げて公開されている資料（国等が作成した参考事例集等）
6. 報告書	設計業務、工事監理等の業務報告書、施工報告書及び議事録、図面等
7. ヒアリング	事業主体の当時の担当者等へのヒアリングで得た情報、及びその際の提供資料（業務報告書、委員会資料等）

### 3.3.3 デザインプロセスの整理

収集した情報から、事業全体のプロセス及びその中のデザインのプロセスを整理する。第2章で整理した事業のプロセスのうち、デザインのプロセスとして抽出した以下の赤枠を整理する。

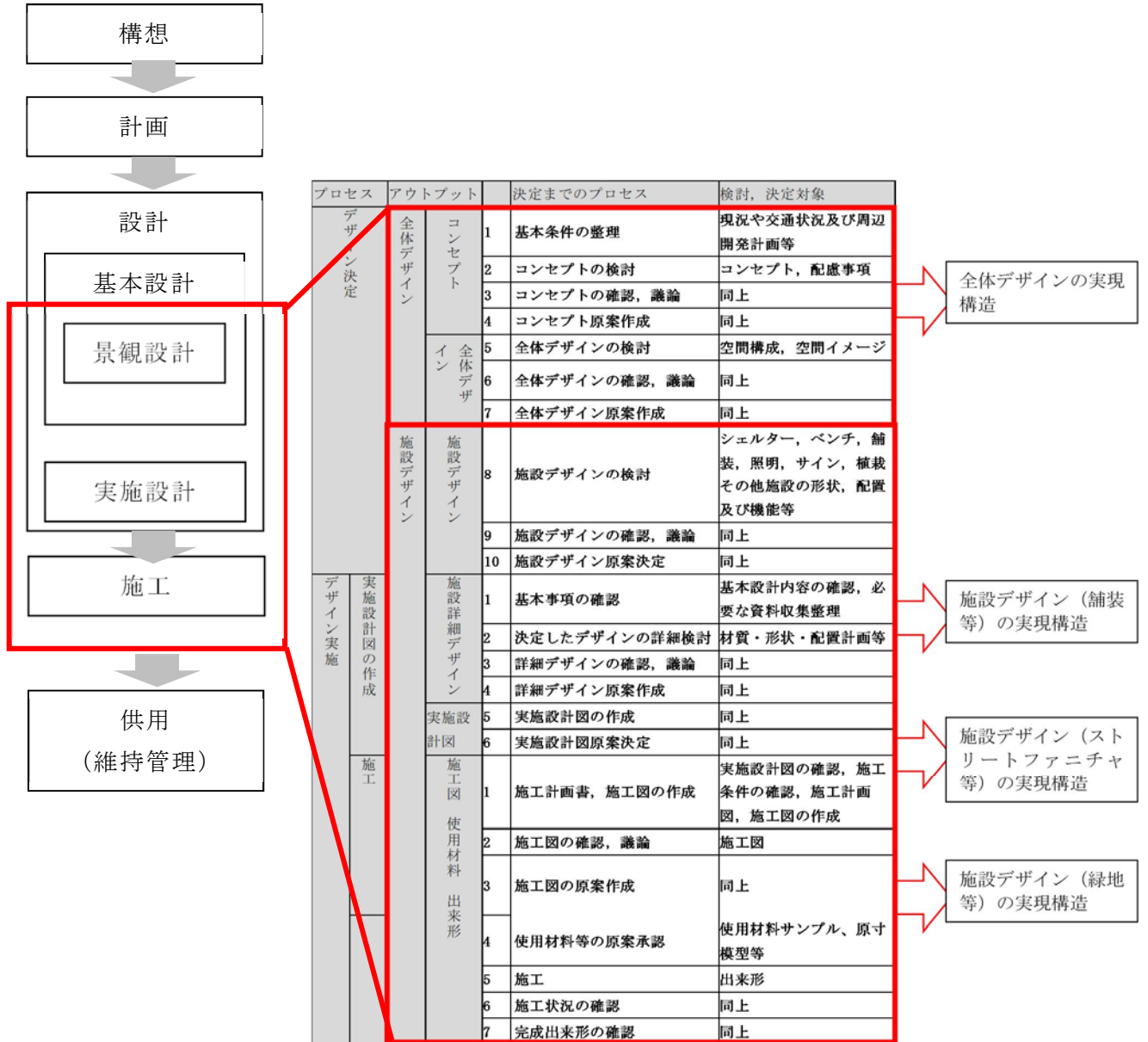


図 3-4 デザインプロセスの特定

### 3.3.4 デザインプロセスにかかわるアクターの整理

ここでは、デザインプロセスにかかわるアクターを整理する。一般的な事業では、事業主体の行政担当、及び都市計画や事業認可等の手続きで関係する国、県等の関係機関、また、地域住民、さらに外部委託先の設計者、デザイナー、施工者、運営者、専門家として学識経験者等が主要なアクターである。

以下で各アクターについて説明する。

表 3-3 アクター一覧

アクター	
行政	首長，幹部，担当
関係機関	関係行政機関（県），鉄道事業者
委員会	委員会，WG
学識者	
地域	住民
設計者	都市計画家，建設コンサルタント
デザイナー	
施工者	施工会社
事業者	運営維持管理者

#### (1) 行政（担当，首長）

事業主体である行政は、事業の推進の役割を担い、事業の構想段階からの事業の組み立て（補助事業等への申請）、関係機関協議、体制構築、業務発注、地域との合意形成、各段階での意思決定等、多岐にわたる活動を行っている。行政内でも、担当者のほか、首長、また意思決定を行う会議等、いくつかのアクターが関係する。

一方で、アクターが参加する会議等を開催する場合はその運営や参加を行っている。N 駅、T 駅及び民間事業者が主体の南万騎が原駅以外は委員会等の会議が開催されている。

#### (2) 関係機関（関係行政機関（国，県），鉄道事業者）

駅前広場整備では、主な関係機関は鉄道事業者、県、国、民間事業者である。事業の規模や範囲に伴い、関係機関の範囲も異なるが、駅前広場単独の事業であれば、行政が主な事業推進の役割を担い、県や鉄道事業者は内容に応じて協力している。一方で、駅前広場と同時に、鉄道高架立体化事業や、土地区画整理事業、駅舎整備等の事業と同時施行である複合事業の場合は、関係機関と共同で事業を立ち上げ、委員会等の会議を運営し、計画等の合意形成を図る必要がある。

#### (3) 委員会

駅前広場は、事業主体である基礎自治体のほか、鉄道事業者や国、バス・タクシー等の



交通事業者など、関係者が多岐にわたるため、計画の段階から合意形成が重要である。多くの場合に、駅前広場検討委員会が設置され、場合によって景観委員会や、下部組織としてのワーキング（WG）等が設置されることがある。また、鉄道高架化事業や土地区画整理事業等が一体となった複合事業では、駅前広場検討委員会の上に全体を取りまとめるデザイン会議等が設置されることがある。

#### （4）学識者

駅前広場整備では、景観・デザインのみならず、関係する専門分野（交通、建築、造園、まちづくり等）のさまざまな分野の学識者が会議委員等で参加することが多くみられる。デザインに関しては、特に景観・デザイン分野の学識者が会議等の委員長や委員など重要な役割を担うことが多い。また、会議の委員長を務めつつ、すべての事業段階にわたり行政の相談を受け、助言する役割を担う学識者も多い。一方で、委員会には参加していないが個別にデザイン決定について助言する景観・デザイン分野の学識者も見られる。日向等では、学識者がシンポジウムや課外授業等の市民への情報発信や協働の場の設置を先導し、積極的に市民と対話を担うものも見られる。

#### （5）地域（住民）

駅前広場整備では、地域が大きな役割を果たしている。最も多い地域の役割は、構想段階から委員会に地域代表が参加し、意見を提出しながら地域の合意形成を図る役割である。また、行政の計画とは別に地域独自の提案を行い、公開での議論を活性化させ、市民を巻き込んだ事業の推進を図る役割を担っている例や、地域の産業を担う団体が設計に協力し地元産材の利用や維持管理を担う例などもみられる。

さらに、地域の活動団体や商工会等が協力し、設計段階から協議会やワークショップなどを通して、完成後の駅前広場等駅周辺空間の利活用について独自に議論したり行政へ提案を行い、官民連携の広場運営に道を開いている例もみられる。

#### （6）設計者（建設コンサルタント）

一般的には、「鉄道土木関係の調査・設計に関する報酬積算の手引き」<sup>9)</sup>に示された基本計画と設計の役割を担う。

#### （7）設計者（都市計画、建築設計事務所）

公共事業では事業者から様々な専門家に業務等を委託し、事業を推進するが、デザインの実現にあたっては、一般モデルであげた建設コンサルタント以外に、デザイナーや都市計画家、設計事務所、エンジニア等が参画している。公共事業の場合は一般的に建設コンサルタントに計画・設計段階に計画検討や設計業務を委託するが、いくつかの事例では専門家の果たす役割に特徴がみられる。

都市計画の専門家や建築家に、事業の構想段階から構想検討、計画検討や会議運営、関係者調整などの業務を委託し、すべての事業段階において、行政の支援を担っている例がある。

## (8) デザイナー

第2章で整理したデザインプロセスにおいて、「当該施設の周辺施設への考え方，デザインコンセプト，配置，位置，形状，素材，色彩等の造形及び地域の価値創造にかかる計画・設計の内容について，関係者で合意するための模型，パース等により統合的な構造物・空間として視覚化された資料（デザイン視覚化資料）」の作成を担う．また，デザイン実施プロセスでは，「デザインの決定で視覚化された資料を施工のための設計図に反映し，現場で意図通りに実現できるよう指導，監督，監修等」を行う．

## (9) 施工者（施工会社）

一般的には，設計者が作成した実施設計図にもとづき，発注者である行政の監督のもと，建設工事を行う．オリジナルデザインの場合は，試作品を製作したり，現場で試作を設置する，緑地の形状をデザイナーの監修のもと調整する，といった例もみられる．

## (10) 運営者（運営維持管理者）

供用段階における施設の運営維持管理を行う．駅前広場では，行政が直営，民間に指定管理として委託，または鉄道事業者への委託により行われることが多い．駅前広場の計画設計段階から，運営維持管理者を選定し，議論に参画している例もみられる．

### 3.4 考察と取りまとめ

#### 3.4.1 アウトプットとしてのデザインの質の考察

前節までの整理をもとに、各事例のデザインの質について、実際の現場に実現されているデザインを分析し、前章で定義した、一般、質の高いデザイン及びその要素に分類する。

質の内容 対象		一般	質の高いデザイン	質の高いデザインの内容
全体デザイン		求められる機能により決定されたデザイン	周辺の施設・環境と調和し、統合性、一体性を持つデザイン	周辺の施設・環境と調和するデザイン
				統合性を持つデザイン
				一体性を持つデザイン
施設デザイン	舗装等 (縁石・側溝・舗装)	標準仕様、既製品等のデザイン	地域の景観を踏まえ、不特定多数のだれにも利用の快適性を提供するオリジナルデザイン	地域の景観をふまえたデザイン
				不特定多数のだれにも利用の快適性を提供するデザイン
				地域の景観をふまえたオリジナルデザイン
	ストリートファニチャー(シエルター、ポラード・防護柵、照明、サイン等)	標準仕様、既製品等のデザイン	地域固有の景観、歴史文化、技術等を踏まえ、初期コストのみでなくライフサイクルコストを考慮した材料、工法等によるオリジナリティのあるデザイン	地域固有の景観を踏まえたデザイン
				地域固有の歴史文化を踏まえたデザイン
				地域固有の技術を踏まえたデザイン
				初期コストのみでなくライフサイクルコストを考慮した材料、工法等によるデザイン
				地域の景観等をふまえたオリジナルデザイン
	緑地等 (緑地、植栽)	最小限の植栽	地域固有の景観・気候風土、歴史文化及び維持管理性を踏まえた、地域への愛着と誇りの醸成し、地域の価値を創出するデザイン	地域固有の景観、気候風土を踏まえたデザイン
				地域固有の歴史文化を踏まえたデザイン
				維持管理性を踏まえたデザイン
				地域への愛着と誇りを醸成するデザイン
				地域の価値を創出するデザイン

表 3-4 質の高い社会基盤デザインの要素

### 3.4.2 デザインの質と実現構造の関係の考察

以上の整理を踏まえ、各事例におけるデザインの質とそれを生み出している実現構造の関係を考察する。

考察は、デザイン対象ごとに各検討プロセスにおけるアクターとその役割、それを機能させているガバナンスツールを中心に分析する。第4章の事例分析や第5章のメカニズムの検討で比較することに留意する。

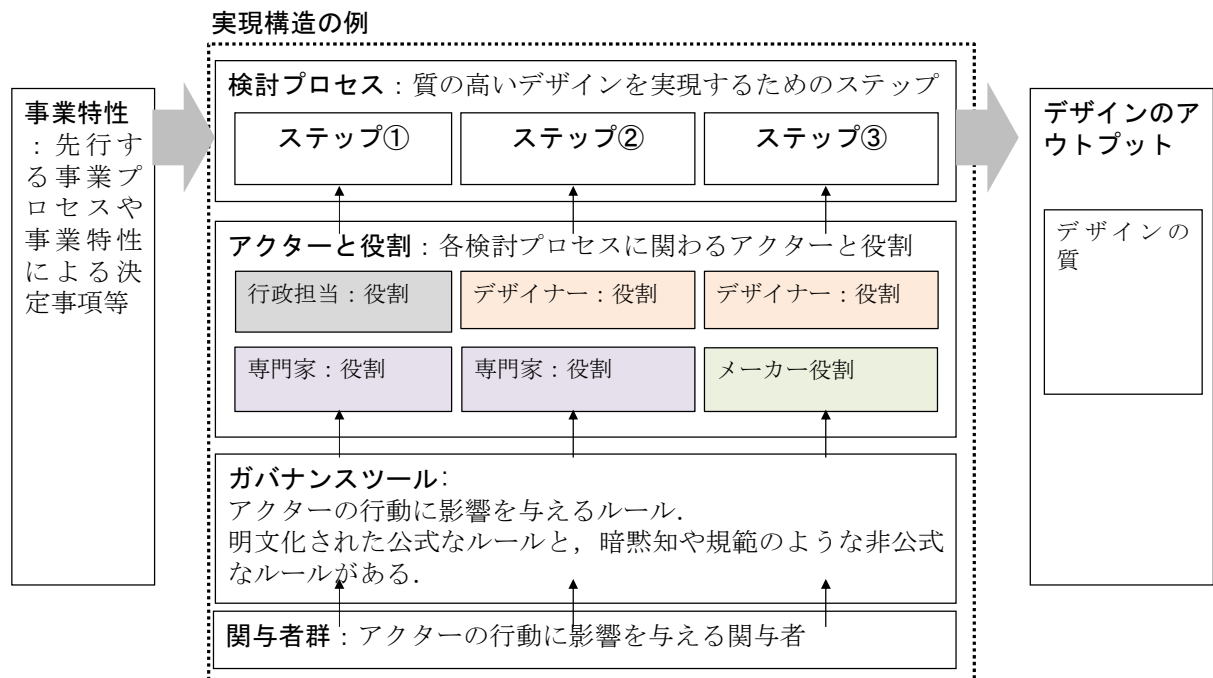


図 3-5 実現構造の例

### 3.4.3 分析のとりまとめ

以上の分析を各事例ごとにとりまとめる。

取りまとめ項目は、各節で整理した以下のとおりである。  
各事例の詳細は附録に収録する。

#### I 事例概要

- 1) 対象事例の事業概要
- 2) ヒアリング
- 3) 収集資料
- 4) デザインプロセスの整理
- 5) デザインプロセスに関わるアクターとその役割の整理

#### II 分析結果

- 1) アウトプットとしてのデザインの質の考察
- 2) 全体デザイン及び各施設デザインの実現構造の分析
  - A) 検討プロセスの特定
  - B) ガバナンスツールの抽出
  - C) 事業特性の整理
  - D) 関与者群の整理
- 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

### 3.5 結論

本章では、社会基盤デザインのプロセスについて、実現構造、事業特性、関与者群、ガバナンスツールといったガバナンスの観点から、分析する手法を提案した。

3.2 では、事例分析のための枠組みとして、デザインのアウトプットを生み出すための検討ステップを中心とする実現構造内に、それぞれの検討プロセスのアクターの行動に影響を与えるガバナンスツール、関与者群を配し、実現構造全体に影響を与える事業特性を左に、アウトプットとしての質の高いデザインを矢印の右側に配置した枠組みを示し、分析の手順を示した。

3.3 では、事業プロセス、アクターと役割、関与者、適用法令、デザインの評価といった事例分析に必要な情報等と当時の行政担当者へのヒアリング等といった収集方法を示し、デザインプロセスとアクターを整理した。

3.4 では、考察と取りまとめとして、アウトプットとしてのデザインの質の考察、デザインの質と実現構造の関係の考察、分析のとりまとめを示した。

## 第4章 駅前広場整備事業を対象とした 社会基盤デザインの事例分析手法の事例への適用

## 4.1 本章の目的

本章では，第3章で提案したガバナンスの観点からの事例分析手法を，質の高い社会基盤デザインの17事例と比較のために一般的と考えられる2事例の計19事例に適用し分析を行う．

まず最初に，事例分析手法を一般的なデザインの事例と質の高いデザインの事例に適用した分析を示す．

次に，19事例の分析結果から，質の高いデザインごとにそれに共通する実現構造を整理する．そのうえで，事例ごとに特徴がみられる実現構造を例示し，ガバナンスのあり方とデザインの質の関係を明らかにする．



## 4.2 一般的な事例への適用例

第3章で提案したガバナンスの観点から見た分析手法を用いて、一般的と思われる事例に適用した。

### (1) 対象事例

対象事例は、駅前広場整備において、行政を中心に建設コンサルタントが受注した業務を通して協力して進める、従来の一般的な事例を想定したN駅を対象とする。

N駅駅前広場の事業概要は以下のとおりである。

事業主体：G県

整備面積：4700㎡

事業名：水源地域整備事業

事業期間：設計業務期間平成23年～平成24年

ただし、本事業はダム事業の生活再建関連事業として進められている。

### (2) 情報収集

以下の情報を収集した。

表 4-1 収集情報

種別	文献名等
1. 事業記録誌	—
2. 文献	—
3. 表彰	—
4. 公開資料	4.N氏，Yダム建設事業における生活再建関連事業について
5. 報告書等	5-1. 設計業務報告書，5-2. 議事録，5-3. 設計書（特記仕様書）

### (3) デザインプロセスの整理

#### 1) デザイン決定

本事業では、駅前広場設計業務委託内に景観設計が含まれ、デザインの検討がされている。特記仕様書には、以下の通り記載されている。

駅前広場実施設計

#### ■基本事項の確認

設計対象施設に関する基本設計の内容について確認を行い、設計に必要な資料を収集整理し、設計計画を行う。

#### ■景観設計

最終整備案について、駅前広場内の配置計画・利用計画や植栽計画、舗装材の検討等を含めた景観設計を行い、駅前広場全体の整備イメージを検討する。検討にあたっては、景観計画案について3案の比較検討を行い、イメージ比較検討の結果、各案のイメージスケッチ3枚を作成する。（基本設計）

この仕様書の景観設計の表現は、2.2.3で述べた「(一社)建設コンサルタンツ協会、鉄道土木関係の調査・設計に関する報酬積算の手引き(改訂11版)における、駅前広場基本設計において、景観設計の検討項目と全く同じである。このことから業務仕様が建設コンサルタンツ協会の報酬積算の手引きをもとに設計していることがわかる。

本業務では、おおむね配置等の計画が整理された第4回打合せ時に、デザインに関連する内容として、導入施設等の確認が以下のとおり行われている(収集資料5-2議事録)。

- ・駅前広場の施設は「和風・茶系」で統一することとした。
- ・個々の施設をどの製品にするかという部分は、発注の際に地元と打合せながら決める予定であるため、本業務内では参考として複数の製品を挙げ、中間レベルのものについて、位置と数量を計上するものとする。
- ・シェルターについては、2本支柱案、1本支柱案のイメージ図を作成する。
- ・JRバスとの敷地境界部以外の横断防止柵は、カーブ対応のしやすいチェーン柵とする。
- ・植樹帯の縁は通常のコンクリート縁石を使用する。
- ・駐輪場に自転車ラックは設置しない。
- ・時計塔はデザイン・予算の協議が整わないため、発注候補業者と作成実績、参考金額のリストを報告書に掲載する。
- ・視覚障害者ブロックは、「ゆうゆう歩道整備マニュアル」に則り設置する。
- ・その他の施設については、導入の有無を発注者が町と協議し、結果を受注者に連絡頂く。

また、第8回打合せで以下の指示がある(収集資料5-2議事録)。

- ・憩いの場周囲に植栽は設けないものとする。
- ・維持管理を考慮し、バスロータリー中央部の芝は中央分離帯部分の芝と連続させる。また、ムラサキツツジは町の花であることを明記する。
- ・憩いの場に設置するベンチは、通常の3人がけ程度・長方形のものを基本とする。
- ・広場中央の交通島については、雪捨て場としての需要があるため、縁石は設置せず、チェーン付車止めを設置するものとする。
- ・導入施設は和風の製品をデザイン違いで3つずつ案出するものとする。なお、「石」という場合は「浅間石」をイメージさせるものを用いることを基本とする。
- ・駅前広場の歩道舗装は、駅前に架けられている橋梁の歩道舗装と同様のものとする。橋梁の設計はかなり前に行われたため、既に同じ製品がないことが想定されるが、似たもので対応することを基本とする。

## 2) デザイン実施

以上の協議、指示のもと実施設計図の作成が行われている。

これらの協議、指示は、発注者である行政担当と業務を受注した建設コンサルタントの間で行われており、その他のアクターは見られないが、第4回議事録に発注者が町と協議し、その結果を連絡する、とあるため、デザインの確認にあたって、関係機関と協議したことがわかる。

また、使用する主な図書および基準は、県の適用図書として土木工事標準図集、その他

の図書として、道路構造令の解説と運用、道路の移動円滑化整備ガイドライン、駅前広場計画指針、道路土工・排水溝指針、改定路面標示設置の手引きが指定されている。

#### (4) デザインプロセスにかかわるアクター

デザインプロセスにかかわるアクターと役割は以下のとおりである。

ただし、収集した資料からは、直接的に関係機関と地域、施工者は把握できないので、議事録からの想定を斜字で記載する。

表 4-2 デザインプロセスにかかわるアクター

アクター		役割	段階
行政	担当	事業推進, 関係機関協議, 建設コンサルタントとの設計協議・指示	すべて
機関関係	関係機関	町	整備内容の確認
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体	地域住民団体	協議 (製品選択)
者設計	建設コンサルタント	コンサルタント	計画・設計
者施工	施工会社		施工

#### (5) アウトプットとしてのデザインの質の分析

##### 1) 全体デザイン：一般的デザイン

全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザインと考えられる。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されている。

ただし、駅前広場供用後に施工された民間施設やその他公共施設の色彩は統一されていない。



図 4-1 N 駅駅前広場の全景

##### 2) 施設デザイン（舗装等）：一般的デザイン

舗装は、車道はアスファルト、歩道はインターロッキングブロック、縁石・側溝はコンクリート既製品であり、一般的な既製品である。インターロッキングブロックは、行政から隣接する橋梁の歩道と同等のものとの指示がある。



図 4-2 舗装等

### 3) 施設デザイン（ストリートファニチャ）：一般的デザイン

シェルター，防護柵，サイン等は，一般的な既製品が用いられている．シェルターの構成要素は行政から指示されている．



図 4-3 ストリートファニチャ

### 4) 施設デザイン（緑地等）：一般的デザイン

中央分離帯の限られた範囲に，行政の指示により芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている．



図 4-4 植栽状況

## (6) デザインプロセスにおける実現構造の分析

### 1) 全体デザイン

#### イ) 事業特性の整理

N 駅駅前広場は，ダム事業の生活再建関連事業における整備であり，土地利用や範囲についてはその事業内で検討され決定されている．

また、同時に整備されている駅舎は、鉄道事業者が先行して、和風・茶系のデザインで整備中であった。駅舎、駅前広場、周辺道路の整備終了後、駅に隣接する民間事業者の店舗棟が整備されている。

#### ロ) 関与者群の整理

事業主体は、ダム事業の主体の県であり、町と整備内容について適宜確認しながら進められている。また、ダム事業で生活再建等の対象となる地域住民が対応の団体を作っており、行政の整備内容の説明に対し意見を提出しながら進められている。

#### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政は、行政の慣習以外に、特にガバナンスツールによってコントロールした様子は見られない。

### 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

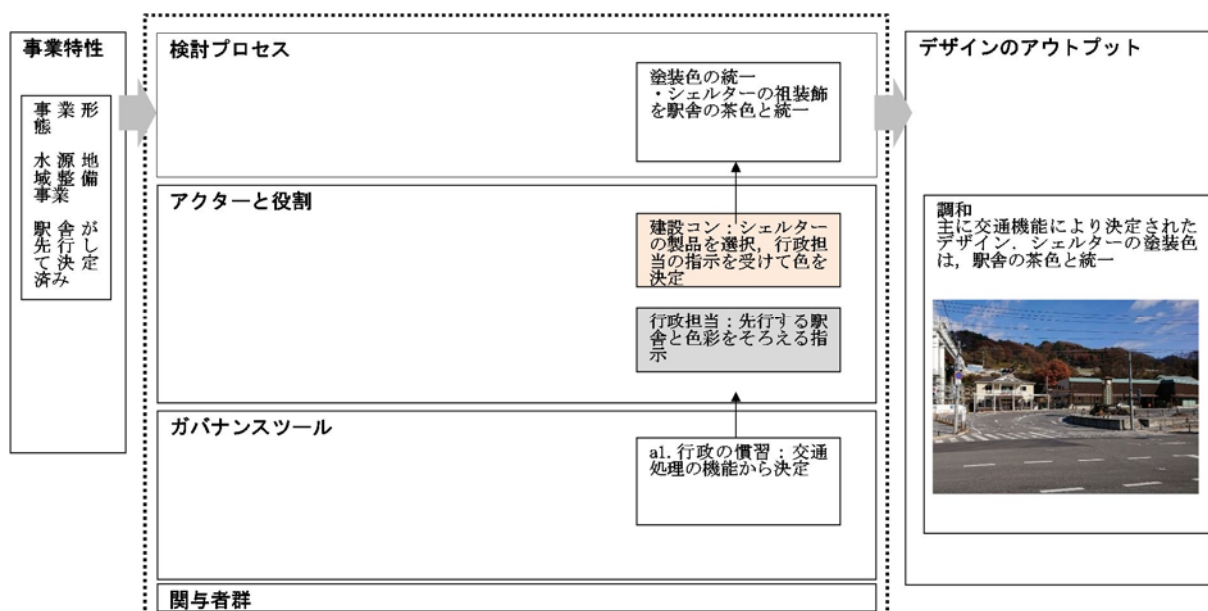


図 4-5 全体デザインの実現構造

## 2) 施設デザイン（舗装等）

### イ) 事業特性の整理

行政から建設コンサルタントに、駅前広場に隣接する橋梁の舗装と同様の舗装とする指示がされている。

### ロ) 関与者群の整理

特に関与者は見受けられない。

### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政が隣接する橋梁の歩道と同等の製品を指示している。行政の身近な実績のある製品を採用する非公式な事業推進ツールの行政規範が用いられている。

### 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

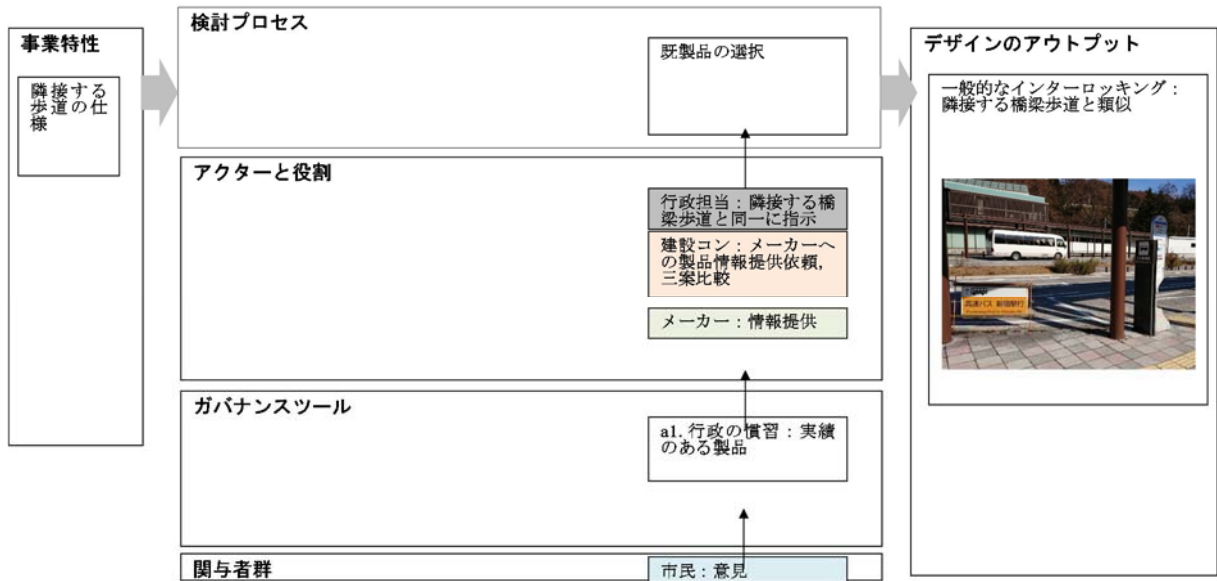


図 4-6 施設デザイン（舗装類）の実現構造

### 3) 施設デザイン（ストリートファニチャ）

#### イ) 事業特性の整理

事業特性は、全体デザインと同様の和風・茶系以外は特にみられない。

#### ロ) 関与者群の整理

導入施設の最終決定は施工段階に地域との協議によって決めるとされている。

#### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政が提示している設計業務特記仕様書では、景観設計として3案比較をすることになっており、議事録でも同様の指示がされている。また3案のうち中間レベルのものを選定している。公式の事業推進ツールの仕様書等で三案比較を指示し、非公式の事業推進ツールの行政の慣習により3案比較のうち中間レベルのものが選択されている。

#### 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

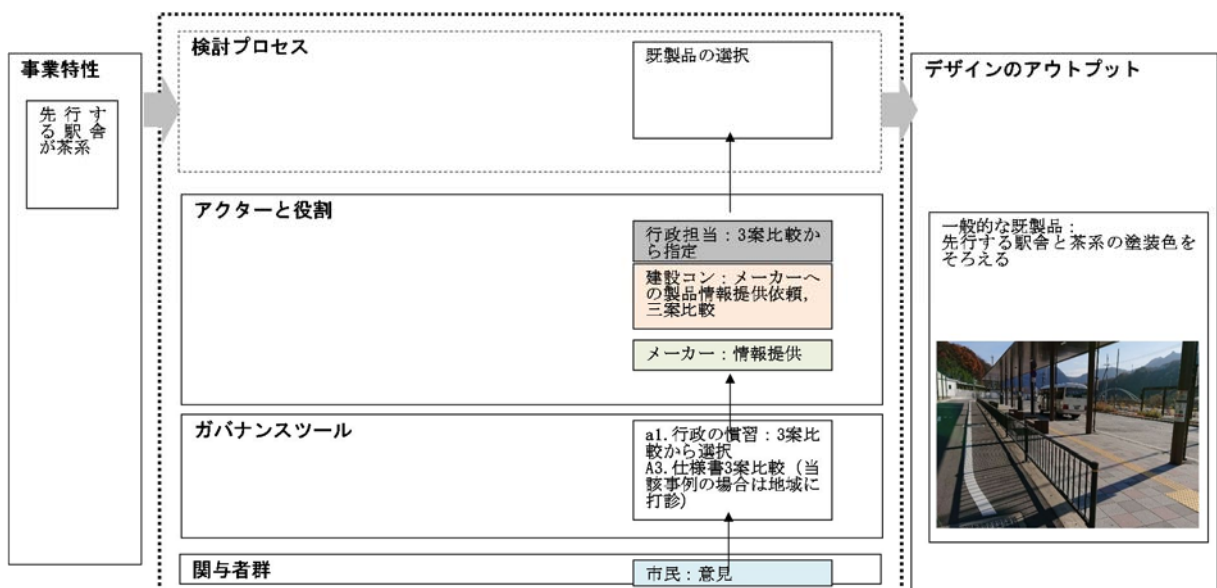


図 4-7 施設デザイン（ストリートファニチャ）の実現構造

#### 4) 施設デザイン（緑地等）

##### イ) 事業特性の整理

特に見受けられない。

##### ロ) 関与者群の整理

特に見受けられない。

##### ハ) ガバナンスツールの抽出

非公式な事業推進ツールの行政の規範により，周辺の緑地における維持管理方法を確認し，同等の方法の中で維持管理を考慮され，樹種が選定されている．さらに，町の花を採用すること，また「石」は「浅間石」をイメージさせるものを用いることが指示されている．

#### 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である．

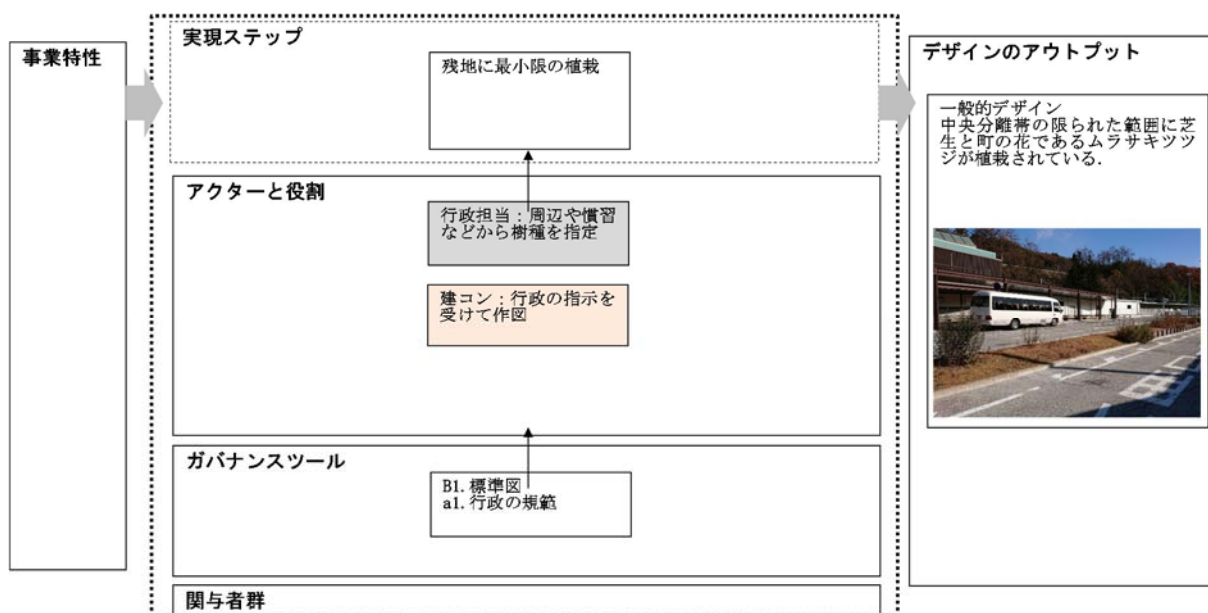


図 4-8 施設デザイン（緑地等）の実現構造

#### (7) デザインの質と実現構造の関係の考察

##### 1) 全体デザイン

全体デザインは，駅舎と同様の和風・茶系であるが，全体としてはどこにでもあるデザインであるため，一般的デザインと位置付けた．これは，実現構造で示した通り，先行する駅舎を事業特性と考慮するだけで，その他として全体デザインに配慮した構造は見受けられない．

##### 2) 施設デザイン

舗装等，ストリートファニチャ，緑地等のいずれも一般的デザインと位置付けた．これは，実現構造で示した通り，事業特性として先行事業における駅舎のデザインの方向性（和風）と茶系（色彩）のみを参照したのみで，その他は行政担当から設計を行う建設コンサルタントに公式ツールとしての標準図等をもとに指示を行うことにより実現されたものと

考えられる。

(8) ガバナンスツールのまとめ

デザインプロセスにおけるガバナンスツールをまとめたものが以下である。

表 4-3 N 駅の分析まとめ

	デザインプロセス	対象	主要アクター	ガバナンスツール	
				事業推進 (A公式/a 非公式)	デザイン評価 (B公式/b 非公式)
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コンサルタント	A3 仕様書	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	未検討		
3	コンセプトの確認, 議論	同上			
4	コンセプトの原案作成	同上			
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	行政担当		b1 組織文化 「和風・茶系」で統一
6	全体デザインの確認, 議論	同上			
7	全体デザインの原案作成	同上			
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	行政担当⇒ 建設コンサルタント	a1 組織規範 複数の製品を挙げ, 中間レベル導入施設は和風の製品をデザイン 違いで3つずつ案出 a2 先行事業 歩道舗装は, 駅前に架けられている橋梁の歩道舗装と同様	B3 景観計画等 「ゆうゆう歩道整備マニュアル」に則り設置 b1 組織文化 ベンチは, 通常 b2 情報・相互参照 ムラサキツツジは町の花 「石」は「浅間石」をイメージさせるもの
9	施設デザインの確認, 議論	同上	行政担当		
10	施設デザインの原案作成	同上	行政担当		
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント	A3 仕様書	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	行政担当⇒ 建設コンサルタント		B1 法令・基準 標準図集
13	詳細デザインの確認, 議論	同上			
14	詳細デザインの原案作成	同上			
15	実施設計図の原案作成	同上			

※施工段階では, 行政担当が直接工事監理を行っており, 詳細は不明である。



## (9) 考察

以上の分析から、N 駅では、以下のことがわかる。

事業推進にあたっては、公式ツール A3 の特記仕様書に則り 3 案比較の中から製品を選択している。また非公式ツール a1a2 の組織文化や先行事業の影響を受けて、メーカーの既製品の中から 3 案比較をすることや先行する事業の色彩を踏襲する指示をして進められている。

デザイン評価にあたっては、非公式の地域に選んでもらうという b1 組織文化、先行する事業や周囲の整備を踏襲するといった b2 情報・相互参照を施設デザインの評価として用いられている。

### 4.3 質の高いデザインの事例への適用例

本項では、前項に引き続き第3章で提案した分析手法を質の高いデザインの例に適用した。

#### (1) 対象事例、収集情報及び資料

実際のプロジェクトのなかから、日向市駅前広場を分析対象の例として挙げる。日向市駅前広場では、プロジェクトの経緯をまとめた書籍や事業誌などがまとめられ、グッドデザイン賞等の表彰や国土交通省の事例集等でも取り上げられており、分析対象となる資料収集が十分可能である。

日向市駅前広場の事業概要は以下のとおりである。

事業主体：日向市

整備面積：東口5297㎡，西口4030㎡

事業名：日向市駅周辺地区土地区画整理事業

事業期間：平成18年～平成21年

ただし、本事業は連続立体交差事業と商業集積事業との三位一体事業として平成8年から進められている。本研究では、駅前広場が分析の中心対象であるが、駅前広場を含む地域の目標像や導入機能、配置、規模等は平成18年より以前の土地区画整理事業に関する委員会で決められているため、分析対象としては、関連事業を含む事業、期間、区域を対象とする。

#### (2) 収集資料

日向市駅前広場では、表4-4のとおり、事業記録誌や事業のプロセスをまとめた文献、ホームページ（HP）より表彰等の講評、その他公開資料などが多く収集することが出来た。また、事業誌などは行政の当時の担当者へのヒアリング時に入手した。

表 4-4 収集資料

種別	文献名等
1. 事業記録誌	1-1. 宮崎県，JR日豊本線日向地区連続立体交差事業記録誌，平成19年7月（ヒアリング時に貸与）
	1-2. 日向地区都市デザイン会議，市民・行政・専門家の協働による駅を中心としたまちづくり～日向市駅周辺地区におけるまちづくりと連続立体交差事業の記録～，2007年6月（ヒアリング時に貸与）
2. 文献	2-1. 篠原他，GS軍団総力戦，新・日向市駅 関係者が熱く語るプロジェクトの全貌，靖国社，2009年
	2-2. 辻喜彦，市民・行政・専門家の協働による都市空間整備マネジメント手法に関する研究，宮崎大学博士論文，2011年3月（ヒアリング時に貸与）
3. 表彰	3-1. 「都市景観の日」実行委員会，平成26年度都市景観大賞「都市空間部門」受賞地区の概要及び「景観教育・普及啓発部門受賞団体の活動の概要（HP） <sup>10)</sup>
	3-2. 土木学会デザイン賞，2014年最優秀賞日向市駅及び駅前周辺地区デザイン（HP） <sup>11)</sup>
4. 公開資料	4. 国土交通省，良好な道路景観と賑わい創出のための事例集 日向市駅前広場（HP） <sup>12)</sup>
5. 報告書等	5. 設計業務報告書（ヒアリング時に閲覧）

### (3) デザインプロセスの把握

#### 1) 事業プロセス

収集資料1-1事業記録誌「日向プロジェクトの概要」の図-14「日向プロジェクトの変遷とマネジメント領域」では、Stageとして第1～4ステージに分類し、さらに基本構想、基本計画、基本設計（予備設計）詳細設計、設計監理に細分化している。これらのステージと事業年度、各アクターと関係する会議等と実施した概要が時系列の図としてまとめられているため、これらを表 4-5で設定した事業段階と照らし合わせた。また、収集資料2-1の巻末日向市プロジェクト年表に、都市計画決定及び事業認可が掲載されている。これらをもとに、本研究における分析のための事業プロセスとして整理した（表 4-5）。

表 4-5 日向市駅前広場の事業段階

段階年度	主な会議，成果，業務発注等
構想 H8～10	日向市まちづくり委員会 中心市街地活性化基本計画策定委員会 日向地区全体の景観基本構想 土地区画整理事業都市計画決定（H10）
計画 H11～13	TMO構想策定委員会，街なか魅力拠点整備委員会 鉄道高架・駅舎デザイン検討委員会 都市デザイン会議（駅前広場空間基本デザイン） 土地区画整理事業認可（H11）
設計 H14～17	街並み景観づくり協議会，ふる顔委員会 駅周辺地区駅前広場整備検討委員会 都市デザイン会議（駅広詳細設計デザインチェックアドバイス）
施工 H18	まち育てグループ，景観研究会 日向地区 都市デザイン会議（駅広設計監理）
供用 H19	新駅開業式・西口駅前広場完成式典

#### 2) デザインプロセス

デザインに関するプロセスは、駅前広場整備検討委員会が組織された設計段階を中心に検討、原案作成されている。

日向市駅における「デザイン決定」とその「デザイン実施」は以下の方法により把握した（収集資料2-1）。

日向市の例では各事業段階で委員会等の会議が開催され、それぞれの委員会の目的と検討段階に応じて議題が設定され議論が積み重ねられている。また、2-1新・日向市駅では、駅前広場のデザイン検討のデザイナーO氏とS教授のやり取りが掲載されている。したがって、日向市の例では主な検討項目の確認とデザイン検討の経緯によってデザイン原案作成を把握した。

デザイン決定後のデザイン実現プロセスは、2-1新・日向市駅の経緯に、設計段階ではFコンサルタントが執筆した項にデザイナーとデザイン監修のやり取りが振り返られてお

り、施工段階ではデザイナー0氏や行政担当者の振り返りに施工時の実施プロセスが述べられていることから、把握した。

## ① デザイン決定段階

分析資料2-1からは以下の記述がみられる。

- ・平成14年春、木製ファニチャーワーキングの開催
- ・地場産材を使用した街頭や車止め、ベンチの設計をワーキングで具体化。
- ・県、市、施工業者、メーカー、地場産業が集まり、樹種、仕上げから加工技術まで議論し、実験し原案を決定。
- ・平成15年10月に地元主導のため、市民・事業者等が参加した市主催、D准教授を座長とする駅前広場整備検討委員会が設置。
- ・平成16年8月に0教授との打ち合わせで、0教授からデザインの専門家としてデザイナーの0氏を指名した。
- ・10月21日デザイン会議にデザイナーが検討した基本レイアウトを指名したコンセプト図とコンセプトを提示。会議での確認、議論を経て、原案作成。
- ・平成17年2月15日0教授の打ち合わせで0教授からデザイナー0氏へデザインへのアドバイス。
- ・6月13日駅前広場ワーキングで全体イメージスケッチをデザイナーから提示し、ワーキングで確認、議論。

以上の記述と収集資料1-1の委員会等の開催日程や議題を参照し、以下の通りプロセスをまとめられる。

設計段階のH17年度では、6月に駅前広場整備策定ワーキング（主な検討項目：広場空間、ユニバーサルデザイン、ファニチャーデザインなどの詳細）、8月に駅前広場整備検討委員会（主な検討項目：ワーキングと同）、9月に都市デザイン会議（主な検討項目：駅舎、高架橋と合わせて駅前広場デザインのうち舗装等）があり、ワーキング、駅広委員会で詳細な議論の上、都市デザイン会議で報告されている。したがって、デザイナーの0氏が都市デザイン会議、駅広委員会・WG及び個別打合せで学識者からの助言を受け、デザインをブラッシュアップし、日向ならではの駅前広場、交流広場、ストリートファニチャーのデザインを立案し、会議で原案が作成されたと把握した。

## ② デザイン実施

### A) 実施設計図作成

平成18年

- ・プロポーザルで選定された建設コンサルタントの再委託先としてデザイナーが参画。
- ・より硬質なバリアフリーを目指す日向駅の駅前広場には国土交通省の標準型はふさわしくないとの意見が多く、新たな日向オリジナル縁石と誘導ブロックを検討することになった。
- ・実際体験しないとわからない、として行政担当が実物を作成し実験し、ワーキングメンバーのほか、障害者団体の方にも体験してもらい詳細デザイン原案を作成。
- ・ストリートファニチャーのサインデザインについてワーキングメンバーに何度も提示し最

最終的に実物大の案内板の模型を設置し、参加者の意見を合意形成した。

## B) 施工

- ・工事打合せで各工事の調整を実施
- ・個別にデザイナーが樹木の確認（イメージが違い樹種を変更も）、現場で緑地の造成形状の指示
- ・現場でデザイナーが確認して直しや設計変更なども実施
- ・行政幹部が行政担当者をバックアップ。

以上の記述と収集資料1-1の委員会等の開催日程や議題を参照し、以下の通りプロセスをまとめられる。

デザイン決定の後、O氏のデザインをもとに、ディテールに関する設計検討をO氏と協議しながら、Fコンサルタントの実設計図の作成が行われた。施工現場では、デザイナーのO氏が出席した工事打合せで各工事の調整が行われ、各タイミングで線形や樹木の選定、芝生の起伏の確認などが行われた。

## (4) アクターの把握

表 4-4の収集資料からアクターと役割を抽出した。主な人物は2-1「新・日向駅」の出演者（キャスト）紹介、及び著者紹介で詳しく述べられている。さらに、会議等への参加者は5設計業務報告書で委員会の出席者を確認した。人物の役割については、主に2-1「新・日向駅」の時間の経過に伴って関係者が語るシナリオから把握した。組織の役割は、人物が所属する組織として把握できるものがあり、それ以外は4事例集のように第三者が取りまとめた実践上のポイントなどから把握した。

これらの全体をまとめたものが表 4-6である。

表 4-6 日向市のアクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	市街地整備課	推進	すべて
議会	議会	市議会	承認	すべて
関係機関	関係機関	県都市計画課	連続立体交差事業の事業主体	すべて
		鉄道事業者	連立事業の鉄道施設事業者	すべて
地域	住民、経済団体・商工会、NPO・市民団体	市民	シンポジウム参加	すべて
		U氏（木材団体）	プロダクト設計施工協力	設計～施工
設計者	建設コンサルタント	Fコンサルタント	計画・設計	設計
	都市計画コンサルタント	S氏、T氏	計画検討・調整・支援	すべて
	デザイナー	O氏	駅広デザイン、現場デザイン監修、小特別授業講師	設計～施工
		N氏	プロダクトデザイン、小学校特別授業講師	設計～施工
財団法人	財団	会議運営	すべて	
施工者	施工会社		施工	施工
学識者	景観・デザイン	S教授	統括	すべて
	まちづくり・住民参加・交通	D准教授、Y准教授	調整・助言	すべて

## (5) アウトプットとしてのデザインの質の分析

### 1) 全体デザイン：

#### ① 調和：周辺都市環境（街路・緑地）との眺望動線利用の軸・連続性

駅、駅前広場が、東西軸と南北軸の交点に位置し、賑わいのある「顔」を創出し、都市構造と調和..

#### ② 一体性：舗装，Sファニチャ等デザイン要素の統一

ラチ外コンコースから駅広，周辺街路まで同じ舗装やストリートファニチャで統一され一体性を持つ.



図 4-9 日向市駅の南北軸

#### 2) 施設デザイン（舗装等）：景観性，バリアフリー，オリジナルデザイン

歩道舗装は，ラチ外から駅前広場まで同じレンガ舗装で統一されている．車道はアスファルトだが提車体付近は小舗石，縁石は石材のオリジナルデザインで，バリアフリーにも配慮されている．



図 4-10 舗装等

#### 3) 施設デザイン（ストリートファニチャ）：景観性，地元技術，オリジナルデザイン

シェルターは駅舎と同じ地元産木材を活用した同様のデザイン，照明柱・車止め・ベンチは先行する周辺街区整備で開発したオリジナルデザイン，サインは地元ならではの色を塗装したオリジナルデザインが用いられている．



図 4-11 ストリートファニチャ

#### 4) 施設デザイン（緑地等）：景観性，歴史・文化性，維持管理，愛着・誇り，地域価値

地域のシンボルである史跡（西都原）をモチーフとした緩やかな起伏を持つ交流広場，地元の樹種をメインとした高木，車いすの方も参加できる舗装された園路デザインが採用されている。



図 4-12 交流広場

### （6）デザインプロセスにおける実現構造の分析

#### 1) 全体デザイン

##### イ) 事業特性の整理

日向市駅駅前広場は，土地区画整理事業における整備であり，土地利用や範囲についてはその事業内で検討され決定されている。

また，駅周辺は，鉄道高架化事業，市街地活性化事業とともに，三位一体の事業として進められた。したがって，駅前広場のデザインプロセスが始まる前にすでに高架橋検討委員会や日向地区デザイン会議などの市民，専門家，行政，関係機関を含む委員会で計画段階以降の計画，設計の内容を議論している。駅前広場のデザインプロセスの前に，高架橋検討委員会で，中心市街地を活性化させること，ラチ外コンコースの高架橋スパンを広げ南北軸をつなぐこと，地元産材を用いて地域の産業や顔づくりに貢献することなどの地域のビジョンがつけられており，質の高いデザインそれらが駅前広場の検討でも引き継がれている。

##### ロ) 関与者群の整理

前述した三位一体事業は，国，県，鉄道事業者等の関係機関が影響を与えている。また，全体の事業の構想段階から市民参加が進んでおり，駅前広場整備でも地域住民が関心を持って公開されている議論などを聴講イベント等に参加している。

##### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政は、公式な事業推進ツールの A1 調達方式を用いて、デザイン会議（以下、D 会議）を全体統括として設置し、各種検討会議をそれぞれの対象事業の確認、議論の場に位置付け、それらの運営を一括して都市計画コンサルタントに委託している。全体デザインの段階では、具体的なコンセプト、デザインを検討するデザイナーがデザイン会議等の座長を務める学識者から指名を受け、学識者のデザイン検討支援として参画している。また、デザイン評価では、公式ツールの B3 の景観整備方針に落とし込み、b3 の学識経験者の個別助言により、評価している。

## 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

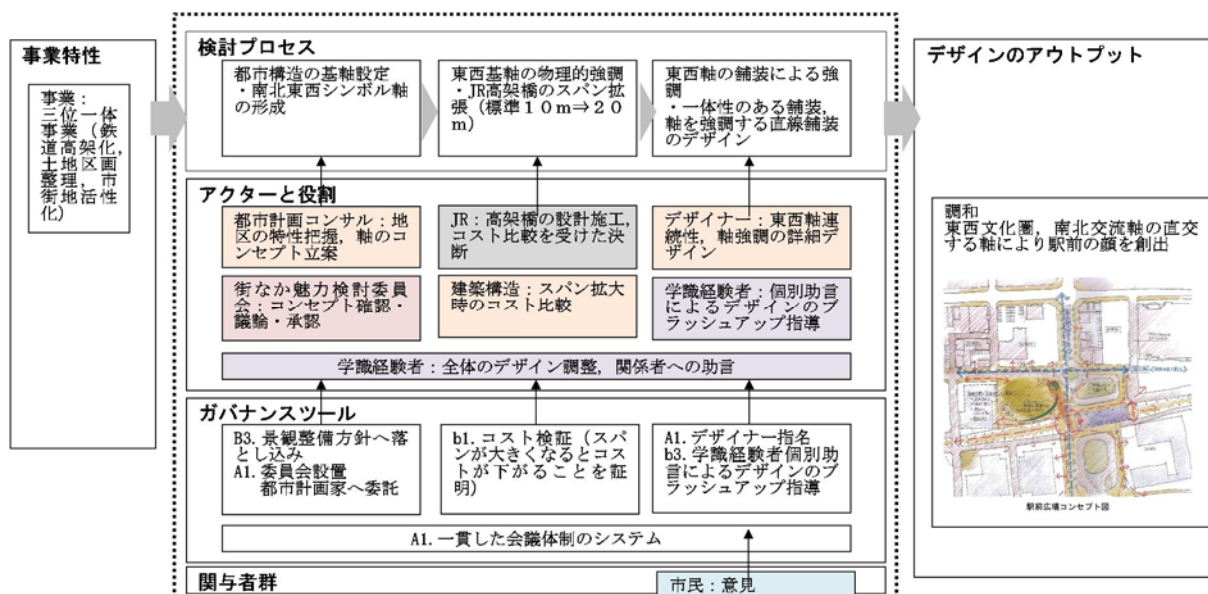


図 4-13 全体デザインの実現構造

## 2) 施設デザイン (舗装等)

### イ) 事業特性の整理

駅周辺は、鉄道高架化事業、市街地活性化事業とともに、三位一体の事業として進められており、駅前広場のデザインプロセスが始まる前にすでに高架橋検討委員会や日向地区デザイン会議などの市民、専門家、行政、関係機関を含む委員会で計画段階以降の計画、設計の内容を議論している。駅前広場のデザインプロセスの前に、高架橋検討委員会で、地元産材を用いて地域の産業や顔づくりに貢献することなどの地域のビジョンがつくられており、質の高いデザインそれらが駅前広場の検討でも引き継がれている。

### ロ) 関与者群の整理

舗装材のうち特に縁石は自然石を用いたオリジナルの縁石がデザインされ、障害者団体や市民が試験施工した現物を利用して決定している。

### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政は、公式事業推進ツールの調達方式を用いて、駅前広場検討委員会を組織し、デザインの確認、議論する場を設けている。デザイナーは、設計担当の建設コンサルタントからの再委託を請け、デザインを委員会に提出している。現場での原寸示唆悪や実験では、非公式デザイン評価ツールの市民参加や学識経験者の助言により、妥当性を検証してオリジナルデザインを実現している。



## 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

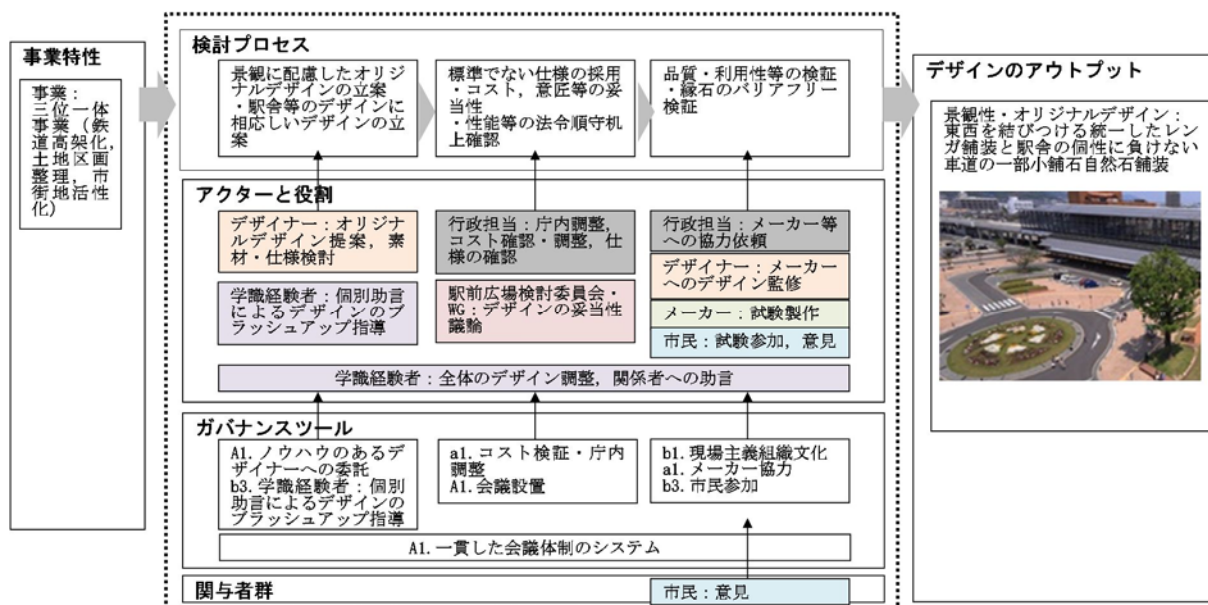


図 4-14 施設デザイン（舗装類）の実現構造

## 3) 施設デザイン（ストリートファニチャ）

### イ) 事業特性の整理

日向市駅前広場は、土地区画整理事業における整備であり、土地利用や範囲についてはその事業内で検討され決定されている。

また、駅周辺は、鉄道高架化事業、市街地活性化事業とともに、三位一体の事業として進められており、駅前広場のデザインプロセスの前に、先行する都市区画整備事業の街区整備において、先行する委員会やWGで地元産杉材を用いた照明柱、車止めが開発されており、駅前広場でも引き継がれている。

日向地区デザイン会議で、先行する駅舎を含む全体デザインの統一的なビジョンが提示され、質の高いデザインそれらが駅前広場の検討でも引き継がれ、シェルターの木材を用いたデザインに引き継がれている。

### ロ) 関与者群の整理

サインの色彩選定で前述した三位一体事業は、国、県、鉄道事業者等の関係機関が影響を与えている。また、全体の事業の構想段階から市民参加が進んでおり、駅前広場整備でも地域住民が関心を持って公開されている議論などを聴講イベント等に参加している。

### ハ) ガバナンスツールの抽出

行政は、舗装等までと同様駅前広場検討委員会を組織し、デザインの確認、議論する場を設けている。デザイナーは、設計担当の建設コンサルタントからの再委託を請け、デザインを委員会に提出している。

## 二) 概念図のまとめ

以上の分析を実現構造の概念図にまとめたものが以下である。

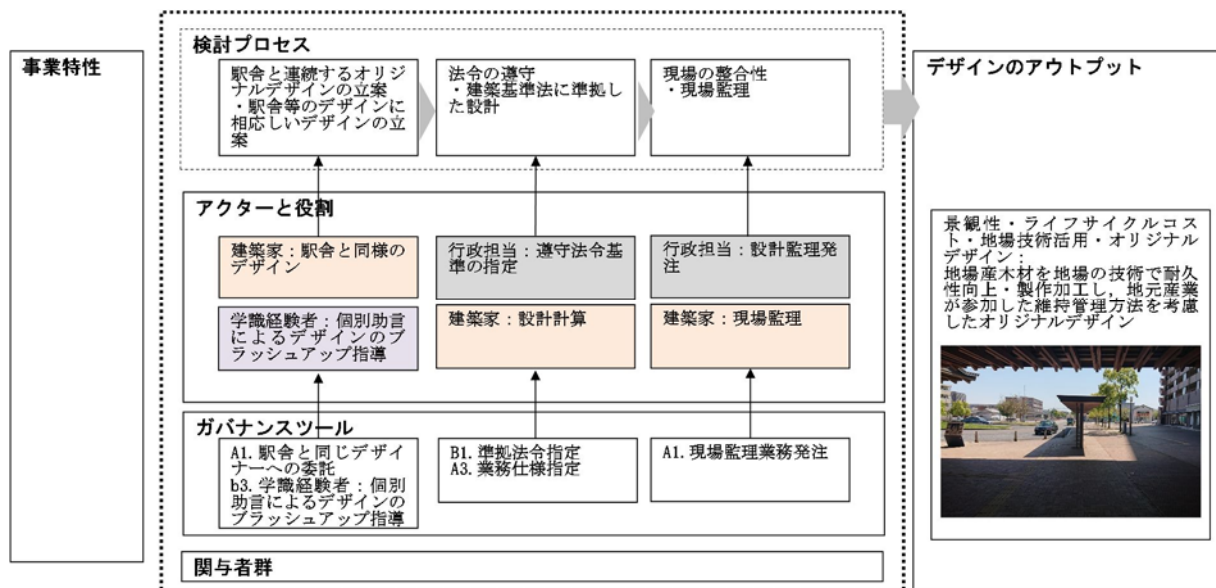


図 4-15 施設デザイン（ストリートファニチャ（シェルター））の実現構造

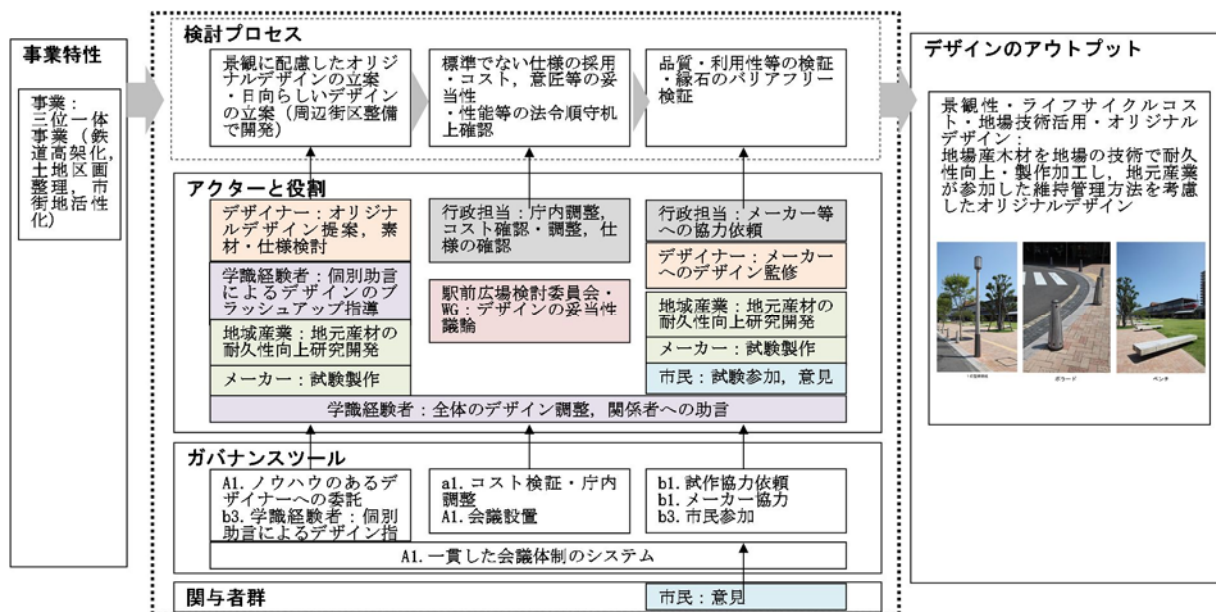


図 4-16 施設デザイン（ストリートファニチャ（照明柱・車止め・ベンチ））

#### 4) 施設デザイン（緑地等）

##### イ) 事業特性の整理

駅周辺は、鉄道高架化事業、市街地活性化事業とともに、三位一体の事業として進められており、駅前広場の一部としての交流広場が配置されている。中心市街地活性化委員会等で交流広場の利活用が市民とともに議論されている。緑地等のデザインはこれらの事業の前段階で決定、議論されていることが前提条件となっている。

##### ロ) 関与者群の整理

全体の事業の構想段階から市民参加が進んでおり、駅前広場整備でも地域住民が関心を持って公開されている議論などを聴講し、先行する街区整備でのイベント等に参加し、



## 2) 施設デザイン

舗装等，ストリートファニチャ，緑地等のいずれの施設デザインも，オリジナルデザインを実現した．これは，実現構造で示した通り，事業特性として先行事業におけるビジョンと検討体制が要請するデザインの質の高さを前提とし，そのうえで，デザイナーが提案したオリジナルデザインを行政担当がメーカー等の協力を得て実物試験を行い，関与者である市民や委員会等が検証してデザインを決定し，現場でデザイナーがデザイン監理をする実現プロセスにより実現していると考えられる．

(8) デザイン決定及びデザイン実施プロセスのまとめ

以上の分析をまとめると以下の表になる。

表 4-7 日向市駅のデザインプロセスの分析

	デザインプロセス	対象	主要アクター	ガバナンスツール	
				事業推進 (A公式/a非公式)	デザイン評価 (B公式/b非公式)
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び 周辺開発計画等	建設コンサル タント	A3 仕様書	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	デザイナー	A1 調達方式 デザイナー再委託	B3 景観計画等 地域の構想 b2 情報・相互 参照 都市デザインの セオリー
3	コンセプトの確認, 議論	同上	学識者, WG		b3 直接支援 学識者助言
4	コンセプトの原案 作成	同上	委員会	A3 仕様書 委員会設置	b3 直接支援 市民参加
5	全体デザインの検 討	空間構成, 空間イメ ージ	デザイナー	A1 調達方式 デザイナー再委託	
6	全体デザインの確 認, 議論	同上	学識者, WG		b3 直接支援 学識者助言
7	全体デザインの原 案作成	同上	委員会	A3 仕様書 委員会設置	
8	施設デザインの検 討	シェルター, ベンチ, 舗 装, 照明, サイン, 植栽 その他施設の形状, 配 置及び機能等	デザイナー	A3 仕様書 WG 設置	
9	施設デザインの確 認, 議論	同上	学識者, WG	A3 仕様書 委員会設置	b1 組織文化 地域で議論 b2 情報・相互 参照 地場産業活用 b3 直接支援 学識者助言, 市民参加
10	施設デザインの原 案作成	同上	委員会	A3 仕様書 委員会設置	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサル タント	A1 調達方式 プロポ A3 仕様書	
12	決定したデザイン の詳細検討	材質・形状・配置計画 等	デザイナー, コンサルタント	A1 調達方式 デザイナー再委託	
13	詳細デザインの確 認, 議論	同上	学識者, WG	A3 仕様書 WG 設置	b1 組織文化 原寸模型 b2 情報・相互 参照歴史文化
14	詳細デザインの原 案作成	同上	委員会	A3 仕様書 委員会設置	
15	実施設計図の原 案作成	同上	行政		
16	施工計画書, 施 工図の作成	実施設計図の確認, 施 工条件の確認, 施工計 画図, 施工図の作成	施工者	A3 仕様書	
17	施工図の確認, 議 論	施工図	デザイナー	A1 調達方式 デザイナー再委託 A3 調整会議 施工合同会議	
18	施工図の決定	同上	デザイナー	同上	
19	使用材料等の承 認	材料サンプル	デザイナー	同上	
20	施工	現地出来形	施工者	同上	
21	施工状況の確認	同上	デザイナー	同上	
22	出来形の決定	同上	デザイナー	同上	

## (9) 考察

以上のまとめにより、日向市駅前広場のガバナンスの特徴は以下であることがわかった。

事業推進にあたっては、公式ツール A3 仕様書により委員会、WG 等が設置されるとともに、A1 調達方式によりデザイナーに再委託され、いずれもデザイン決定から実施まで継続し、検討体制の一貫性を担保している。

デザイン評価にあたっては、公式ツール B3 景観計画等をコンセプト立案の評価として用いており、また非公式の b1 組織文化、b2 情報・相互参照、b3 直接支援により、行政の組織文化、学識者の助言、地元産業の参加、をデザインの評価として用いられている。

## 4.4 事例分析結果

対象事例について、前章の分析手法を用いて、全体デザイン、各施設デザインのデザインの質と実現構造を分析した。

### 4.4.1 全体デザインの質

全体デザインの質は、以下の通り、調和、統合性、一体性の3つの質がみられた。

表 4-8 全体デザインの質

	事例	デザインの質	質の内容	写真
1	旭川駅 駅前広場	調和	駅舎、駅前広場が、特に北口の街路との軸線や南口の河川との連続性により「駅を介してまちと川が出合う」が意図され、駅周辺の都市構造と調和している。	
		一体性	ラチ外コンコースから駅広、周辺街路まで同じ舗装やストリートファニチャで統一され一体性を持つ。	
2	日向市 駅前広場	調和	駅、駅前広場が、東西軸と南北軸の交点に位置し、賑わいのある「顔」を創出し、都市構造と調和。	
		一体性	ラチ外コンコースから駅広、周辺街路まで同じ舗装やストリートファニチャで統一され一体性を持つ。	
3	恵那駅 駅前広場	一般的 デザイン	駅前広場整備単体事業で、全体デザインは改築の主題であるバリアフリー改善の機能により決定されたデザイン。	
4	東京駅 丸の内 駅前広場	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、皇居まで軸線の通った行幸通りの街路整備まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
5	女川駅 駅前広場	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、シンボル空間まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
6	富山駅 南口 駅前広場	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。南北に貫くLRTが駅舎から駅広まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
7	天理駅 駅前広場	統合性	駅前広場環境空間として、地域の古墳の風景をモチーフに反復することで統合性を持つデザイン。駅前広場整備事業だが、交通広場と環境空間は別に検討されている。	
8	南万騎が原駅 駅前広場	統合性	駅前広場環境空間として、高低差を曲線を持つ階段とスロープ、統一した舗装で連続させた、統合性、一体性を持つデザイン。	

9	姫路駅 北駅前 広場	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、姫路城まで大手前通りにつながる軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
10	西鉄柳川駅 西口、東口駅前広場	一体性	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が一体性を持つ。駅舎、自由通路から駅広まで、ストリートファニチャ、舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
11	狭山市駅 駅前広場	調和	駅から駅広、市民広場、街角広場と広場を中心に連続することで街のにぎわいを誘導する調和を形成。	
		一体性	豊かな緑と対比的に建物等は現代的な白色系を採用しつつ、基調色、サブカラー、アクセントカラーで地区の一体性を演出。	
12	北本駅 西口駅前広場	統合性	駅舎以外の環境空間、交通空間を一体的にデザイン。交通機能から導いた三角平面に、高さの高いシェルターがかかる。	
13	熊本駅 西口駅前広場	統合性	駅周辺整備は一体的な体制で行われているが、駅前広場の上物を対象にコンペでデザインを公募。選定案は屋根、壁による特徴的な統合性を持つオリジナルデザインを実現。	
14	日立駅 駅前広場	調和	駅舎、自由通路、周辺関連施設と駅前広場が配置、長さ等の関係性を持ち、海への眺望や高さを抑えたボリュームなど日立らしいデザインで調和	
		一体性	東西の駅前広場の要素（舗装、照明、緑地（植栽））も統一的な考え方でデザインされ、一体性を持つ。	
15	博多駅 博多口駅前広場	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎とキャノピーから駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
16	長野駅 善光寺口駅前広場地区	統合性	地域のシンボルの善光寺をモチーフとした大庇、列柱により、駅舎、駅前広場が統合性を持つ。	
		一体性	駅舎大庇列柱から駅広シェルターまで木材を活用、石材舗装、照明、緑地等も統一的な要素で一体性を持つ。	
17	福井駅 西口駅前広場	調和	駅舎は既存だが、駅前広場と周辺の再開発が、調和、一体性を持つ。再開発の屋内広場から駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
18	N駅 駅前広場	一般的	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、駅前広場供用後に施工された民間施設やその他公共施設の色彩は統一されていない。	
19	T駅 北口駅前広場	一般的	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、周辺とは統一されていない。	



## (1) 全体デザインの3つのデザインの質と実現構造

事例分析でみられた3つのデザインの質の事例とそれらに共通する実現構造を抽出した。

### 1) 全体デザインの実現構造

#### ① 調和：周辺都市構造との眺望・動線・利用等の軸・連続性の形成による調和

駅前広場が、周辺の街路や緑地等の都市構造と眺望、動線、利用等の関係性を形成する調和のデザインを実現した事例である。実現構造における共通する検討プロセスは大きく都市計画的な方針とそれをデザインに落とし込むプロセスで形成される。

事例：旭川，東京，女川，姫路，日向，狭山，富山，福井，日立

事業特性：複合事業

共通する実現構造：

#### 検討プロセス①

都市計画コンサルタント等が都市と駅前広場の関係を軸や連続性で確保し関係者で合意し景観整備方針に落とし込み

(A1 調達方式) 委員会設置，学識経験者等がデザイン調整，関係者への助言

(B3 景観計画等) 景観整備方針へ落とし込み

#### 検討プロセス②

・指名されたデザイナーが学識者等の助言で①の方針を強調するデザインを提案  
プロセスに共通 一貫した検討体制を構築

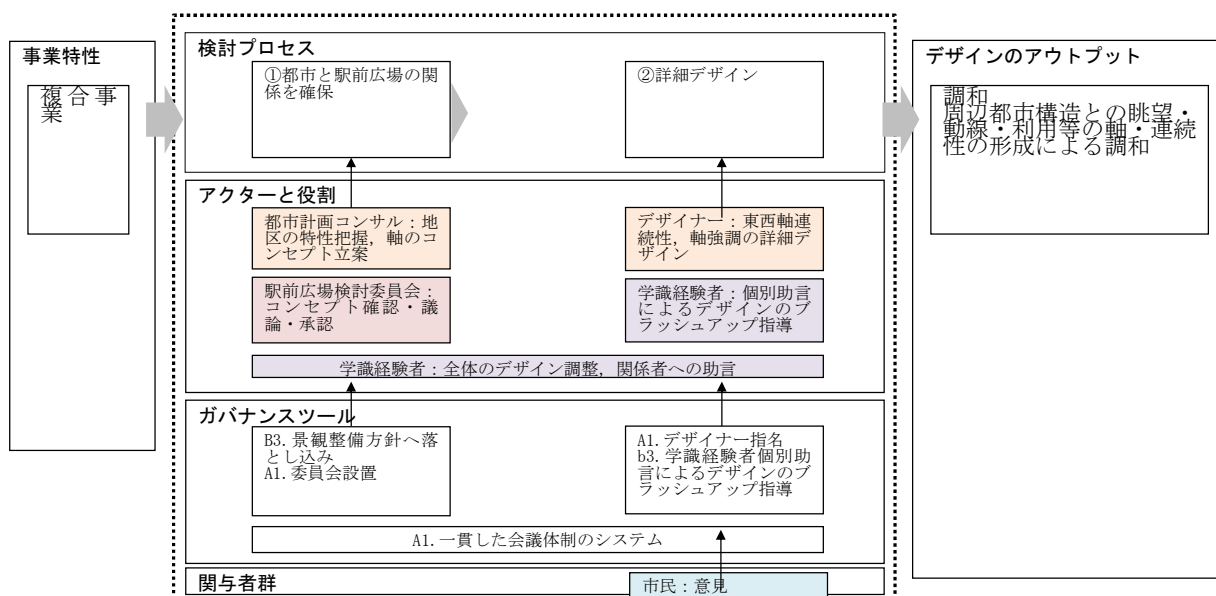


図 4-18 全体デザイン 調和の実現構造

② 統合性：一のデザイン要素による駅前広場全体の統合性

駅前広場が、一つのデザイン要素により、駅前広場内の統合性を確保する事例である。実現構造における共通する検討プロセスは大きくデザイナーが統合するモチーフ等のデザインを立案するプロセスとそれを実現するプロセスで形成される。

事例：長野，天理，北本，熊本，南万騎が原，恵那

事業特性：駅前広場単独事業が多い

共通する実現構造：

検討プロセス①

選定・指名デザイナーが地域らしさをモチーフにデザイン立案，関係者で妥当性を確認

(A1 調達方式) デザイナー指名・委託，委員会設置

検討プロセス②

デザイナーが単独または建設コンサルと協働し，設計監理業務やデザイン監修でモチーフを実現

(A1 調達方式) デザイン監修委託，実施設計等委託

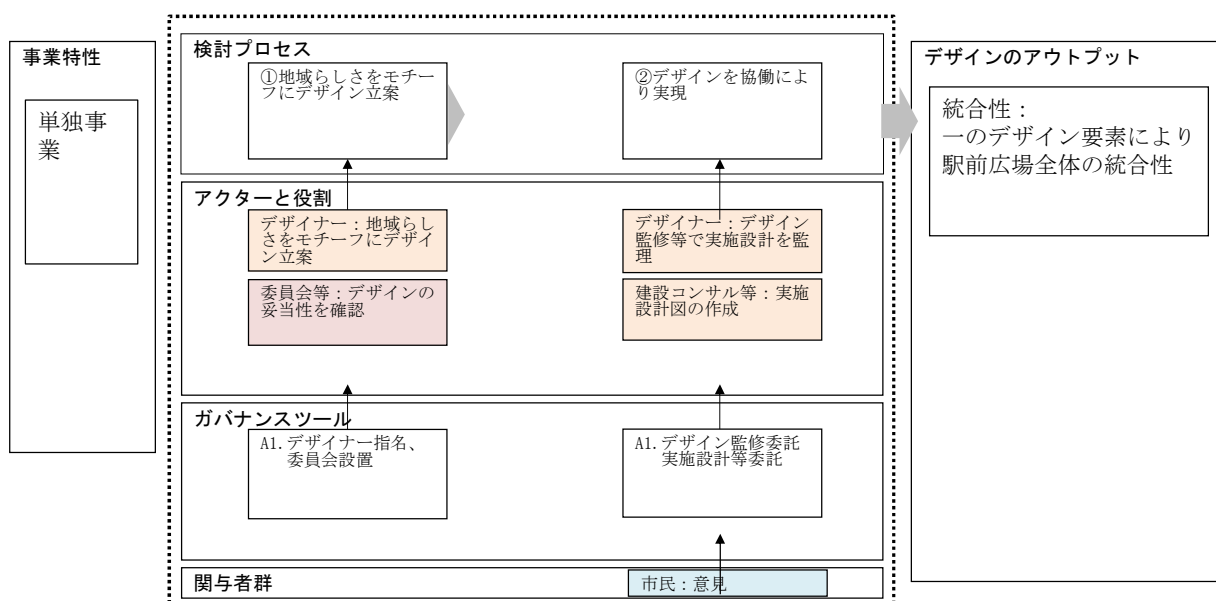


図 4-19 全体デザイン統合性の実現構造

③ 一体性：舗装，ストリートファニチャ等のデザイン要素の統一による一体性

駅前広場のデザイン要素が統一され，一体性を持つデザイン。検討プロセスは統一的なデザインの立案とそれをもとにした統一的な図面，仕様書での発注であり，駅前広場内のデザイン要素が複数の関係者をまたぐものであれば，それらを統一することにより実現できるものである。

事例：質の高いデザインの事例に共通

実現構造：

検討プロセス①

設計者が統一的なデザインを立案し，行政担当が採用

(a3. 調整会議) 関係者が複数の場合は調整カギ等で要素の統一について協議を行

う.

### 検討プロセス②

統一的な図面，仕様書等で発注

(A3 仕様書等) 事業者間／事業者内での図面，仕様書の統一による工事発注

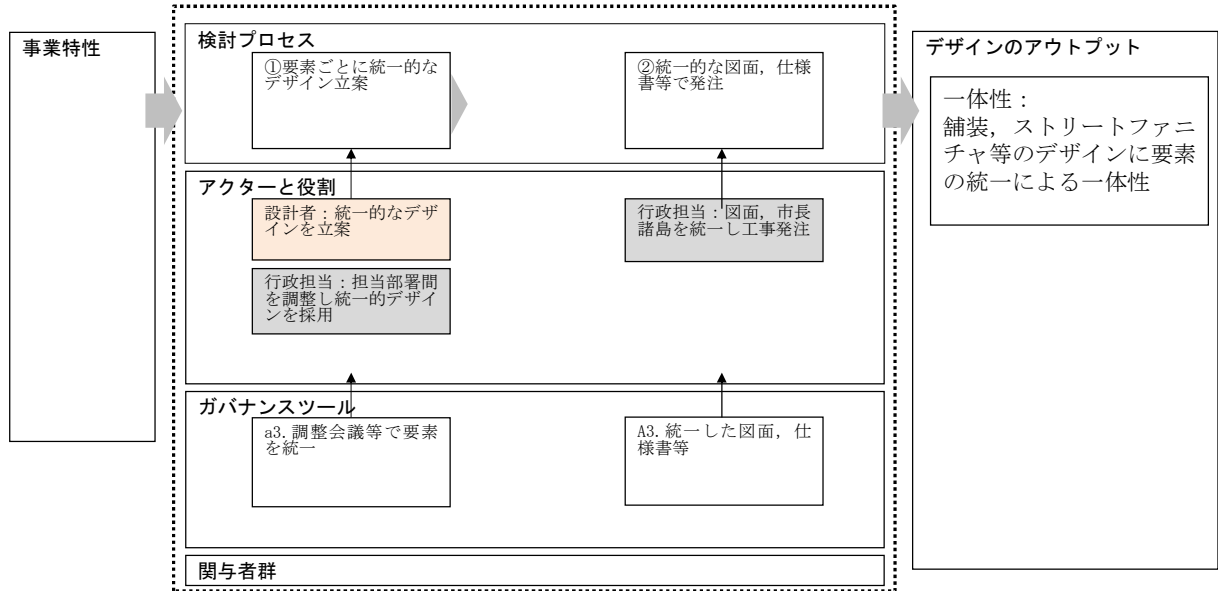


図 4-20 全体デザイン 一体性の実現構造

## (2) 全体デザインの特徴的な実現構造の事例

### ① 日向市駅：JRの高架橋標準径間を独自の検証と粘り強い協議で拡大

日向市駅駅前広場は、土地区画整理事業の一部であるが、鉄道高架化事業と市街地活性化事業とあわせて三位一体事業として推進されていた。そのため、先行する鉄道高架橋の検討時から高架橋景観検討委員会等が立ち上がり、事業全体のデザイン調整を行う日向地区都市デザイン会議が設立されて、各種の委員会、WG、シンポジウム等を統括して進められていた。

駅前広場においては、具体的なデザインプロセスの前に、南北軸、東西軸の交点に駅を配置し、交流拠点とするヴィジョンを描いている。このヴィジョンの実現のために、土地区画整理事業の初期の段階から街路のあり方や土地利用について検討されている。

具体的にこのヴィジョンの実現に大きく貢献したと考えられるのは以下の3つの検討プロセスである。

検討プロセス①で都市構造の基軸を設定したのち、検討プロセス②で JR 高架橋の駅舎部分のスパンを JR 標準設計で 10m のところ、20m まで拡大している。そのことにより、東西軸がよりつながりを強めており、さらに検討プロセス③において、デザイナーが東西軸を一体化するレンガ舗装と強調する別の色によるレンガ舗装の軸を提案し、東西文化圏、南北交流軸の直交する軸により駅前の課を創出する、調和のデザインを実現している。

特徴的なのは検討プロセス②であり、標準設計で決められたスパンを拡げることは容易でない。事業の経緯を記した「日向駅」においても、JR を交えた個別協議を何度も行い、そのたびに JR が競技から離脱するなど難航した様子が描かれている。ここでスパン拡大のデザインを実現するにあたって、JR を大きく動かしたのは、複合事業で当初から景観の専門家として参画していた学識経験者である。当初の都市計画的なヴィジョンから一貫して携わっていたため、スパン拡大の重要性を継続して説くとともに、関係者による会議を開催して、意見交換をし、最終的に建築家や建築構造家が基礎や悔いの数が少なることでコストが下がる可能性を見出し、実証して見せることにより、JR がスパンの変更へと動いている。一貫した会議体制のシステムとコスト検証が大きく JR の行動へ影響している。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**複合事業（三位一体）、駅周辺のヴィジョン、デザイン会議

**実現構造：**

#### **検討プロセス①都市構造の基軸設定**

都市計画コンサル他地区の特性を把握し、ヴィジョンを実現するために東西文化圏、南北交流軸の直交する軸のコンセプトを立案した。

街なか魅力検討委員会で、上記のコンセプトを確認、議論し、承認されている。

また、3つのプロセスを通して、デザイン会議の景観の学識経験者が全体のデザイン調整や関係者への助言を行っている。

(A1 調達方式) デザイン会議や、街なか魅力検討委員会等、ヴィジョンをデザインに落とし込む過程で議論や確認を行うために必要な会議が設置されている。このう

ちデザイン会議は三位一体事業の全体を通して一貫して設置され、学識経験者等が同じ体制でデザイン調整を行っている。

(B3 景観計画等) 委員会で承認されたコンセプトは、これ以降の事業のデザインの指針となる景観整備方針に落とし込まれている。

### 検討プロセス②東西基軸の物理的強調・JR 高架橋のスパン拡張 (標準 10m⇒20m)

JR が設計施工する高架橋のスパン割について、標準 10m のところ、学識経験者や建築構造からの比較提案を受けて、20m に拡大を決定した。建築構造は、スパンが飛ぶことで橋脚が減り、杭や基礎のコストが減少することを示し、JR の意思決定を支援した。学識経験者は、以上のプロセスにおいて個別に働きかけを行うなど、一般的に標準スパンを変更することが困難な中、粘り強く意思決定を促している。

(b1 組織文化) 建築構造担当者がスパンを大きくするとコストが下がることを概算で証明し、JR に示している。

### 検討プロセス③東西軸の舗装による強調

デザイナーがこれまでの経緯を受けて、東西軸を連続性を担保する一帯の煉瓦舗装と、軸を強調する別の色のレンガ舗装の詳細デザインを提案した。景観の学識経験者はデザイナーとの個別打合せでデザインの助言を行っている。

(A1 調達方式) 具体的な詳細デザインの段階になり、景観の学識経験者がこれまでの経緯を踏まえてヴィジョンを具現化するノウハウのあるデザイナーを指名し、全体のデザイン調整業務からの再委託によりデザイン検討が行われている。

(b3 直接支援) デザイン会議の学識経験者が会議等の前に複数回デザイナーや関係者と個別打合せを行い、デザインのブラッシュアップに助言を行っている。

### 関与者群

ー

### デザインのアウトプット

調和：東西文化圏、南北交流軸の直交する軸により駅前広場の顔を創出した。

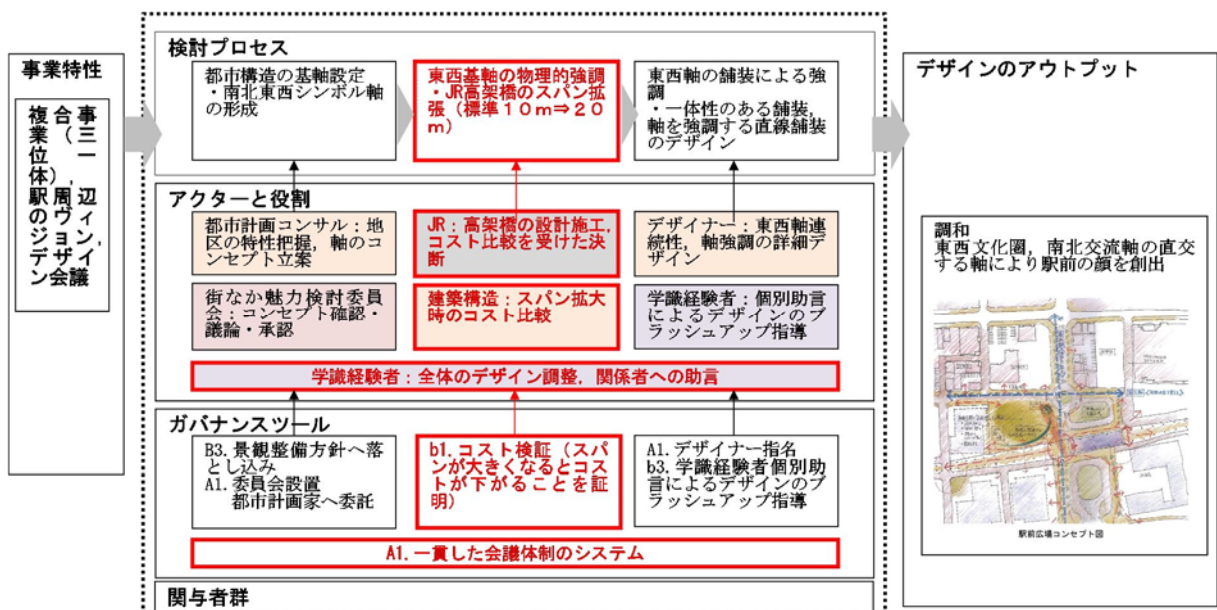


図 4-21 日向市駅の全体デザインの実現構造

## ② 天理駅：デザイナーの想像力を引き出し古墳をモチーフとした顔を創出

天理駅駅前広場は、駅前広場整備事業の単独事業であり、デザインプロポーザルでデザインを選んだ特徴的な事例である。本事例分析で着目する範囲は環境広場の範囲である。交通広場は、別途計画設計施工されており、本プロポーザルの範囲からは外れている。

プロポーザルは、関与者である市長の発案であり、その実施のため、市長自らが市庁舎内から4名担当を指名し、駅広担当チームを発足している。

あわせて市長は天理駅周辺地区協議会を発足させ、駅周辺のあり方について地元住民と意見交換をしている。プロポーザル実施を決めた後も協議会で、プロポーザル提案に求める目標像や要件などを相談し、その要望に基づき要項を定めている。

要項から地域の顔となるデザインを要請されていると把握した、デザイナーは地域の歴史的資源である古墳に着目し、それを点在させるデザインを提示した。この古墳をモチーフとした繰り返しのデザインは、同心円状のデザインの要素を持ち、カフェ、休憩所、遊び場など、あらゆる駅前広場の要素について同心円状のモチーフを適用し、統一的なデザインを実現したものである。

ここで重要なガバナンスツールは、地元との協議であり、首長も参加した地元協議会の開催が該当する。要項をこの協議会で固めた後の審査委員会でも協議会から4人、そこに行政の副市長が参加した5人の審査委員による委員会でデザイナーを選定している。5人の評価は断トツで選定されたデザイナーとなっており、地元の要望が要項に反映され、それをもとにデザイン提案したデザイナーに伝わっていたことになる。特にコンセプト、デザインに配点が高い審査基準となっていたことも求めていたより優れたデザイナーが選ばれたことにつながっている。

プロポーザルでは、特に資格要件を定めておらず、建築や土木の関係者以外からも斬新なアイデアを募り、新たな駅前の顔を求めていたことがわかる。

プロポーザル特定後、デザイナーはデザイン基本計画を作成し、計画策定にあたり数回にわたって、地元協議会に出向き直接対話をすることによって、デザインを地元の要望と調整を図っている。

基本計画策定後は、建築土木の資格を持っていないデザイナーのデザインを実現するため、建設コンサルタントを入札で調達し、実施設計図を書かせている。このときに実施設計図に当初のデザインが確実に反映されるよう、デザイン監修業務を発注し、実施設計を担当する建設コンサルタントと協働するようにしている。本業務は当初プロポーザル時に総工費10億と決められていたが、実施設計の段階で15億まで膨らんだことから、建設コンサルタントのVE提案により当初鉄骨造で製作予定だった同心円状の遊具施設をプレキャストコンクリートとすることなどで、11億まで圧縮している。これもデザインを実現するために調達関係のガバナンスが効いたものと考えられる。デザイン監修業務は現場まで続き、現場でも定期的にデザイナーが参加した確認が行われ、当初のデザインイメージの具現化に寄与している。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**駅前広場単独事業，工事費 10 億，事業期間 3 年

**実現構造：**

#### **検討プロセス①優秀なデザイナーの選定方法の検討**

行政担当が地元協議会と協議し駅前広場で目指す姿を要項に具体化している。

(A1 調達方式) 新しい天理駅の顔となるデザインを採用するため，デザインを提案させるプロポ方式を採用している。

(A3 仕様書等) プロポーザルの要請書には，事前に地区の協議会において地域が考える必要な機能や要件などが盛り込まれている。

#### **検討プロセス②特徴的なデザインの立案・選定**

デザイナーは要項を受け，地域の新たなシンボルが求められていることを読み解き，地域に点在する古墳をモチーフとしたデザインを提案した。

選定委員会は，地元協議会の 4 人と行政 1 人による 5 人の審査で，デザイナーを選定している。

(A1 調達方式) プロポーザルの審査は，地元協議会から 4 人，行政から 1 人の計 5 人で構成された。

(A3 仕様書等) 審査基準は，コンセプト，デザインの配点が高く，デザインの質が求められたものであった。

#### **検討プロセス③デザインの具現化**

選定されたデザイナーは，提案したデザインをもとに基本計画を作成し，その後建設コンサルタントが詳細設計を行う際にはデザイン監修を行っている。建設コンサルタントは，デザイン計画をもとに実施設計を行っているが，当初工事費が予算の 10 億を大きく超過し 20 億となったため，構造形式などを見直し，VE 提案を行い，行政と協力して 11 億までコストを低減している。

(B3 景観計画等) 実施設計段階では，その前に作成されているデザイン基本計画が基準となっている。

(A1 調達方式) プロポーザルでのデザイン提案，及びそれをもとにしたデザイン基本計画を実現するため，実施設計段階，施工段階で選定されたデザイナーに随意契約でデザイン監修が委託されている。また，技術士等の土木設計の資格を持たないデザイナーに代わり実施設計を行うため，建設コンサルタントに設計を 8 通している。

(b3 直接支援) デザイン基本計画を作成する段階では，要項時に意見を反映した地元の協議会にデザイナー，市長が参加し，意見交換を通して，デザインに市民の意見を取り込んでいった。

#### **関与者群**

プロセス①では，市長がプロポーザルの実施を指示し，庁内に対応するチームを組成している。また，地元協議会が要項の作成にあたり意見，要望を提出し，要項に反映されている。

プロセス③では，市長がデザイナーとともに地元協議会に出席し，意見や要望を聞き，デザイン基本計画に反映している。

#### **デザインのアウトプット**

統合性：古墳をモチーフとして同心円状の繰り返しにより全体を統合したオリジナルなデザインを実現している。

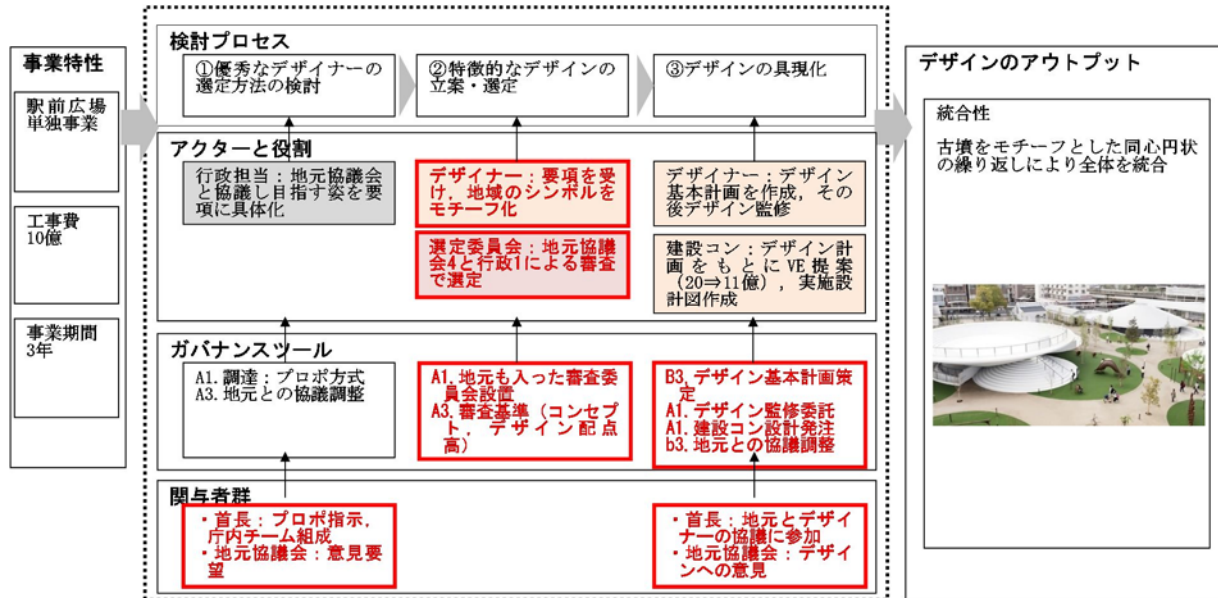


図 4-22 天理駅の全体デザインの実現構造



### ③ 熊本駅西口：デザイナーの想像力を引き出し熊本城をモチーフとした顔を創出

熊本駅西口駅前広場は、九州新幹線整備事業や合同庁舎移転、鹿児島本線等連続立体交差等整備事業、駅東A地区市街地再開発事業といった事業が複合する熊本駅周辺整備のうち、西土地区画整理事業の一部であり、設計競技によりデザインを選んだ特徴的な事例である。設計競技の対象は交通広場を含む駅前広場全体のうち、地上部である。地下部は別途競争入札で選定された建設コンサルタントが設計をしている。

熊本駅では、先行する県事業の東口駅前広場がくまもとアートポリス事業で設計競技を行い、建築家の西沢立衛のデザインが選ばれている。

西口は市の事業であるが、先行する県に倣い、くまもとアートポリス事業で設計競技を行うことになった。くまもとアートポリス事業<sup>41</sup>は1988年代から始まった熊本県の事業で、環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図るとともに、文化情報発信地としての熊本を目指して、後世に残る文化的資産を創造するため、推進されている。このなかで、設計競技などを実施してその事業に最適な設計者を選ぶプロジェクト事業として、西口駅前広場の設計者が選ばれている。設計者の選定は、コミッショナーとコミッショナーが選任したアドバイザーが行うことになっている。

募集要項は、市が設計条件を整理し、県の熊本アートポリス事務局が取りまとめて作成されている。要項の趣旨には、「熊本の玄関口、また交流拠点に相応しい「熊本駅西口駅前広場」の提案を募集します」「設計にあたっては、多様な人々が駅前広場を利用することが想定されるため、ユニバーサルデザインの理念に基づいた計画が必要になりますが、だれもが使いやすい広場としてやさしさ、快適さだけでなく、美しさ、楽しさに配慮された次世代に受け継ぐ新しい提案を期待しています」とされている。また、計画条件等には、ユニバーサルデザインの理念に基づくこと、敷地範囲内に建設することが可能なこと、交通に関する配置計画を変更しないこと、設計対象、特注品の仕様を避け、耐久性やメンテナンスのしやすさ、環境負荷の低減に配慮すること、直接工事費は1億5千万円以内とするなどと記載されている。また、設計業務の契約には、意匠設計と詳細設計を分離して発注する、意匠設計者と詳細設計者は協働して設計を行う、と記載されている。

審査は、アートポリスのコミッショナーとアドバイザーの建築家4人で2段階で審査されている。第1次審査の前には、県民から意見を募集し、審査前に審査員に渡されている。

選定されたデザインは、「コンコース空間を延長し、駅前広場を建築化する」というコンセプトを提案し、熊本城の外壁のような黒壁が新駅舎に対する基壇あるいは下屋として、周囲に建設される雑多な商業施設の前景として、統一感を与え、駅前広場の修景を図ることを意図されている。

第2次審査後の審査員長の講評では、「東口駅前広場で提案された屋根に対して、こちらは壁が一つのシンボルとなるような、とても面白い対比を見せる良い提案ではなかったかと感じております。このような駅前広場というのは全国的に見ても他に例がない新しい

---

<sup>41</sup> くまもとアートポリスとは？<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/4547.html>

提案になって、逆に熊本らしさが、お城に似せるとかそういうことではなくて、ここから熊本らしさが生まれてくるということではないかと思っております」と述べられている。

設計者選定後、市と設計者は駅前広場意匠等詳細設計業務委託を随意契約し、設計競技の提案内容をもとに詳細設計を行っている。デザインは設計競技の提案をもとに進められているが、駅前広場における壁屋根の扱いは設計競技終了後に警察協議等を経て検討されている。建築物としては道路内に屋根を設置できないため道路施設と位置付けるとともに、壁により視距が狭くなるため、警察協議により、設計競技時から壁の位置を調整している。また、熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議にデザインを報告しているが、特にデザイン上大きな変更はなされていない。さらに、ユニバーサルデザイン関係の会議で車両乗降場に庇が必要との指摘があり、設計期間中に設置されている。当初設計競技において条件として提示されていた直接工事費 1.5 億は、設計終了段階で、2 億超になっている。

その後、設計者は工事監理業務委託を受託し、現場での監理を行っている。

供用後、すべての乗降場に庇が追加工事されている。

審査員長のコメントの通り、ここにしかないオリジナルデザインは実現されているが、予算を当初の提示額を超過したり、供用後にバリアフリーの観点で庇を追加工事を行うなど、マイナスの評価と考えられる部分もある。また、駅舎のデザインと東西の駅前広場のデザインは特に統一されることなくそれぞれ独立しているデザインに見える。これらは、デザインプロセスにおいて、事業特性として設計競技の対象とした構造物の法的位置づけが未定であったこと、ガバナンスツールとしての設計競技方式を調達として採用したにもかかわらず、事業者である市とは別に県が事務局となり、審査員も県の事業に定められた建築家が担っていることが一つの要因と考えられる。また前述の通り、審査委員長は選定したデザインを東口との対比とオリジナルデザインによる新たな熊本の顔となることによって評価している。審査後は選定されたデザインをもとに設計が進められ、特に審査員がその後関わっていない。またデザイン会議にデザインが図られているがそこでは報告にとどまり、実質的なチェック機能が効いていなかったと考えられる。これらのデザインプロセスにおける規律付けという意味でのガバナンスが効いていなかったことが、前述のマイナスの評価につながっていると考えられる。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**複合事業、駅前広場上物の直接工事費 1.5 億、構造物の法的位置づけ未定

**実現構造：**

**検討プロセス①優秀なデザイナーの選定方法の検討**

(A1 調達方式) 新しい熊本駅の顔となるデザインを採用するため、設計競技を採用している。

(B3 景観計画等) 先行する東口駅前広場と同様、県のくまもとアートポリス事業の設計競技の枠組みを活用している。

**検討プロセス②特徴的なデザインの立案・選定**

(A1 調達方式) 設計競技の審査は、くまもとアートポリスの慣例に則り、コミッショナー及びアドバイザーの 4 名で実施されている。

(b1 組織文化) 選定理由として審査員長があげていた東口の屋根に対して、西口の壁を評価するというコメントは、アートポリスで毎年数件の設計競技を行ってきた文脈における評価であり、事前に実施された市民アンケートやデザイン会議で議論された熊本駅周辺のあり方を優先して選定されたものではなかった。

### 検討プロセス③デザインの具現化

(A1 調達方式) 設計講義で選定された建築家に設計監理を随意契約で委託し、建築基準法等必要な法令に則った設計を行っている。地下部のインフラについては建設コンサルタントに別途発注し、協働して設計している。

(b1 組織文化) 施工会社は入札により地元の施工業者が選ばれているが、選ばれた施工業者が建築工事と土木工事の両方を手掛ける施工会社であったため、特殊なデザインの本工事でもうまく対応している。

### 関与者群

プロセス①では、市の事業に対して、県のアートポリス事務局が関与し、要項を作成している。

プロセス②では、設計競技の選定委員会がデザインの選定に関与しているが、ここでの委員は、デザインプロセスのうち、選定にのみ関わっており、その後の設計監理では特にかかわっていない。また、第一次審査の前には市民にアンケートが行われて、審査前に審査委員に渡されている。

プロセス③では、駅周辺全体のデザインを調整する、デザイン会議にデザイン案がかけられているが、設計競技で決まっているデザインであるため、大きくデザインを調整するには至っていない。

### デザインのアウトプット

統合性：熊本城をモチーフとした屋根壁の特徴的な造形により全体を統合されている。

一方で、直接工事費が2億超に増えていることや竣工後にバリアフリーのため、庇が追加されていることはマイナスの評価として考えらえる。

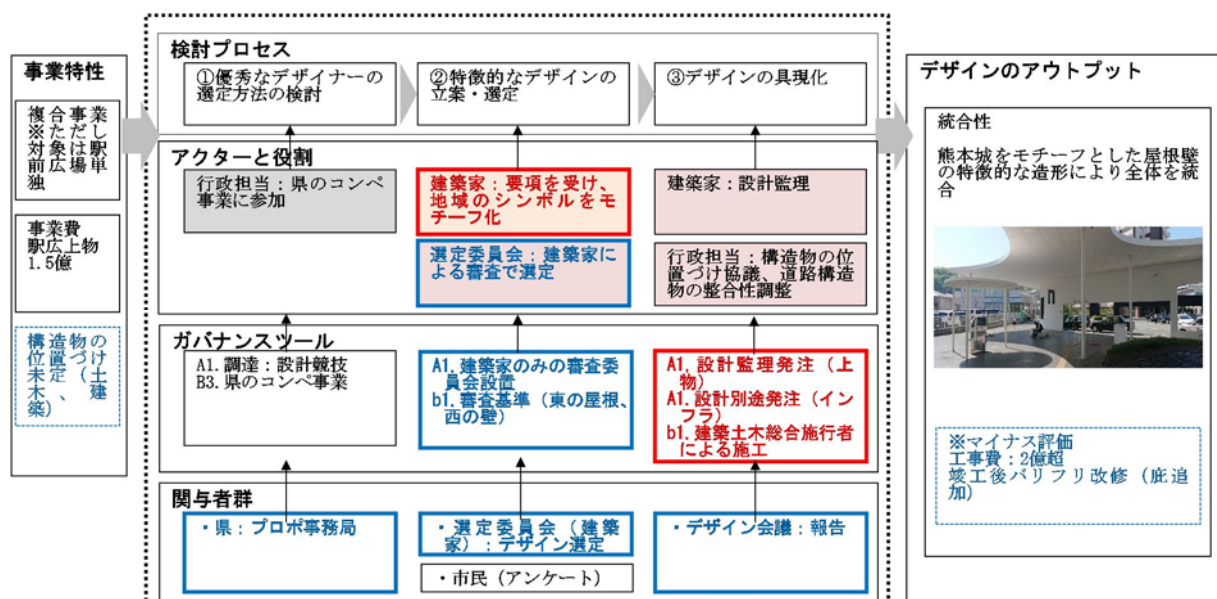


図 4-23 熊本駅西口の実現構造

#### 4.4.2 施設デザイン（舗装等）のデザインの質と実現構造

施設デザイン（舗装等）の質は、以下の通り、調和、統合性、一体性がみられた。

表 4-9 施設デザイン（舗装等）の質

	事例	デザインの質	質の内容	写真
1	旭川駅前広場	景観性, バリアフリー	周辺街区の煉瓦造建物との連携に配慮した, 歩行者にとっての親密さや賑わいの創出, 温かみの演出を考慮したレンガ舗装。	
2	日向市駅前広場	景観性, バリアフリー, オリジナルデザイン	ラチ外から駅広まで同じレンガ舗装で統一. 車道のうち停車帯は小舗石舗装で, 縁石はバリアフリーに配慮した自然石オリジナル加工。	
3	恵那駅前広場	景観性	歩道はインターロッキング舗装, スロープ部は洗い出し舗装で, バリアフリーを考慮し場所により工夫されている。	
4	東京丸の内駅前広場	景観性, オリジナル	オリジナル石舗装のパターンで構成されている。	
5	女川駅前広場	景観性, オリジナル	駅広からシンボル空間まで複数のレンガ舗装で統一。	
6	富山駅南口駅前広場	景観性	複数の自然石舗装によりパターンが構成されている。	
7	天理駅前広場	景観性	洗い出し舗装や人工芝, 天然芝などが同心円状のモチーフ状に描かれている。	
8	南万騎が原駅前広場	景観性	高低差のある駅前広場を曲線を持つコンクリート階段とインターロッキング舗装で特徴的なパターンを描いている。	
9	姫路駅北駅前広場	景観性, オリジナル	大手町通へと続く軸線状に複数の自然石舗装が使い分けられている。	

10	西鉄柳川駅西口駅前広場, 東口駅前広場	景観性, オリジナル	レンガ舗装やインターロッキングなどでパターンが描かれている。	
11	狭山市駅前広場	景観性	インターロッキングブロックと一般的なコンクリート縁石, 側溝だが色彩計画により落ち着いた低彩度色に。	
12	北本駅西口駅前広場	一般的デザイン	一般的なインターロッキングだが一部駐車場側広場に緑化ブロックが採用されている。	
13	熊本駅西口駅前広場	一般	一般的な透水性コンクリートブロック平板。	
14	日立駅駅前広場	景観性	一般的なインターロッキングブロックだがコンクリート特殊色。	
15	博多駅博多口駅前広場	景観性, オリジナル	JR, 市それぞれの施工区分を統一した自然石歩道で構成されている。	
16	長野駅善光寺口駅前広場地区	景観性	駅から善光寺へ続く街路まで一体的に善光寺の参道をイメージする大判の自然石舗装。	
17	福井駅西口駅前広場	景観性	自然石舗装だが, 隣接する再開発まで一体的に舗装。	
18	N駅駅前広場	一般的	一般的なインターロッキング。	
19	T駅北口駅前広場	一般的	一般的な舗装よりも高額なレンガ舗装。	

## (1) 施設デザイン（舗装等）：2つのデザインの質と実現構造

舗装等の施設デザインでは、景観性とオリジナルの2つのデザインの質がみられる。それぞれの事例に共通する実現構造を以下に示す。

### 1) 舗装等施設デザインの実現構造

#### ① 景観性：地域になじむ色彩，素材の舗装等

舗装等に地域になじむ色彩，素材等を選択した事例である。

事例：熊本，狭山，北本，南万騎が原，天理，恵那，日立，N 駅，T 駅

事業特性：標準図・標準仕様，道路構造令

共通する実現構造：

##### 検討プロセス（既製品選択の場合）

メーカー既製品カタログから3案比較を作成し，コスト等の行政の慣習基準により選択

（A3 仕様書等）三案比較から選択

（a1 組織規範）三案比較の立て方，選択する考え方等の組織の慣習等

##### 検討プロセス（既製品アレンジの場合）

メーカーの協力を得て，既製品をベースに色や仕上げを調整。行政担当がコスト増を事業費内増減や増額等で調整し採用。

（a1 組織規範）コスト検証，庁内調整等の組織の慣習等，メーカーの協力

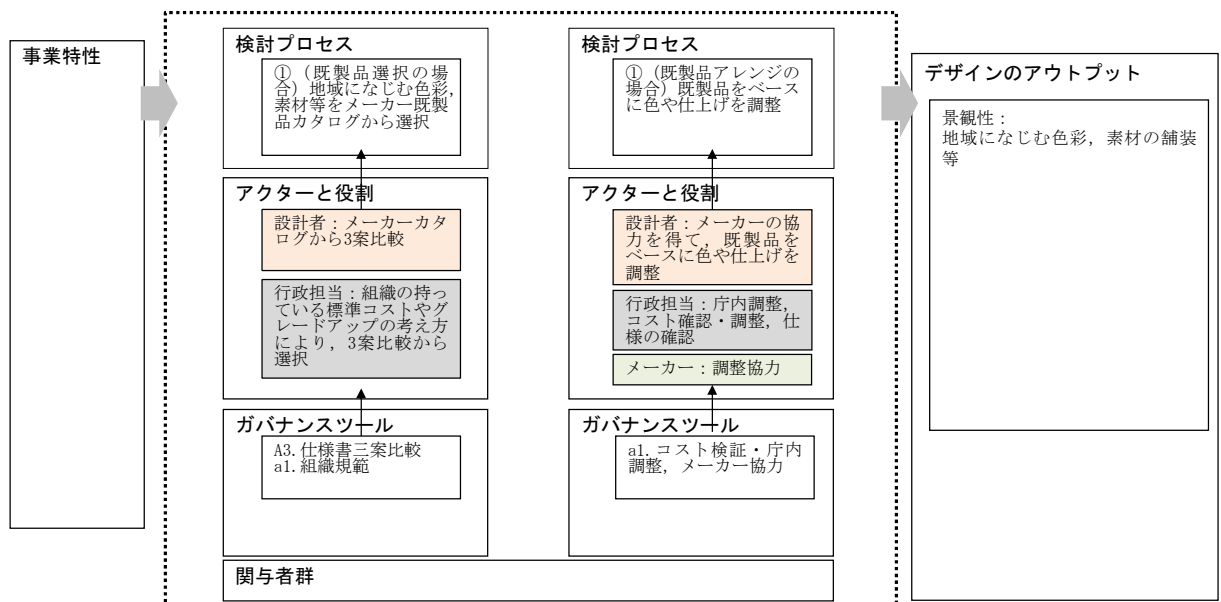


図 4-24 施設デザイン（舗装等）景観性の実現構造

#### ② オリジナル：周辺環境や歴史文化等を考慮したオリジナルの舗装等

舗装，縁石，側溝等に駅前広場の周辺環境や地域の歴史文化等を考慮したオリジナルデザインが採用されたデザイン。道路構造令等の法令や標準図・標準仕様が事

業特性であるため、経験やノウハウのあるデザイナー等がデザインを立案し、地位kに合わせて素材や試用等を検討。標準仕様ではないため、行政担当が法令等への適合を確認し、デザインの評価については、学識経験者等にその妥当性を評価して採用可否を検討する。最後のプロセスで原寸で試験施工を行い、その品質や利用性について最終確認を行って実現する。

事例：日向，女川，姫路，柳川，旭川，長野，富山，博多，福井

事業特性：標準図・標準仕様，道路構造令

共通する実現構造：

### 検討プロセス①デザイン立案

ノウハウのあるデザイナーに委託し，デザイン，素材，仕様を立案。

(A1 調達方式) ノウハウのあるデザイナーへの委託

### 検討プロセス②標準でない仕様の採用

標準でない仕様の妥当性を学識者等が確認し，採用可否を行政担当が庁内調整。

(a1 組織規範) 庁内調整，コスト確認等

(A1 会議設置) 学識者，委員会へのデザイン妥当性確認

### 検討プロセス③品質・利用性等の検証

行政担当が試験施工を企画し，メーカー協力とデザイナー監修のもと，市民も参加して評価。

(b1 組織文化) 現場主義，現場にて原寸試験施工

(a1 組織規範) メーカー協力

(b3 直接支援) 市民参加

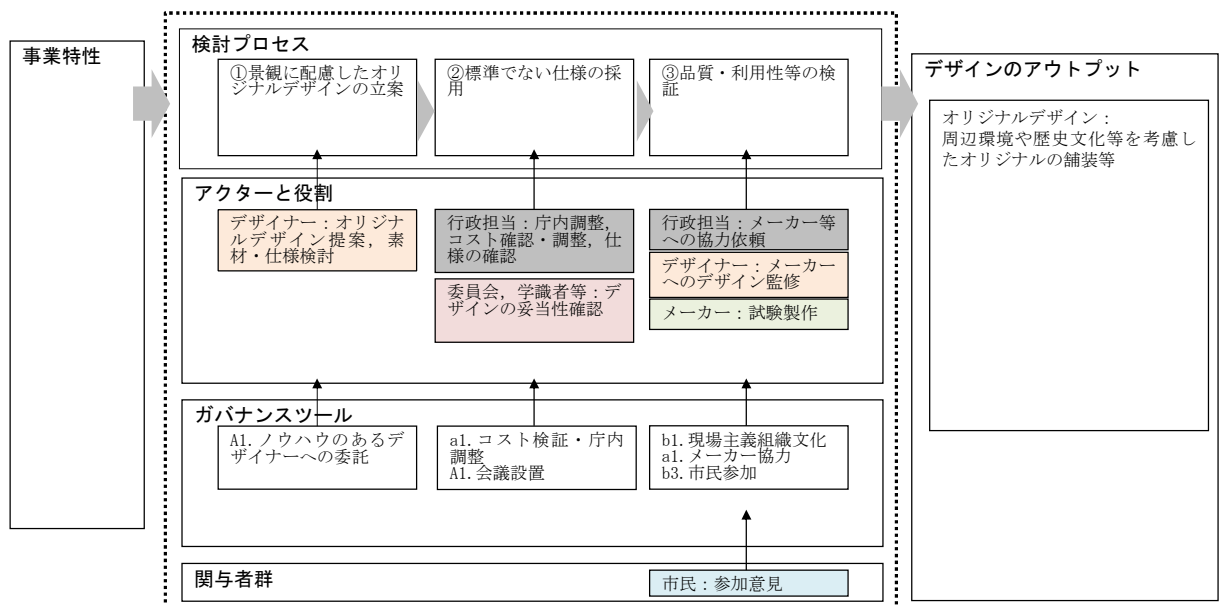


図 4-25 施設デザイン（舗装等）オリジナルデザインの実現構造

## (2) 施設デザイン（舗装等）の特徴的な実現構造の事例

施設デザイン（ストリートファニチャ）のうち、特徴的な実現構造を持った事例を以下に紹介する。

### ① 日向市駅：デザイナーとメーカー、市民によるオリジナルデザイン

日向市駅の舗装等のデザインは、歩道や広場にレンガを用い、車道の停車帯の一部に自然石を用いたオリジナルなデザインである。

提案したデザイナーは、舗装にレンガを用いることが多いが、それぞれの場所に応じて、産地や質感、色などを調整している。日向市駅では、三位一体事業により、先行して駅舎のデザインが決まっており、建築家による地元産杉材を用いた質の高いデザインとなっていた。これに対して、後追いで始まった駅前広場のデザインプロセスにおいては、駅舎の質の高いデザインに負けないような質の高いデザインが景観の学識経験者等からも求められていたため、特に車道のうち、歩行者に近い停車帯の一部を一般的なアスファルトでなく、力強さが感じられる自然石の小舗石舗装を提案している。自然石小舗石舗装に合わせて、歩道部の煉瓦との擦り付け縁石には自然石を提案したが、一般的な形状にないため、現場でいくつかのサンプルによりその性能を検証したうえで採用されている。検証には障害者団体のみでなく、市民も参加し、バリアフリーの性能を確認したうえで採用されている。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**道路構造令，バリアフリー法，複合事業（三位一体事業）

**実現構造：**

#### 検討プロセス①景観に配慮したオリジナルデザインの立案

先行する駅舎のデザインに負けない力強さが求められたため、景観の学識経験者に指名されたデザイナーがレンガと車道の一部自然石舗装を提案した。学識経験者は、デザイン会議等の委員会のほかに、個別打合せでデザイナーの提案を確認して、個別に助言することによって、デザインのブラッシュアップが図られている。

(A1 調達方式) オリジナルの舗装等のデザイン・開発のノウハウのあるデザイナーを指名し、再委託し、(b3 直接支援) デザイン会議の景観分野の学識者が個別に助言してデザインをブラッシュアップしている。

(A1 調達方式) これらのプロセスは、全体統括のデザイン会議や各分野の委員会（駅前広場検討委員会）に報告され、デザインについて議論されている。

#### 検討プロセス②標準でない仕様の採用

標準でない舗装の採用にあたり、庁内の調整やコスト確認等が行われたと推察される。デザインの妥当性については、駅前広場検討委員会・ワーキングで議論、確認されている。

(a1 組織規範) 標準でない舗装等の採用の手続きは明らかではないが、すでに三位一体事業として、地域の新しいシンボルとして中心市街地を活性化すること、地元産材や産業を活用することなどが議論されており、そこに行政も参加していることで庁内調整は円滑であったことが想像される。



(A1 調達方式) デザインの妥当性については、デザイナー等が立案したデザインがデザイン会議等に諮られ、議論されることによって担保されている。

### 検討プロセス③品質・利用性等の試作検証

採用される縁石は、自然石で産地等により性質が異なり、かつ仕上げによって滑りやすさなども異なる。特に利用上バリアフリーが担保されるかどうか、車いすはもちろん、一般の歩行者にも使い勝手が良いものである必要がある。そのため、原寸で自然石を切り出し試作を行い、現場に設置してその品質と利用性について、検証している。検証には、障害者団体のほか、駅前広場検討委員会ワーキングの委員や市民も参加し、意見交換を行い評価されている。

(a1 組織規範) デザイナーやメーカー、地元産業の協力を得て、製品の試作を行い、  
(b3 直接支援) 市民も参加して、そのプロセスを共有し、デザインへの意見を交換している。

### 関与者群

プロセス③の検証段階で、試作組み立てなどに立ち会い、意見を交換している。

### デザインのアウトプット

景観性・ライフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザイン：地場産木材を地場の技術で耐久性向上・製作加工し、地元産業が参加した維持管理方法を考慮したオリジナルデザインを実現している。

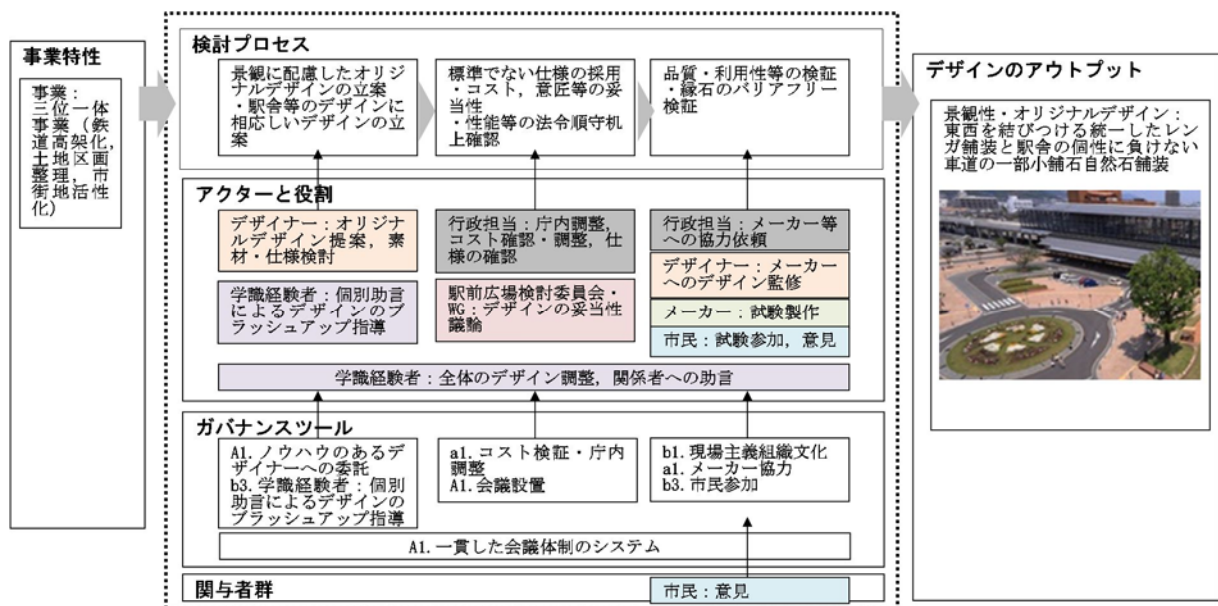


図 4-26 日向市駅の施設デザイン（舗装等）の実現構造

#### 4.4.3 施設デザイン（ストリートファニチャ）の質

施設デザイン（ストリートファニチャ）の質は、以下の通り、一般、景観性、地元技術、オリジナルデザインがみられた。

表 4-10 施設デザイン（ストリートファニチャ）の質

	事例	デザインの質	質の内容	写真
1	旭川駅前広場	景観性，オリジナルデザイン	シェルター，サインは既製品を駅舎のデザインと合わせてアレンジ．照明柱は駅舎とのデザインの類似性を意識したオリジナルデザイン	
2	日向市駅前広場	景観性，地元技術，オリジナルデザイン	駅舎庇と連続するシェルター，周辺街区と同じ照明柱，車止め，日向の色を選定したサイン，地元産杉材のベンチなどのオリジナルデザイン	
3	恵那駅前広場	景観性，地元技術，オリジナルデザイン	駅舎庇と連続するシェルター，周辺街区と同じ照明柱，車止め，日向の色を選定したサイン，地元産杉材のベンチなどのオリジナルデザイン	
4	東京駅丸の内駅前広場	景観性，オリジナル	シェルター，照明中，車止め等すべてのストリートファニチャが東京の顔として新しいオリジナルデザインが提案されている．	
5	女川駅前広場	景観性，オリジナル	駅広からシンボル空間まで同一のオリジナルデザインのストリートファニチャ．	
6	富山駅南口駅前広場	景観性，オリジナル	シェルターを中心にオリジナルデザイン．	
7	天理駅前広場	景観性，歴史文化，オリジナルデザイン	同心円のモチーフはベンチや展望台，庇などになるオリジナルデザイン．サイン，照明柱もオリジナルデザイン．	
8	南万騎が原駅前広場	一般的	一般的な既製品．	
9	姫路駅北駅前広場	景観性，オリジナル	地域の特徴的なデザインをモチーフとしたオリジナルデザイン．	

10	西鉄柳川駅西口駅前広場，東口駅前広場	景観性，オリジナル	シェルター，照明中，ベンチ等すべてオリジナルデザイン。	
11	狭山市駅前広場	景観性	一般的な既製品だが，統一されたサインデザイン等。	
12	北本駅西口駅前広場	オリジナルデザイン	高さの高いシェルターとそこに添架するサイン等はオリジナルデザイン。	
13	熊本駅西口駅前広場	オリジナルデザイン	シェルターを構成する屋根や壁などに照明やサインなどが統合されたオリジナルデザイン。	
14	日立駅駅前広場	景観性，オリジナルデザイン	シェルターは，メーカー既製品を駅舎デザインの方針に合わせてアレンジ。ベンチ，植栽用ポットは駅舎と同じコンセプトのオリジナルデザイン。	
15	博多駅博多口駅前広場	景観性	シェルター，ベンチは既製品。サインはオリジナルデザイン。	
16	長野駅善光寺口駅前広場地区	景観性，歴史文化，地域の技術，オリジナルデザイン	シェルターは地元産木材を表面材としたオリジナルデザイン。その他の照明柱，車止め，サイン等は既製品。	
17	福井駅西口駅前広場	景観性，オリジナル	シェルターは，冬の風や暗さに配慮し，隣接する再開発ビルと同じオリジナルデザイン。	
18	N 駅駅前広場	一般的	一般的な既製品。	
19	T 駅北口駅前広場	景観性	一般的な既製品を地域らしさにアレンジ。	

## (1) 施設デザイン（ストリートファニチャ）：4つのデザインの質と実現構造

ストリートファニチャの施設デザインでは、4つのデザインの質と実現構造がみられる。以下に共通してみられる実現構造を示す。

### 1) 施設デザイン（ストリートファニチャ）の実現構造

#### ① 一般：既製品を選択

ストリートファニチャをメーカーの既製品から選択しているデザインである。したがって検討プロセスもカタログから選択している。第2章で整理したデザインプロセスで言及した通り、仕様書には「最終整備案について、駅前広場内の配置計画・利用計画や植栽計画、舗装材の検討等を含めた景観設計を行い、駅前広場全体の整備イメージを検討する。検討にあたっては、景観計画案について3案の比較検討を行い、イメージ比較検討の結果、各案のイメージスケッチ3枚を作成する」とされている。また、行政の一般的な規範として3案比較を行い、その中から選択されていることが多い。比較項目は、コスト、景観性、維持管理性、構造的性等であるが、行政の慣習により、コストが最も安い案を選ぶ場合や中間を選ぶ場合などがある。

事例：N 駅

事業特性：道路構造令，建築基準法等

共通する実現構造：

検討プロセス

- ・メーカーカタログから候補を抽出し3案比較
- ・行政担当が行政の慣習規範に合わせて選定指示

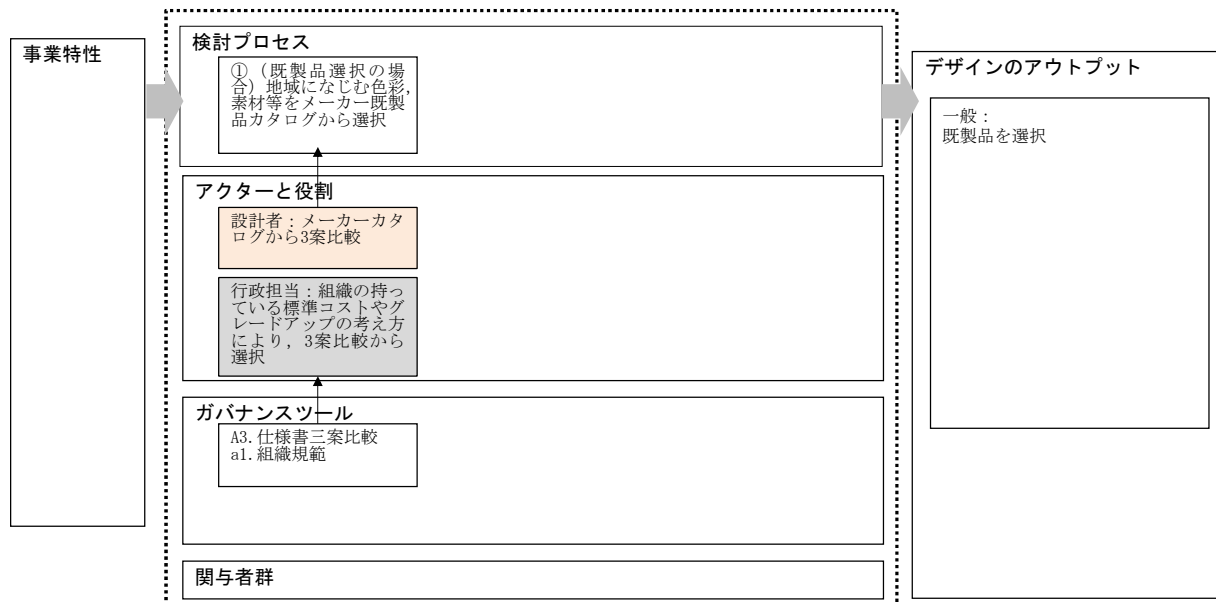


図 4-27 施設デザイン（ストリートファニチャ）一般の実現構造

#### ② 景観性：周辺環境に配慮した色彩，部材構成の既製品アレンジ

メーカーの既製品に駅前広場の周辺環境と調和する色彩や部材構成がない場合に、メーカーの協力を得て、既製品をベースに一部アレンジしたデザインである。塗装

色を解く昼食とする，柱を標準と異なる断面形状とする，木質素材を表面仕上げに貼る，などのアレンジがみられる。

事例：日立，長野，富山，狭山，博多，福井，T 駅，南万騎が原

事業特性：道路構造令，建築基準法，景観計画・ガイドライン等

共通する実現構造：

#### 検討プロセス

・メーカーの協力を得て，既製品をベースに色や仕上げ，構成部材を調整．行政担当がコスト増を事業費内や庁内追加等で調整し採用．

(a1 組織規範) コスト検証，庁内調整，メーカー協力

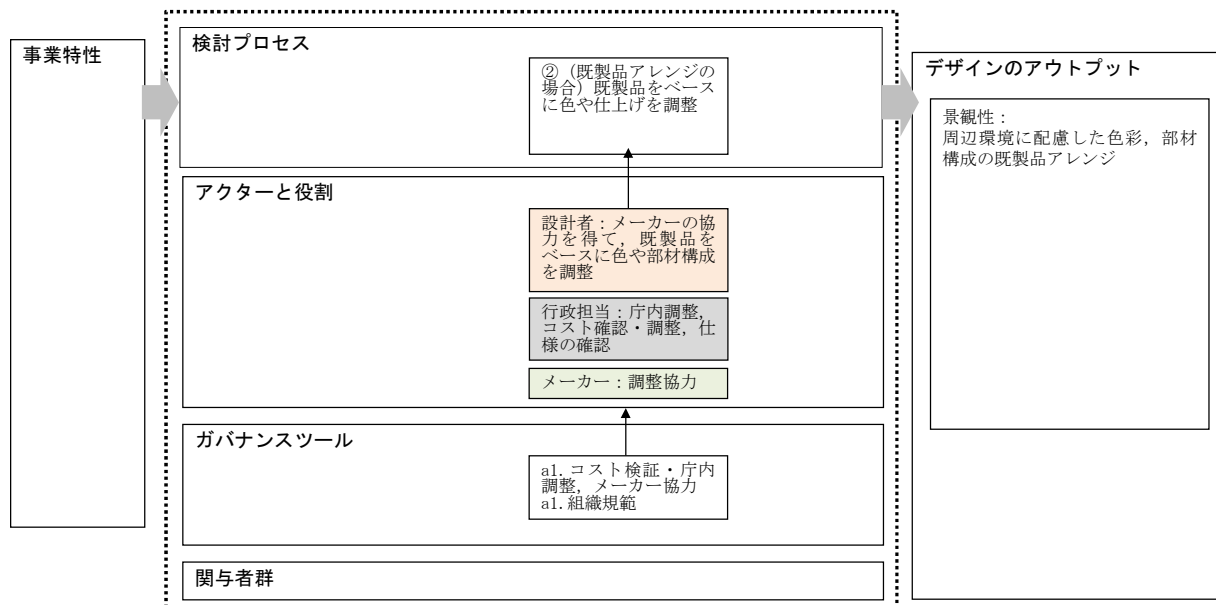


図 4-28 施設デザイン（ストリートファニチャ）景観性の実現構造

### ③ 景観性，オリジナル：地域の顔となるオリジナルデザイン

地域の景観等に配慮し，オリジナルデザインを実現した事例．オリジナルデザインを立案できるデザイナーの採用とその妥当性をデザイン的な観点から評価できる学識者の参画が必要である．デザインの採用後はその実現のために設計計算を行い，法令等への適合の確認，及び現場での実現のための監理・監修等のプロセスによる．

事例：熊本，天理，北本，恵那

事業特性：道路構造令，建築基準法等

共通する実現構造：

#### 検討プロセス①デザイン立案

選定・指名デザイナーが地域のヴィジョン等をもとに地域の顔となるオリジナルデザイン立案．学識等によるデザイン評価．

(A1 調達方式) ノウハウのあるデザイナーへの委託

(b3 調整会議) 学識経験者等：デザインの評価，助言

#### 検討プロセス②設計計算

デザイナー・建築家または建設コンサルが法令に則った設計計算を行い図面化

(a1 組織規範) コスト検証・庁内調整

(A3 仕様書等) 設計計算

### 検討プロセス③現場監理

現場でデザイン監理・監修により、オリジナルデザインを実現

(A1 調達方式) 現場監理

(b1 組織文化) 施工者協力

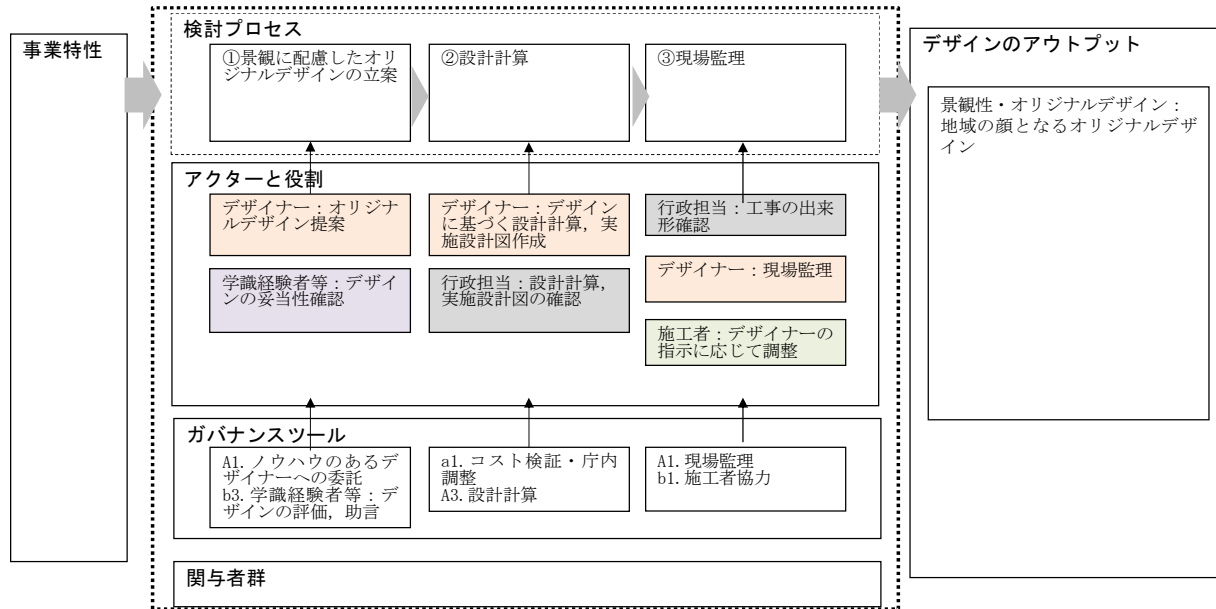


図 4-29 施設デザイン (ストリートファニチャ) 景観性・オリジナルデザインの実現構造

### ④ 景観性, LCC, 地元技術, オリジナル: 地元産材, 技術等を用いたオリジナルデザイン

事例: 日向, 旭川, 東京, 女川, 姫路, 柳川

事業特性: 道路構造令, 建築基準法等

共通する実現構造:

#### 検討プロセス①デザイン立案

選定・指名デザイナーが地域のビジョン等をもとに地域の顔となるオリジナルデザイン立案。学識等によるデザイン評価。

(A1 調達方式) ノウハウのあるデザイナーへの委託

(b3 調整会議) 学識経験者等: デザインの評価, 助言

#### 検討プロセス②設計計算

デザイナー・建築家または建設コンサルが法令に則った設計計算を行い図面化

(a1 組織規範) コスト検証・庁内調整

(A3 仕様書等) 設計計算

#### 検討プロセス③試作検証

メーカーや地元産業の協力を得て, 製品の試作等により, その品質・利用率等の検証が行われる。市民も参加し意見交換する。

(b1 組織文化) 試作協力依頼, メーカー協力

(b3 直接支援) 市民参加

#### 検討プロセス④現場監理

現場でデザイン監理・監修により，オリジナルデザインを実現

(A1 調達方式) 現場監理

(b1 組織文化) 施工者協力

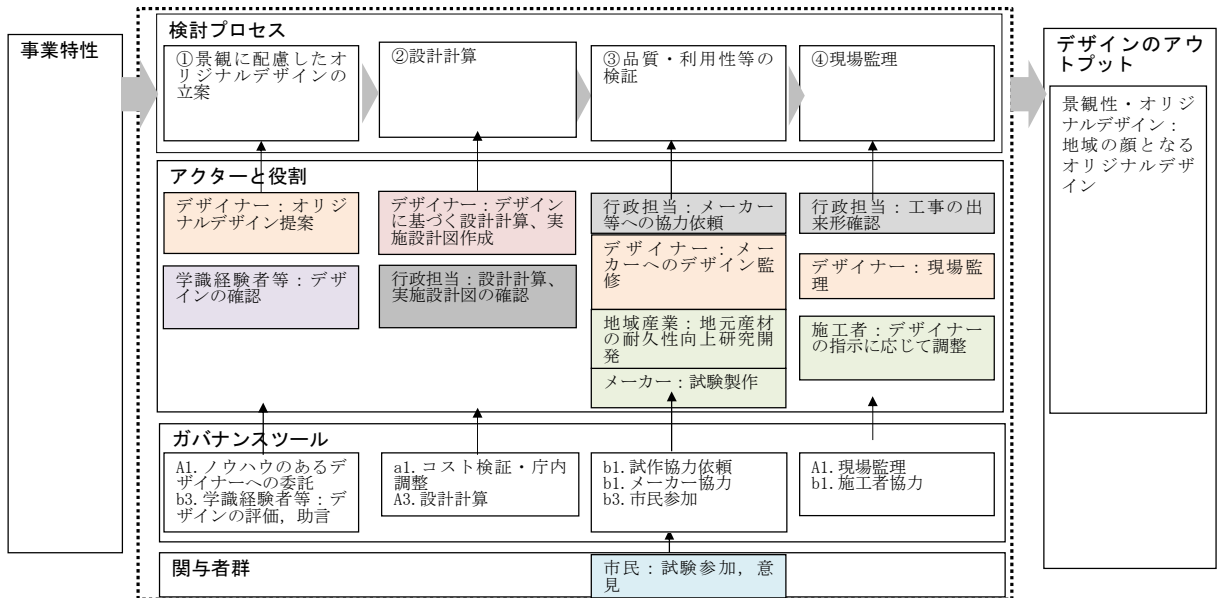


図 4-30 施設デザイン（ストリートファニチャ）景観性・ラフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザインの実現構造

## (2) 施設デザイン（ストリートファニチャ）の特徴的な実現構造の事例

施設デザイン（ストリートファニチャ）のうち、特徴的な実現構造を持った事例を以下に紹介する。

### ① 日向市駅：デザイナーと地元産業、メーカーによるLCCを考慮したオリジナルデザイン

日向市駅のストリートファニチャのうち、照明柱、車止め、ベンチについては、地元産の杉材を用いた地域らしい景観性を持ったデザインとなっている。

一般的に杉材は比較的柔らかい木材であり、耐久性が低い。しかし、日向市の例では、その弱い素材を耐久性を高める研究開発や維持管理段階で老朽化した場合に地元の建設産業団体がかんなどで削ったり、交換したりする方法を検討し、日向らしいデザインを実現している。

これらを機能させるために、日向市駅では、ノウハウのあるデザイナーへの委託と学識経験者への個別助言によるデザインのブラッシュアップを適用している。

また、メーカーの協力を得て試験施工をする段階では、市民も参加して、そのデザインの評価を行っている。要所で市民が参加し、市民目線でのデザインや事業進捗について意見を表明している。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**道路構造令，建築基準法等

**実現構造：**

#### 検討プロセス①景観に配慮したオリジナルデザインの立案

(A1 調達方式) オリジナルのストリートファニチャのデザイン・開発のノウハウのあるデザイナーを指名し、再委託し、(b3 直接支援) デザイン会議の景観分野の学識者が個別に助言してデザインをブラッシュアップしている。さらにデザイナーとの協働実績のあるメーカーが製作方法の検討に協力するとともに、地元の建設業者が開発に参画し、地元産杉材の採用に向けて、耐久性の向上のための技術開発を行うとともに、定期的にメンテナンスや更新を必要とすることからその担い手としても手を挙げることによって、維持管理性を担保している。

(A1 調達方式) これらのプロセスは、全体統括のデザイン会議や各分野の委員会（駅前広場検討委員会）に報告され、デザインについて議論されている。

#### 検討プロセス②標準でない仕様の採用

(a1 組織規範) 標準でないストリートファニチャの採用の手続きは明らかではないが、すでに三位一体事業として、地域の新しいシンボルとして中心市街地を活性化すること、地元産材や産業を活用することなどが議論されており、そこに行政も参加していることで庁内調整は円滑であったことが想像される。(A1 調達方式) デザインの妥当性については、デザイナー等が立案したデザインがデザイン会議等に諮られ、議論されることによって担保されている。

#### 検討プロセス③品質・利用性等の試作検証

(a1 組織規範) デザイナーやメーカー、地元産業の協力を得て、製品の試作を行い、(b3 直接支援) 市民も参加して、そのプロセスを共有し、デザインへの意見を交換



している。

### 関与者群

プロセス③の検証段階で、試作組み立てなどに立ち会い、意見を交換している。

### デザインのアウトプット

景観性・ライフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザイン：地場産木材を地場の技術で耐久性向上・製作加工し、地元産業が参加した維持管理方法を考慮したオリジナルデザインを実現

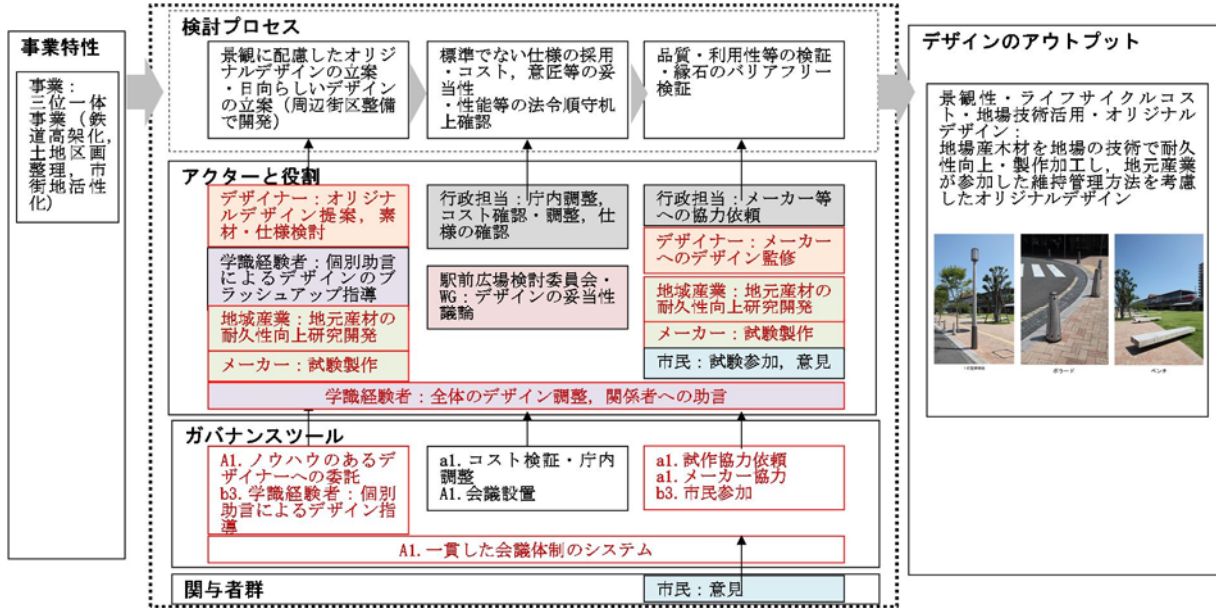


図 4-31 日向市駅施設デザイン（ストリートファニチャ）の実現構造

## ② 恵那駅：建築家と地元産業による LCC を考慮したオリジナルシェルター

恵那駅は、駅前広場のうち、バスシェルターのみが地元産木材により特徴的なオリジナルデザインが実現された例である。バスシェルター以外は、バリアフリーを重視し、デザインはメーカーの既製品等により整備されたものである。

駅前広場にあたっては、恵那市長から恵那駅前広場利用検討委員会委員長あてにバリアフリーの改善を諮問している。この諮問を受けて、委員会はバリアフリーの観点から改善計画を立案し報告書としてまとめている。委員会には景観の専門家は、入っていなかった。詳細設計がまとまり工事発注の段階で、別件の景観まちづくりのアドバイザーとして定期的に市を訪れていた景観の学識者に、行政担当がデザインの相談を行い、景観的な観点、市民目線から、動線や休憩の施設、擁壁の高さ、キャノピーの雨だれ、ベンチの設置、ライトアップなどいくつかの改善のアドバイスをもらい、その際に他にはないシンボルがあったほうが良いのではないかと、木曾は森林で囲まれており、駅を出てすぐに木のシンボルがあるのは良い、バスシェルターは地元木材を使った木造のものが良いのではないかと、このアドバイスをもらっている。

このアドバイスを受けて、行政担当は施工段階であったことから、全体の配置等は計画を踏襲しつつ、細部について修正設計を行っている。バスシェルターについては、地元の建築施工会社の紹介で建築家にデザイン、設計を依頼し、前述の学識者のアドバイスももらいながら、地元木材を使った舟形の特徴的なオリジナルデザインの提案をうけた。その後設計監理業務を随意契約し、実現されている。オリジナルデザインを採用するにあたり、メーカーの既製品との比較を行っているが、メーカーの既製品はその時々でメーカーの都合によりラインアップされており、将来同じものに取り換えようとしてもないことがある、また維持管理のメンテナンスもそのメーカーしかできないことも多い、との指摘に対して、地元木材を活用したものであれば、地元大工の技術で建設が可能であり、メンテナンスも地元の建設業者であればだれでも可能であるため、ある意味でメンテナンスフリーであるといえる、としている。実際に建設コストはメーカー既製品と遜色ない程度であった。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**道路構造令，建築基準法等，駅前広場利用検討委員会で計画策定済み，詳細設計済み・工事発注段階

**実現構造：**

### 検討プロセス①景観に配慮したオリジナルデザインの立案

(A1 調達方式) 地元建設会社の紹介を受け、オリジナルの木製のデザインのできる建築家にデザインを依頼、設計監理を随意契約で委託している。

(b3 直接支援) 景観の学識経験者がアドバイスし、施工段階で可能な修正を行政担当が行っている。

(b2 情報・相互参照) 学識経験者の地元産木材、地元の木の文化を利用しては、このアドバイスを受け、地元で建設できる木製のシェルターをオリジナルデザインとして提案した。

### 検討プロセス②標準でない仕様の採用

(a1 組織規範) 標準でないシェルターであるが、ライフサイクル全体で考えたとき

に維持管理段階での既製品の対応の範囲と地元技術を用いて対応できる範囲の比較や、初期コストの比較などで木造の優位性を明らかにして採用されている。

(b3 直接支援) 学識者も地元技術の活用の優位性を助言している。

### 検討プロセス③品質・利用性等の試作検証

(A1 調達方式) 建築家に設計監理を随意契約で委託し、建築基準法等必要な法令に則った設計を行っている。

(a1 組織規範) 地元建設会社が建築家の設計に沿うように地元の技術を活用し、協力して建設されている。

### 関与者群

プロセス①のオリジナルデザインの立案段階で、地元建設会社が建築家を行政担当に紹介している。

### デザインのアウトプット

景観性・ライフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザイン：地場産木材を用い地場の技術で建設でき、維持管理できるオリジナルデザインの木造シェルターを実現

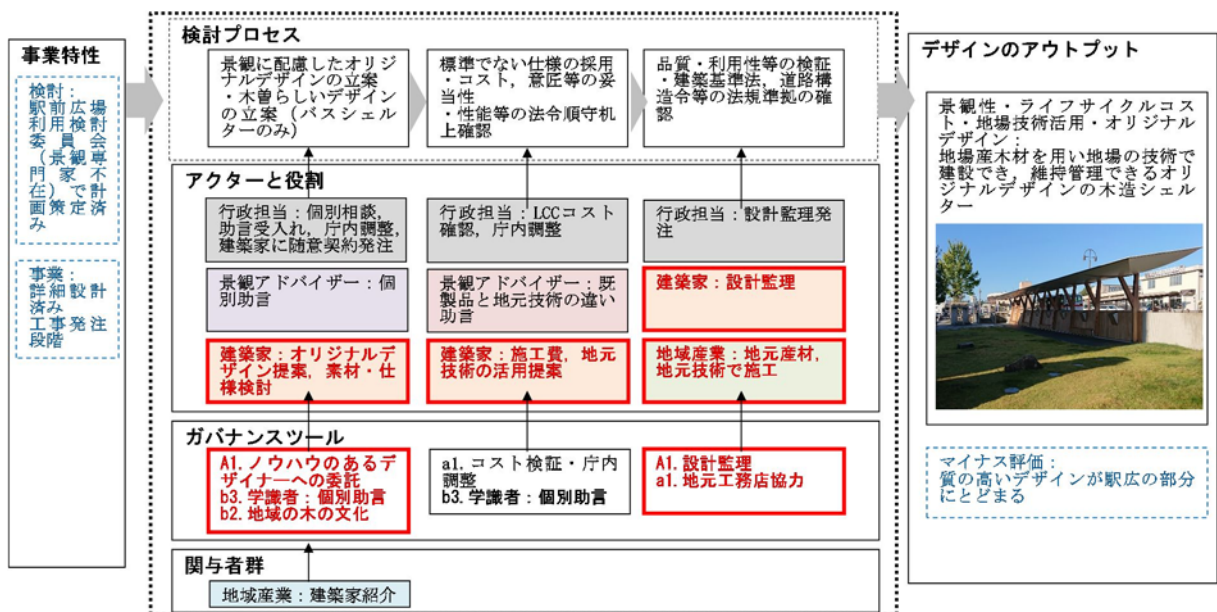


図 4-32 恵那駅 施設デザイン (ストリートファニチャ) の実現構造

#### 4.4.4 施設デザイン（緑地等）のデザインの質と実現構造

施設デザイン（緑地等）の質は、以下の通り、一般、景観性、気候風土、歴史文化性、愛着・誇り、地域価値がみられた。

表 4-11 施設デザイン（緑地等）の質

	事例	デザインの質	質の内容	写真
1	旭川駅前広場	景観性，地域価値	構想段階で描かれたランドスケープのイメージをもとに、町側の駅前広場はイベント等々の開催に配慮され高木をグリッド上に配置，川側は川まで緩やかな緑地につながるデザイン。	
2	日向市駅前広場	景観性，歴文化性，維持管理，愛着・誇り，地域価値	地域のシンボルである史跡（西都原）をモチーフとした緩やかな起伏を持つ交流広場，地元の樹種をメインとした高木，車いすの方も参加できる舗装された園路デザインが採用されている。	
3	恵那駅前広場	一般的デザイン	既存のモニュメント周辺の緑地がそのまま存知されている。	
4	東京駅丸の内駅前広場	景観性，オリジナル	皇居までの軸線を強調高木の列植，広場にシンメトリーに配置された芝生広場で構成されている。	
5	女川駅前広場	景観性，オリジナル	駅広からシンボル空間まで要所に緑地と列植した高木が配され，駅前には車両も侵入できる仕様の芝生広場を採用。	
6	富山駅南口駅前広場	景観性	軌道の両側の緑地帯を配置，駅前に桜を14本配置している。	
7	天理駅前広場	景観性	同心円状のモチーフ状に緑地，高木等が配置されている。	
8	南万騎が原駅前広場	気候風土	既存の高木を現地に存置し，それを前提に全体計画を作成。	
9	姫路駅北駅前広場	景観性，オリジナル	大手町通へと続く軸線状に高木が配され，駅前のイベント広場の芝生，サンクンガーデンの中木・低木等の場所に応じた多様な植栽がデザインされている。	

10	西鉄柳川駅西口駅前広場, 東口駅前広場	景観性, オリジナル	イベントでの利用などを考慮し, 高木や緑地が配置されている。	
11	狭山市駅前広場	景観性・気候風土, 愛着と誇り	河岸段丘の地形や既存樹木を活かした緑地デザイン。四季を感じる樹木や花。	
12	北本駅西口駅前広場	気候風土	市民とのワークショップでだされた地域の原風景を地域の樹種で駅前の顔としてデザイン。	
13	熊本駅西口駅前広場	地域の気候風土	地域の気候風土, 維持管理を考慮して自然樹形に近い樹種で, 雑木林の雰囲気や四季の変化などを楽しめる植栽デザイン。	
14	日立駅駅前広場	気候風土, 維持管理	海岸口は人工地盤場であることを考慮しプランター(植栽ポッド)をデザインしオリーブを植栽。中央口改築は既存の緑地を踏襲。	
15	博多駅博多口駅前広場	景観性	動線に配慮し, 緑陰広場空間を樹種や感覚を複数検討し配置。	
16	長野駅善光寺口駅前広場地区	地域性, 気候風土	ゾーンごとに限られたスペースを活用し, 四季の感じられる高木をコーナーなどの隙間に配置。	
17	福井駅西口駅前広場	気候風土	福井の自然を模した緑地帯を設け, 地形, 低木, 高木でデザイン。	
18	N駅駅前広場	一般的デザイン	中央分離帯の限られた範囲に芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている。	
19	T駅北口駅前広場	一般的デザイン	コーナーに最小限の高木を配置。	

## (1) 施設デザイン（緑地等）：3つのデザインの質と実現構造

緑地等の施設デザインでは、3つのデザインの質と実現構造がみられる。以下に共通してみられる実現構造を示す。

### ① 一般：最小限の緑地

最小限の緑地に、維持管理の慣習内で可能な緑地等のデザインである。駅前広場で交通空間を確保した残地の形状等を確認し、これまでの維持管理方法に応じた樹種等を選択する。

事例：N 駅, T 駅, 恵那, 天理

事業特性：維持管理

共通する実現構造：

#### 検討プロセス①

行政担当が交通空間等必要な空間を計画した残りの残地範囲を確認。

(a1 組織規範) 在来種採用

#### 検討プロセス②

行政担当が維持管理の現状を確認し、これまでの慣習内で可能な緑地計画を決定。

(a1 組織規範) 維持管理の慣習

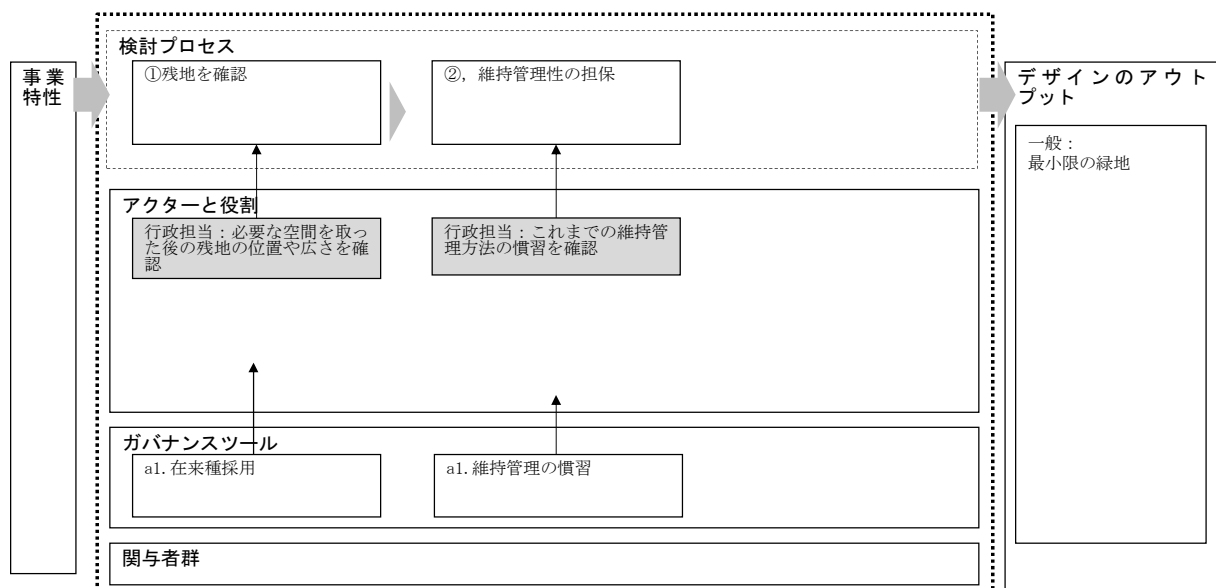


図 4-33 施設デザイン（緑地等）一般の実現構造

### ② 気候風土：地域の気候風土に根差した緑地

地域の気候風土に根差した緑地計画とし、維持管理性の担保や現場監理を実施した例。気候風土に適した樹種等を選択し、その生育環境を整え、維持管理性を担保する。

事例：日立, 南万騎が原

事業特性：維持管理, 生育環境

共通する実現構造：

### 検討プロセス①

既存樹の存置，地域の在来種採用を基本に検討．

(a1 組織規範) 在来種採用

### 検討プロセス②

地元造園会社等の協力を得て，生育実験等を行い，維持管理性を担保し採用．

(a1 組織規範) 維持管理方法

### 検討プロセス③

現場で状況に合わせて地形の調整や樹木の向き等を調整

(A1 調達方式) 施工デザイン監理の発注

(b1 組織文化) 現場での調整

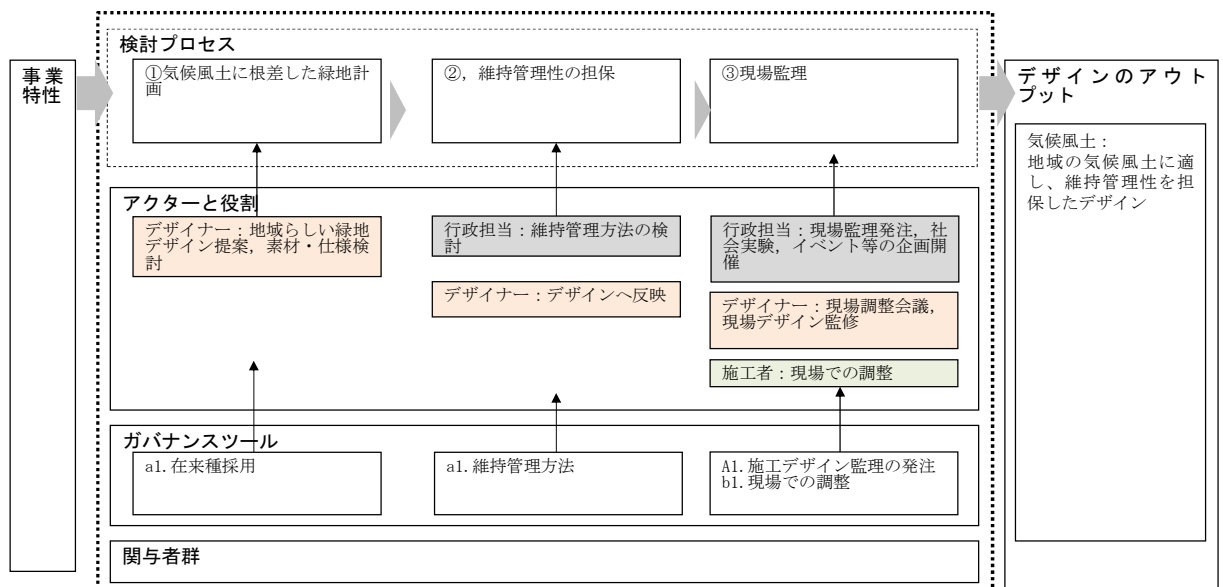


図 4-34 施設デザイン（緑地等）気候風土の実現構造

### ③ 気候風土，維持管理，愛着と誇りを生む景観性，オリジナル：地域の顔となるオリジナルデザイン

地域の気候風土に適し，維持管理を考慮した，市民の愛着と誇りを生む経過性を有するオリジナルデザイン．気候風土に適した樹種等を選択するとともに，市民が参加するワークショップ等により，市民の意見を取り込み，維持管理段階での協力関係を構築する．

事例：日向，北本，旭川，東京，女川，姫路，長野，富山，博多，福井，熊本，狭山，柳川

事業特性：維持管理，利活用形態

共通する実現構造：

#### 検討プロセス①

既存樹の存置，地域の在来種採用を基本に検討し，気候風土に根差した緑地計画を立案する．

(a1 組織文化) 樹木保存，在来種採用

(b3 直接支援) 個別助言

## 検討プロセス②

市民が参加した原風景を探る WS やイベント社会実験，市民によるデザインの検証により，市民意向を反映する．また，市民や専門家や地元造園会社の協力を得て，維持管理方法の検討や，樹種等の採用を行う．

(b3 直接支援) 市民参加の仕組み

(A1 調達方法) 会議設置

## 検討プロセス③

現場で状況に合わせて地形の調整や樹木の向き等を調整するとともに，現地での施工の市民との共有や社会実験，プレオープン等により，緑地の利活用の促進を図る．

(A1 調達方法) 施工デザイン監理の発注

(b1 組織文化) 現場での調整

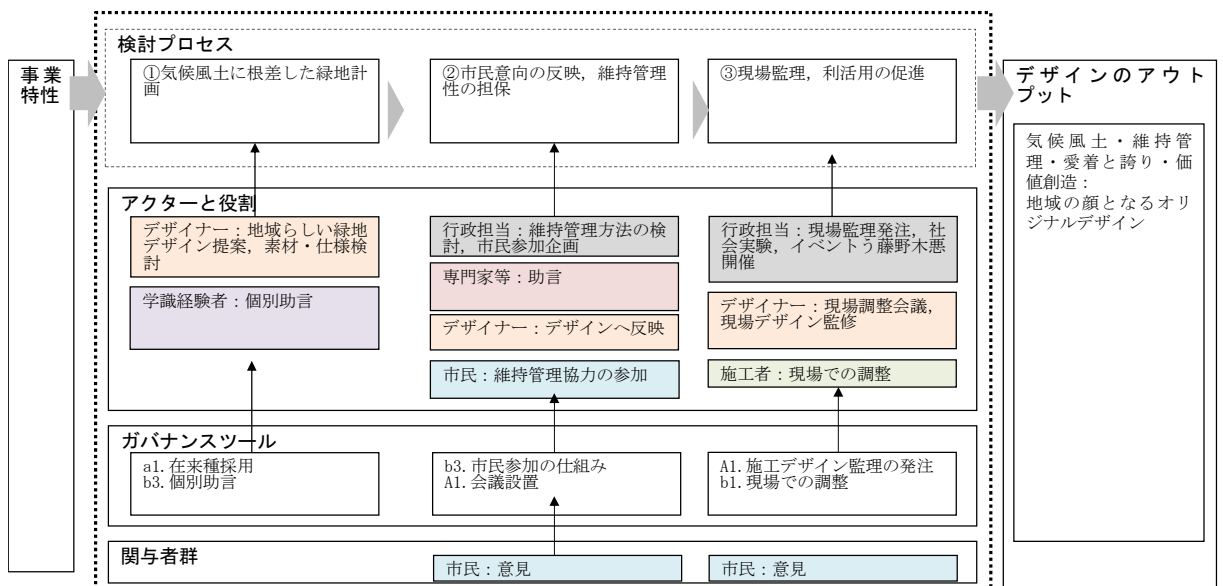


図 4-35 施設デザイン（緑地等）気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創造の実現構造



## (2) 施設デザイン（緑地等）：特徴的な実現構造の事例

緑地等の施設デザインのうち、特徴的な実現構造を持った事例を以下に紹介する。

### 1) 日向市駅：市民が参加したイベントや意見交換により地域価値を創造

日向市駅では、土地区画整理事業の土地利用の検討段階で、駅前広場に芝生の交流広場が設置されている。計画段階でも建設コンサルタントがいくつかのデザインを検討しているが、設計段階に学識経験者から指名されたデザイナーが参画し、景観の学識経験者との個別打合せにおける助言を受けながらデザインが立案されている。具体的な助言の一つに宮崎の代表的な歴史資源である西都原古墳のようなおおらかなランドスケープの造形にしてはどうかとの助言がある。これを受けてデザイナーが最終案の緩やかに起伏する芝生広場を提案している。

また、シンポジウムやデザイン会議等、事業の各家庭で市民にそのプロセスを公開してきたことから、この芝生広場においてもこれまでなかった駅前の芝生広場のため、その使い方から市民とともに検討してきた経緯がある。市民との対話が多くなる中で、市民が維持管理段階における協力を申し出ることにより、供用後の課題の一つである維持管理性が担保されている。

設計段階では、駅前広場検討委員会やワーキングで、現場において議論がされ、市民も参加して具体的なデザインに意見が反映されている。

施工時においては、デザイナーが現場監理を受託し、現場で緑地の造成形状や樹木の位置などを調整している。さらに駅前広場に隣接する民家が移転することになり、そこから既存の地域風土に根差した樹木を譲り受け、搬入設置している。

以上をまとめた実現構造は以下のとおりである。

**事業特性：**維持管理、複合事業（三位一体事業）

**実現構造：**

#### 検討プロセス①気候風土に根差した緑地計画

デザイナーが、学識経験者の個別助言を受け、地域らしい緑地デザインを複数案検討し、提案している。

(A1 調達方式) 学識経験者が指名したデザイナーがデザイン調整業務から再委託を請けデザインを検討している。

(b3 直接支援) 学識経験者が会議とは別に個別打合せで、デザインのブラッシュアップのための個別助言を行っている。

#### 検討プロセス②維持管理性の担保

芝生等の緑地の維持管理方法を行政担当が管理担当などと検討するが、市民から維持管理支援の申し出あり、行政の負担が軽減され、採用できている。

(b3 直接支援) 住民参加により、供用後の維持管理の一部を市民が担うことの申し出があり、緑地の維持管理の一部が担保されている。

#### 検討プロセス③市民意向の反映

行政担当が市民参加を企画し、駅前広場検討委員会・ワーキング等が現場でデザ

インについて議論する。デザイナーはその意見をデザインに反映している。

(b3 直接支援) 市民参加の仕組みを導入している。

(A1 調達方式) 市民が参加できる広場検討委員会，ワーキング等を設置している。

#### 検討プロセス④利活用の促進

デザイナーが現場監理業務を受託し，現場の調整会議に出席し，施工者カノンの調整を行ったり，現場に施工された出来形を確認し，形状の調整などを行っている。施工者は，施工調整会議に出席し，デザイナーの指示を受けて，現場の施工，調整を行っている。また，施工段階で広場に隣接する民家が移転することになり，庭木を広場側で受け入れている。

(A1 調達方式) デザイナーが施工デザイン監理を受託している。

(a1 組織規範) 隣接する市民から高木や景石等の素材の提供を受けている。

#### 関与者群

プロセス①②では市民が参加し，維持管理方法の仕組みを担保したり，緑地デザインに意見を提供している。

#### デザインのアウトプット

気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創造：

地域の気候風土に根差した樹種の採用・移植，市民参加による維持管理方法，市民参加によるデザインの議論，イベント開催による地域価値の創造などを実現する緑地デザイン

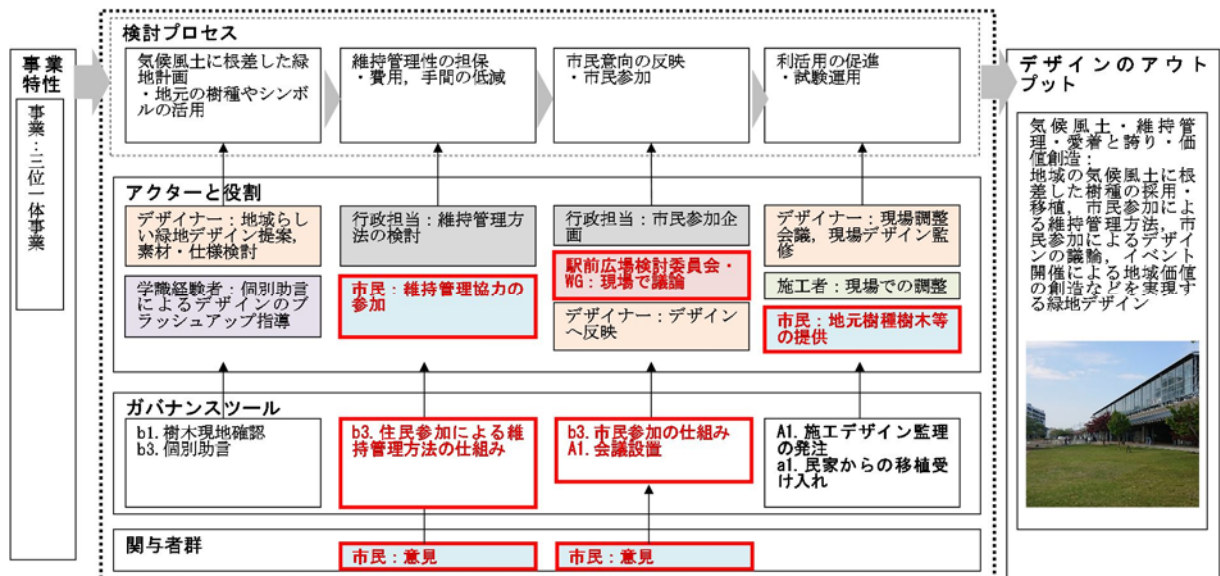


図 4-36 日向市駅緑地等の実現構造

## 4.5 結論

本章では、第3章で提案したガバナンスの観点からの事例分析手法を用いて、質の高い社会基盤デザインの19事例を対象に分析を行った。

4.2では、一般的な事例を対象に、収集した情報から、デザインプロセスを整理し、アクターと役割を特定したうえで、アウトプットとしてのデザインの質とそれを実現した構造を図に整理した。一般的な事例では、検討プロセスが少なく、アクターも主に行政担当と建設コンサルタントの2者により検討と指示が行われていることがわかった。また、用いられているガバナンスツールは、公式な事業推進ツールの仕様書、非公式な事業推進ツールの組織規範と公式なデザイン評価の法令・基準が主であり、事業推進と評価を公式なツールや組織の慣習等の規範をよりどころにしていることがわかった。

4.3では、質の高い事例を対象に、4.2と同様の手順で分析を行った。分析の結果を一般的な事例と比較すると、検討プロセスの段階が多く、アクターがデザイナーや学識経験者、市民、メーカーなど多様になっており、検討プロセスの内容に応じてアクターの役割と種類、および用いられるガバナンスツールが多様であることがわかった。ガバナンスツールは、公式な事業推進ツールのデザイナー指名や継続した学識者等のかかわりを担保する委員会設置、及び現場に実現するための現場監理の発注委託等に用いられ、また非公式な事業推進ツールとして、現場での試作検証やメーカーへの協力等で非公式な事業推進ツールが用いられている。デザインの評価は非公式な評価ツールとして、学識経験者や市民参加によりデザインの評価が行われていることがわかった。

4.4では、全体デザイン、各施設デザインごとに、デザインの質とそれらに共通する実現構造を見出した。

全体デザインでは、調和、統合性、一体性といったデザインの質がみられた。調和では、都市構造との関係、詳細デザインのプロセスを公式な事業推進ツールの委員会設置やデザイナー指名と非公式なデザイン評価ツールの学識経験者の助言で用いて実現し、統合性では、地域らしさのモチーフの立案とそのデザインの実現のプロセスを公式な事業推進ツールの調達方式を用いてデザイナーの指名とデザイン監修業務委託により実現している。また多くの質の高いデザインに共通してみられる一体性の質は、行政担当の要素ごとの統一的なデザインの採用と発注を公式非公式の事業推進ツールで実現されているものである。特徴的な事例として挙げた日向市では、特にJRが設計施工する高架橋のスパン割について、標準10mのところ学識経験者や建築構造からの比較提案を受けて、20mに拡大を決定し、東西軸の強調を実現した例がみられた。また、設計競技やデザインプロポを実施した二つの駅では、ガバナンスの違いによりデザインの質が異なった例も見られた。天理では、地域が要項作成や審査に関わり、地域の歴史文化をモチーフとした古墳状の特徴的なデザインを実現する一方、熊本では、事業者と審査が別で、選定後の助言やチェックが行われていないこともあり工事費の増大やバリアフリーの観点での手戻りがみられた。

施設デザインのうち舗装等では、景観性とオリジナルデザインのデザインの質がみられ、それぞれ公式な事業推進ツールの仕様書と非公式な事業推進ツールの行政の規範により既製品の選択とアレンジによって景観性の質を実現するものと、公式な事業推進ツールのうち調達方法によりノウハウのあるデザイナーに委託し庁内の組織規範を非公式のデザイン

評価ツールの組織文化や市民の直接意見を取り入れてオリジナルデザインを実現する構造を見出した。

また、施設デザインのうちストリートファニチャでは、舗装等で見られた既製品の選択とアレンジと同様の実現構造と、オリジナルデザインでは法令に適合するための公式な事業推進ツールの仕様書や調達方式を用いて設計計算や現場監理を発注して実現している構造を見出した。これに加えて特徴的な事例として挙げた恵那では、アドバイザーからデザイン評価ツールによる直接支援を受け、地元産材と地元の大工技術を用いて、ライフサイクルコストでメーカー既製品より有利なことを示し、地域の協力も得て、駅前のシンボルとなる木造のバスキャノピーを実現している例を見た。

さらに、施設デザインのうち緑地等では、必要な機能を確保した後に残る残地にこれまでの維持管理の慣習を適用した一般的なデザインの質と、非公式の事業推進ツールの組織規範を用いて地域の気候風土に適した在来種等の採用と非公式のデザイン評価ツールの直接支援を用いた学識者や市民の評価・支持を受けた維持管理性の担保により気候風土に適した緑地デザインの実現を見出した。これに加えて、特徴的な事例として挙げた日向では、非公式デザイン評価ツールの市民参加の仕組みにより、愛着と誇りの醸成や地域の価値の創出に結びつける構造も見られた。

## 第5章 質の高い社会基盤デザインを 実現するためのメカニズム

## 5.1 本章の目的

本章は、第4章の事例分析で見られた質の高いデザインを実現した構造を、それぞれの検討プロセスが乗り越えた課題とそこに機能したアクターのあり方やガバナンスツールの内容を考察し、質の高いデザインを実現するメカニズムを明らかにする。

そのため、第4章で抽出した実現構造を各デザインの質ごとに関係性を整理したうえでモデル化し、そのモデルの検討プロセスに対して課題を抽出し、課題に対するアクターの行動と機能したガバナンスツールの内容を考察する。

また、そのメカニズムを第2章で整理したデザインプロセスに当てはめ、目指す質の高いデザインに応じて、どのデザインプロセスでどういった検討プロセスとそれを動かすガバナンスツールが重要かを示す。

さらに、事例分析で見られたガバナンスツールについて、事業推進／デザイン評価と公式／非公式のツールとして、事例で見られた内容を紹介しながら、質の高いデザインを実現するための考え方を提示する。

## 5.2 デザインの質を高めるためのメカニズム

本節では、第4章の事例分析でみられた質の高いデザインを実現した構造を、それぞれの検討プロセスが乗り越えた課題とそこに機能したアクターのあり方やガバナンスツールの内容を考察し、質の高いデザインを実現するメカニズムを明らかにする。

そのため、第4章で抽出した実現構造を各デザインの質ごとに関係性を整理したうえでモデル化し、そのモデルの検討プロセスに対して課題を抽出し、そこへのアクターとガバナンスツールの内容を考察する。

### 5.2.1 全体デザインの質を高めるメカニズム

全体デザインの質向上は、複合か単独かの事業特性により、調和と統合性のどちらかを目指すとともに、デザイン要素を統一することで一体性を持つデザインの実現することができると考えられる。

#### (1) デザインの質に応じた実現構造の関係性

前章において、全体デザインの質は、調和、統合性、一体性がみられ、それぞれの質の内容と実現構造は以下のようにまとめられた。

#### 1) 実現構造の比較

##### ① 調和：周辺都市構造・環境との眺望・動線・利用等の軸・連続性の形成

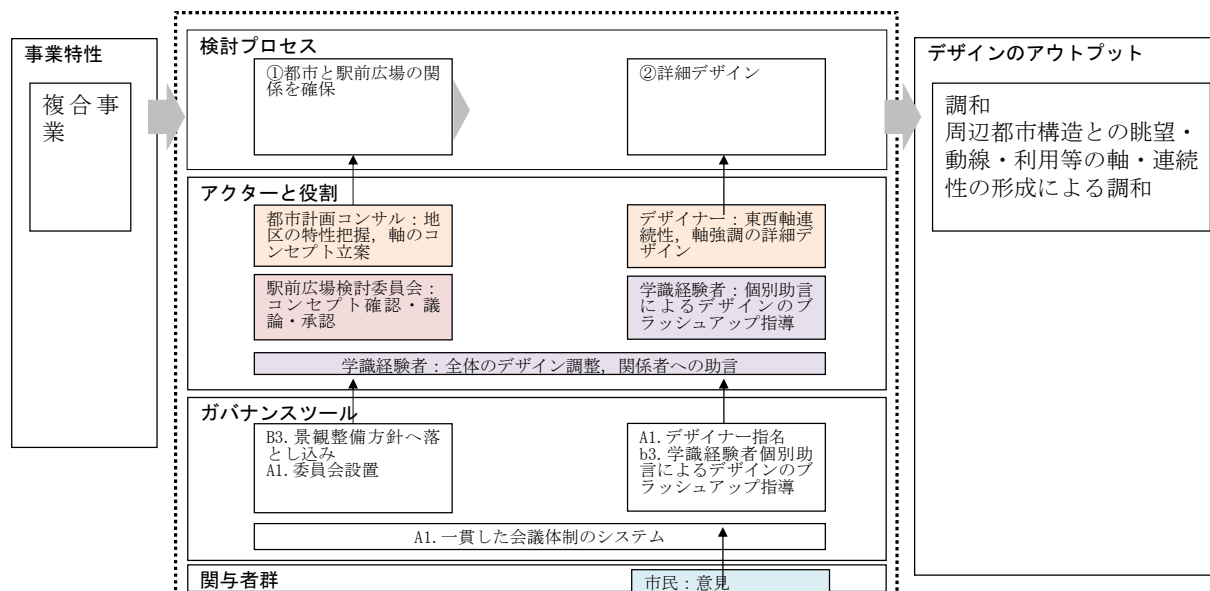


図 5-1 全体デザイン 調和の実現構造

② 統合性：一のデザイン要素による駅前広場全体の統合性

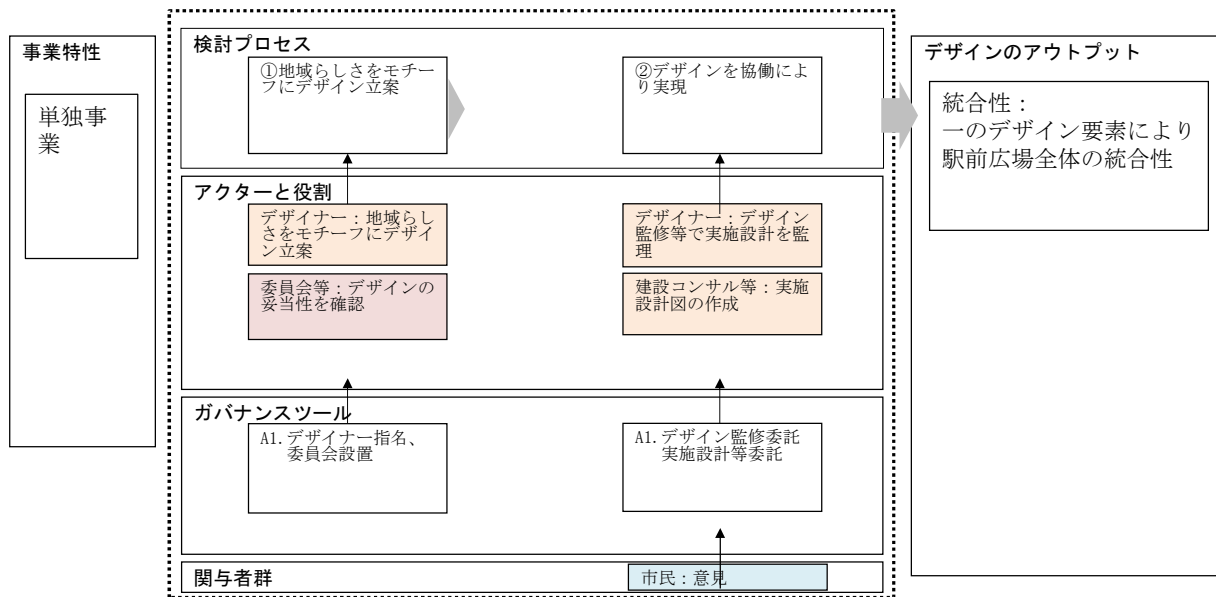


図 5-2 全体デザイン 統合性の実現構造

③ 一体性：舗装，ストリートファニチャ等のデザイン要素の統一による一体性

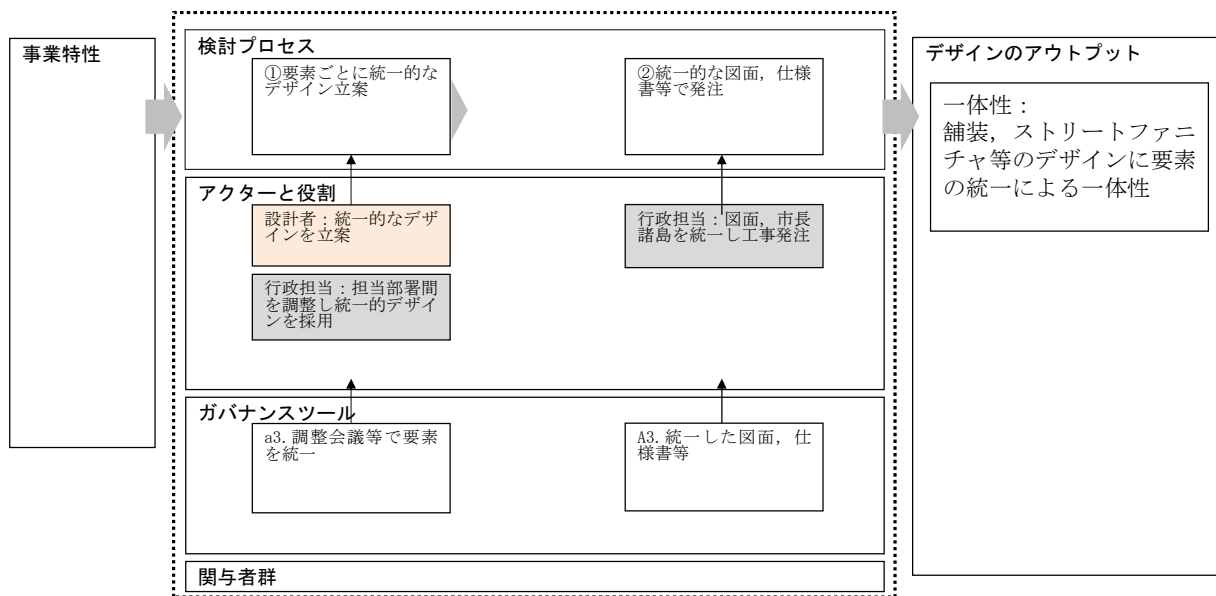


図 5-3 全体デザイン 一体性の実現構造

2) 実現構造の関係性

1) の実現構造の内容を比較すると、調和と統合性の検討プロセスの2つ目は詳細デザインで類似するがデザイナー以外のアクターは異なり、用いられているガバナンスツールも異なっている。また、それ以外のアクターと役割、関与者群も類似するものは見られないため、これら3つの実現構造は、それぞれのデザインの質に対応して独立していると考えられる。すなわち、3つのデザインの質を同時に実現しようと考えれば、これら3つの実現構造を適用することにより、その可能性が高まるといえる。

一方で、前章で指摘した事業特性との関係では、調和の事業特性は複合事業が多いこと、



統合性は駅前広場単独事業が多いこと、一体性は特にそういった事業の事業特性がみられないことから、事業が複合化単独化によって、目指すデザインの質が異なると考えられる。また、一体性には事業の事業特性がみられないことから、どちらのデザインの質にも追加することができると考えられる。

それらのデザインの質の関係性を図化したものが以下である。

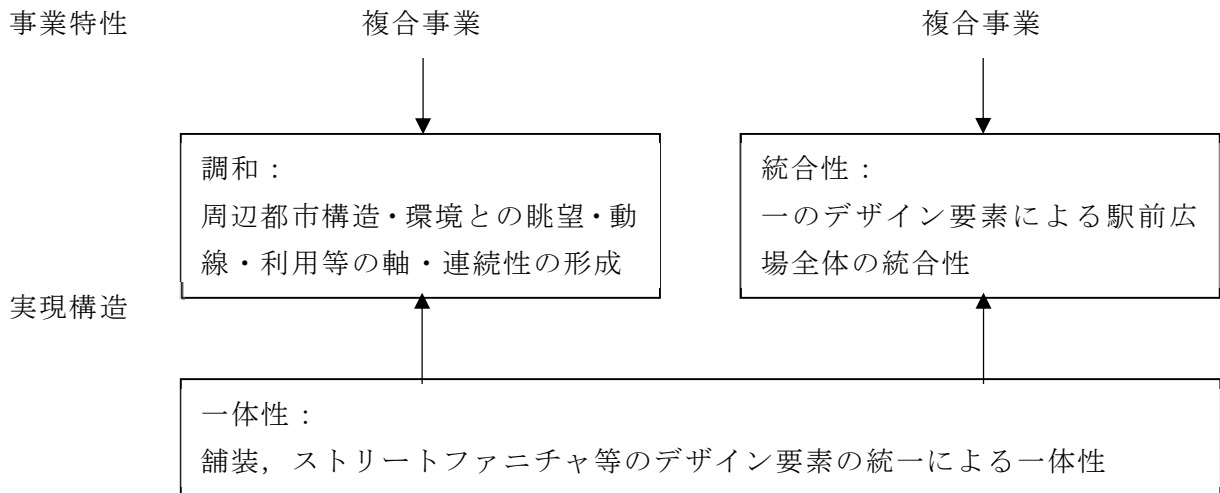


図 5-4 全体デザインの質と実現構造の関係

## (2) 質の高いデザインを実現するメカニズム

(1)で整理した調和と統合性の2つのデザインの質にそれぞれ一体性を組み合わせた、質の高いデザインを実現するモデルを検討し、そのモデルに対して事業特性やガバナンスツールの機能を見るメカニズムを考察する。

### 1) 調和と一体性を持つ全体デザインを実現するメカニズム

#### ① 調和と一体性を持つ全体デザインを実現するモデル

駅前広場が、周辺の街路や緑地等の都市構造と眺望、動線、利用等の関係性を形成する調和のデザインと統一したデザイン要素による一体性を持つデザインを実現するモデルである。

大きく都市計画的な方針とそれをデザインに落とし込むプロセス、統一的な行為発注を行うプロセスで形成される。

#### 検討プロセス①

都市計画コンサルタント等が都市と駅前広場の関係を軸や連続性で確保し関係者で合意し景観整備方針に落とし込み

(A1 調達方式) 委員会設置, 学識経験者等がデザイン調整, 関係者への助言

(B3 景観計画等) 景観整備方針へ落とし込み

#### 検討プロセス②

指名されたデザイナーが学識者等の助言で①の方針を強調するデザインを提案, デザイン要素を整理し, 統一的なデザインを立案する。

- 設計者が統一的なデザインを立案し，行政担当が採用
- (A1 調達方式) デザイナー指名
- (b3 直接支援) 学識経験者個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導
- (a3 調整会議) 関係者が複数の場合は調整会議等で要素の統一について協議

**検討プロセス③**

統一的な図面，仕様書等で発注

(A3 仕様書等) 事業者間／事業者内での図面，仕様書の統一による工事発注

**プロセスに共通**

一貫した学識経験者による全体のデザイン調整，関係者への助言を行う検討体制を構築

(A1 調達方式) 一貫した会議体制のシステム

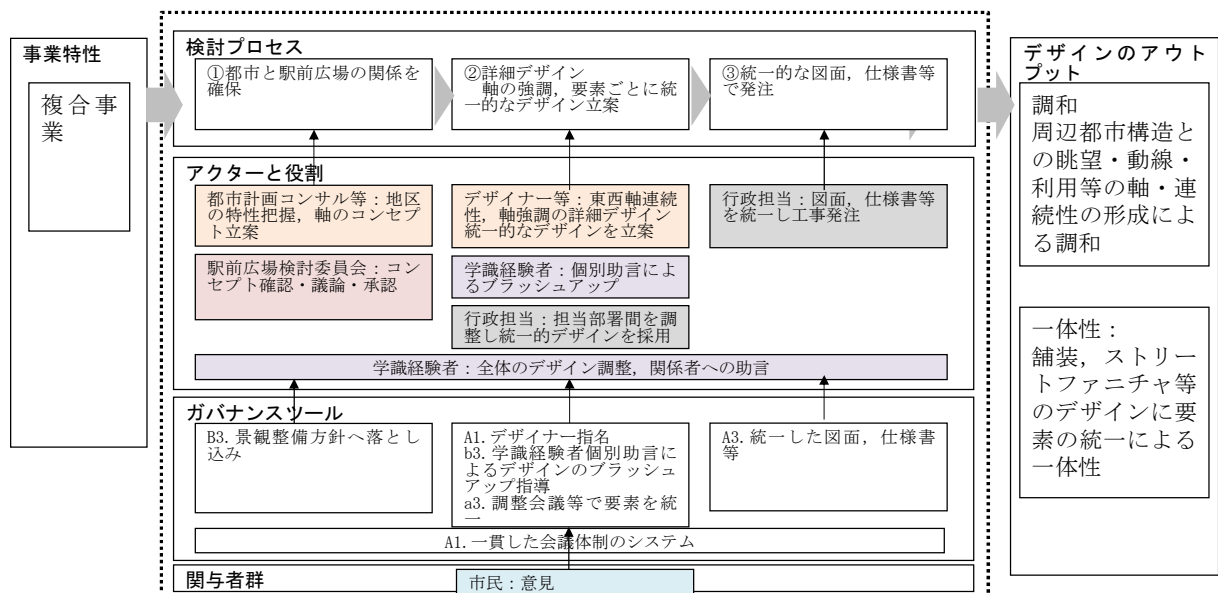


図 5-5 全体デザイン 調和・一体性の実現構造モデル

**② 調和と一体性を持つ全体デザインを実現するメカニズムに関する考察**

以上のモデルに対し，各検討プロセスにおける課題とその課題を乗り越えるために機能したアクターと役割，ガバナンスツール等について考察する。

一つ目の検討プロセスの「①都市と駅前広場の関係を確保」は，このモデルに共通するものであるが，このモデルに該当する事例のうち，旭川，東京，女川，姫路，日向については，駅前広場の全体コンセプトは都市構造の軸，特にその都市を象徴する街路の軸と駅及び駅前広場の関係性をいかに構築するか，が重要であり，具体的には駅を出て正面に都市軸伸びるといった関係がつくられており，このことが質の高い全体デザインにつながっている。したがって，検討プロセス①では「都市軸と駅前広場の軸をそろえるための要素の再配置」が課題であったと考えられる。その課題を乗り越えるために都市計画を理解し，地区の特性を把握し，そこに合わせた軸のコンセプトを提案できる都市計画コンサルタントが検討し，さらにそのコンセプトを受けて駅前広場の要素のレイアウトを変更したり，駅前広場外の街路や駅舎・出入口位置の調整を行い，それがその都市にとっての顔を形成

するために象徴的な意味を持つことと地域と関係者で確認したり関係機関で調整するために合同の検討委員会が調整・合意形成の役割を果たしている。さらに、このコンセプトはその後のデザインプロセスに引き継がれ、都市軸との関係による調和のデザインが詳細デザインにおいてより強化されるために、景観整備方針等に落とし込まれている。これらはガバナンスツールでは、B3 景観計画等を当該事業の今後の指針として機能させているものである。

二つ目の検討プロセスの「②詳細デザイン」については、2つの課題がある。ひとつはプロセス①で設定した「都市構造の軸のコンセプトを具現化するデザイン力」である。軸を具体化するデザイン的な方法はいくつかあるため、その駅前広場で最も重要で効果的なデザインにより軸を強調する提案ができる能力があるデザイナーを選定することが必要である。また、デザイナーが立案するデザインについて、それを確認、チェックし、複数のデザインの方向性や選択肢の中から、より質の高いデザインに方向付ける役割を学識経験者等が担うことが必要である。これらはガバナンスツールでは、A1 調達方式で上記に対応できるデザイナーを指名し、b3 直接支援で学識者等による助言を機能させる必要がある。軸のコンセプトとして挙げた事例ではすべて、検討委員会の委員から当該事業のデザイナーに相応しい人物が指名されている。

もう一つの課題は「統一的なデザインを調整」することである。駅前広場整備では出事案の対象となる要素が多岐にわたり、それらをどのように統一するかはデザインの質に重要な検討になる。よく見られるのは、舗装等とサインであり、管理者が異なっても同じ舗装材やサインデザインを用いることはよくある。したがって、デザイナーが統一できる要素を抽出し統一的な造形などを提案するとともに、それらの統一が事業者や管理者をまたがる場合にはそれらを調整する会議の開催が必要になる。ガバナンスツールでは a3 調整会議等をその調整に機能させることが必要である。

三つ目の検討プロセスの「③統一的な図面、仕様書等で発注」は、「異なる事業者で統一的な図面、仕様書で発注」することが課題になる。一般的に事業者ごとに標準図や標準仕様、あるいは組織の慣習等の規範を持っていることが多く、それらを乗り越え、統一的な図面、仕様書等で発注するためには、先行するプロセスでまとめた景観整備方針による必然性や関係機関との関係により統一的なデザインを目指すことが必要である。

これらの課題とアクター及びガバナンスツールの関係を図化したものが以下である。

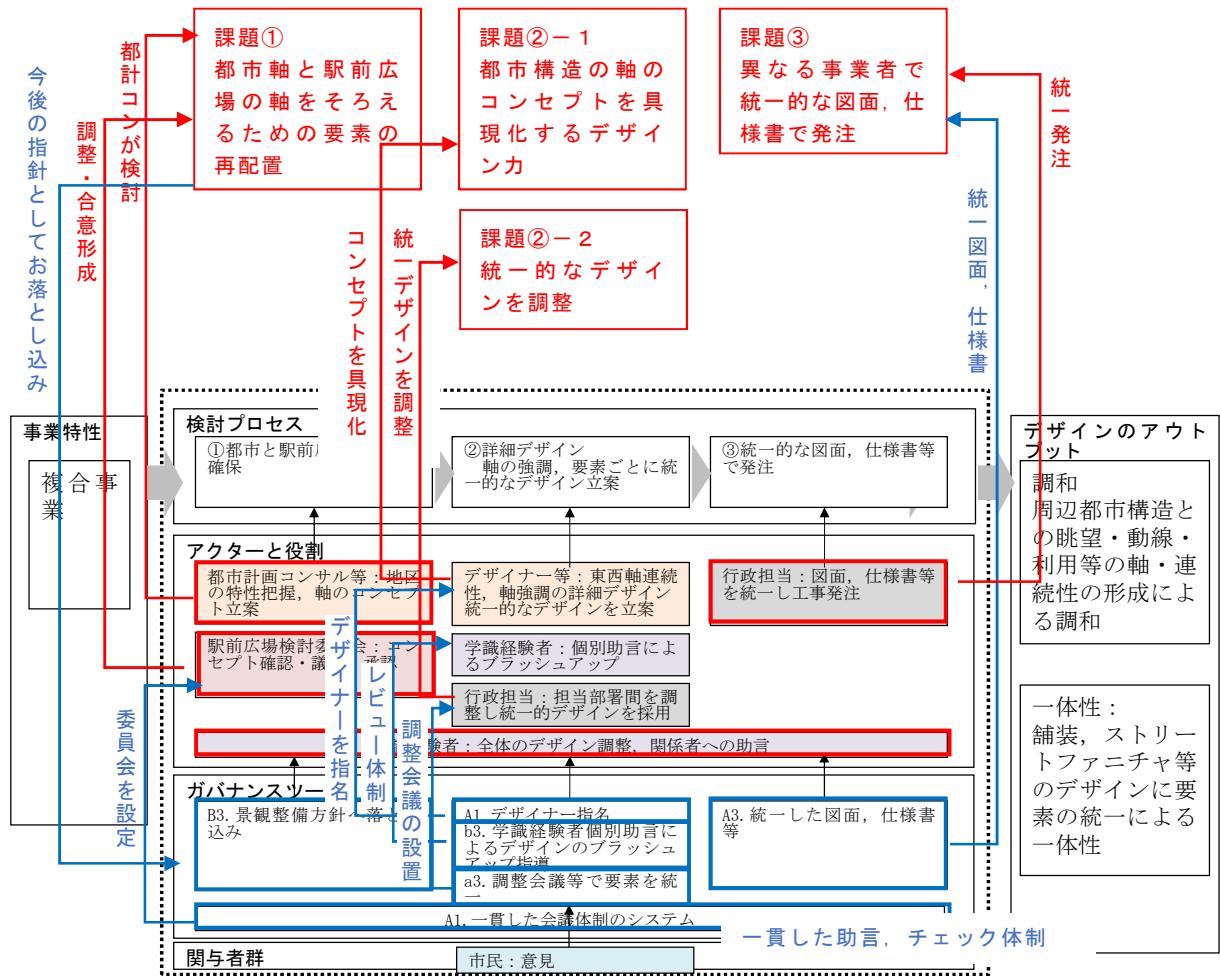


図 5-6 全体デザイン 調和・一体性を実現するメカニズム

## 2) 統合性と一体性を持つ全体デザインを実現するメカニズム

### ① 統合性と一体性を持つ全体デザインを実現するモデル

駅前広場が、一つのデザイン要素により、駅前広場内の統合性を確保し、かつデザイン要素が統一され、一体性を持つデザインを実現するモデルである。

検討プロセスは大きくデザイナーが統合するモチーフ等のデザインを立案するプロセスとそれを実現するプロセス、及びそれをもとにした統一的な図面、仕様書での発注であり、駅前広場内のデザイン要素が複数の関係者をまたぐものであれば、それらを統一することにより実現できるものである。

#### 検討プロセス①

選定・指名デザイナーが地域らしさをモチーフにデザイン立案、関係者で妥当性を確認

(A1 調達方式) デザイナー指名・委託，委員会設置

#### 検討プロセス②

デザイナーが単独または建設コンサルと協働し、設計監理業務やデザイン監修でモチーフを実現

(A1 調達方式) デザイン監修委託, 実施設計等委託

(a3 調整会議) 関係者が複数の場合は調整会議等で要素の統一について協議

### 検討プロセス③

統一的な図面, 仕様書等で発注

(A3 仕様書等) 事業者間/事業者内での図面, 仕様書の統一による工事発注

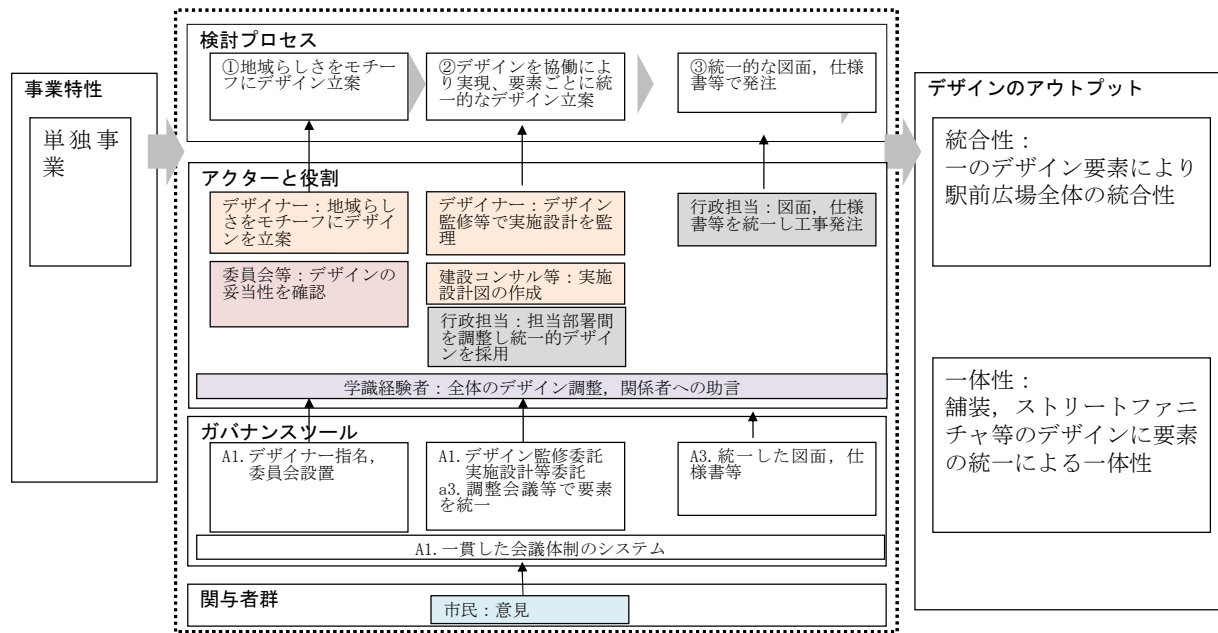


図 5-7 全体デザイン統合性・一体性の実現構造モデル

## ② 統合性と一体性を持つ全体デザインを実現するメカニズムに関する考察

図 5-7 のモデルに対し、各検討プロセスにおける課題とその課題を乗り越えるために機能したアクターと役割、ガバナンスツール等について考察する。

一つ目の検討プロセスの「①地域らしさをモチーフにデザイン立案」は、このモデルがみられる長野、天理、北本、熊本、南万騎が原、恵那、柳川では、先にみた都市構造と調和する事例のような駅周辺にその地域を象徴するような都市構造がなく、また検討範囲も駅前広場の範囲に限定された事例が多いため、この検討範囲の中で質の高いデザイン、「地域らしさ」を新たに創り出していくための検討ステップであると考えられる。そのため、このステップの課題は「地域らしい新しいデザインを創り出すこと」であり、そのためには、地域らしさを理解し新しいオリジナルなデザインを立案できるデザイナーを選ぶこと、そしてそのデザイナーがデザイン案を提示し、その妥当性を議論、判断できる第三者の委員会等が設置されることが必要である。

二つ目の検討プロセス「②デザインを協働により実現」は、一つ目の検討プロセスが新しいオリジナルなデザインを目指すために必ずしも社会基盤の技術者がデザイナーでなくてもよく、場合によっては天理のように他分野のデザイナーであるからこそ、斬新なデザインを提案できる場合がある。したがって、このステップの課題は「法令等に即した図面化」である。そのため、デザインの実現にあたっては、社会基盤の法令基準や事業の手

続き、建設産業との関係などを考慮して具体化を進める必要があります、社会基盤分野外のデザイナーの場合には、社会基盤の技術者と協働して実現にあたる必要がある。

これらの課題とアクター及びガバナンスツールの関係を図化したものが以下である。

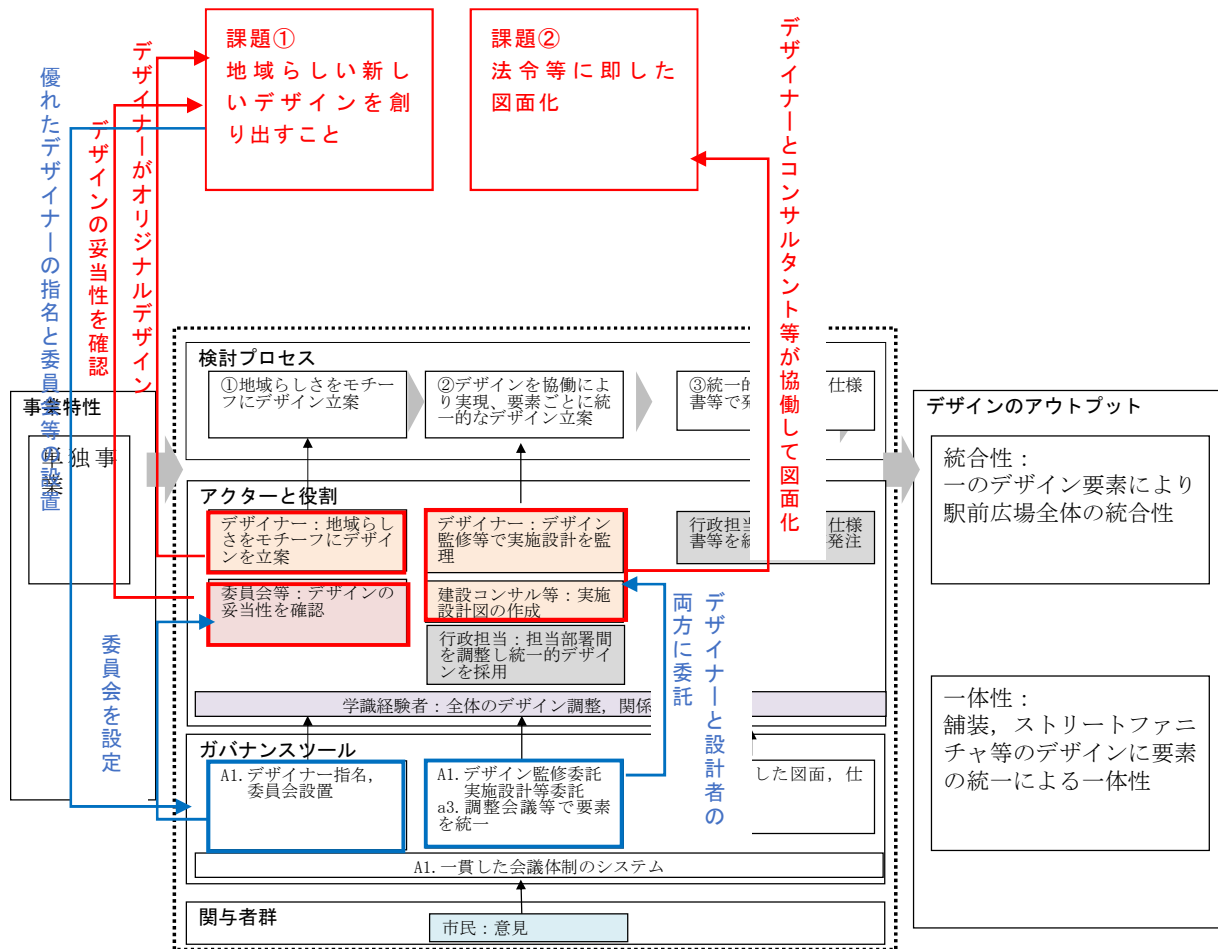


図 5-8 統合性の全体デザインの質を実現するメカニズム

## 5.2.2 各施設デザインの質を高めるメカニズム

施設デザインの質向上は、第4章において、舗装等、ストリートファニチャ、緑地等の3つのデザイン要素ごとにそのデザインの質と実現構造の関係を見たが、以下では、舗装等及びストリートファニチャと、緑地等の2つのデザイン要素にメカニズムを整理する。これは、舗装等及びストリートファニチャには発注者の標準図にあわせてメーカーに既製品があるため、そこからの選択とアレンジ、またはオリジナルデザインがデザインの質の実現に大きく影響すること、緑地等には標準図がない<sup>42</sup>ため、緑化材料の検討のプロセスが異なることから分けて整理されるものである。

### (1) 舗装等及びストリートファニチャの質の高いデザインを実現するメカニズム

#### 1) 実現構造の比較

前章において、施設デザインのうち舗装等及びストリートファニチャの質は、景観性、オリジナルデザイン、ライフサイクルコスト、地元技術がみられ、それぞれの質の内容と実現構造は以下のようにまとめられた。

#### ① 景観性：地域になじむ色彩、素材の舗装等

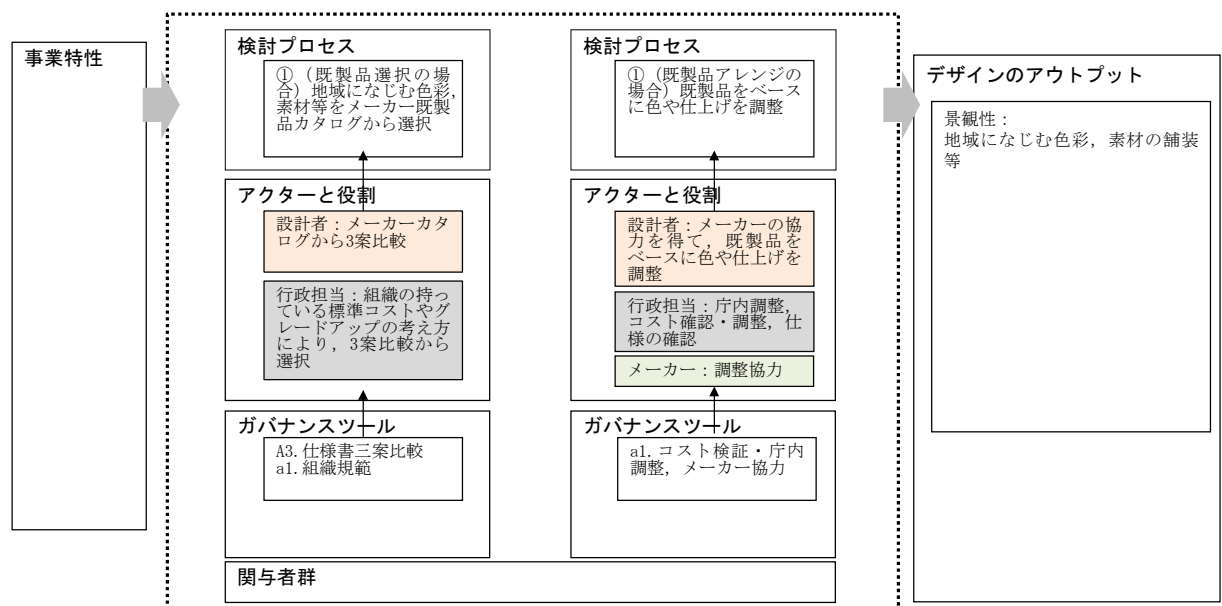


図 5-9 施設デザイン（舗装等）景観性の実現構造

<sup>42</sup> 自治体が公園緑地に関して標準図集を示していることもあるが、これらは擁壁等の基盤や張芝、支柱、給排水設備・電気設備、園路広場（舗装構成）、遊戯施設、サービス施設（ベンチ・サイン等）、管理施設（車止め・柵等）を定めたものであり、緑化材料については設計者の提案に寄っていると考えられる。参考：横浜市、公園緑地施設標準図集、平成30年4月（平成30年11月修正）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/nyusatsu/youshiki/kankyokoenshiryo/download/1sekkeikijun-shiryou.files/zushuikkatsu3004-3011.pdf>

② オリジナル：周辺環境や歴史文化等を考慮したオリジナルの舗装等

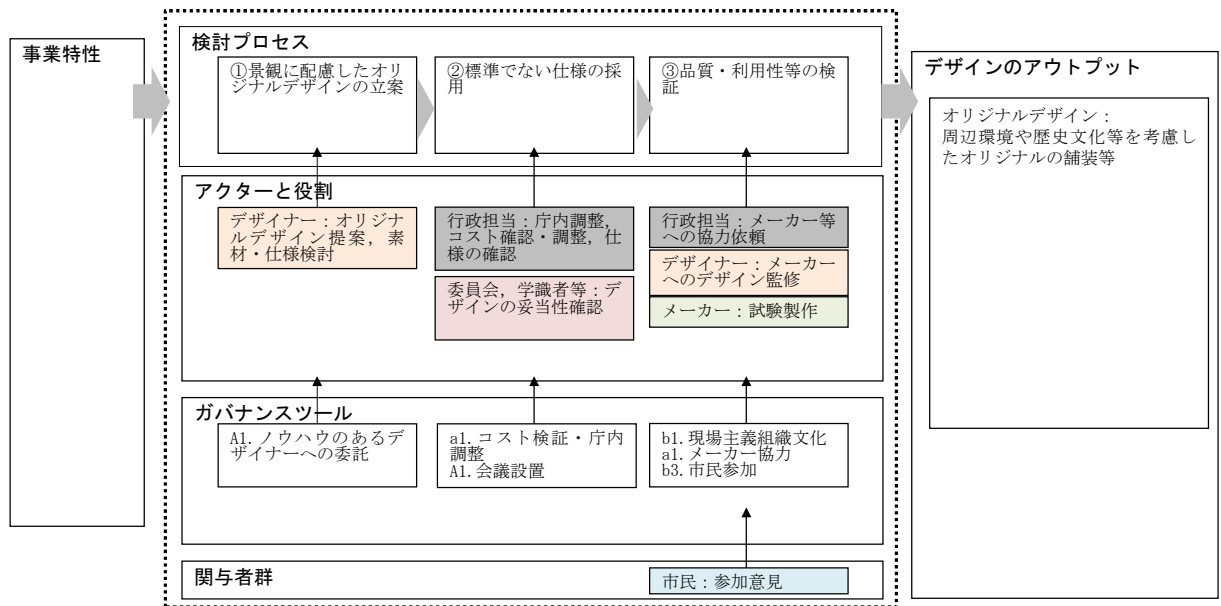


図 5-10 施設デザイン（舗装等）オリジナルデザインの実現構造

③ 一般：既製品を選択したストリートファニチャ

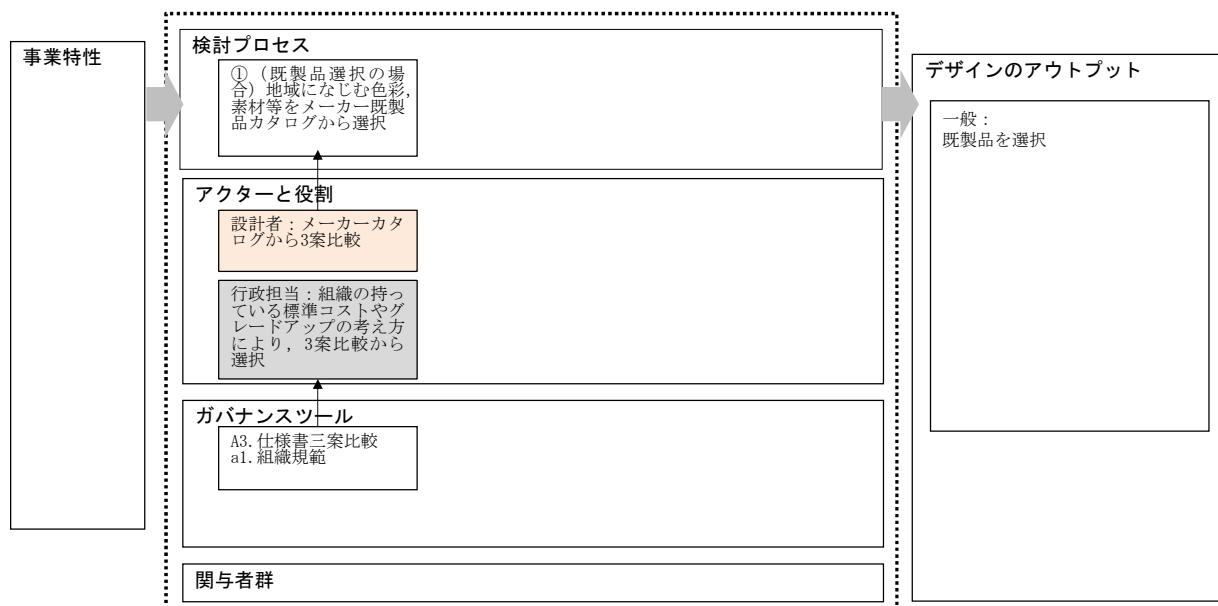


図 5-11 施設デザイン（ストリートファニチャ）一般の実現構造



④ 景観性：周辺環境に配慮した色彩，部材構成の既製品アレンジしたストリートファニチャ

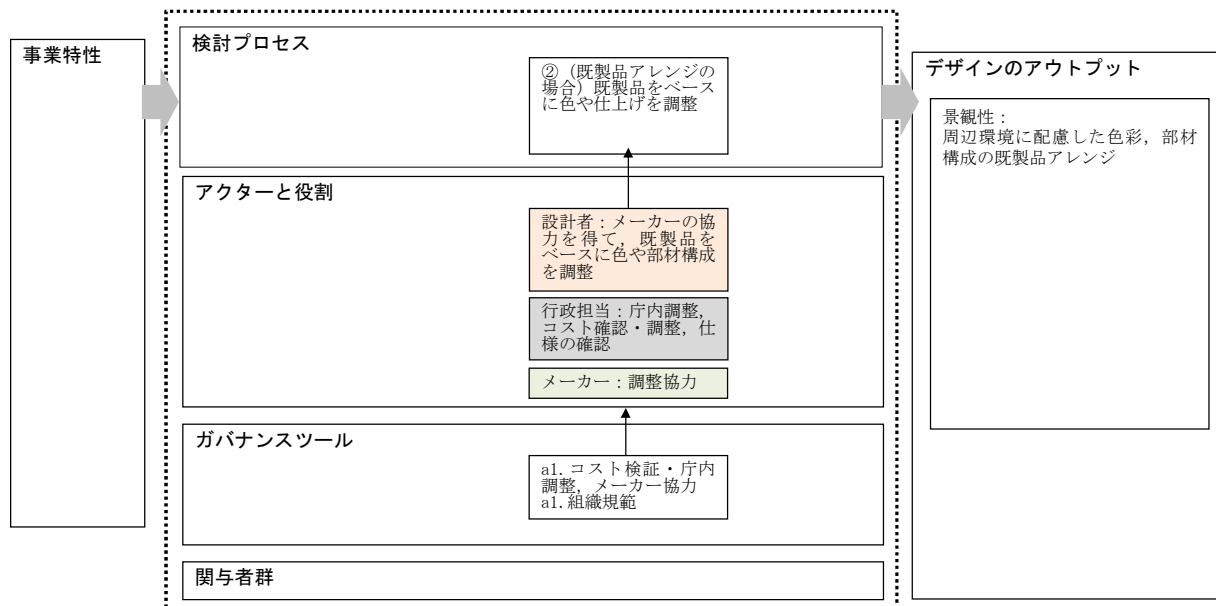


図 5-12 施設デザイン（ストリートファニチャ）景観性の実現構造

⑤ 景観性，オリジナル：地域の顔となるオリジナルデザインのストリートファニチャ

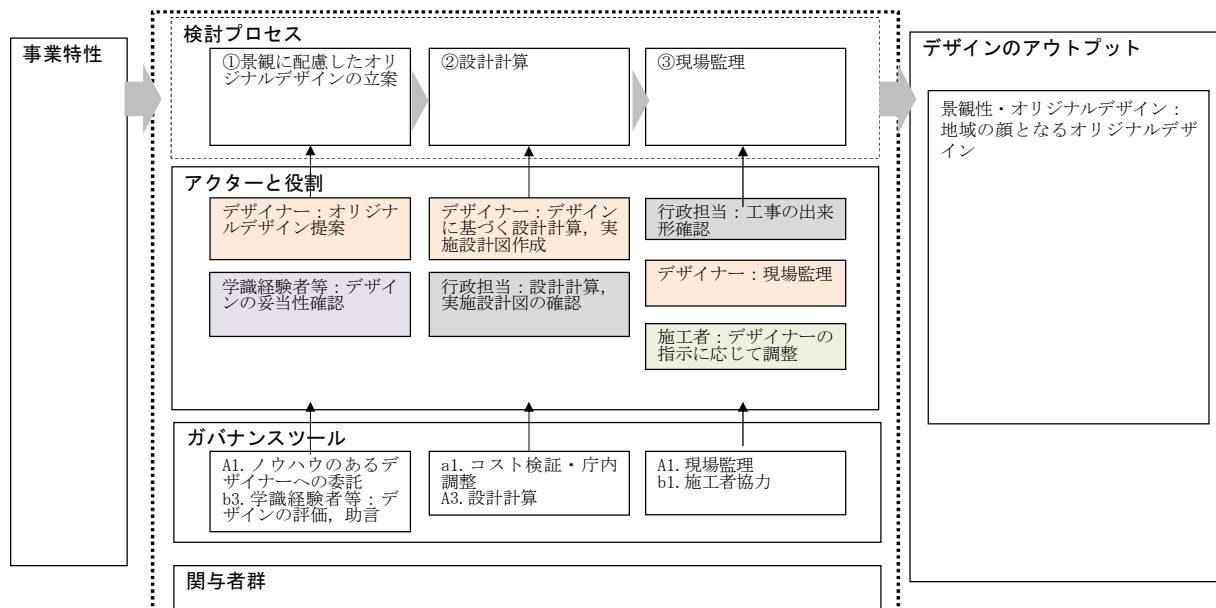


図 5-13 施設デザイン（ストリートファニチャ）景観性・オリジナルデザインの実現構造



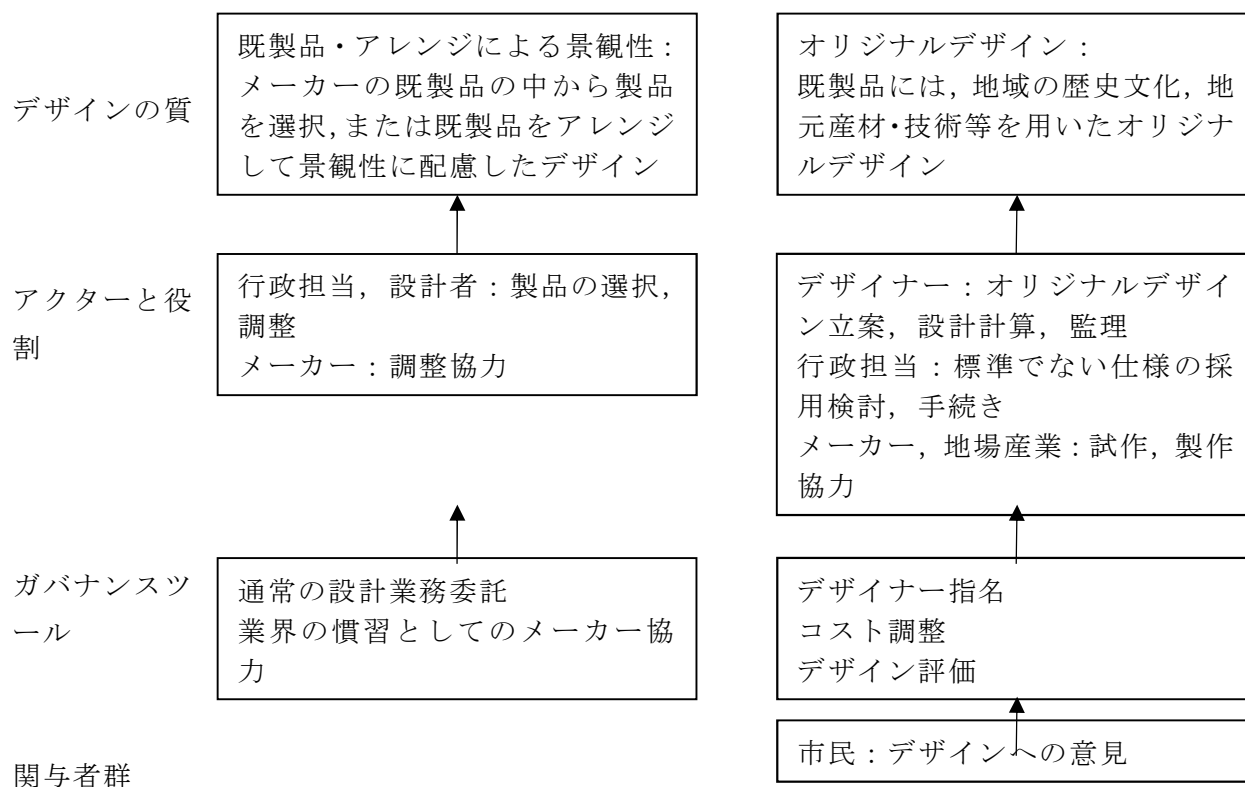


図 5-15 舗装等, ストリートファニチャのデザインの質と実現構造の関係

### 3) 質の高い施設デザイン (ストリートファニチャ) を実現するメカニズム

#### ① 質の高い施設デザイン (ストリートファニチャ) を実現するモデル

(1)で整理した既製品とオリジナルデザインについて, 質の高いデザインを実現するモデルを検討した。

#### ① 景観性に配慮したストリートファニチャデザインを実現するモデル

駅前広場が, 舗装等, ストリートファニチャのデザイン要素により, 景観性に配慮したデザインを実現するモデルである。

検討プロセスは大きくメーカーの既製品から景観性に配慮した製品を選択する場合と既製品をさらにアレンジした場合があるが, デザイナーが統合するモチーフ等のデザインを立案するプロセスとそれを実現するプロセスで形成される。

##### 検討プロセス (既製品選択の場合)

メーカー既製品カタログから3案比較を作成し, コスト等の行政の慣習基準により選択

(A3 仕様書等) 三案比較から選択

(a1 組織規範) 三案比較の立て方, 選択する考え方等の組織の慣習等

##### 検討プロセス (既製品アレンジの場合)

メーカーの協力を得て, 既製品をベースに色や仕上げを調整. 行政担当がコスト増を事業費内増減や増額等で調整し採用。

(a1 組織規範) コスト検証, 庁内調整等の組織の慣習等, メーカーの協力

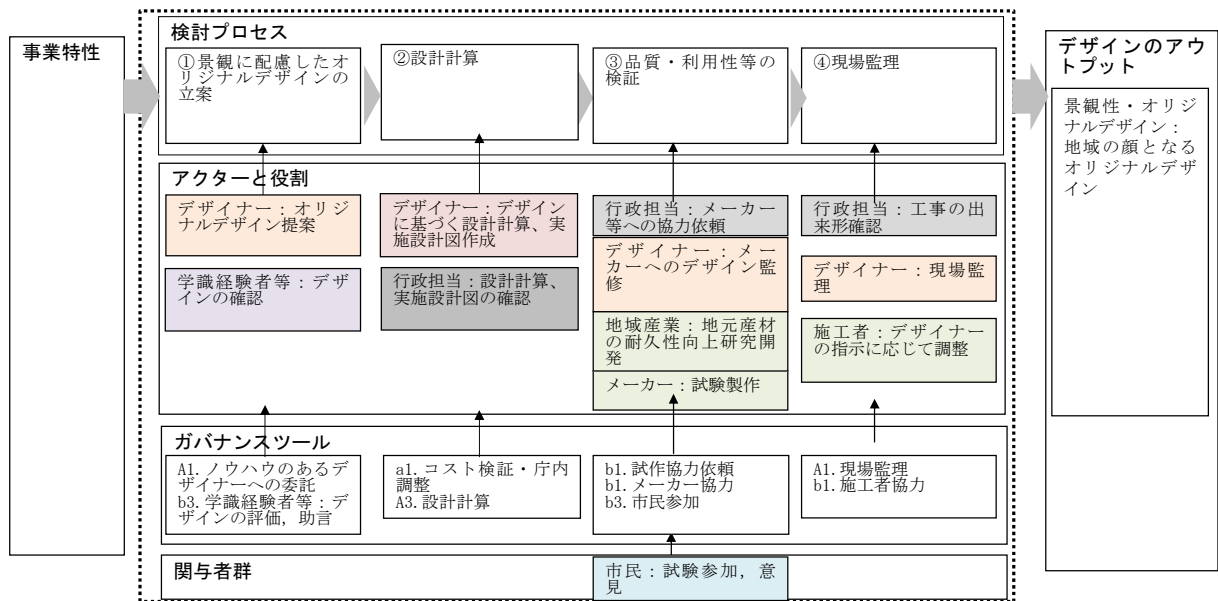


図 5-16 施設デザイン（ストリートファニチャ）景観性の実現構造モデル

## ② 景観性に配慮したオリジナルの舗装等, ストリートファニチャデザインを実現するモデル

駅前広場が, 舗装等, ストリートファニチャのデザイン要素により, 景観性に配慮しかつオリジナルなデザインを実現するモデルである。

検討プロセスは大きく優秀なデザイナーがデザインを立案することと, オリジナルで標準でない仕様書の行政内の採用手続き, 設計計算による図面化, 品質・利用性等の検証の検討プロセスで形成される。

### 検討プロセス①デザイン立案

選定・指名デザイナーが地域のヴィジョン等をもとに地域の顔となるオリジナルデザイン立案し, 学識等による確認により, デザインを評価する。

(A1 調達方式) ノウハウのあるデザイナーへの委託

(b3 調整会議) 学識経験者等: デザインの評価, 助言

### 検討プロセス②標準でない仕様の採用

標準でない舗装等の採用にあたり, 庁内の調整やコスト確認等を行い, デザインの妥当性については, 委員会, 学識経験者等により妥当性を確認する。

(a1 組織規範) 標準でない舗装等の採用のため, 地域のヴィジョンによる裏付けやデザインの妥当性, コスト増の調整, 手続き等

### 検討プロセス③設計計算, 図面化

デザイナー・建築家または建設コンサルが法令に則った設計計算を行い図面化

(a1 組織規範) コスト検証・庁内調整

(A3 仕様書等) 設計計算

### 検討プロセス④品質・利用性等の検証

メーカーや地元産業の協力を得て, 製品の試作等により, 市民も参加し意見交換

し、その品質・利用性等の検証を行う。必要に応じて設計計算を実施する。

(b1 組織文化) 試作協力依頼，メーカー協力

(b3 直接支援) 市民参加

(A3 設計計算) 必要に応じて設計計算

#### 検討プロセス④現場監理

現場でデザイン監理・監修により，オリジナルデザインを実現

(A1 調達方式) 現場監理

(b1 組織文化) 施工者協力

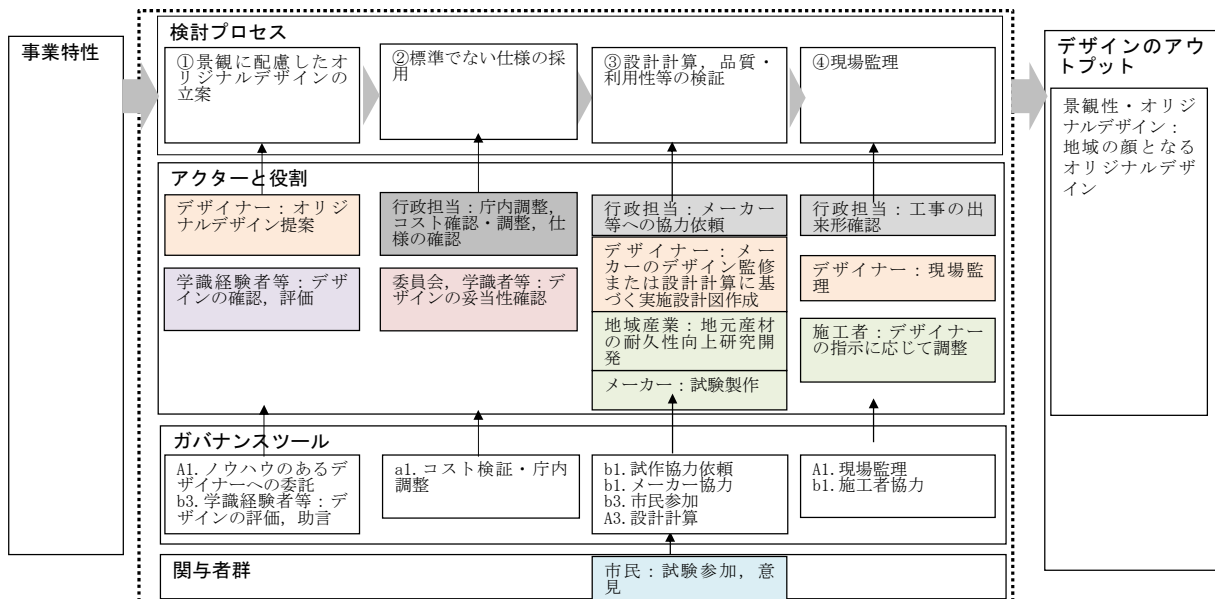


図 5-17 施設デザイン（舗装等，ストリートファニチャ）のオリジナルデザイン実現のモデル

### ③ 施設デザイン オリジナルデザインを実現するメカニズムに関する考察

図 5-17 の検討プロセス「①景観に配慮したオリジナルデザインの立案」は，全体デザインの統合性の新しいデザインに類似する．そのため，このステップの課題は「景観に配慮した新しいデザインを創り出すこと」であり，そのためには，景観を理解し新しいオリジナルなデザインを立案できるデザイナーを選ぶこと，そしてそのデザイナーがデザイン案を提示し，その妥当性を議論，判断できる第三者の委員会等が設置されることが必要である．

二つ目の検討プロセス「②標準でない仕様の採用」は，従来行政が持っていた標準図や標準仕様書をもとに同様の品質の製品に期待するデザインに対して，非常に多くのプロセスを要する．例えば，行政内で従来の慣習にない選定方法が必要であるし，その妥当性を判断し採用を助言する第三者の委員会もしくは学識経験者等の意見も重要である．そのため，このプロセスの課題は「行政内の慣習等の克服」であり，そのため，学識者等にオリジナルデザインの妥当性，お墨付きをいただくとともに，行政内の慣習のうち，標準仕様のコストのグレードアップ，標準品や既製品にかえてオリジナルを採用するメリット等を整理し，庁内の調整を図っていく必要がある．

三つ目の検討プロセス「③設計計算，品質・利用性等の検証」は，採用されたオリジナルデザインを社会基盤の施設として，法令基準に沿ったものとするため，法令基準に則って設計計算を行うものである．標準品や既製品であれば，道路構造令等の法令に則った仕様，寸法の舗装材や車止め等について，新たに計算する必要はなく，過去に検証がされているが，新たなオリジナルデザインは，これらの計算結果が使えないため，オリジナルの仕様に即して，あらたに設計計算をする必要がある．したがって課題は「オリジナルデザインの法令基準等への適合検証」である．また，舗装等の縁石やストリートファニチャのように，利用者に非常に近い施設については，それが利用者，市民にとって使い勝手の良いものか，また行政にとっても標準仕様でないためにその品質を検証する必要がある場合がある．

4つ目の「④現場監理」では，既製品ではないので，初めて見るものを作ることになる．したがって，図面を製作工場が製作図に落とし込み，試作や製作手順，仕上げ等を確認しながら，施工者が現場に合わせて設置するなど施工の協力を得ながら実現することになる．したがって，「図面を実現する」ことが課題である．そのため，デザインしたデザイナーがその意図を試作者や施工者へ伝え，それに対応できる製作工場を選び，調整等の打合せや修正指示，現場での設置調整を繰り返す，現場監理やデザイン監修が必要である．

これらの課題とアクター及びガバナンスツールの関係を図化したものが以下である．

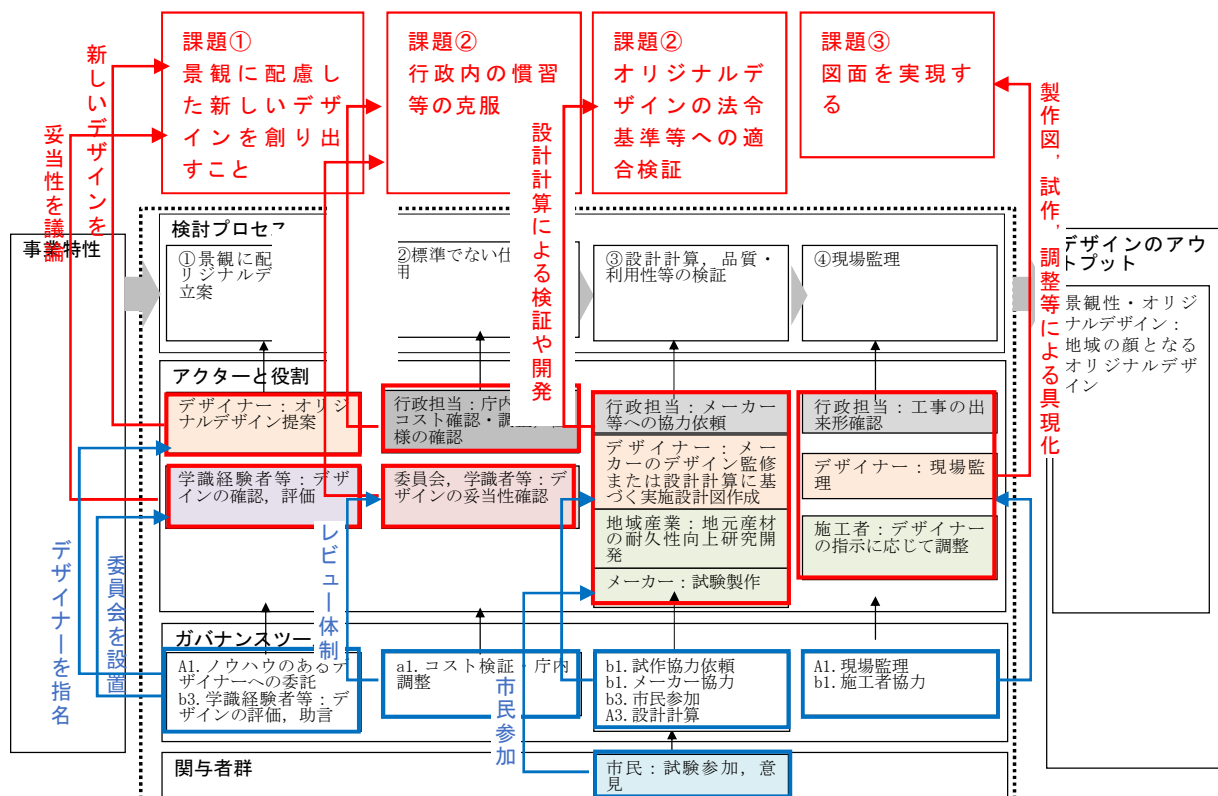


図 5-18 施設デザイン（舗装等，ストリートファニチャ）のオリジナルデザインを実現するメカニズム

## (2) 緑地等の質の高いデザインを実現するためのメカニズム

### 1) 実現構造の比較

前章において、緑地等のデザインの質は、一般、気候風土、維持管理、愛着と誇りを生む景観性、オリジナルがみられ、それぞれの質の内容と実現構造は以下のようにまとめられた。

#### ① 一般：最小限の緑地

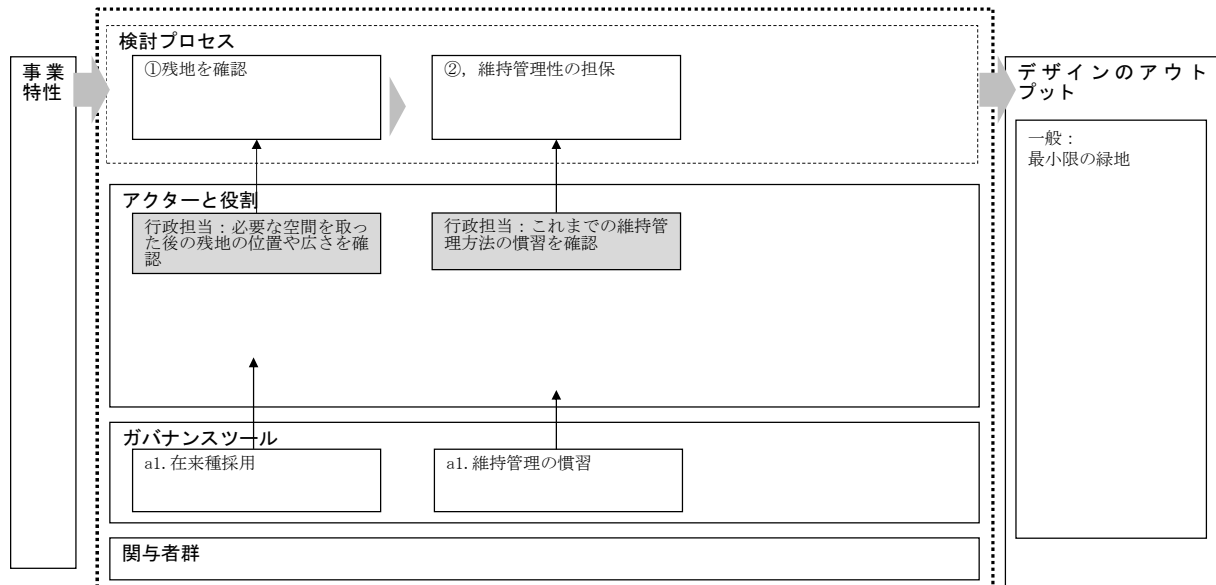


図 5-19 施設デザイン（緑地等）一般の実現構造

#### ② 気候風土：地域の気候風土に根差した緑地

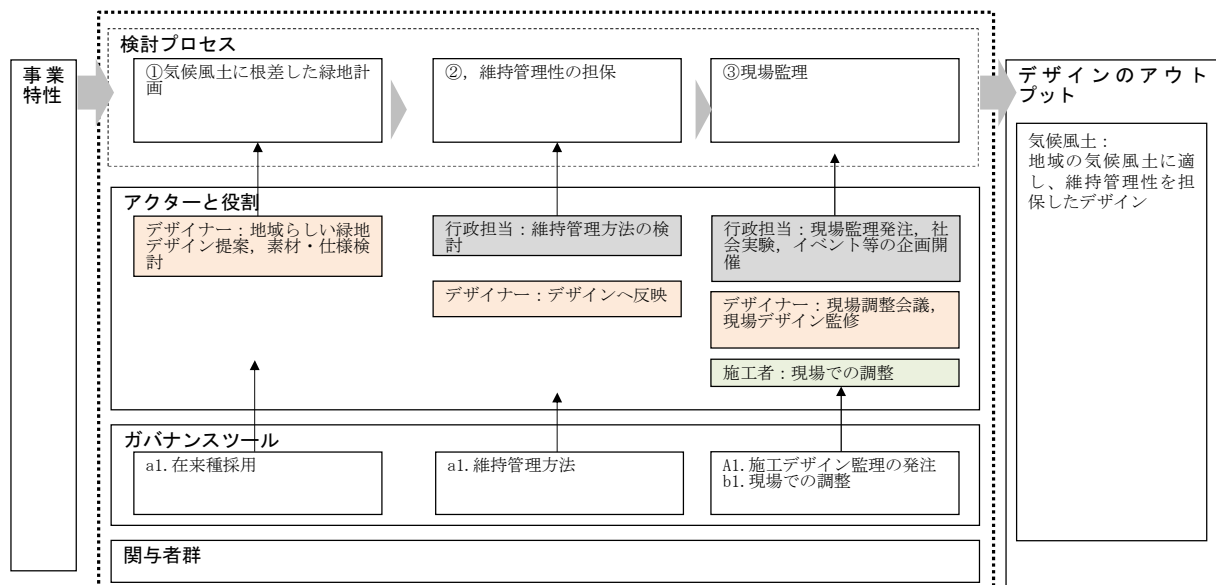


図 5-20 施設デザイン（緑地等）気候風土の実現構造

③ 気候風土，維持管理，愛着と誇りを生む景観性，オリジナル：地域の顔となるオリジナルデザイン

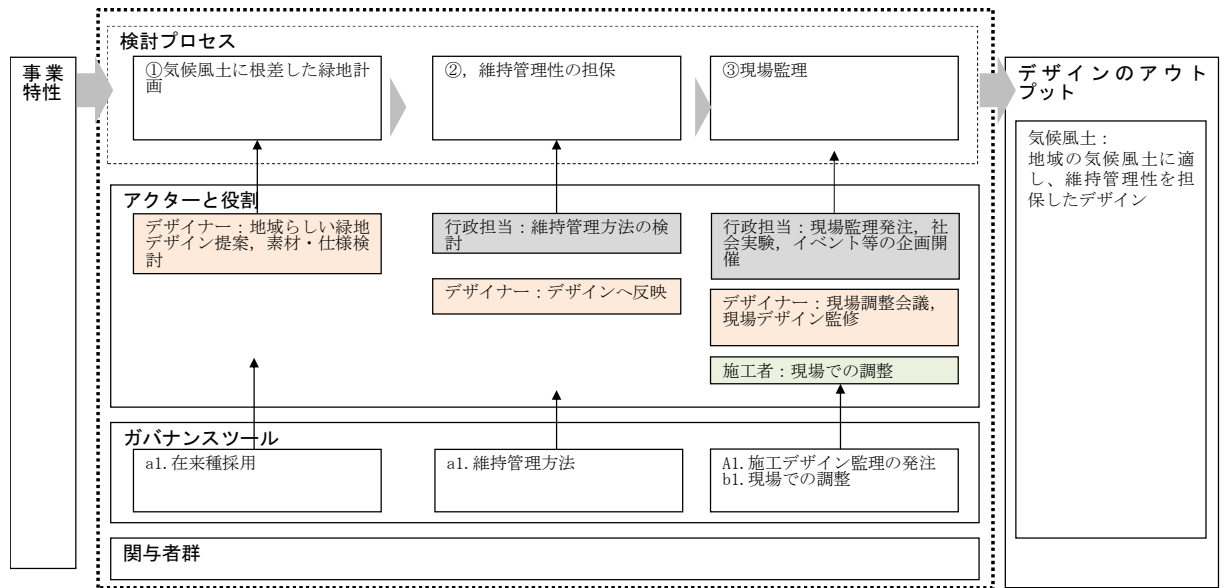


図 5-21 施設デザイン（緑地等）気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創造の実現構造



## 2) 実現構造の関係性

1) の実現構造の内容を比較すると、最小限の緑地の一般デザインでは、アクターが行政担当のみであるのに比較して、気候風土に配慮したデザインでは、デザイナー、施工者が増え、さらに気候風土に加えて、維持管理、愛着と誇り、価値創造に配慮したデザインは、検討プロセスが同じであるが、アクターが学識経験者、市民が増えていることがわかる。また、ガバナンスツールは、学識経験者、市民が参加するための A1 調達方法（会議設置等）、b3 直接支援（学識者助言、市民意見）が追加されている。

これらから、一般デザインから、気候風土、さらに維持管理、愛着と誇り、価値創造へのデザインの高まる実現構造では、行政担当のみのこれまでの慣習規範に則った検討から、デザイナー等の気候風土への配慮、さらに学識者、市民が入ったデザイン等の評価や維持管理への参加といったように、段階的にその検討プロセスが充実していると考えられる。したがって、質の高い緑地等のデザインでは、気候風土、維持管理、愛着と誇り、価値創造を実現するメカニズムをモデルとすることで、全体を網羅できると考えられる。

それらのデザインの質と実現構造の関係性を図化したものが以下である。

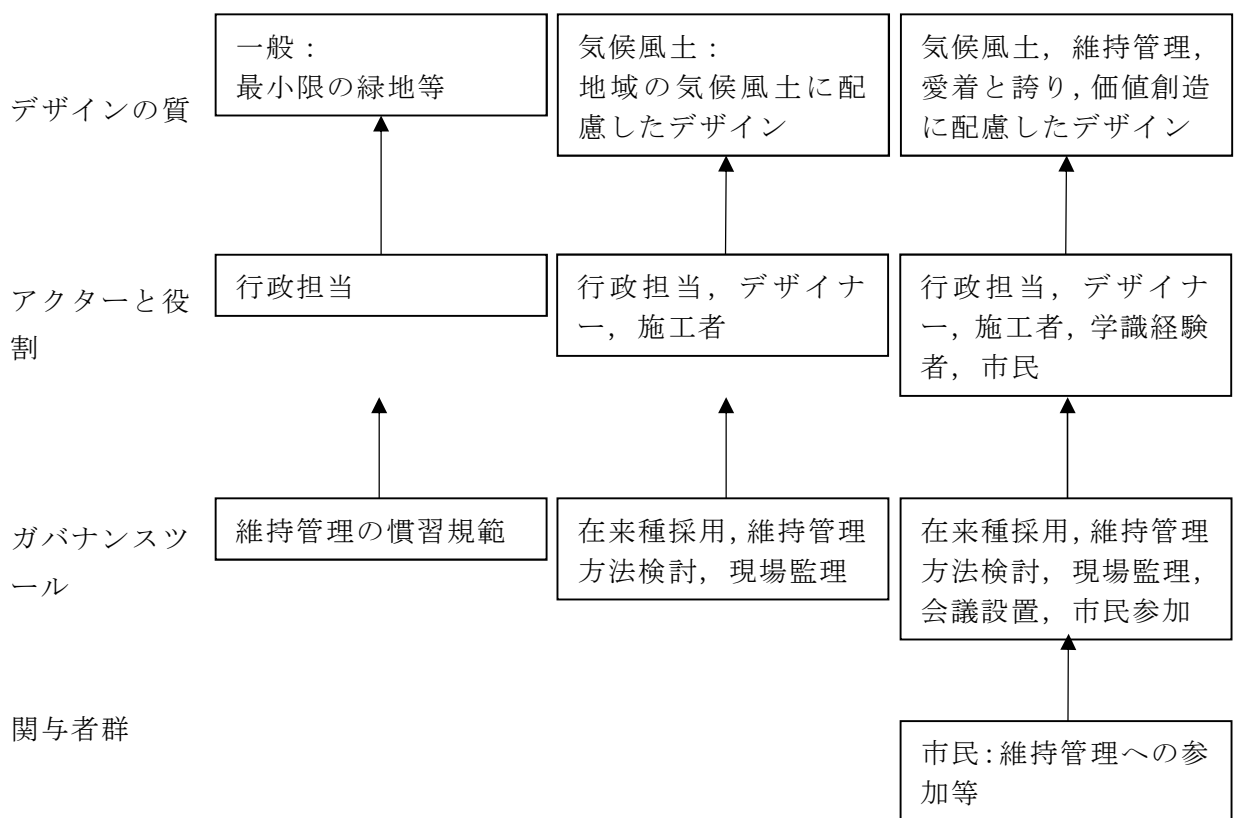


図 5-22 緑地等の質と実現構造の関係

3) 気候風土，維持管理，愛着と誇りを生む景観性に配慮した地域の顔となるオリジナルな緑地等のデザインを実現するメカニズム

① 気候風土，維持管理，愛着と誇りを生む景観性に配慮した地域の顔となるオリジナルな緑地等のデザインを実現するモデル

地域の気候風土に適し，維持管理を考慮した，市民の愛着と誇りを生む景観性を有するオリジナルデザインを実現するモデルである．気候風土に適した樹種等を選択するとともに，市民が参加するワークショップ等により，市民の意見を取り込み，維持管理段階での協力関係を構築する．

検討プロセス①

既存樹の存置，地域の在来種採用を基本に検討し，気候風土に根差した緑地計画を立案する．

(a1 組織文化) 樹木保存，在来種採用

(b3 直接支援) 個別助言

検討プロセス②

市民が参加した原風景を探る WS やイベント社会実験，市民によるデザインの検証により，市民意向を反映する．また，市民や専門家や地元造園会社の協力を得て，維持管理方法の検討や，樹種等の採用を行う．

(b3 直接支援) 市民参加の仕組み

(A1 調達方法) 会議設置

検討プロセス③

現場で状況に合わせて地形の調整や樹木の向き等を調整するとともに，現地での施工の市民との共有や社会実験，プレオープン等により，緑地の利活用の促進を図る．

(A1 調達方法) 施工デザイン監理の発注

(b1 組織文化) 現場での調整

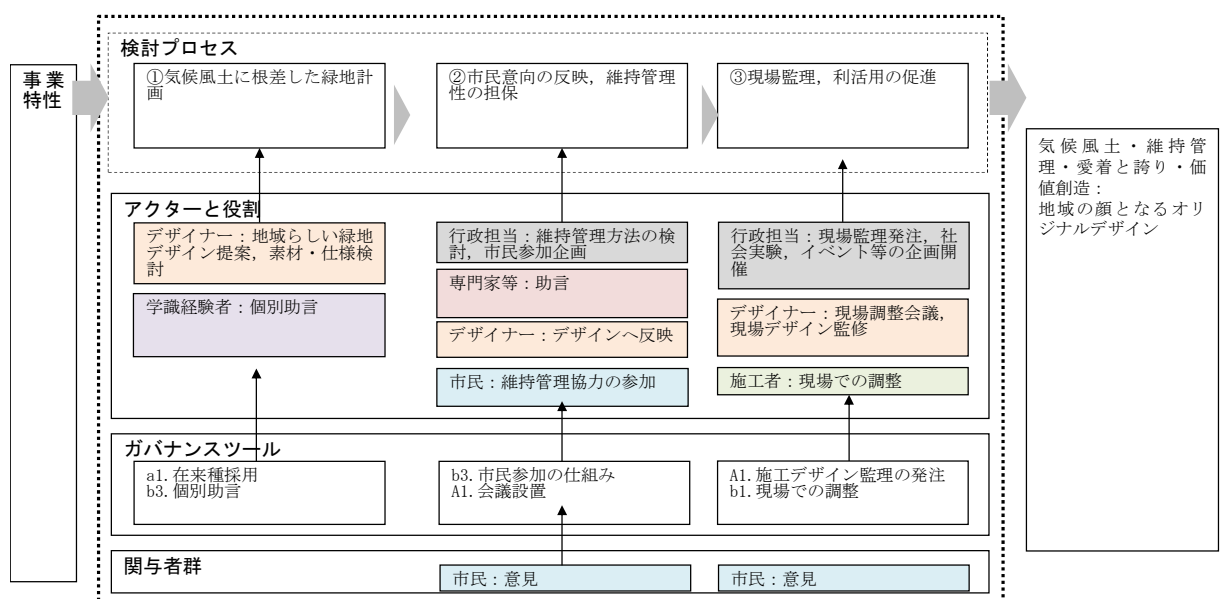


図 5-23 施設デザイン（緑地等）気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創造の実現構造モデル

## ② 統合性と一体性を持つ全体デザインを実現するメカニズムに関する考察

図 5-7 のモデルに対し、各検討プロセスにおける課題とその課題を乗り越えるために機能したアクターと役割、ガバナンスツール等について考察する。

一つの目の検討プロセス「①気候風土に根差した緑地計画」は、緑地等における気候風土や地域らしさを理解したうえで、現地にある、調達できる緑化材料によるデザインを検討する必要がある。一般的に駅前広場の一部として緑地等が設計される場合は、交通広場と同様に建設コンサルタント等に設計業務委託される。そのため、その土地の気候風土や地域らしさを理解できることを前提としつつも、地域らしい植物などを選定するには地域の専門的な知識や経験が不足することが多い。そのため、緑地等、ランドスケープや緑化、等の学識経験者や、地元の造園業者の助言・協力を得て、地域の気候風土に合った緑地デザインの計画を立案することになる。したがって、このステップの課題は、「在来種等による調達可能な計画の立案」である。そのため、在来種等の採用を規範とするとともに、学識経験者等の地域の生態系や造園業の状況に詳しい学識経験者等の協力体制を構築する必要がある。

二つの検討プロセス「②市民意向の反映、維持管理性の担保」は、駅前広場における豊かな緑地やオリジナルな充実した緑地の採用における最大の課題である「市民参加による維持管理性の担保」が重要である。単に行政の維持管理費を増大して確保する、という行政内の手続きでは、将来費用を削られることにより、雑草等が繁茂し利活用がしにくくなるとともに安全性の確保もできなくなる可能性があるため、行政の維持管理に頼らない維持管理性の担保が求められる。質の高いデザインの事例で、充実した緑地等を実現した日向、北本、姫路等は、設計段階から市民が緑地等のデザインに参加し、その延長上に市民坂による維持管理の検討や仕組みづくりがなされている。したがって、この課題を乗り越えるには、こういったデザイン段階からの市民参加の仕組みと意見のデザインへの反映による市民とデザイナー、行政との信頼関係の構築、その延長上にある維持管理段階での市民参加の仕組みの検討が必要である。

三つめの検討プロセス「③現場監理、利活用の促進」には、「現場監理」と「利活用の促進」の二つがあるが、「現場監理」は、緑地等が工業製品と異なり、一つ一つの緑化材料が生き物であり、一つとして同じものがないことにより、現場での確認や調整が必ず必要になることによる。したがって、課題は「生育環境に最適な現場への設置」である。例えば、日向では、西都原古墳群を参照した緩やかな起伏のデザインを立案しているが、現場でその起伏の高さや線形、全体のプロポーション、バランスなどが現場監理により調整されている。また、植栽などはそれぞれの個体の状況に合わせて、当初計画していた配置図の配置を調整したり、樹木の向きを回転したりすることが多い。さらに緑地を利用するために、舗装された園路などが設けられるが、実際に利用する市民や障害者団体の方と現地でその線形について議論してデザインに反映されることもある。二つ目の「利活用の促進」は、駅前広場の供用開始後に緑地等が十分に利活用されるために設計施工段階から利用者である市民等にその存在や利活用方法などを知ってもらうことが重要である。したがって課題は「市民参加による利活用の試行」である。そのため、行政がイベントの企画開催を行い、市民が参加することが必要である。

これらの課題とアクター及びガバナンスツールの関係を図化したものが以下である。

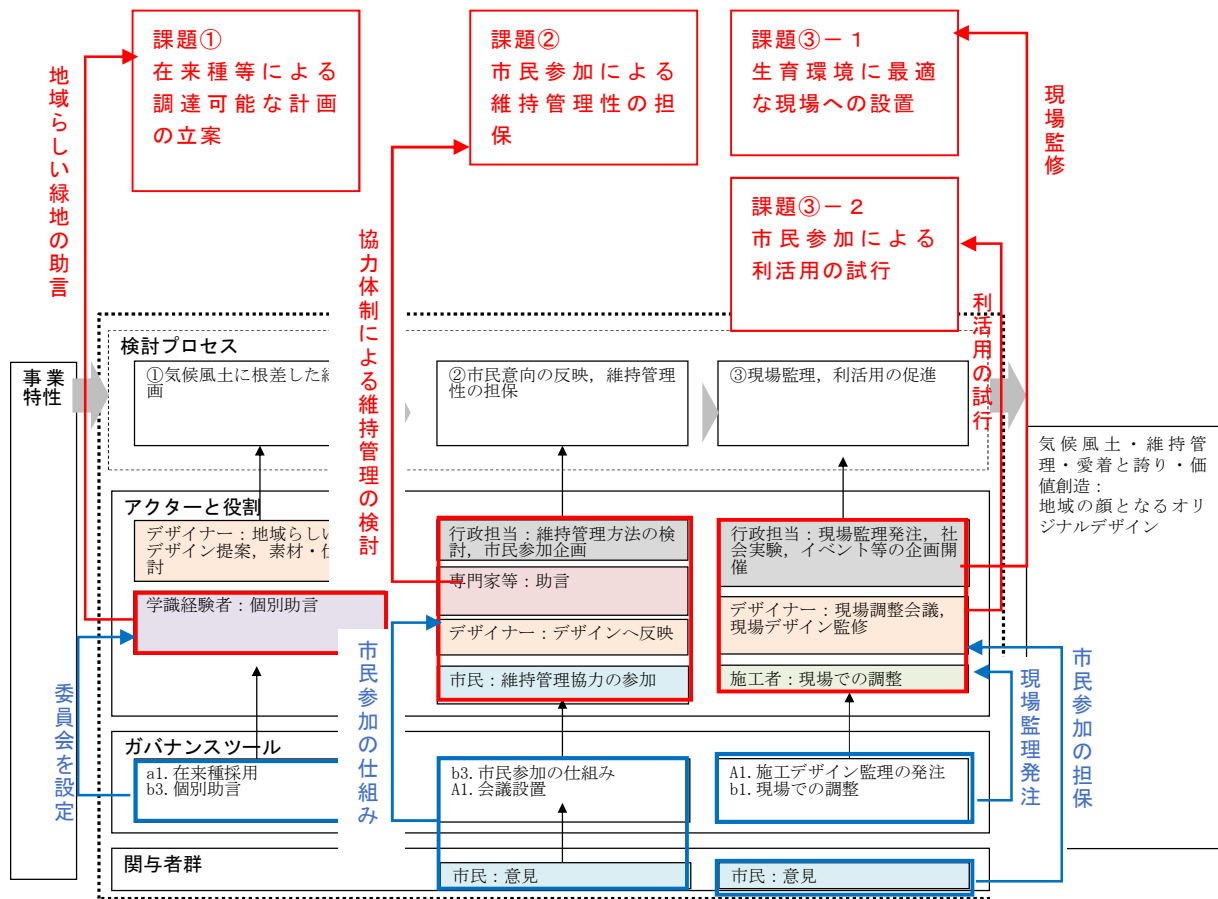


図 5-24 施設デザイン（緑地等）気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創造を実現するメカニズム

### (3) 質の高いデザインを実現するメカニズムの使い方

前項で見てきたモデルを課題を乗り越える観点から見たメカニズムには、デザインプロセスの時系列の展開（下図緑矢印）と各検討プロセスにおける課題を乗り越えるためのアクター（下図赤矢印）とガバナンスツール（下図青矢印）の使い方の二つの観点が含まれている。

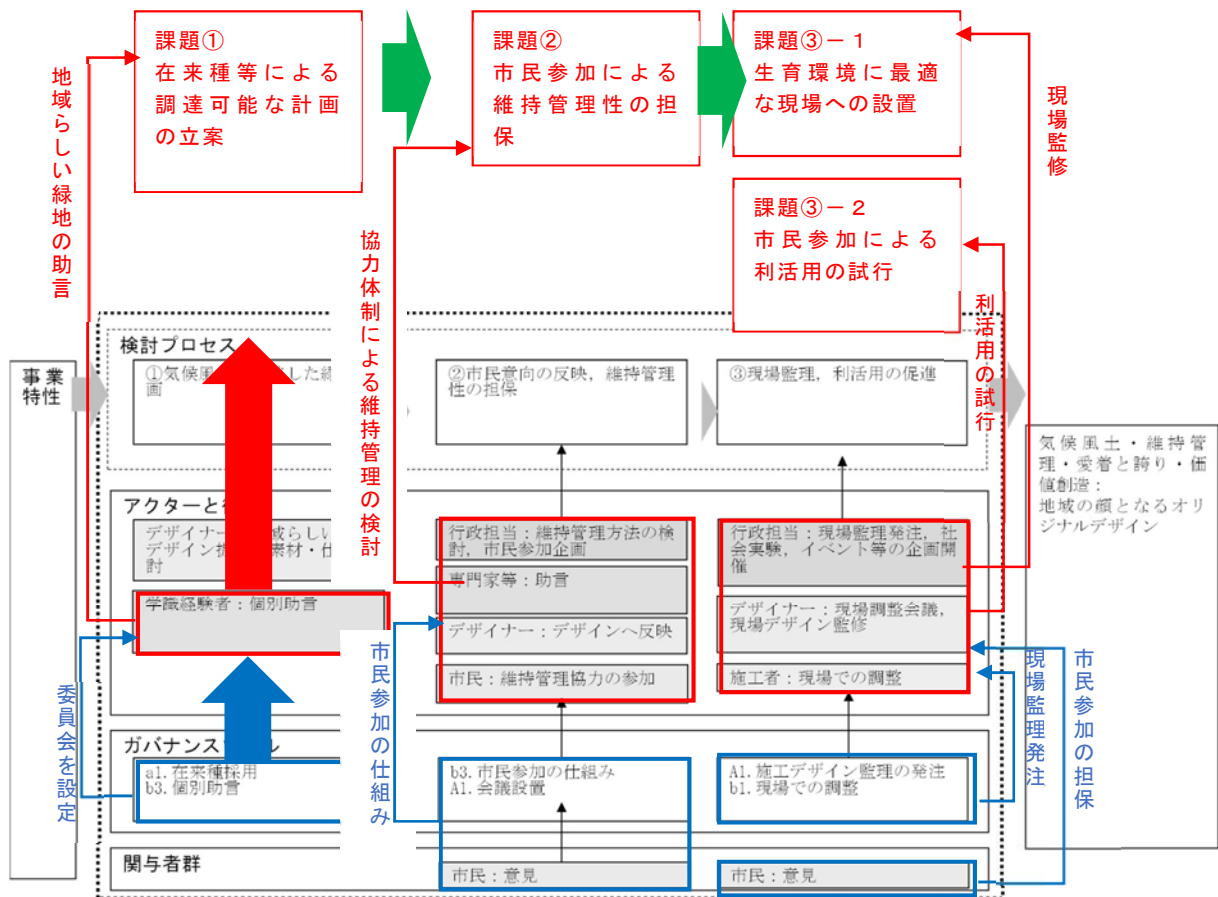


図 5-25 質の高いデザインを実現するメカニズムの構成（緑地等の例をサンプルに）

すなわち、質の高いデザインを実現するためには、デザインプロセスにおける課題を乗り越えて実現することと、それぞれの課題を乗り越えるためにアクターをどのように動かすか、その動き方を機能させるためにガバナンスツールをどのように使うか、が重要であると考えられる。

次節では、デザインプロセスにおいて、全体デザイン及び施設デザインがどのプロセスでどのような課題を乗り越える必要があるかを示す。

### 5.2.3 質の高いデザインを実現するプロセスとメカニズム

#### (1) デザインプロセスとメカニズムの関係

ここでは、前節で提示したメカニズムをデザインプロセスの中で機能させるため、第3章で整理したデザインプロセスと実現構造をもとに、メカニズムにおける検討プロセスとの関係を見ていく。

第3章では、デザインプロセスと全体デザイン、施設デザインの関係を以下のように整理した。

プロセス	アウトプット		決定までのプロセス	検討, 決定対象		
デザイン決定	全体デザイン	コンセプト	1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">全体デザインの実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">施設デザイン（舗装等）の実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">施設デザイン（ストリートファニチャ等）の実現構造</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">施設デザイン（緑地等）の実現構造</div>
			2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	
			3	コンセプトの確認, 議論	同上	
			4	コンセプト原案作成	同上	
	施設デザイン	イン全体デザ	5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	
			6	全体デザインの確認, 議論	同上	
			7	全体デザイン原案作成	同上	
			8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	
			9	施設デザインの確認, 議論	同上	
			10	施設デザイン原案決定	同上	
デザイン実施	実施設計図の作成	施設詳細デザイン	1	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	
			2	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	
			3	詳細デザインの確認, 議論	同上	
			4	詳細デザイン原案作成	同上	
	実施設計図	施設	5	実施設計図の作成	同上	
			6	実施設計図原案決定	同上	
	施工	施工図	1	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	
			2	施工図の確認, 議論	施工図	
			3	施工図の原案作成	同上	
		使用材料 出来形	4	使用材料等の原案承認	使用材料サンプル, 原寸模型等	
			5	施工	出来形	
			6	施工状況の確認	同上	
			7	完成出来形の確認	同上	

図 5-26 デザインプロセスと実現構造の関係

## (2) 質の高いデザインを実現するためのプロセスとメカニズム

(1)のデザインプロセスと前節でまとめた質の高いデザインを実現するためのメカニズムの課題をそれぞれ当てはめてみると以下のような図になる。これは、デザインプロセスにおいて、どのタイミングで課題を乗り越えればよいかを示しており、かつその課題を乗り越えるためにアクターを機能させるためのガバナンスツールを重ねて表示したものであり、行政担当等の事業者が質の高いデザインを実現するための参考として用いることができると考える。

デザインプロセス				質の高いデザインを実現するメカニズムの制約条件					
プロセス	アウトプット	決定までのプロセス	検討, 決定対象	全体デザイン		施設デザイン			
				調和+一体性	統合性+一体性	舗装等、ストリートファニチャオリジナル	緑地等		
デザイン決定	全体デザイン コンセプト	1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等					
		2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項					
		3	コンセプトの確認, 議論	同上					
		4	コンセプト原案作成	同上	A1 一貫体制 B3 学識者助言 a3 調整会議		A1 デザイナー指名, 委員会設置		
	全体デザイン	5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	①都市軸と駅広の軸をそろえる再配置	①地域らしい新しいデザインを創出	A1 デザイナーへ委託 b3 学識者助言		
		6	全体デザインの確認, 議論	同上			a1 在来種採用 b3 個別助言		
		7	全体デザイン原案作成	同上	A1 デザイナー指名 b3 学識者助言				
	施設デザイン	8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	②-1都市構造の軸のコンセプトを具現化するデザイン力		①景観に配慮した新しいデザインを創出	①在来種等による調達可能な計画の立案	
		9	施設デザインの確認, 議論	同上			a1 コスト検証・調整		
		10	施設デザイン原案決定	同上	a3 調整会議		②行政内の関数の克服		
デザイン実施	施設詳細デザイン	1	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		A1 デザイン監修委託	b1 施設協力 b3 市民参加 A3 設計計算		
		2	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	②-2統一的なデザインを調整	②法令等に即した図面化	③オリジナルで事案の法令基準等への適用検証	②市民参加による維持管理性の担保	
		3	詳細デザインの確認, 議論	同上					
		4	詳細デザイン原案作成	同上			b3 市民参加の仕組み A1 会議設置		
	実施設計図	5	実施設計図の作成	同上		A3 統一図面, 仕様書			
		6	実施設計図原案決定	同上					
	施工	施工図	1	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	③統一的な図面, 仕様書等で発注		A1 現場監理委託 b1 施工協力	
			2	施工図の確認, 議論	施工図			④図面の実現	
		出来形	3	施工図の原案作成	同上			a1 コスト検証, 庁内調整	
			4	使用材料等の原案承認	使用材料サンプル, 原寸模型等				
5			施工	出来形			A1 現場監理委託 b1 施工調整	監 利活用促進	
6			施工状況の確認	同上					
7			完成出来形の確認	同上					

図 5-27 2) 質の高いデザインを実現するための検討プロセスとメカニズム

## 5.3 質の高いデザインの実現に寄与するガバナンスツール

事例分析を踏まえ、ガバナンスツールの分類ごとに事例で見られた有効な使い方について考察する。これらは、事例分析で見られたものであり、それぞれの事例の事業特性や特定の課題の中で機能していると考えられるため、今後の実際の事業で採用を検討する際には、各事業に合わせて有効性を確認する必要がある。

### 5.3.1 事業推進のためのガバナンスツール

#### (1) 公式ツール

法令等で明文化された事業推進のためのツールである。  
質の高いデザインを実現している事例では、主に A1 調達方式と A3 仕様書等がみられる。

#### 1) A1 調達方式 (法令等)

調達方式は、目指すデザインの質やプロセスに応じて最適なアクターが適切な契約方法で関わるようにするものである。本研究のデザインプロセスでは、随意契約、プロポーザル、設計競技、再委託等がみられた。

最も多いのは、質の高いデザインの根幹的な役割を担うデザイナーの調達である。大きく分けて、広く公募し最適なデザイナーを選定するものと実績やノウハウがあるデザイナーを指名するものがある。前者はプロポーザルや設計競技等で選定を行うが、事例分析で見たように、募集要項で目指すデザイン（地域のビジョン）や選定方法、選定基準が明確に記載され、適切に審査、運用されることが重要である。天理駅や日立駅のように事業主体となる行政が首長やその担当を含め、設計条件やその後のかかわり方も含めて明確にすることで質の高いデザインを実現しているものがみられる一方、設計競技の事務局と駅前広場整備の事業主体が異なる熊本駅西口ではその後のチェック機能の仕組みも含めてあいまいであったことから設計段階で条件を再定義する協議が繰り返されたり、供用後に拐取が必要になっている。

また、検討体制を構築する場合にも用いられている。駅前広場検討委員会等の委員会設置や学識経験者による助言などである。一般的には委員会等を設置する場合は設置要領や規約を作成し、委員会の役割を定めている。ほとんどの事例では「駅前広場のデザインに関する助言等」とあり、その検討の範囲と権限があいまいである。そのため、委員会のはじめに検討範囲の確認や委員によって意見の範囲が異なることもみられ、また権限があいまいなためにデザインの方向性や基本計画の素案までは委員会で確認するが、その後の実施プロセス、実施設計図の作成では委員会が関わらないことが多い。その場合、委員会の委員のうち、デザインの専門家が個別に助言を行っている例もあるなど、図面化や現場でのデザインの実現プロセスも非常に重要である。これらからも学識経験者の調達方式としても有効に活用することが望まれる。

#### 2) A2 事業形態 (補助制度等)

事業形態は、本研究の事例分析で対処とした基本設計以降のデザインプロセスでは、事前に事業特性として決まっているものであった。したがって、ガバナンスツールとして見



出したものはないが、今後の実践においてデザインプロセスを、事業形態を検討する構想段階まで広げれば、ガバナンスツールとしてコントロールすることができるようになる。

例えば、全体デザインの統合性として評価した天理駅は、古墳をモチーフとした地域ならではのオリジナルデザインを実現しており一定の評価を得ているが、対象範囲が環境空間のみであったため、その造形のオリジナリティの範囲が限られている。交通広場や駅周辺の地域活性化事業を含めた事業形態とすることで、そのデザインの効果が上げられたことが予想できる。できるだけ事業の早い段階から事業形態の範囲や、複合事業の関係を構築することでデザインの可能性を高めることが可能である。

### 3) A3 仕様書等 (業務特記等)

主に設計や施工の内容を明確にする特記仕様書として用いられる。設計においては、設計の対象範囲、設計条件、適用法令等、デザインの検討方法や選定方法（三案比較など）が記載されており、設計者等の関わる内容と方法が規定される。これらは設計費とも連動しているため、あいまいであると、必要な成果が得られなかったり、過剰な作業になったりするため、これまでの知見や経験などから適切な仕様書により、適正な価格で発注されることが重要であると考えられる。特に、デザインの場合は、模型やスケッチ、パース等を含め、質の高いデザインを検討、提示するために、様々な時間をかける必要もあり、仕様書があいまいであると報酬金額を超過してしまうこともある。本業務でヒアリングしたデザイナーからはアドバイザーや委員という位置づけであるが、実質的にデザイン検討を行っているため、ボランティアのようなものとの話も聞いている。

また、施工者にとっても、デザインを重視した事業は、現場での調整やデザイナーの確認など通常の施工よりも手間がかかる場合がある。そういったことも仕様書に記載することで、トラブルも少なくなってくると思われる。

## (2) 非公式ツール

法令等で明文化されていない、規範や慣習による事業推進のためのツールである。

質の高いデザインを実現している事例では、主に a1 組織規範、a3 調整会議がみられる。

### 1) a1 組織規範 (行政、地域、団体)

本研究では、質の高いデザインを実現するメカニズムを検討プロセスから分析したが、その際、標準でない製品や緑地等の樹種の採用にあたって、行政が持っている慣習や規範が検討や採用手続きに重要な機能を果たしているのがみられた。例えば、T 駅では行政担当から、デザイン要素それぞれについて、価格は標準単価の3倍まで、といった考え方を示して、既製品のアレンジを含む3案比較から選択する、といったデザインの評価を行政担当と受託コンサルタントの議事録で見ることができる。また、日向市駅の車道に採用された自然石縁石については、標準仕様にないため、現物を作って利用者の方を含む関係者で確認して採用する、といった検討プロセスも組織の持つ現地で試してみるという規範や組織文化によって事業が推進されていると考えられる。

また、行政だけでなく、建設産業を担う各メーカーにも設計者や行政担当に協力を行う商慣習があり、製品に関する情報提供のみでなく、景観性に優れた製品の実現のために既製品の部材構成や塗装色を調合するアレンジによって協力する場合や、オリジナルデザインの製作性、施工性に関するアドバイスや試作の試作への協力といったものがみられた。

これらから各組織の持つ質の高いデザインを目指す規範を有効に用いつつ、関係者との相互作用により、柔軟な運用や変更を行うことが重要であると考えられる。

## 2) a2 情報・相互参照（関連事業・先行事業）

先行事業や先進事例などの情報を積極的に取り込み、デザインの質の検討に反映するガバナンスツールであり、本事例分析では、関連事業や先行事業のデザインを参照し色彩を決めたN駅やデザインを駅舎と合わせるように指示や助言の見られる日向市駅やT駅などのように、直接的に関係機関や関係者と協議を行わなくても情報等を相互に参照し、それに配慮して検討を行うことで、周辺環境・構造物と調和や一体性のあるデザインを実現することができると考えられる。

## 3) a3 調整会議（関係者協議・会議）

関係者や委託者間での協議により調整を行う会議である。それぞれの事業主体や事業形態等の課題やルールを理解して調整する、非公式な調整が重要である。本研究では特に全体デザインの一体性の質の実現にあたっては、駅前広場の範囲、あるいはその周辺の街路空間まで、同じ舗装や車止め等のストリートファニチャーを統一の図面、仕様書にすることにより、一体性のあるデザインの実現が期待できる。

また、狭山駅では、設計段階において、一般的な学識者中心の委員会を設置するのではなく、発注者を含む設計者間でデザインの調整を行うことによって、駅前広場や周辺の街区との調和の取れたデザインの質が実現できている。

## 5.3.2 デザインの評価のためのガバナンスツール

### (1) 公式ツール

法令等で明文化された事業推進のためのツールである。

質の高いデザインを実現している事例では、主にB3景観計画等がみられる。

#### 1) B1 法令、基準（道路構造令、標準図）

駅前広場は、道路区域とされることが多いため、基本的に道路構造物であり、その適用法令基準は道路構造令が主となる。公共交通のためのシェルターなどが設置される場合は、構造物の設計基準としては建築基準法が適用されるが、建築確認の必要性はその扱いによって異なる。いずれにしても道路構造令をもとにした、標準図・標準仕様を自治体が持っていることが多く、一般的には標準図が用いられて施工が行われている。実施設計図面に表さなくてもよいとされている自治体もある。これらの標準図・標準仕様は社会資本がまだまだ不足していた時代に定められたものも多く、法令等のチェックの簡素化のための意味合いも持っている。ひとたび標準図・標準仕様を使わないとなると、その性能や利用性の確認が必要になる。そういった手間を惜しまず、法令基準に準拠した設計計算等に

よる確認や試作製作・実験等を行うことでオリジナルデザインの実現が可能であるため、ガバナンスツールとして有効に使うことが期待される。

## 2) B2 指針・ガイドライン（駅広指針，景観GL）

定性的なデザインの質の評価を客観的に行うために、先行する指針や景観ガイドライン等は有効である。ここでの指針や景観ガイドラインは、ある特定の地域のものでなく、日本全国を対象としたものを想定している。例として、建設省都市局都市交通調査室、日本交通計画協会、駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—では、駅前広場の計画手順を示しており、景観計画の考え方なども記載されている。また、「都市整備に関する事業」景観形成ガイドラインでは、市街地再開発事業における景観形成の意義や景観経営の視点を挙げている。これらは、駅前広場のデザインでも留意事項として有効であると考えられる。

## 3) B3 景観計画等（総合計画，景観条例等）

定性的なデザインの質の評価を客観的に行うために、先行する計画や行政の条例内容・手続き等は有効である。

T駅では、景観条例に定められた色彩の範囲に提案した塗装色が入っているか、また景観計画に記載されている文言が当該事業のデザインの方向性とあっているかの確認を行っている。また景観条例に定められた景観アドバイザーへの悲哀rんぐも行っており、おおむね問題ないとの見解を受領し、デザインの妥当性について評価されている。地域の景観計画では一般的に適用できる色彩の範囲を示していることが多いため、その数値内に収まっているかのチェックは有効である。一方で景観計画に記載のある地域の目指すべき景観形成やそのための方針等は、定性的な記載にとどまっていることが多く、その意図と当該事業が合致していることを判断することは困難である。そのため、景観審議会が設置されている場合や景観アドバイザーが選任されている場合には、その意図しているところをくみ取り、当該駅前広場の景観形成の方向性の確認をしていただくことが有効である。

### (2) 非公式ツール

法令等で明文化されていない、規範や慣習による事業推進のためのツールである。

質の高いデザインを実現している事例では、主にb1組織文化、b3直接支援がみられる。

#### 1) b1 組織文化（行政，地域，団体）

組織文化は、景観形成やデザインへの積極性や取り組み姿勢に大きく影響する。例えば、女川では、民間主導で漁業の町として育ってきた歴史から、復興まちづくりでも民間主導の会議や提言が先行し、行政がそれに追随するように計画に具現化し、市民にオープンなデザイン会議を設置して、地域との意思疎通とスピード感を持った事業が推進されている。また日向市では、三位一体事業により、先行して中心市街地活性化事業での各種委員会の議論や、土地区画整理事業でのストリートファニチャの試作実験などの経験が行政担当の景観形成への積極性や試してみようという組織文化が醸成されている。これらのこ

とからも、質の高いデザインを実現するには、そういった文化の醸成やあらかじめ文化を持つ組織の参画などが有効であると考えられる。ただし、組織文化は一つの事業で行政担当のみで醸成されるものではなく、コントロールすることが難しいことがあるため、ガバナンスツールとして有効に用いることができる場合は限られる。

## 2) b2 情報・相互参照（先進事例・歴史文化）

今までにないデザイン評価には先進事例との比較や地域の歴史文化の参照が有効である。特に地域の歴史文化を背景としたデザインを行うには、地域の歴史文化資源の情報やそれに対する住民の方の思いなどを知り、デザインに反映することが重要である。

また、質の高いデザインを実現した先進事例のデザインや仕組みなどを参照することも非常に重要である。具体的には仕様書や協議での指示として、歴史文化を参照すること、事例調査やヒアリング調査を行うこと、として示すことも可能である。

## 3) b3 直接支援（専門家レビュー、市民意見）

今までにないデザインの評価には専門家の参画した助言や利用者としての市民の意見が重要である。本事例分析でも、学識経験者等の助言、アドバイスは非常に多く見ることができた。委員会が設置されている場合でも委員会の場だけで議論し、決定することは困難であることが多く、事前に個別の協議したり、場合によっては定期的に景観分野の学識経験者と行政担当者、デザイナーや設計者が打ち合わせをすることもよくみられる。行政担当が、標準でない仕様のオリジナルデザインの採用を目指す場合やデザインの採用、デザイナーの特定、指名などでも専門家の直接的な支援は大変重要である。

また、市民参加による意見の提示やデザインに対する評価、特に緑地等の維持管理への参加は、質の高いデザインの実現にも大きな影響を与える。日向市では、シンポジウムや学校訪問、個別ワークショップなど、各種委員会のほかにも市民と意見交換する様々なチャンネル通いされており、そのために駅前の交流広場（芝生広場）の整備時には市民も意見交換に参加し、車いすのための園路の追加や維持管理段階の市民の参加などが実現されている。特に緑地等においては、行政側の維持管理の負担を市民が一部支援することにより、より緑豊かな、個性あふれる駅前区間の実現に近づくことができる。

したがって、直接支援は、行政担当やデザイナーと学識者、市民が非常に近い距離でデザイン実現の支援につながるため、市民参加の仕組みや個別助言の段取りなどは重要なガバナンスツールになりうる。

## 5.4 結論

本章では、第4章の事例分析でみられた質の高いデザインを実現した構造を、それぞれの検討プロセスが乗り越えた課題とそこに機能したアクターのあり方やガバナンスツールの内容を考察し、質の高いデザインを実現するメカニズムを明らかにした。

5.2では、第4章で抽出した実現構造を各デザインの質ごとに関係性を整理したうえでモデル化し、そのモデルの検討プロセスに対して課題を抽出し、それぞれの課題に対し、アクターがどのように行動したか、またガバナンスツールの関わりがどのように機能したかといった観点からメカニズムを考察した。

また、質の高いデザインを実現するメカニズムの使い方として、課題を乗り越える観点から見たメカニズムには、デザインプロセスにおける課題を乗り越えることと、それぞれの課題を乗り越えるためにアクターをどのように動かすか、その動き方を機能させるためにガバナンスツールをどのように使うか、が重要であると考えられることを示した。

さらに、そのメカニズムを第2章で整理したデザインプロセスに当てはめ、目指す質の高いデザインに応じて、どのデザインプロセスでどういった検討プロセスとそれを動かすガバナンスツールが重要かを示した。

5.3では、事例分析を踏まえ、ガバナンスツールの分類ごとに事例で見られた有効な使い方について考察した。これらは、事例分析で見られたものであり、それぞれの事例の事業特性や特定の課題の中で機能していると考えられる。今後の実際の事業で採用を検討する際には、各事業に合わせて有効性を確認する必要があるが、事例分析で見られたガバナンスツールについて、事業推進／デザイン評価と公式／非公式のツールとして、事例で見られた内容を紹介しながら、質の高いデザインを実現するための考え方を提示した。特に、A1調達方式におけるデザイナーや学識経験者等、各段階で最適なアクターの参加方法が重要であること、A3仕様書等で業務内容を明確にし、また学識委員会の権限も具体的に記載することでより良いデザイン検討業務なる考えを示した。

## 第6章 結論

## 6.1 本研究の成果

近年、少子高齢化や人口減少など、地域の活力の維持や持続可能性が問題になっている。そこでは地方創生や今後の地域間競争の生き残りをかけた質の高い社会基盤の整備・運営に期待されることも大きく、公共施設の老朽化に伴い、再整備やリノベーション等で、デザイン性を重視し、地域の活性化につなげる取り組みなどが行われている。中でも、質の高いデザインとして評価されている社会基盤の事例は、優れた造形だけでなく、地域のヴィジョンや新たな利活用などの価値の創造を実現している。また、令和元年の品確法の改正や土木設計競技ガイドラインの出版では、質の高い社会基盤における設計や設計者の選定の重要性が再認識されている。

一方で、優れた設計者が選ばれても、その後のさまざまな状況により、事業が中止となったり、供用後に改築が必要となるなどの例もみられ、公共施設として求められる質の高い社会基盤の実現のためには、設計段階以降のプロセスが重要であると考えられる。近年質の高いデザインの事例では、そのプロセスに従来の行政と設計者だけでなく、優秀なデザイナーや学識経験者に加え、市民など地域が参加し、デザインを検討し、合意形成している事例がみられる。これらは、多様な主体の相互作用やそれらを規律づける仕組みにより、質の高いデザインを実現するプロセスであり、ガバナンスの観点から捉えられる。

質の高い社会基盤デザインに関する既往の研究は、事例を中心とした具体的な構造物のデザイン検討のプロセスや評価に関するものが多く、また学識経験者や市民といった特定の組織や関係者の役割やマネジメントに着目して分析した研究はあるが、多様な主体の相互作用やそれらを規律づける仕組みといったガバナンスの観点から分析したものはない。

そこで、本論文においては、行政担当と建設コンサルタントだけでなく、住民、専門家、市民団体、地元経済団体等の関係者が参加することが多く、他事業との複合や、土木、建築、造園等の分野がみられる駅前広場整備のうち、主にデザイン賞等を受賞し質の高い社会基盤として評価されている事例を対象とし、デザインのプロセスを整理し、質の高いデザインの実現に当たって重要なプロセスを検討プロセスとして抽出したうえで、それぞれの検討プロセスのアクターに対し影響を与える要因のうちコントロール可能な要因としてのガバナンスツールと関与者群による実現構造と、それに影響を与える事業特性、及びアウトプットとしての質の高いデザインを配置した枠組みによる分析手法を提案した。また、ガバナンスの観点から見た事例分析では、全体デザインでは、調和や統合性といったデザインの質を実現するために都市構造との関係や地域らしさのデザインを公式な事業推進ツールと非公式なデザイン評価ツールを用いていることがわかった。各施設デザインでは、既製品とそのアレンジによる行政規範や組織文化といった非公式ツールを用いた景観性の実現と、法令基準に適合するよう仕様書等の公式ツールを用いて設計計算等の検証を行ったオリジナルデザインによる質の高いデザインの実現構造がみられた。さらに、事例分析結果をもとに、検討プロセスを質の高いデザインを実現するために課題を乗り越えるプロセスと捉え、目指すデザインの質に応じて事業のデザインプロセスに段階的に表れる検討プロセスとそれを乗り越えるためのガバナンスツールの組み合わせによるメカニズムを提案した。

本研究におけるガバナンスの観点から見た事例分析の結果は以下のとおりである。

- ① 一般的な事例では、検討プロセスが少なく、アクターも主に行政担当と建設コンサルタントの 2 者であり、主に行政からの指示により検討が行われている。行政担当はこれまでの慣習通り三案比較を含む仕様書等の公式事業推進ツールにより事業を推進し、建設コンサルタントがメーカー既製品・標準品から選択して作成した 3 案比較から、行政がコスト選択等の規範等の非公式デザイン評価ツールにより、デザイン評価が行われている。
- ② 一般的な事例に比較して質の高いデザインの事例では、検討プロセスが多く、内容に応じてアクターの役割と種類及び用いられるガバナンスツールが多様である。優秀なデザイナーを指名し目指すデザインを立案し、さらに質の高いデザインへとブラッシュアップする助言や確認をするために学識経験者の助言や委員会の設置、試作検証や現場監理など調達方式等の公式事業推進ツールが用いられる。さらに、製品の試作や現場での調整を行うことから、メーカーや施工者の協力を得るため、組織文化等の非公式事業推進ツールが用いられる。また、デザイン評価では、学識経験者や市民参加などの非公式デザイン評価ツールが用いられている。
- ③ 全体デザインでは、調和、統合性、一体性といったデザインの質がみられ、調和では、都市構造との関係、詳細デザインのプロセスを公式な事業推進ツールの委員会設置やデザイナー指名と非公式なデザイン評価ツールの学識経験者の助言で用いて実現し、統合性では、地域らしさのモチーフの立案とそのデザインの実現のプロセスを公式な事業推進ツールの調達方式を用いてデザイナーの指名とデザイン監修業務委託により実現している。また多くの質の高いデザインに共通してみられる一体性の質は、行政担当の要素ごとの統一的なデザインの採用と発注を公式非公式の事業推進ツールで実現されているものである。
- ④ 施設デザインのうち舗装等では、景観性とオリジナルデザインのデザインの質がみられ、それぞれ公式な事業推進ツールの仕様書と非公式な事業推進ツールの行政の規範により既製品の選択とアレンジによって景観性の質を実現するものと、公式な事業推進ツールのうち調達方法によりノウハウのあるデザイナーに委託し庁内の組織規範を非公式のデザイン評価ツールの組織文化や市民の直接意見を取り入れてオリジナルデザインを実現する構造を見出した。
- ⑤ 施設デザインのうちストリートファニチャでは、舗装等で見られた既製品の選択とアレンジと同様の実現構造と、オリジナルデザインでは法令に適合するための公式な事業推進ツールの仕様書や調達方式を用いて設計計算や現場監理を発注して実現している構造を見出した。
- ⑥ 施設デザインのうち緑地等では、必要な機能を確保した後に残る残地にこれまでの維持管理の慣習を適用した一般的なデザインの質と、非公式の事業推進ツールの組織規



範を用いて地域の気候風土に適した在来種等の採用と非公式のデザイン評価ツールの直接支援を用いた学識者や市民の評価・支持を受けた維持管理性の担保により気候風土に適した緑地デザインの実現を見出した。これに加えて、非公式デザイン評価ツールの市民参加の仕組みにより、愛着と誇りの醸成や地域の価値の創出に結びつける構造も見られた。

- ⑦ 類似する事例の比較から、優れたデザイナーの調達や継続的なコーディネーターの発注だけでは、質の高いデザインが担保できない事例があることから、学識経験者等による第三者のチェックや助言といった機能やコーディネートはデザインを調整するだけでなくデザイナーや設計者に修正を指示する権限を与える必要があることを明らかにした。

また、事例分析結果を踏まえ、質の高いデザインを実現するためのメカニズムを以下の通り明らかにした。

- ⑧ 検討プロセスを質の高いデザインを実現するために課題を乗り越えるプロセスと捉え、目指すデザインの質に応じてデザインプロセスに段階的に現れる課題とそれを乗り越えるためのアクターとその役割及びガバナンスツールの組み合わせによるメカニズムを明らかにした。
- ⑨ 調和を目指す全体デザインでは、都市構造との関係が課題であり、それを乗り越えるために、都市計画コンサルタント等を指名する調達方式（公式事業推進ツール）を用い、関係機関と調整・合意形成ができる委員会を調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置し、学識者等の助言（非公式デザイン評価ツール）によりその妥当性を判断するプロセスが必要である。
- ⑩ 統合性を目指す全体デザインでは、地域らしさを抽出しモチーフとしてデザインへの反映が課題であり、それを乗り越えるために、ノウハウのある優秀なデザイナーを調達方式（公式事業推進ツール）で選定し、その妥当性を確認・判断する委員会等を調整会議（非公式事業推進ツール）として設置することが必要である。
- ⑪ 一体性を目指す全体デザインでは、主に行政内や関係機関との共通するデザイン要素を統合の調整と決定した統一的内容を実施設計図や仕様書として工事発注時に統一することが課題であり、それを乗り越えるために、関係機関と調整・合意形成ができる委員会等を調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置することが必要である。
- ⑫ 各施設のデザインでは、景観性を重視したオリジナルデザインの質の実現のためには、標準仕様や既製品などの採用といった行政規範が課題であり、それを乗り越えるために、優れたデザイナーへの委託やその妥当性を評価する学識経験者を含む委員会等の設置、及びオリジナルデザインを図面化するための法令基準に則った仕様書に記載した設計計算や現場監理・デザイン監修業務（公式事業推進ツール）やメーカーの協力等

原寸模型や現場での社会実験によりその品質や利用性を評価（非公式デザイン評価ツール）することが必要である。

- ⑬ 緑地等デザインでは、供用後の維持管理が課題であり、それを乗り越えるために、市民参加による維持管理方法の確立が重要である。さらに地域の気候風土に根差したデザインとするために在来種の採用等が課題であり、それを乗り越えるために専門家の助言（非公式デザイン評価ツール）を受けたり地元の樹木を生産地まで確認に行くといった現場監理（公式事業推進ツール）が必要である。
- ⑭ 質の高いデザインを実現するメカニズムを有効に機能させるために、多様なアクターの相互作用を促進させる学識経験者やコーディネーターを配置した体制構築のための調達方式（公式な事業推進ツール）は事業の早い段階から現場まで一貫して用いること、デザイナーの選定を行った学識経験者は引き続きデザインの妥当性を評価しより質の高いデザインへと導く助言やチェック機能を発揮する仕様書等（非公式デザイン評価ツール）の有効な使い方の例を示した。

本論文では、質の高いデザインを実現するための課題とそれを乗り越えるためのガバナンスツールによるメカニズムを明らかにすることができた。

実際に事業を進める行政担当にとっては、このメカニズムを理解し、ガバナンスツールを有効に用いることで、目指すデザインの質の実現に役立つものとする。また、建設コンサルタント等が行政のパートナーとして事業の組み立てや推進を支援する際には、質の高いデザインの実現に向けたコンサルティングにも役立つものとする。

## 6.2 今後の研究課題

今後の課題は以下の通りである。

- ① 本研究では、質の高いデザインを実現している 17 事例を中心に、比較のため一般的な事例を 2 事例追加して、ガバナンスの観点から見たメカニズムの分析を行った。質の高い事例のメカニズムは一定程度明らかになったが、一般的な事例と比較して、どのようなアクターの行動やガバナンスツールが有効かについては、比較事例を増やして分析する必要がある。また、駅前広場整備事業を対象にしたため、その他の分野の事業でのメカニズムについても研究する必要がある。これらの研究により、どのような場合に、どのような方法で、どのようにメカニズムを発現させるのが良いか、より具体的な方法が明らかになると考える。
- ② 本研究では、質の高いデザインの実現のための検討ステップを乗り越えるべき課題と捉え、アクターがそれを乗り越える行動に影響を与えたり、支援する要因をガバナンスツールや関与者群と呼んだ。さらに、アクターがコントロールできないものを事業特性として実現構造の外に配置した。また、本研究は事例分析のため事例から明らかになったことを示しているが、今後実際の社会で実践していくには、事例の個別状況を超えて適用可能なツールの改良や開発、事業特性そのものを変えることによって乗り越えるべき課題のハードルを低くするなど、一般的な制度や体制、仕組みの改善が重要である。したがって、事例分析を一般化するとともに、現在の制度と照らし合わせ、改善すべき内容を研究することが必要である。また、本研究ではアクターの契約関係については具体的に触れられなかった。行政担当や関わったデザイナーへのヒアリングでは、デザイン検討や調整、監修といった作業内容に対して、業務の仕様書の内容や報酬金額がみあっていないことが推察された。今後、アクターの担う役割に応じて、責任と権限、報酬等の契約、及び市民参加、メーカー、地元産業の参画などを役割や検討プロセスに見合った制度に改善するための検討が必要である。
- ③ 本研究では、アクターに影響を与える要因に着眼して分析したが、やはりそのアクターでしか実現できなかったデザインの質との関係も大きいと考えられる。したがって、②で指摘した精度の改善とともに、アクターの質の向上、つまり人材育成も課題であると考えられる。例えば、デザイナーにとっては、全体デザインの調和の質の実現には都市計画的な素養や要素のレイアウトを調整する能力が必要であるし、統合性を実現するには地域らしさの特徴を関係者が合意できる形で新しいデザインに具現化するデザイン力も必要である。また、行政担当にとっては、本研究で示した検討ステップにおける課題を見つけ、乗り越えていくためにあらゆるツールを駆使する能力などが求められる。また、学識者や都市計画コンサルタントが担っていることが多かった事業全体のコーディネートも行政担当とともに民間側にも必要になってくると考える。

## 謝辞

東京大学大学院小澤一雅教授には、本研究全般にわたり、ご指導をいただいた。筆者が小澤教授に初めてご指導いただいたのは、2015年から2018年に設けられた土木学会建設マネジメント委員会公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン研究小委員会の土木設計競技ガイドラインについて研究、出版に向けた執筆活動においてであった。公共調達制度の観点から重要なご指摘をいただき、仕組みの重要性を改めて認識した。筆者はこれまで建設コンサルタントとして質の高い社会基盤デザインの実現を目指して調査設計業務に携わってきたが、10年続くプロジェクトを複数経験し、発注からの調査設計業務からのデザインでは限界も感じ、発注時の組み立てやその前段階でのプロセスなどの重要性を感じていたところであった。そのためコンサルタントの領域を超えて、学術的な研究から制度を含めて質の高いデザインを実現する方法を考えたいと小澤教授にお願いして、博士課程で学ばせていただいた。本研究で扱ったマネジメントやガバナンスなど、慣れない概念に対し、遅々として進まない理解と分析作業にいつも叱咤激励いただき、約100回の打合せをしていただき導いてくださった。改めて深く感謝申し上げたい。

東京大学大学院中井祐教授、出口敦教授には、ご多忙の中、本研究の審査をいただいた。中間審査、予備審査から、景観・デザインや都市デザインの観点から、ご経験に基づくご助言ご指導いただき、合わせて深く感謝申し上げたい。堀田昌秀教授、マエムラユウ講師には、同じマネジメントグループで毎週のランチゼミで学ばせていただくとともに、研究では意思決定や海外の研究との関係について多くのご指導をいただき、本研究の審査もしていただいた。改めて感謝申し上げたい。

勤務先の株式会社オリエンタルコンサルタンツの同僚の皆様には、2年間業務を少なくしていただき負担が大きくなったことと思う。ご支援ご協力いただき、深く感謝申し上げたい。会社の上層部にも研究の意義を認めて大学院に通わせていただいた。改めて感謝申し上げる。

また、19事例のヒアリングを快く受けていただいた、行政担当、学識経験者、デザイナー、建設コンサルタントの方々にも合わせて感謝申し上げたい。皆様のご協力、ご指導がなければ、本研究は成り立たなかった。

最後に、家族には本研究に取り組んでいる間、常に応援してもらった。ここに感謝したい。

2021年2月19日

## 参考文献

- 堀田昌秀・小澤一雅編，社会基盤マネジメント，技法堂出版，2015年，p. 1
- 篠原修，土木デザイン論，東京大学出版会，2003年，p. 128
- 佐々木葉，土木デザインの時代性と価値，土木学会論文集D3（土木計画学），Vol.167, No. 5  
（土木計画学研究・論文集第28巻），I\_1-I\_14，2011
- 芝田久，斎藤勝弘，池田隆太郎，目的別系譜図にみる景観研究の動向（08年から17年を対象として），土木学会論文集D 1（景観デザイン），Vol. 76, No. 1, 30-43，2020
- 辻喜彦，宮武哲信，出口近士：複数公共事業によるまちづくりプロジェクトマネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価，社会技術研究論文集，2010
- 大村瑛太，福島秀哉，内海ダム再開発事業にみる土木デザインの評価と景観検討の役割，土木学会論文集D 1（景観・デザイン），Vol. 76, No. 1, 94-111，2020
- 小野田泰明，加藤優一，畑悠：災害復興事業における計画実装と自治体の組織体制，日本建築学会計画系論文集，2015
- 土木学会デザイン賞HP <http://design-prize.sakura.ne.jp/>
- 山口敬太，福島秀哉，西村亮彦編，街を再生する公共デザイン，学芸出版社，2019
- 日本建築学会作品 賞の内容 <https://www.aij.or.jp/prize.html>
- 日本造園学会 2020年度 学会賞・奨励賞・田村剛賞の応募・推薦募集要項設計作品部門 <https://www.jila-zouen.org/award/11342>
- 「都市整備に関する事業」景観形成ガイドライン，2011年 p. 8
- デザイン学会誌「デザイン学研究・作品集」投稿規定 作品審査委員会  
<http://jssd.jp/ja/wp-content/uploads/2018/07/c66d03d7d0545f744bd39391600842a1.pdf>
- グッドデザイン賞 審査の考え方と方法 <https://www.gmark.org/guide/2020/guide2.html#guide2-7>
- 坂井文，小出和郎編著，英国CABEと建築デザイン・都市景観，鹿島出版会，2014年，P. 98
- 堀田昌秀・小澤一雅編，社会基盤マネジメント，技法堂出版，2015年，p. 8
- 建設超都市局都市交通調査室，日本交通計画協会，駅前広場計画指針—新しい駅前広場計画の考え方—，技報堂出版，1998年
- 太平洋プレコン工業株式会社HP：<https://www.t-pc.co.jp/product/>
- 曾根泰教，ガバナンス論—新展開の方向性—／岩崎正洋編著，ガバナンス論の現在，勁草書房，2011年
- 羽貝正美「コメント1 都市研究とガバナンス概念—都市行政学の視点から—」／馬場哲ほか，『二十世紀の都市ガバナンス』，晃洋書房 2019，p. 113
- 河野勝編，制度からガバナンスへ—社会科学における知の交差—，東京大学出版会，2006年  
東京大学社会科学研究所 全所的プロジェクト研究（2010年度—13年度）「ガバナンスを問い直す」<https://web.iss.u-tokyo.ac.jp/gov/project/>
- 伊藤修一郎，政策実施の組織とガバナンス 広告景観規制をめぐる政策リサーチ，東京大学出版会，2020年
- 伊藤修一郎，近藤泰史，ガバナンス論の展開と地方政府・市民社会—理論的検討と実証に

に向けた操作化一, 『ローカル・ガバナンスー地方政府と市民社会ー』 第1章, 木鐸社, 2010年

伊藤修一郎, ローカル・ガバナンスの現況と公共サービスへの効果, 『ローカル・ガバナンスー地方政府と市民社会ー』 第11章, 木鐸社, 2010年

Carmona M, Maglhaes C, Natarajan L, Design Governance the case experiment, routledge, 2017

<https://urbanmaestro.org/tools/>, UCL, UNITED NATIONS HUMAN SETTLEMENTS PROGRAMME, BOUWMEESTERMAITREARCHITECTE, URBAN MAESTRO, TOWARDS A EUROPEAN TYPOLOGY OF TOOLS FOR URBAN DESIGN GOVERNANCE, 2020

[https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01\\_hy\\_002577.html](https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_002577.html) 国土交通省本省内部部局 国土交通省都市・地位整備局, 景観形成ガイドライン「都市整備に関する事業」, 平成23年6月

国土交通省技術調査課, 国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針(案), 平成21年4月1日最終改定

建設省都市局都市交通調査室, 日本交通計画協会, 駅前広場計画指針ー新しい駅前広場計画の考え方ー, 技報堂出版, 1998年

(一社) 建設コンサルタンツ協会, 鉄道土木関係の調査・設計に関する報酬積算の手引き(改訂11版), 2018, P.66-71

(一社) 日本照明工業会, JIL 1003:2009「照明用ポール強度計算基準」

横浜市, 公園緑地施設標準図集, 平成30年4月(平成30年11月修正)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/nyusatsu/youshiki/kankyo/koenshiryo/download/1sekkeikijun-shiryu.files/zushuikkatsu3004-3011.pdf>

## 附録 事例概要と分析結果

I. 事例概要	2
(1) 旭川駅 駅前広場	2
(2) 日向市駅 駅前広場	5
(3) 恵那駅 駅前広場	9
(4) 東京駅 丸の内駅前広場	12
(5) 女川駅 駅前広場	15
(6) 富山駅 南口駅前広場	18
(7) 天理駅 駅前広場	21
(8) 南万騎が原駅 駅前広場	24
(9) 姫路駅 北駅前広場	27
(10) 西鉄柳川駅 西口駅前広場, 東口駅前広場	31
(11) 狭山市駅 駅前広場	35
(12) 北本駅 西口駅前広場	38
(13) 熊本駅 西口駅前広場	42
(14) 日立駅 駅前広場	45
(15) 博多駅 博多口駅前広場	48
(16) 長野駅 善光寺口駅前広場地区	51
(17) 福井駅 西口駅前広場	54
(18) N駅 駅前広場	58
(19) T駅北口駅前広場	61
II. 事例分析	64
(1) 旭川駅 駅前広場	64
(2) 日向市駅 駅前広場	69
(3) 恵那駅 駅前広場	74
(4) 東京駅 丸の内駅前広場	78
(5) 女川駅 駅前広場	83
(6) 富山駅 南口駅前広場	88
(7) 天理駅 駅前広場	93
(8) 南万騎が原駅 駅前広場	98
(9) 姫路駅 北駅前広場	103
(10) 西鉄柳川駅 西口駅前広場, 東口駅前広場	108
(11) 狭山市駅 駅前広場	113
(12) 北本駅 西口駅前広場	118
(13) 熊本駅 西口駅前広場	123
(14) 日立駅 駅前広場	128
(15) 博多駅 博多口駅前広場	134
(16) 長野駅 善光寺口駅前広場地区	139
(17) 福井駅 西口駅前広場	145
(18) N駅 駅前広場	150
(19) T駅北口駅前広場	155

## I. 事例概要

### (1) 旭川駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：旭川市 整備面積：駅前広場（約2.2ha）、多目的広場（約0.38ha） 事業名：旭川駅周辺土地区画整理事業 事業期間：平成8年度～平成26年度	
<b>2) ヒアリング</b>	
① 日時：令和2年2月10日（月）10：30～12：02 場所：旭川市役所 第三庁舎3階第5会議室 対象：旭川市土木部次長（H10～拠点整備部駅周辺整備課担当⇒係長）、旭川市地域振興部都市計画家課長補佐（H20～）、旭川市地域振興部地域振興課主査（当時は別部署、窓口）  ② 日時：令和2年2月3日（月）15：00～16：10 場所：法政大学 T教授室 対象：法政大学 デザイン工学部教授、当時日本都市総合研究所	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤源他、北のセントラル・ステーションアーバンデザインの四半世紀、鹿島出版会、2016</li> <li>・加藤源、都市再生の都市デザインプロセスと実現手法、学芸出版会、2001</li> </ul>
3. 表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度 都市景観大賞「都市空間部門」受賞地区の概要</li> </ul>
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心ルネッサンス北彩都あさひかわ パンフレット 2018.11</li> <li>・航空写真 平成27年7月</li> <li>・北彩都あさひかわ 完成記念誌 平成28年3月 旭川市</li> <li>・キーパーソン、役割分担</li> <li>・調査等委託実施状況一覧 平成4年度～10年度</li> <li>・駅前広場の検討経緯</li> <li>・その他閲覧資料（写真撮影）</li> <li>・北彩都あさひかわのあらし 旭川駅周辺開発整備計画 平成23年（2011）7月 旭川市</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北彩都あさひかわまちづくり計画調査報告書 平成13年3月（株）日本都市総合研究所</li> <li>・北彩都あさひかわまちづくり事業推進調査報告書 平成13年3月（株）日本都市総合研究所</li> </ul>



4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	1992年都市拠点総合整備事業整備計画調査委員会 1994年旭川市都市拠点地区まちづくり計画調査委員会
計画	1996年鉄道高架、土地区画整理事業、関連街路事業など都市計画決定 旭川駅舎・鉄道高架景観検討委員会
設計	2000年北彩都あさひかわまちづくり推進会議設置 2007年（平成19年）からレイアウトパターンを検討。 広場スペースを買物公園軸に沿う形で軸上に設ける形に。 シェルターは駅舎設計の内藤事務所により一体的なデザイン検討。
施工	
供用	2014年駅前広場全面供用開始 北彩都あわひかわ完成記念式挙行

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	ドーコン（指名競争入札）	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	デザイン事務所（内藤、DM）	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	駅前広場の検討懇談会	
4	コンセプトの原案作成	同上	北彩都あさひかわまちづくり推進会議	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイン事務所（内藤、DM）	まちづくり推進会議を中心に各委員会で議論
6	全体デザインの確認, 議論	同上	駅前広場の検討懇談会	
7	全体デザインの原案作成	同上	北彩都あさひかわまちづくり推進会議	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイン事務所（内藤、DM）	駅舎や地区全体のランドスケープとの一体性を重視して、内藤、D+Mで連携して検討。コスト面での制約から多くの取捨選択を余儀なく。
9	施設デザインの確認, 議論	同上	北彩都あさひかわまちづくり推進会議	
10	施設デザインの原案作成	同上	庁内会議	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	ドーコン（指名競争入札）	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	デザイン事務所（内藤、DM）	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	駅前広場の検討懇談会	
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上	庁内会議	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	拠点整備部 駅周辺整備課	事業の推進、庁内外の調整	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関	国、道	複合事業の事業者	すべて
		JR 北海道	駅舎事業者	同上
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	商工会議所	各種委員会参加、意見書提出	〃
		市民	各種委員会参加、パブコメ、シンポ、舗装実験参加	〃
設計者	建設コンサルタント	ドーコン他	橋梁設計、駅前広場設計	設計段階
	都市計画コンサルタント	日本都市総合	統括、構想立案、調整	すべて
	デザイナー	PWWJ	マスタープラン	構想段階
		内藤、D+M	駅舎、シェルター、ランドスケープ	設計段階
財団法人				
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン	篠原	土木アドバイザー	すべて
	まちづくり・住民参加・交通	大家、小林、辻井	建築、都市、植物アドバイザー	〃

(2) 日向市駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
<p>事業主体：日向市          整備面積：東口5297㎡，西口4030㎡          事業名：日向市駅周辺地区土地区画整理事業          事業期間：平成18年～平成21年</p> <p>ただし，本事業は連続立体交差事業と商業集積事業との三位一体事業として平成8年から進められている．本研究では，駅前広場が分析の中心対象であるが，駅前広場を含む地域の目標像や導入機能，配置，規模等は平成18年より以前の土地区画整理事業に関する委員会で決められているため，分析対象としては，関連事業を含む事業，期間，区域を対象とする．</p>	
<b>2) ヒアリング</b>	
<p>日時：平成31年4月18日（月）13：00～14：30          場所：日向市役所 会議室          対象：日向市総務部資産経営課課長（当時係長），日向市建設部市街地整備課中心市街地活性化推進室街なか整備係係長（当時担当），日向市建設部市街地整備課中心市街地活性化推進室街なか整備係主任技師（窓口），日向市建設部市街地整備課中心市街地活性化推進室街なか整備係技師</p>	
<b>3) 収集資料</b>	
<p>事業記録誌や事業のプロセスをまとめた文献，ホームページ（HP）より表彰等の講評，その他公開資料などが多く収集することが出来た．また，事業誌などは行政の当時の担当者へのヒアリング時に入手した．</p>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議，成果，業務発注等</b>
1. 事業記録誌	1-1. 宮崎県，JR日豊本線日向地区連続立体交差事業記録誌，平成19年7月（ヒアリング時に貸与）
2. 文献	1-2. 日向地区都市デザイン会議，市民・行政・専門家の協働による駅を中心としたまちづくり～日向市駅周辺地区におけるまちづくりと連続立体交差事業の記録～，2007年6月（ヒアリング時に貸与）
3. 表彰	3-1. 「都市景観の日」実行委員会，平成26年度都市景観大賞「都市空間部門」受賞地区の概要及び「景観教育・普及啓発部門受賞団体の活動の概要（HP） <sup>10)</sup> 3-2. 土木学会デザイン賞，2014年最優秀賞日向市駅及び駅前周辺地区デザイン（HP） <sup>11)</sup>
4. 公開資料	4. 国土交通省，良好な道路景観と賑わい創出のための事例集 日向市駅駅前広場（HP） <sup>12)</sup>
5. 報告書等	5. 設計業務報告書（ヒアリング時に閲覧）

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議，成果，業務発注等
構想 H8～10	日向市まちづくり委員会 中心市街地活性化基本計画策定委員会 日向地区全体の景観基本構想 土地区画整理事業都市計画決定（H10）
計画 H11～13	TMO構想策定委員会，街なか魅力拠点整備委員会 鉄道高架・駅舎デザイン検討委員会 都市デザイン会議（駅前広場空間基本デザイン） 土地区画整理事業認可（H11）
設計 H14～17	街並み景観づくり協議会，ふる顔委員会 駅周辺地区駅前広場整備検討委員会 都市デザイン会議（駅広詳細設計デザインチェックアドバイス）
施工 H18	まち育てグループ，景観研究会 日向地区 都市デザイン会議（駅広設計監理）
供用 H19	新駅開業式・西口駅前広場完成式典

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト，配慮事項	デザイナー	
3	コンセプトの確認，議論	同上	学識者，WG	
4	コンセプトの原案作成	同上	駅前広場整備検討委員会 日向地区都市デザイン会議	
5	全体デザインの検討	空間構成，空間イメージ	デザイナー	
6	全体デザインの確認，議論	同上	学識者，WG	
7	全体デザインの原案作成	同上	駅前広場整備検討委員会 日向地区都市デザイン会議	
8	施設デザインの検討	シェルター，ベンチ，舗装，照明，サイン，植栽その他施設の形状，配置及び機能等	デザイナー	
9	施設デザインの確認，議論	同上	学識者，WG	
10	施設デザインの原案作成	同上	駅前広場整備検討委員会 日向地区都市デザイン会議	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認，必要な資料収集整理	建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	デザイナー，コンサルタント	
13	詳細デザインの確認，議論	同上	学識者，WG	
14	詳細デザインの原案作成	同上	駅前広場整備検討委員会 日向地区都市デザイン会議	
15	実施設計図の原案作成	同上	行政	
16	施工計画書，施工図の作成	実施設計図の確認，施工条件の確認，施工計画図，施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認，議論	施工図	デザイナー	
18	施工図の決定	同上	デザイナー	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	デザイナー	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	デザイナー	
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	市街地整備課	推進	すべて
議会	議会	市議会	承認	すべて
関係機関	関係機関	県都市計画課	連続立体交差事業の事業主体	すべて
		鉄道事業者	連立事業の鉄道施設事業者	すべて
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	市民	シンポジウム参加	すべて
		U氏（木材団体）	プロダクト設計施工協力	設計～施工
設計者	建設コンサルタント	F コンサルタント	計画・設計	設計
	都市計画コンサルタント	S氏，T氏	計画検討・調整・支援	すべて
	デザイナー	O氏	駅広デザイン，現場デザイン監修，小特別授業講師	設計～施工
		N氏	プロダクトデザイン，小学校特別授業講師	設計～施工
	財団法人	財団	会議運営	すべて
施工者	施工会社		施工	施工
学識者	景観・デザイン	S教授	統括	すべて
	まちづくり・住民参加・交通	D准教授，Y准教授	調整・助言	すべて

意思決定プロセスの把握

日向市駅における「デザイン決定」とその「デザイン実施」は以下の方法により把握した（収集資料2-1）。

日向市の例では各事業段階で委員会等の会議が開催され，それぞれの委員会の目的と検討段階に応じて議題が設定され議論が積み重ねられている。また，2-1新・日向市駅では，駅前広場のデザイン検討のデザイナーO氏とS教授のやり取りが掲載されている。したがって，日向市の例では主な検討項目の確認とデザイン検討の経緯によってデザイン原案作成を把握した。

デザイン決定後のデザインプロセスは，2-1新・日向市駅の経緯に，設計段階ではFコンサルタントが執筆した項にデザイナーとデザイン監修のやり取りが振り返られており，施工段階ではデザイナーO氏や行政担当者の振り返りに施工時の実施プロセスが述べられていることから，把握した。

デザインプロセスの把握

デザイン決定後のデザインプロセスは，2-1新・日向市駅の経緯に，設計段階ではFコンサルタントが執筆した項にデザイナーとデザイン監修のやり取りが振り返られており，施工段階ではデザイナーO氏や行政担当者の振り返りに施工時の実施プロセスが述べられていることから，把握した。

## デザイン決定段階

分析資料2-1からは以下の記述がみられる。

- ・平成14年春、木製ファニチャーワーキングの開催
- ・地場産材を使用した街頭や車止め、ベンチの設計をワーキングで具体化。
- ・県、市、施工業者、メーカー、地場産業が集まり、樹種、仕上げから加工技術まで議論し、実験し原案を決定。
- ・平成15年10月に地元主導のため、市民・事業者等が参加した市主催、D准教授を座長とする駅前広場整備検討委員会が設置。
- ・平成16年8月にO教授との打ち合わせで、O教授からデザインの専門家としてデザイナーのO氏を指名した。
- ・10月21日デザイン会議にデザイナーが検討した基本レイアウトを指名したコンセプト図とコンセプトを提示。会議での確認、議論を経て、原案作成。
- ・平成17年2月15日O教授の打ち合わせでO教授からデザイナーO氏へデザインへのアドバイス。
- ・6月13日駅前広場ワーキングで全体イメージスケッチをデザイナーから提示し、ワーキングで確認、議論。

以上の記述と収集資料1-1の委員会等の開催日程や議題を参照し、以下の通りプロセスをまとめられる。

設計段階のH17年度では、6月に駅前広場整備策定ワーキング（主な検討項目：広場空間、ユニバーサルデザイン、ファニチャーデザインなどの詳細）、8月に駅前広場整備検討委員会（主な検討項目：ワーキングと同）、9月に都市デザイン会議（主な検討項目：駅舎、高架橋と合わせて駅前広場デザインのうち舗装等）があり、ワーキング、駅広委員会で詳細な議論の上、都市デザイン会議で報告されている。したがって、デザイナーのO氏が都市デザイン会議、駅広委員会・WG及び個別打合せで学識者からの助言を受け、デザインをブラッシュアップし、日向ならではの駅前広場、交流広場、ストリートファニチャーのデザインを立案し、会議で原案が作成されたと把握した。

## デザイン実施

### 実施設計図作成

平成18年

- ・プロポーザルで選定された建設コンサルタントの再委託先としてデザイナーが参画。
- ・より硬質なバリアフリーを目指す日向駅の駅前広場には国土交通省の標準型はふさわしくないとの意見が多く、新たな日向オリジナル縁石と誘導ブロックを検討することになった。
- ・実際体験しないとわからない、として行政担当が実物を作成し実験し、ワーキングメンバーのほか、障害者団体の方にも体験してもらい詳細デザイン原案を作成。
- ・ストリートファニチャーのロアデザインについてワーキングメンバーに何度も提示し最終的に実物大の案内板の模型を設置し、参加者の意見を合意形成した。

### 施工

- ・工事打合せで各工事の調整を実施
- ・個別にデザイナーが樹木の確認（イメージが違い樹種を変更も）、現場で緑地の造成形状の指示
- ・現場でデザイナーが確認して直しや設計変更なども実施
- ・行政幹部が行政担当者をバックアップ。

以上の記述と収集資料1-1の委員会等の開催日程や議題を参照し、以下の通りプロセスをまとめられる。

デザイン決定の後、O氏のデザインをもとに、ディテールに関する設計検討をO氏と協議しながら、Fコンサルタントの実実施設計図の作成が行われた。施工現場では、デザイナーのO氏が出席した工事打合せで各工事の調整が行われ、各タイミングで線形や樹木の選定、芝生の起伏の確認などが行われた。

(3) 恵那駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：恵那市 整備面積：(L=209m) 事業名：恵那駅前広場整備事業 事業期間：平成20年度～21年度	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年11月6日(水)9:00～10:30 場所：恵那市役所3階会議室 対象：恵那市建設部建設課長(当時, まちづくり事業課担当), 恵那市建設課事業第2係 係長	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議, 成果, 業務発注等</b>
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市再生整備計画(恵那中央地区)</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵那駅前広場の利用の改善方策について(諮問)平成19年2月1日(資料⇒恵那駅前広場利用検討委員会委員長)</li> <li>・全建ぎふ賞推薦書</li> <li>・アンケート配布回収調査</li> <li>・恵那駅前広場利用検討委員会報告書 平成19年12月</li> <li>・駅前広場 設計見直しへ 中日新聞 2007年7月14日</li> <li>・計画平面図、シェルター建築工事図面</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	
計画	恵那駅前広場の利用の改善方策について(諮問) 恵那市長平成19年2月 恵那駅前広場利用検討委員会報告書 平成19年12月
設計	
施工	H22.9月—H22.12月(バスシェルター建築工事)
供用	H22 8月: 恵那駅前広場改修完成 H23 1月: 恵那駅前広場木製シェルター完成

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	地元都市計画コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項		
3	コンセプトの確認, 議論	同上	利用検討委員会	
4	コンセプトの原案作成	同上	利用検討委員会	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ		
6	全体デザインの確認, 議論	同上	利用検討委員会	
7	全体デザインの原案作成	同上	利用検討委員会	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	地元都市計画コンサルタント	
9	施設デザインの確認, 議論	同上		
10	施設デザインの原案作成	同上		
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	地元都市計画コンサルタント 行政担当 建築設計	設計まで都市計画コンサルタント
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	景観アドバイザー	
14	詳細デザインの原案作成	同上	行政担当	景観アドバイザーの意見を受けて、一部修正行政担当 バスシェルターは建築家
15	実施設計図の原案作成	同上	行政担当	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図	行政担当, 建築設計者	
18	施工図の決定	同上	行政担当	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	同上	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	行政担当, 建築設計者	バスシェルター部
22	出来形の決定	同上	同上	



5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	建設課	事業の推進、景観アドバイザーの意見を受けた修正設計	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体			
設計者	建設コンサルタント			
	都市計画コンサルタント	地元都市計画コンサルタント	委員会の意見を受けた計画作成、設計	計画設計
	デザイナー	建築家	バスシェルター設計	設計
	財団法人			
施工者	施工会社	施工者	バスシェルターを地元産木材、地元大工が製作	施工
学識者	景観・デザイン	景観アドバイザー	工事直前での景観面のアドバイス	施工
	まちづくり・住民参加・交通	恵那駅前広場利用検討委員会	バリアフリーの観点から改修計画を作成	計画

(4) 東京駅 丸の内駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：東京都、JR東日本 整備面積：丸の内中央広場（6,500㎡）、交通広場（北部5900㎡、南部6300㎡） 事業名：東京駅丸の内広場及び行幸通り整備事業 事業期間：工事：平成27年3月～29年12月	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和2年1月7日（火）13：00～14：00 場所：GSデザイン会議 対象：東京駅トータルデザインフォローアップ会議座長（GSデザイン会議代表）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議，成果，業務発注等</b>
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	グッドデザイン賞2018
4. 公開資料	東京都 主要事業の施行状況報告書 平成28年9月30日 国土交通省道路局 良好な道路景観と賑わい創出のための事例集 東京都行幸通り
5. 報告書等	トータルデザインフォローアップ会議 資料

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	H16. 東京駅丸の内口トータルデザイン検討会報告書とりまとめ
計画	H17. 東京駅丸の内口トータルデザイン・フォローアップ会議設立
設計	具体計画の作成はコンサルタントに委託
施工	
供用	H22. 行幸通り竣工 H24. 東京駅丸の内駅舎（赤レンガ駅舎）開業

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	東京駅丸の内周辺トータルデザイン検討会	東京駅丸の内周辺トータルデザイン検討会で、「風格ある首都東京の顔を創出する」としている。
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項		
3	コンセプトの確認, 議論			
4	コンセプトの原案作成			
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ		
6	全体デザインの確認, 議論	同上		
7	全体デザインの原案作成	同上		東京駅丸の内周辺トータルデザイン検討会で、「デザインガイドライン」が作成
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	トータルデザインフォローアップ会議	対象エリアを一体的にデザインする観点から、今後各整備主体顎堤する具体の整備計画において、施設デザインの協議・調整を行う組織、トータルデザインフォローアップ会議を設置する。
9	施設デザインの確認, 議論			
10	施設デザインの原案作成			
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	トータルデザインフォローアップ会議 WG	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等		
13	詳細デザインの確認, 議論			
14	詳細デザインの原案作成			各事業者
15	実施設計図の原案作成			各事業者
16	施工計画書, 施工図の作成		実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	各事業者
17	施工図の確認, 議論	施工図	トータルデザインフォローアップ会議 WG	
18	施工図の決定	同上	各事業者	トータルデザインフォローアップ会議 WG 委員がフォローアップ
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上		

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	東京都都市整備局	プロジェクト全体の取りまとめ
議会	議会		
関係機関	関係機関	千代田区	事業者
		JR 東日本	事業者
		三菱地所	事業者
		東京地下鉄	事業者
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体	大丸有協議会	地元地権者
設計者	建設コンサルタント	三菱地所設計 JR 設計	
	都市計画コンサルタント		
	デザイナー	O 氏、N 氏	デザインワーキング構成員
		H 氏	フォローアップ会議構成員 ランドスケープデザイナー
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	S 教授、N 教授、N 助教授	フォローアップ会議構成員 デザインワーキング構成員
	まちづくり・住民参加・交通	S 教授、K 教授	フォローアップ会議構成員 歴史、都市計画

(5) 女川駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：女川町 整備面積：駅前広場900㎡、(プロムナード「レンガみち」総延長170m) 事業名：女川町震災復興事業 事業期間：2013年4月～2016年12月	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和2年1月28日（火）13：00～15：00 場所：女川町役所 3階復興推進課打合せコーナー 対象：女川町復興推進課基盤整備係係長（窓口）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	女川 復幸の教科書 PRESSART
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度女川町復興まちづくり整備事業コーディネート業務委託仕様書</li> <li>・女川町復興まちづくりデザイン会議設置規約</li> <li>・女川町復興まちづくりデザイン会議の設置について 概要</li> <li>・女川復興まちづくりデザイン会議の概要 PPT</li> <li>・体制図 シンボル空間に関する関係図 牛木別途受領分</li> <li>・景観形成・保全の取り組みに関する調書</li> </ul>
5. 報告書等	

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	
計画	2011年 女川町復興計画議決 (町議会) 2013年 被災市街地復興土地地区画整理事業の認可 2014年 「女川まちまち中再生計画」認定 (被災地第一号)
設計	2013年 女川町復興まちづくりデザイン会議
施工	
供用	2015年 おながわ復興まちびらき2015春 (女川駅開業)

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	デザイン会議の専門家	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	デザイン会議の専門家	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	検討部会	
4	コンセプトの原案作成	同上	デザイン会議	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイン会議の専門家	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	検討部会	
7	全体デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイン会議の専門家	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	検討部会	
10	施設デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等		
13	詳細デザインの確認, 議論	同上		
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上	庁内会議	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	復興推進課	事業推進	すべて
議会	議会	議会	復興計画議決	構想
関係機関	関係機関	復興庁		
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	復興連絡協議会	復興提言書提出	計画
		まちづくりワーキンググループ		計画～
設計者	建設コンサルタント	中央復建コンサルタンツ	コーディネート業務	すべて
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー	O氏		計画～
		U氏		計画～
財団法人	UR都市機構	事業協定	すべて	
施工者	施工会社	CMR		設計～
学識者	景観・デザイン	復興まちづくりデザイン会議	町長を含みデザインに関する意思決定	計画～
	まちづくり・住民参加・交通			

(6) 富山駅 南口駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：富山市 整備面積：駅前広場 北口10,100㎡、南口12,000㎡、西口5000㎡ 事業名：富山駅周辺地区土地地区画整理事業 事業期間：平成17年度（都市計画決定）～平成30年度（31年3月）	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年12月3日（火）13：30～15：00 場所：富山市役所 7階活力都市創造部会議室 対象：富山市活力都市創造部富山駅周辺地区整備課副主幹（窓口）、富山市活力都市創造部次長（技術担当）（当時担当）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議、成果、業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山駅周辺景観デザイン計画案作成業務のプロポーザル結果</li> <li>・ 富山駅周辺地区整備計画及び基本設計業務委託業者選定委員会</li> <li>・ 景観デザイン検討委員会第2回資料抜粋（検討体制、景観デザイナー選定方式）</li> <li>・ 富山駅付近連続立体交差事業（県パンフレット）</li> <li>・ 検討委員会の概要</li> <li>・ 富山駅周辺整備事業の概要（市パンフレット）</li> <li>・ 富山駅周辺地区「南北一体的なまちづくり事業」過去の経緯</li> <li>・ 富山駅周辺整備について～南北一体的なまちづくり～（視察説明用PPT資料）</li> <li>・ 事業化の経緯とスケジュール（案）H24.8.30</li> <li>・ 富山駅周辺整備事業の検討体制</li> <li>・ 協議会委員名簿</li> <li>・ 富山駅周辺整備事業推進協議会委員名簿</li> </ul>



4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想 H15～H16	「富山駅周辺整備協議会」 ・富山周辺整備の基本方向 ・富山駅周辺の都市交通施設整備方針 ・富山駅周辺のまちづくり方策
計画 H18～	「富山駅周辺整備事業推進協議会」 ・駅前広場等の公共施設計画 ・駅周辺地区土地利用計画
設計 H18～H23	「富山駅周辺景観デザイン検討委員会」 ・駅周辺景観基本方針 ・駅周辺景観デザイン計画
施工	
供用	

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	都市計画コンサルタント (UDC)	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	都市計画コンサルタント (UDC)	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	富山駅周辺景観デザイン検討委員会	
4	コンセプトの原案作成	同上	富山駅周辺景観デザイン検討委員会	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイナー (デザイン計画案作成業務プロポ参加者)	
6	全体デザインの確認, 議論	同上		
7	全体デザインの原案作成	同上	富山駅周辺景観デザイン検討委員会専門部会 (審査)	プロポーザルでデザイナー選定
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイナー (デザイン計画案作成業務プロポ特定者)	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	富山駅周辺景観デザイン検討委員会専門部会	
10	施設デザインの原案作成	同上	富山駅周辺景観デザイン検討委員会	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	建設コンサルタント	デザイナーがフォロー
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	合同会議	
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上	庁内会議	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	活力都市創造部	
議会	議会		
関係機関	関係機関	JR	
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体		
設計者	建設コンサルタント	PCKK	整備計画及び基本設計プロポ特定者 計画～
	都市計画コンサルタント		
	デザイナー	O氏	プロポ特定者、デザイン基本計画 計画～
		建築家 N氏	計画～
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	景観デザイン検討委員会	基本方針の決定、専門部会でデザイナー選定 計画
	まちづくり・住民参加・交通		

(7) 天理駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：天理市 整備面積：8000㎡（広場、緑化施設） 事業名：地域生活基盤施設（広場）、高質空間形成施設（緑化施設等） 事業期間：平成26年度～平成29年度	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：平成31年4月22日 場所：天理市 対象：総合政策課 街づくり推進係、総合政策課 課付課長、総務課 文書行政係 環境経済部 参与（当時担当）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	ランドスケープデザイン2018年4月 商店建築2017年11月 ブレイン2017年8月 AXIS 日経アーキテクチャ2017年7月13日号
3. 表彰	
4. 公開資料	
5. 報告書等	天理駅前広場コフフン H31.2 天理市総合政策課コフフンにぎわい推進室 天理駅前広場空間整備工事（南ゾーン）監理業務委託 公募型プロポーザル 実施要領 平成28年2月1日 天理駅前広場空間整備工事（南ゾーン）デザイン監修業務委託仕様書 平成26・27年度天理駅前広場空間整備工事（南ゾーン）基本・実施設計業務 委託

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	H26.3 天理駅周辺地区まちづくり協議会準備会 H26.4 第1回開催
計画	H26.5 空間デザインプロポーザル H26.7 市民フォーラムでプロポール案お披露目
設計	H27.3 設計開始 (シードコンサルタント)
施工	
供用	H29.4-6 駅前広場オープニング月間

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	行政担当 (天理市総合政策課総括係)	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	デザイナー (プロポ参加者)	
3	コンセプトの確認, 議論	同上		
4	コンセプトの原案作成	同上	審査員 (行政)	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイナー (プロポ参加者)	
6	全体デザインの確認, 議論	同上		
7	全体デザインの原案作成	同上	審査員 (行政)	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイナー (プロポ特定者)	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	まちづくり協議会	
10	施設デザインの原案作成	同上	行政	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント (入札)	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	デザイナー	デザイン監修
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	設計打合せ	
14	詳細デザインの原案作成	同上	デザイナー	
15	実施設計図の原案作成	同上	建設コンサルタント (入札)	設計
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	デザイン監修
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上	行政担当検査官	
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上		

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	総合政策課 市長	事業推進 地域との対話	
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体	天理駅周辺地区街 づくり協議会	意見交換、要望、デザイン審査	計画～
		にぎわいづくり作 業部会	利活用検討	設計
設計者	建設コンサルタント	シードコンサル タント	実施設計	
	都市計画コンサル タント			
	デザイナー	Nendo 佐藤オオキ	デザイン立案、デザイン監修	計画以降
	財団法人			
施工者	施工会社	施工者		施工
学識者	景観・デザイン			
	まちづくり・住 民参加・交通			

(8) 南万騎が原駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：株式会社相鉄アーバンクリエイツ 整備面積：1,500㎡ 事業名：南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト 事業期間：2014年度～2015年9月第一期開業	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年11月15日（金）9：30～11：30 場所：相鉄ホールディングス本社 7階会議室 対象：相鉄ホールディングス株式会社経営戦略室第三統括担当課長（窓口）、株式会社相鉄ビルマネジメント横浜エリア事業部横浜営業所アシスタントマネージャー（当時相鉄アーバンクリエイツでプロジェクトチーム員）、横浜市建築局住宅部住宅再生課担当係長	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議，成果，業務発注等</b>
1. 事業記録誌	
2. 文献	みなまきみらい／相鉄
3. 表彰	グッドデザイン賞2016
4. 公開資料	みなまきのまき、みなまきのさき
5. 報告書等	図面

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	H25 横浜市と相鉄ホールディングス株式会社が「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結
計画	2014.9ビジョン策定
設計	2015.3基本設計図書
施工	
供用	2015年9月第1期開業

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	コンサルタント	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	相鉄	
4	コンセプトの原案作成	同上	相鉄	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイナー	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	市民ワークショップ	
7	全体デザインの原案作成	同上	相鉄	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	コンサルタント	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	市民ワークショップ	
10	施設デザインの原案作成	同上	行政	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建築家 (デザイナー)	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	建築家 (デザイナー)	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	市民WS	
14	詳細デザインの原案作成	同上	行政担当	
15	実施設計図の原案作成	同上	デザイナー	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	相鉄アーバンクリ エイツ	
議会	議会		
関係機関	関係機関	横浜市	
地域	住民, 経済団 体・商工会, NPO・市民団体	市民	ワークショップに参加
設計者	建設コンサル タント	INA (建築設計)	周辺建築設計、元請
	都市計画コンサル タント		
	デザイナー	K 氏	デザイン、ワークショップ企 画
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	N 准教授	運営計画
	まちづくり・住 民参加・交通		



(9) 姫路駅 北駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：姫路市 整備面積：16100㎡ 事業名：姫路駅周辺土地区画整理事業 事業期間：平成元年～32年	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：平成31年4月16日 ①午前の部 場所：姫路市 都市拠点整備本部 姫路駅周辺整備室 対象：室長，係長，駅部・管理担当係長 ②午後の部 場所：姫路市産業局 商工労働部 産業振興課 中心市街地活性化推進室 対象：室長	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働による都市空間のデザイン、東田隆弘、2017</li> <li>・日経コンストラクション、2015. 5. 25</li> <li>・姫路駅南駅前広場、姫路駅周辺整備室</li> <li>・姫路駅周辺整備事業 CASTY21</li> <li>・姫路の道づくり</li> <li>・姫路市鉄道駅周辺整備プログラム</li> <li>・姫路駅北賑わい交流広場 利用案内</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路駅南駅前広場実施設計委託_設計業務編_平成29年1月_株式会社復建エンジニアリング</li> <li>・姫路駅北駅前広場及び大手前通り実施設計他業務委託_業務計画書・照査報告書・議事録簿_平成24年3月_株式会社日建設計シビル</li> <li>・姫路駅北駅前広場基本設計等業務委託_報告書【設計業務】_設計報告書(3)_平成22年3月_株式会社日建設計シビル</li> <li>・姫路駅北駅前広場及び大手前通り実施設計他業務委託_報告書(設計業務)_平成24年3月_株式会社日建設計シビル</li> <li>・姫路駅北駅前広場実施設計他業務委託_設計報告書(駅前広場・大手前通り基本設計)_設計報告書(実施設計)_平成23年3月_株式会社復建エンジニアリング</li> <li>・駅前広場図面</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度		主な会議, 成果, 業務発注等
構想 計画 設計	H20	11月：NPO法人スローソサエティ協会の依頼により、NPO法人まちづくりデザインサポート（本部東京）が中心となり、「第1回学生による姫路シャレットワークショップ」を開催
	H21	1月：「第2回学生による姫路シャレットワークショップ」 4月：NPO法人スローソサエティ協会の主催によりラウンドテーブルとしての「市民フォーラム」を開催 6月：「第6回姫路駅北駅前広場整備推進会議」で、駅前広場のローラリーのレイアウトについて市から3案の選択肢が示された 7月：「公開専門家ワークショップ」がNPO法人スローソサエティ協会主催により開催 8月：市長が「第3案」で進めることを決定 「第7回姫路北駅前広場整備推進会議」で「第3案」を基本レイアウトとすることを正式に発表 10月：「2009年度第一回連続セミナー」がNPO法人スローソサエティ協会主催により、北原理雄氏（千葉大学）を招いて開催された 11月：市の主催により「第一回専門家会議」を開催 12月：市の主催により「第一回市民ワークショップ」を開催 「第10回姫路駅北駅前広場整備推進会議」
	H22	2月：市の主催により「第二回専門家会議」を開催 3月：「第11回姫路駅北駅前広場整備推進会議」において、「サンクガーデン」や地上の広場空間の活用方法などについて、意見交換が行われた 7月：「第12回姫路駅北駅前広場整備推進会議」にて、駅前交番の配置について意見交換が行われた 10月：「第13回姫路駅北駅前広場整備推進会議」において、サンクガーデンと眺望デッキについて意見交換が行われた
	H23	3月：「第15回姫路駅北駅前広場整備推進会議」において、駅前のエントランスゾーン整備全体に関して、今後控えている駅前広場や大手通りの実施設計を視野に入れた意見交換がなされた 4月：「姫路駅北駅前広場整備等デザイン会議」が正式に組織された 8月：駅前広場の運営に大きく関わる団体が集まり、コアメンバーによる「第1回準備会」が開かれた 9月：「第16回姫路駅北駅前広場整備推進会議」において、進行中の工事調整と管理を見据えた施設整備に関して意見交換がなされた 10月：「第1回姫路駅前広場活用連絡会」にて、駅前の自転車交通に対する三案が提示される 11月：「第4回準備会」にて、駅前広場の具体的な案を3つ提示し、コアメンバーからの意見を求めた 12月：「第3回姫路駅前広場活用連絡会」
	H24	2月：姫路駅前広場活用連絡会の主催により「エリアマネジメントフォーラム」が開催

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等		
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	学生ワークショップ	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	市民フォーラム	
4	コンセプトの原案作成	同上	専門家ワークショップ	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	専門家会議	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	駅前広場整備推進会議	
7	全体デザインの原案作成	同上	専門家会議	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザインチーム	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	デザインチーム	
10	施設デザインの原案作成	同上	デザインチーム	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	デザイン会議	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	駅前広場整備推進会議	
14	詳細デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
15	実施設計図の原案作成	同上	デザイナー、建設コンサルタント	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図	デザイン会議	
18	施工図の決定	同上	デザイン会議	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	デザイン会議	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	市長ワークショップ	
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	姫路駅周辺整備室	すべて	
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	NPO スローソサエティ協会	市民フォーラム等を主催	計画
設計者	建設コンサルタント	日建シビル 復建エンジニアリング	基本設計、実施設計	設計～
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー	O 氏	セミナー登壇、デザイン会議メンバー	設計～
		N 氏	デザイン会議メンバー	設計～
	財団法人			
施工者	施工会社	施工者		
学識者	景観・デザイン	K 教授ほか	専門家セミナー、専門家会議、市民ワークショップ、整備推進会議等の中心的役割	計画～
	まちづくり・住民参加・交通			

(10) 西鉄柳川駅 西口駅前広場, 東口駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：柳川市 整備面積：西口駅前広場3,900㎡、東口駅前広場4,400㎡ 事業名：社会資本整備総合交付金 柳川駅周辺地区都市再生整備計画事業 事業期間：平成21年度～平成26年度	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和2年3月18日（水）14：00－16：00 場所：柳川市役所 2階会議室 対象：柳川市役所建設部都市計画課課長（事業当初～まちづくり課係長）、柳川市役所建設部都市計画課都市計画係係長（途中からまちづくり課係長）、柳川市建設部都市計画課都市計画係（窓口）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議, 成果, 業務発注等</b>
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前空間利活用状況について（集計） デザイン会議資料</li> <li>・ 西鉄柳川駅のまちづくりA3版01-10</li> <li>・ 「西鉄柳川駅周辺に於ける市民・事業者・行政・専門家による景観まちづくりの取り組み」平成28年11月25日福岡県柳川市建設部まちづくり課</li> <li>・ 西鉄柳川駅周辺整備について「柳川市の概況と西鉄柳川駅周辺のまちづくり」柳川市建設部都市計画課（事前にメールで受領）</li> <li>・ 西鉄柳川駅自由通路の概略について</li> <li>・ 供用開始記念式典平成27年3月20日</li> <li>・ 柳川らしい駅周辺整備へ向けた提言柳川駅周辺まちづくりワークショップ 2009年3月</li> </ul>
5. 報告書等	

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
計画設計 2012年          2013年          2014年          2015年	1月：第1回デザイン検討会議 3月：第2回デザイン検討会議 6月：第1回市民ワークショップ 第2回市民ワークショップ 7月：第3回デザイン会議 8月：第1回柳川らしいデザインを考える会 第3回市民ワークショップ 9月：第2回柳川らしいデザインを考える会 第4回市民ワークショップ 10月：第5回市民ワークショップ 11月：第6回市民ワークショップ 第4回デザイン検討会議 12月：第7回市民ワークショップ 1月：駅自由通路新規都市計画の決定 3月：第8回市民ワークショップ 第3回柳川らしいデザインを考える会 第5回デザイン検討会議 柳川駅周辺の未来図シンポジウム 第9回市民ワークショップ 8月：第6回デザイン検討会議 10月：第10回市民ワークショップ 12月：第11回市民ワークショップ 4月：第7回デザイン検討会議 5月：第12回市民ワークショップ 8月：第1回モノづくりワークショップ 9月：第13回市民ワークショップ 10月：第2回モノづくりワークショップ 12月：第3回モノづくりワークショップ 駅前利活用協議 2月：第8回デザイン検討会議 3月：第4回モノづくりワークショップ
施工 2013年	3月：自由通路仮設桁の架設工事
供用 2015年	3月：供用開始

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	都市計画コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	都市計画コンサルタント	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	設計 WG	
4	コンセプトの原案作成	同上	デザイン会議	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイナー	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	設計 WG・市民 WS	
7	全体デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイナー	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	設計 WG・市民 WS	
10	施設デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	デザイナー	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	設計 WG・市民 WS	
14	詳細デザインの原案作成	同上	デザイン会議	
15	実施設計図の原案作成	同上	庁内会議	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	都市計画課	すべて
議会	議会		
関係機関	関係機関	西鉄	すべて
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	利活用市民WS	利活用企画、イベント開催
		柳川らしいデザインを考える会	デザインを議論
設計者	建設コンサルタント		
	都市計画コンサルタント	T氏	計画
	デザイナー	O氏、N氏ほか	デザイン検討会議
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	S教授、D教授	デザイン検討会議
	まちづくり・住民参加・交通		



(11) 狭山市駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：独立行政法人都市再生機構 整備面積：6,500㎡ 事業名：狭山市都市計画狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業 事業期間：昭和35年～平成24年	
<b>2) ヒアリング</b>	
① 日時：令和元年11月1日(金)9:30-11:00 場所：UR都市機構新宿アイランドタワー15階会議室 対象：UR都市機構東日本賃貸住宅本部設計部（当時設計担当），東日本都市再生本部まちづくり支援部調整役（当時所長），東日本都市再生本部事業調整部事業支援企画課主幹，東日本都市再生本部事業調整部事業支援企画課主査  ② 日時：令和元年11月13日（月）18:00-20:00 場所：南條設計室 対象：南條洋雄	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業パンフレット</li> <li>・レポート狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業（『市街地再開発』2011年10月）</li> <li>・事業計画情報「埼玉県狭山市・狭山市駅西口地区」（『市街地再開発』2012年11月）</li> <li>・狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業事業史</li> </ul>
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭山市駅西口地区第一種市街地再開発事業 業務体制</li> <li>・同 景観形成方針（案）本編（マスタープラン）</li> <li>・同 各論編（デザインガイドライン）</li> <li>・総合設計コーディネーターメッセージ 2005年（平成17年）3月25日</li> <li>・中間報告・景観形成方針（案） 2004（平成16）年7月30日</li> <li>・狭山景観コンセプト（まとめ案） 2004（平成15）年10月12日</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	平成10年11月 狭山市駅西口地区整備の基本構想決定 (狭山市) 平成13年1月 再開発事業に関する基本協定書締結 (狭山市・都市公団)
計画	平成16年3月 狭山市駅西口地区整備基本計画書策定 (狭山市)
設計	平成16年 基本設計 平成20年 実施設計・工事発注
施工	平成20年8月 起工式
供用	平成22年3月 1街区竣工式 まちびらき 平成24年6月 再開発事業工事完了

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建築家	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	〃	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	UR	
4	コンセプトの原案作成	同上	建築家	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	建築家	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	UR	
7	全体デザインの原案作成	同上	建築家	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	各設計者	マスタープラン, ガイドラインをもとに設計
9	施設デザインの確認, 議論	同上	総合設計調整会議	建築家がコーディネーター
10	施設デザインの原案作成	同上	各設計者	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	〃	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	〃	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	総合設計調整会議	建築家がコーディネーター
14	詳細デザインの原案作成	同上	各設計者	
15	実施設計図の原案作成	同上	〃	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図	色彩調整会議	建築家がコーディネーター
18	施工図の決定	同上	UR	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	UR、設計監理者	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	UR、設計監理者	
22	出来形の決定	同上	UR、設計監理者	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	狭山市	URに事業委託	すべて
		UR	事業代行	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体	地権者		
設計者	建設コンサルタント	各施設設計	各施設設計	設計以降
	建築設計事務所	//	//	//
	デザイナー	建築家N氏	計画検討、景観形成ガイドライン作成、総合設計コーディネーターとして総合設計調整会議、色彩調整会議をコーディネート	計画以降
財団法人				
施工者	施工会社	施工者		施工
学識者	景観・デザイン			
	まちづくり・住民参加・交通	計画策定委員会	計画策定(土地利用)	計画まで

(12) 北本駅 西口駅前広場

事業主体：北本市  
整備面積：5768.52m<sup>2</sup>  
事業名：北本駅西口駅前広場及び西中央通改修事業  
事業期間：2008年10月～2012年9月

2) ヒアリング

日時：令和2年3月13日（金）12：00～13：00  
場所：アトリエワン  
対象：東京工業大学大学院建築学専攻教授（アトリエワン主宰）

3) 収集資料

表 収集資料

種別	主な会議, 成果, 業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	新建築2013. 10月
3. 表彰	
4. 公開資料	北本らしい“顔”の駅前づくりプロジェクト本 JR北本駅西口駅前広場改修事業竣工記念ブックレット 北本駅西口駅前多目的広場 仕様の手引き 2012年10月
5. 報告書等	

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等	
構想 H20年度	企画会議 ワークショップ	
計画H21年度 設計 施工	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つくる会議」</li> <li>・つくる社会実験</li> <li>・KAO CAFÉ</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・まちづくり講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つかう会議」</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・つかう社会実験</li> <li>・まちづくりキャラバン</li> </ul>
H22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくる社会実験</li> <li>・ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり講座</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・北本マルシェ</li> </ul>
H23年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくる社会実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「広場を育てる会議(仮)」</li> <li>・まちづくり講座</li> <li>・ワンコイン勉強会</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・育てる社会実験</li> <li>・北本マルシェ</li> </ul>
供用	2012年9月	

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コンサルタント (国際開発コンサルタント(入札))	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	デザイナー兼学識者	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	つくる会議, つかう会議	
4	コンセプトの原案作成	同上	つくる会議, つかう会議	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	デザイナー兼学識者	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	設計打合せ	
7	全体デザインの原案作成	同上	設計打合せ	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	デザイナー(建築家)兼学識者	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	設計打合せ	
10	施設デザインの原案作成	同上	設計打合せ	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等		
13	詳細デザインの確認, 議論	同上		
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上	庁内会議	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	都市計画課	事業推進
議会	議会		
関係機関	関係機関	埼玉県都市計画課	
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体		
設計者	建設コンサルタント	国際開発コンサルタント	インフラ設計
	都市計画コンサルタント		
	デザイナー	T氏 (建築家)	大学研究室主宰、キャノピー設計
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	大学研究室	ワークショップ、イベント主催
	まちづくり・住民参加・交通		

(13) 熊本駅 西口駅前広場

事業主体：熊本市  
 整備面積：5759.50m<sup>2</sup>  
 事業名：熊本駅西土地地区画整理事業  
 事業期間：2007年度～2010年度

2) ヒアリング

①県  
 日時：令和元年9月19日(水)10:00～11:30  
 場所：熊本県庁  
 対象：熊本県土木部建築住宅局建築課アートポリス・UD班課長補佐，熊本県土木部建築住宅局建築課アートポリス・UD班主任技師

②市  
 日時：令和元年9月19日(水)14:00～17:30  
 場所：熊本駅周辺整備事務所会議室  
 対象：熊本市上下水道局計画整備部下水道整備課工事第三班主査（当時担当），熊本市都市建設局熊本駅周辺整備事務所主査，総務企画班主幹兼主査，まちづくり班

3) 収集資料

表 収集資料

種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	増山晃太他、熊本駅周辺整備における都市デザインの戦略と展開、土木学会景観デザイン研究講演集No. 4, 2008
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本駅西口駅前広場設計競技募集要項</li> <li>・熊本駅西土地地区画整理事業(パンフレット)</li> <li>・魅力ある熊本駅周辺のまちづくり(パンフレット)</li> <li>・熊本駅新幹線口(西口)駅前広場くまもとアートポリスパンフレット</li> <li>・応募作品の公開および意見の募集について(平成20年3月14日)</li> <li>・「私たちの選ぶポイント、選ばない理由」に関するご意見の募集について</li> <li>・「自然に開き、人と和す」伊東豊雄</li> <li>・熊本アートポリスのシステム</li> <li>・くまもとアートポリス参加プロジェクト一覧</li> <li>・くまもとアートポリスガイドマップ</li> <li>・くまもとアートポリスニュース vol. 44</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査委員長講評</li> <li>・2次審査最終選考</li> <li>・提案資料(2次審査5案)</li> <li>・提案資料(最優秀賞)</li> <li>・1次審査審査員による選考理由の公表a</li> <li>・工事・業務委託一覧</li> <li>・熊本駅周辺地域のまちづくり（2019年7月4日熊本市都市建設局熊本駅周辺整備事務所）</li> <li>・その他閲覧資料（各設計、施工報告書、発注図書等）</li> </ul>



4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	整備方針策定 H9年度
計画	基本計画策定 H17年度 駅舎素案 平成18年度 都市空間デザインガイド(本編)策定 H18年度
設計	東口広場: 設計競技による設計者選定 H18年度 西口広場: 設計競技による設計案選定 H20年度
施工	
供用	

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	市駅周辺整備事務所 県アートポリス班	県から市にアートポリス設計競技方式を打診
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	建築家	
3	コンセプトの確認, 議論	同上		
4	コンセプトの原案作成	同上		
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	建築家	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	コンペ審査員	
7	全体デザインの原案作成	同上		
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽 その他施設の形状, 配置及び機能等	建築家	
9	施設デザインの確認, 議論	同上		
10	施設デザインの原案作成	同上		
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	建築家	コンペ受賞者に設計業務委託(随契)
13	詳細デザインの確認, 議論	同上		
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上		
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	土木、建築両方施工可能な地元工務店が受注
17	施工図の確認, 議論	施工図	行政、建築家	工事監理業務
18	施工図の決定	同上	施工者	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	行政、建築家	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	行政、建築家	
22	出来形の決定	同上	行政、建築家	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	駅周辺整備事務所	事業推進、庁内外調整	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関	県アートポリス班	設計競技事務局、フォロー	設計
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	市民	アンケート	
設計者	建設コンサルタント	地元コンサルタント	インフラ特に地下部分の設計	
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー	建築家	設計競技で選定、設計監理	
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン	デザイン会議	駅周辺整備のデザイン統括	すべて
	まちづくり・住民参加・交通	設計競技審査委員	設計競技案の選定	設計

(14) 日立駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：日立市 整備面積：海岸口（東口）駅前広場2,730㎡、中央口（西口）駅前広場改修面積4,130㎡ 事業名：日立駅周辺地区整備事業 事業期間：2005年～2014年	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年10月16日(水)13:30～16:00 場所：日立市役所 対象：日立市建築指導課課長（当時都市政策課担当）、都市政策課	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
<b>種別</b>	<b>主な会議, 成果, 業務発注等</b>
1. 事業記録誌	
2. 文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新建築2012.01</li> <li>・PLOT妹島和世</li> </ul>
3. 表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木学会デザイン賞奨励賞2016</li> </ul>
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画</li> <li>・都市再生整備計画</li> <li>・市報2006.1.1</li> <li>・日立駅周辺地区整備 パンフレット</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン競技 5社提案書</li> <li>・日立駅自由通路及び橋上駅舎デザイン提案競技実施要項</li> <li>・審査総評</li> <li>・日立駅周辺地区整備事業</li> <li>・日立駅周辺地区整備事業に関する各種検討等の経緯について</li> <li>・日立市の都市計画 平成31年3月都市建設部都市政策課</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	H15 日立市交通バリアフリー基本構想 H17 日立駅周辺地区整備構想作成
計画	H1711月 日立駅自由通路及び橋上駅舎デザイン提案競技 (妹島和世氏がデザイン監修者に決定) H18.4月都市計画決定告示 H18.10月都市計画事業認可告示
設計	H19. 空間設計・デザイン監修委託 H20～23デザイン監修委託
施工	H21.4月 常磐線日立駅橋上化及び自由通路新設工事本体工事の本格着手
供用	H23.4月 日立駅自由通路・橋上駅舎供用開始

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	都市計画家	デザイン競技を実施
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	建築家	デザイン競技に5社のうちの1社として参加
3	コンセプトの確認, 議論	同上		
4	コンセプトの原案作成	同上		
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	建築家	
6	全体デザインの確認, 議論	同上		
7	全体デザインの原案作成	同上	審査員	上位委員会の委員一部と建築家等による選定委員会
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	建築家	デザイン監修業務
9	施設デザインの確認, 議論	同上		
10	施設デザインの原案作成	同上		
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理		
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	上物は建築家 インフラは建設コンサルタント	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上		
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上		
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成		
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上		

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	日立駅周辺整備課	事業調整	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関	JR	駅舎、自由通路整備	すべて
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体			
設計者	建設コンサルタント	長大	駅前広場実施設計	設計
	都市計画コンサルタント	都市環境研究所	都市計画、事業調整支援	すべて
	デザイナー	妹島和世	デザイン、デザイン監修	計画以降
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン	建築家	デザイン競技選定委員会	計画
	まちづくり・住民参加・交通	構想策定委員会	構想策定、JRのデザイン案を拒否	構想、計画

(15) 博多駅 博多口駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：福岡市、JR九州 整備面積：15,400㎡ 事業名：(駅前広場再整備等) 事業期間：平成17年度～平成23年度	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年11月20日(火) 9:30-10:30 場所：福岡市役所 4階都心交通課打合せコーナー 対象：福岡市住宅都市局都心創生部都心交通課(窓口)	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議, 成果, 業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州新幹線全線開業を契機とした博多駅博多口駅前広場の再整備</li> <li>・博多駅再整備事業の取り組み(パンフ)</li> <li>・博多駅前広場搭載整備検討会 設置要綱</li> <li>・博多駅前広場における検討の流れ</li> <li>・第4回 博多駅前広場搭載整備検討会</li> <li>・福岡都市計画道路の変更(福岡市決定)</li> <li>・特別委員会報告資料(平成19年～23年)</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議，成果，業務発注等
構想	H17-20JR博多駅開発に伴う交通対策会議 H18. 駅前広場再整備の方向性
計画	H20. 5~H21. 5博多口駅前広場再整備プレ検討会 H21. 6~H22. 1博多駅前広場等再整備検討会
設計	H21. 駅前広場の基本レイアウト（案） H22. 駅前広場のデザインプラン（案）のまとめ
施工	
供用	H23春

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	JR コンサルタント 建設コンサルタント（復建）	
2	コンセプトの検討	コンセプト，配慮事項	JR コン、建設コンサルタント	
3	コンセプトの確認，議論	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
4	コンセプトの原案作成	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
5	全体デザインの検討	空間構成，空間イメージ	JR コン、建設コンサルタント	
6	全体デザインの確認，議論	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
7	全体デザインの原案作成	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
8	施設デザインの検討	シェルター，ベンチ，舗装，照明，サイン，植栽その他施設の形状，配置及び機能等	JR コン、建設コンサルタント	
9	施設デザインの確認，議論	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
10	施設デザインの原案作成	同上	博多駅前広場等再整備検討会	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認，必要な資料収集整理	JR コン、建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	JR コン、建設コンサルタント	
13	詳細デザインの確認，議論	同上	合同打合せ	
14	詳細デザインの原案作成	同上	合同打合せ	
15	実施設計図の原案作成	同上	JR コン、建設コンサルタント	
16	施工計画書，施工図の作成	実施設計図の確認，施工条件の確認，施工計画図，施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認，議論	施工図	施工者	
18	施工図の決定	同上	合同打合せ	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	合同打合せ	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	合同打合せ	
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階
行政	担当	福岡市住宅局	事業推進
議会	議会		
関係機関	関係機関	JR	すべて
		交通事業者	すべて
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体		
設計者	建設コンサルタント	JR コンサルタント 復建エンジニアリング	計画、設計
	都市計画コンサルタント		
	デザイナー		
	財団法人		
施工者	施工会社		
学識者	景観・デザイン	M 教授ほか	再整備検討会、その後のデザインフォロー
	まちづくり・住民参加・交通	再整備検討会	



(16) 長野駅 善光寺口駅前広場地区

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：長野市 整備面積：6,800㎡（歩道部3,600㎡、車道部3,200㎡） 事業名：長野駅善光寺口駅前広場整備事業 事業期間：平成20年～27年3月	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：平成31年8月22日 場所：長野市役所 対象：長野市都市整備部都市政策課歴史的まちなみ整備室課長補佐兼室長（景観委員会から竣工までを都市計画課で担当）、課長補佐（オープン時から担当）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議, 成果, 業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野駅善光寺口駅前広場整備事業～新たな長野の顔づくり</li> <li>・長野駅善光寺口整備計画 提言書 平成22年9月 整備計画検討委員会</li> <li>・同 デザイン提言書 平成23年12月26日 景観検討委員会</li> <li>・駅前広場のデザインを検討しています 意見募集 平成23年8月</li> <li>・デザインについての意見募集 平成23年11月</li> </ul>
5. 報告書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野駅善光寺口駅前広場整備事業～新たな長野の顔づくり～スライド</li> <li>・長野駅善光寺口景観検討委員会 中間報告 平成23年8月 都市整備課</li> <li>・長野駅善光寺口利活用ネットワークの概要 平成26年3月発行</li> </ul>

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	
計画	平成20年～22年 長野駅善光寺口整備計画検討委員会 (全8回開催)
設計	平成23年 長野駅善光寺口景観検討委員会 (全6回開催)
施工	平成24年10月 整備工事着手
供用	平成27年3月 駅前広場整備工事完成

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コン	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	〃	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	景観検討委員会	
4	コンセプトの原案作成	同上	建設コン	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	建設コン	JR 大庇の提案
6	全体デザインの確認, 議論	同上	景観検討委員会	市民アンケート
7	全体デザインの原案作成	同上	景観検討委員会	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	建設コン JR 設計	大庇の検討 木製シェルター等
9	施設デザインの確認, 議論	同上	景観検討委員会	
10	施設デザインの原案作成	同上	建設コン	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コン	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	〃	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	行政担当	
14	詳細デザインの原案作成	同上	建設コン	
15	実施設計図の原案作成	同上	建設コン	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図	行政担当	
18	施工図の決定	同上	行政担当	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	行政担当	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	行政担当	
22	出来形の決定	同上	行政担当	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	都市計画課	事業推進	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関	JR（坂倉設計）	駅舎整備、大庇設計施工（市からの委託）	すべて
		駅ビル運営会社	自由通路の観点から参加	計画以降
地域	住民，経済団体・商工会，NPO・市民団体	市民	委員会公募、アンケート	計画以降
		森林組合	木材の製作	施工
設計者	建設コンサルタント	設計	景観設計、実施設計	設計
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー			
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン	景観検討委員会	デザイン提言書作成	設計
	まちづくり・住民参加・交通	K教授・委員長	毎月関係者と打ち合わせ調整	すべて

(17) 福井駅 西口駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：福井市 整備面積：11,100㎡ 事業名：土地区画整理事業 事業期間：2010年～2016年	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時：令和元年11月19日（火）13：30～15：00 場所：福井市役所 6階新幹線整備課打合せコーナー 対象：福井市都市戦略部都市整備課課長補佐（窓口）、福井市都市戦略部都市整備課主幹（当時新幹線整備課担当）、福井市都市戦略部新幹線整備課副主幹（当時駅前広場担当）	
<b>3) 収集資料</b>	
<b>表 収集資料</b>	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	
2. 文献	
3. 表彰	
4. 公開資料	・ 福井駅西口全体空間デザイン専門家会議（設置要綱、第1回～4回資料、成果物） ・ VRの画像4枚
5. 報告書等	・ 福井関西口全体空間デザイン基本方針策定業務委託（竹中）報告書目次

#### 4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度		主な会議, 成果, 業務発注等
構想	H14	5月：福井駅西口中央地区開発基本構想の策定
	H16	12月：県・市で西口駅前広場の拡張整備の方向性について合意
計画	H19	12月：駅前広場の拡大及び再開発事業の都市計画決定
	H21	6月：市、準備組合、商工会議所及び県で構成する福井駅西口中央地区市街地再開発事業委員会を設置
	H23	8月：市議会において「再構築案」を提示 ⇒追加施設（プラネタリウム、駐輪場、トイレ、屋根付き広場）
	H24	2月：市議会において「事業計画の概要」を説明
		3月：再開発事業の都市計画変更
		5月：再開発組合設立の県知事認可
6月：再開発組合設立総会		
	7月：実施設計、権利変換計画の策定に着手	
設計	H24	7月：西口全体の空間デザインについて市民からのアイデアを募集
		9月：「第1回福井駅前全体空間デザイン専門家会議・委嘱状交付式」
		11月：「第2回福井駅前全体空間デザイン専門家会議」 空間デザイン、市施設について基本方針作成
	H25	12月：「第3回福井駅前全体空間デザイン専門家会議」 「第4回福井駅前全体空間デザイン専門家会議」
		3月：権利変換計画策定、認可
施工	H25	10月：工事着手
供用	H28	3月：工事完了

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	再開発事業者設計者 (竹中工務店)	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	再開発事業者設計者 (竹中工務店)	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	デザイン専門家会議	
4	コンセプトの原案作成	同上	デザイン専門家会議	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	再開発事業者設計者 (竹中工務店)	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	デザイン専門家会議	
7	全体デザインの原案作成	同上	デザイン専門家会議	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽 その他施設の形状, 配置 及び機能等	再開発事業者設計者 (竹中工務店, PCKK)	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	デザイン専門家会議	
10	施設デザインの原案作成	同上	デザイン専門家会議	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント PCKK	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	建設コンサルタント	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	デザイン専門家のフォロー打合せ	
14	詳細デザインの原案作成	同上	デザイン専門家のフォロー打合せ	
15	実施設計図の原案作成	同上	建設コンサルタント PCKK	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成	施工者	
17	施工図の確認, 議論	施工図	施工者	
18	施工図の決定	同上	合同打合せ	
19	使用材料等の承認	材料サンプル	合同打合せ	
20	施工	現地出来形	施工者	
21	施工状況の確認	同上	合同打合せ	
22	出来形の決定	同上	行政担当検査官	

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当			
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体	商店街	意見交換	計画
設計者	建設コンサルタント	竹中工務店 PCKK	再開発ビル設計者、全体デザイン計画検討 駅前広場設計	計画～
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー			
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン	デザイン専門家会議	デザイン案の決定、現場のフォロー	計画～
	まちづくり・住民参加・交通			

(18) N 駅 駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：G 県 整備面積：4700m <sup>2</sup> 事業名：水源地域整備事業 事業期間：設計業務期間平成23年～平成24年	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時： 場所：（なし） 対象：	
<b>3) 収集資料</b>	
表 収集資料	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	—
2. 文献	—
3. 表彰	—
4. 公開資料	4.N氏，Yダム建設事業における生活再建関連事業について
5. 報告書等	5-1. 設計業務報告書，5-2. 議事録，5-3. 設計書（特記仕様書）



4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	
計画	
設計	平成23年度
施工	
供用	

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	未検討	
3	コンセプトの確認, 議論	同上		
4	コンセプトの原案作成	同上		
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	行政担当	
6	全体デザインの確認, 議論	同上		
7	全体デザインの原案作成	同上		
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	行政担当⇒建設コンサルタント	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	行政担当	
10	施設デザインの原案作成	同上	行政担当	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	行政担当⇒建設コンサルタント	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上		
14	詳細デザインの原案作成	同上		
15	実施設計図の原案作成	同上		
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成		
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上		

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割	段階	
行政	担当	水源対策事務所	事業推進	すべて
議会	議会			
関係機関	関係機関			
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体			
設計者	建設コンサルタント	コンサルタント	設計	設計
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー			
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン			
	まちづくり・住民参加・交通			

(19) T 駅北口駅前広場

<b>1) 対象事例の事業概要</b>	
事業主体：H市 整備面積：約5600㎡ 事業名：T 駅周辺基盤整備事業 事業期間：	
<b>2) ヒアリング</b>	
日時： 場所：（なし） 対象：	
<b>3) 収集資料</b>	
表 収集資料	
種別	主な会議，成果，業務発注等
1. 事業記録誌	—
2. 文献	—
3. 表彰	—
4. 公開資料	
5. 報告書等	H25年度 基本計画業務 H26年度 概略設計業務 H27年度 基本設計業務 平成29年度～実施設計業務

4) デザインプロセスの整理

表 事業段階

段階年度	主な会議, 成果, 業務発注等
構想	
計画	
設計	平成27年度～29年度
施工	
供用	

表 デザインプロセスの整理

	デザインプロセス	対象	主要アクター	プロセス
1	基本条件の整理	現況や交通状況及び周辺開発計画等	建設コンサルタント	
2	コンセプトの検討	コンセプト, 配慮事項	建設コンサルタント	
3	コンセプトの確認, 議論	同上	行政担当 (主査, 主任)	
4	コンセプトの原案作成	同上	行政担当 (主査, 主任)	
5	全体デザインの検討	空間構成, 空間イメージ	建設コンサルタント	
6	全体デザインの確認, 議論	同上	行政担当 (主査, 主任) まちなみ景観課 庁内意見	
7	全体デザインの原案作成	同上	行政担当 (主査, 主任)	
8	施設デザインの検討	シェルター, ベンチ, 舗装, 照明, サイン, 植栽その他施設の形状, 配置及び機能等	建設コンサルタント	
9	施設デザインの確認, 議論	同上	行政担当 (主査, 主任)	
10	施設デザインの原案作成	同上	行政担当 (主査, 主任)	
11	基本事項の確認	基本設計内容の確認, 必要な資料収集整理	建設コンサルタント	
12	決定したデザインの詳細検討	材質・形状・配置計画等	建設コンサルタント	
13	詳細デザインの確認, 議論	同上	行政担当 (主査, 主任)	
14	詳細デザインの原案作成	同上	行政担当 (主査, 主任)	
15	実施設計図の原案作成	同上	建設コンサルタント	
16	施工計画書, 施工図の作成	実施設計図の確認, 施工条件の確認, 施工計画図, 施工図の作成		
17	施工図の確認, 議論	施工図		
18	施工図の決定	同上		
19	使用材料等の承認	材料サンプル		
20	施工	現地出来形		
21	施工状況の確認	同上		
22	出来形の決定	同上		

5) デザインプロセスにかかわるアクターと役割の整理

表 アクター及び役割

アクター		役割		段階
行政	担当	都市整備推進課	事業推進	すべて
議会	議会	まちなみ景観課	景観条例所管課	
関係機関	関係機関			
		鉄道事業者	駅舎整備	
地域	住民, 経済団体・商工会, NPO・市民団体			
設計者	建設コンサルタント	建設コンサルタント	計画、設計	計画以降
	都市計画コンサルタント			
	デザイナー			
	財団法人			
施工者	施工会社			
学識者	景観・デザイン			
	まちづくり・住民参加・交通	景観アドバイザー	景観条例に基づくアドバイス	

## II. 事例分析

### (1) 旭川駅 駅前広場

#### 1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、駅前広場が、特に北口の街路との軸線や南口の河川との連続性により「駅を介してまちと川が出合う」が意図され、駅周辺の都市構造と調和している。	
	一体性	ラチ外コンコースから駅広、周辺街路まで同じ舗装やストリートファニチャーで統一され一体性を持つ。	
施設デザイン	舗装等	周辺街区の煉瓦造建物との連携に配慮した、歩行者にとっての親密さや賑わいの創出、温かみの演出を考慮したレンガ舗装。	
	ストリートファニチャー	シェルター、サインは既製品を駅舎のデザインと合わせてアレンジ。照明柱は駅舎とのデザインの類似性を意識したオリジナルデザイン	
	緑地等	構想段階で描かれたランドスケープのイメージをもとに、町側の駅前広場はイベント等々の開催に配慮され高木をグリッド上に配置、川側は川まで緩やかな緑地につながるデザイン。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	周辺都市環境（街路・緑地）との眺望動線利用の軸・連続性		
事業特性	地域ビジョン（まちと川をつなぐ）、配置計画（計画段階での基本レイアウト）、複合事業（国、JR、市）、検討体制（デザイン会議等階層的検討体制）		
検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・軸の引き込み	駅舎エントランス、南側緑地との軸線形成 ・街路、エントランス、川側テラス	軸を強調する詳細デザイン ・高木、照明柱の列植
アクターと役割	都市計画コンサル：地区の特性把握、軸のコンセプト立案 まちづくり推進会議：コンセプト確認・議論・承認	都市計画コンサル：駅舎、駅広の関係を調整 JR：駅エントランス位置を調整 まちづくり推進会議：議論・承認	デザイナー：詳細デザイン まちづくり推進会議：議論・承認
ガバナンスツール	A1. 都計コンへ継続発注 委員会設置	A1. 都計コンへ継続発注 委員会設置	A1. デザイナー指名 A1. 委員会設置
関与者群			
全体デザイン	<p>概念図</p>		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、バリアフリー、オリジナルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の景観になじむ色彩、素材の舗装等</li> <li>・不特定多数の誰にも快適性を提供する舗装等</li> <li>・オリジナルデザイン</li> </ul>		
	事業特性	先行事業、検討体制、周辺の建築物 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群	関係機関	市民	
	概念図	<p>事業特性</p> <p>先行事業</p> <p>検討プロセス</p> <p>景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案</p> <p>標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認</p> <p>品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証</p> <p>アクターと役割</p> <p>デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討</p> <p>行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認</p> <p>行政担当：メーカー等への協力依頼</p> <p>学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導</p> <p>駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論</p> <p>デザイナー：メーカーへのデザイン監修</p> <p>メーカー：試験製作</p> <p>市民：試験参加、意見</p> <p>学識経験者：全体のデザイン調整、関係者への助言</p> <p>ガバナンスツール</p> <p>A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導</p> <p>a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置</p> <p>b1. 現場主義組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加</p> <p>A1. 一貫した会議体制のシステム</p> <p>関与者群</p> <p>市民；意見</p> <p>デザインのアウトプット</p> <p>景観性、オリジナルデザイン、周辺街区の相互連携等との連携に配慮した、歩行者にとっての親密さや賑わいの創出、温かみの演出を考慮したレンガ舗装。</p>		



対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	景観性、オリジナルデザイン	シェルター、サインは既製品を駅舎のデザインと合わせてアレンジ。照明柱は駅舎とのデザインの類似性を意識したオリジナルデザイン		
	事業特性	コスト、施工スケジュール、管理区分 法令：道路構造令、バリアフリー		
	検討プロセス	景観に配慮したデザインの立案 ・駅舎と調和するデザインの立案	品質・利用性等の検証 ・メーカーの協力	
	アクターと役割	デザイナー：駅舎と連続するデザインの提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：作図協力	
	ガバナンスツール	A1. 駅舎と同じデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力	
	関与者群	関係機関		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) includes 'コスト' (Cost), '施工スケジュール' (Construction Schedule), and '管理区分' (Management Division). These lead to the '検討プロセス' (Design Process), which involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape) and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). The '検討プロセス' leads to 'デザインのアウトプット' (Design Output), which includes '景観性・オリジナルデザイン' (Landscape-oriented original design) and a photograph of the station. The '検討プロセス' is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), which includes 'デザイナー' (Designer) and '学識経験者' (Academic/Professional). The 'アクターと役割' is supported by 'ガバナンスツール' (Governance Tools), which includes 'A1. 駅舎と同じデザイナーへの委託' (Commissioning the same designer as the station) and 'b1. 現場主義の組織文化' (On-site oriented organizational culture). The 'ガバナンスツール' is supported by '関与者群' (Stakeholders), which includes '関係機関' (Related organizations). The '関与者群' is supported by 'A1. 一貫した会議体制のシステム' (System of a unified meeting system).</p>		

対象		内容		
施設デザイン 緑地等	景観性、地域価値	構想段階で描かれたランドスケープのイメージをもとに、町側の駅前広場はイベント等々の開催に配慮され高木をグリッド上に配置、川側は川まで緩やかな緑地につながるデザイン。		
	事業特性	上位計画（ヴィジョン） 法令：建築基準法		
	検討プロセス	まちと川をつなぐコンセプトを実現する河川緑地の立案	現場監修 自然な起伏の実現	
	アクターと役割	デザイナー：南口河川緑地のデザイン デザイン会議：デザインの確認	デザイナー：現場で地形の指示調整 施工者：デザイナーの指示を受けた調整	
	ガバナンスツール	A1. 地元のランドスケープデザイナーへの委託 会議設置	a3. 調整会議 b1. 現場協力	
	関与者群			
	概念図	<p>事業特性 上位計画</p> <p>検討プロセス まちと川をつなぐコンセプトを実現する河川緑地の立案</p> <p>現場監修 自然な起伏の実現</p> <p>デザイナーと役割 デザイナー：南口河川緑地のデザイン デザイン会議：デザインの確認</p> <p>デザイナー：現場で地形の指示調整 施工者：デザイナーの指示を受けた調整</p> <p>ガバナンスツール A1. 地元のランドスケープデザイナーへの委託 A1. 会議設置</p> <p>a3. 調整会議 b1. 現場協力</p> <p>デザインのアウトプット 景観性・地域価値：構想段階で描かれたランドスケープのイメージをもとに、町側の駅前広場はイベント等々の開催に配慮され高木をグリッド上に配置、川側は川まで緩やかな緑地につながるデザイン。</p>		

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

都市計画コンサルタントが（A1調達方式）随意契約により当初から竣工まで継続して計画から設計、現場まで、まちづくり推進会議の運営支援を中心に事業推進支援を行っている。

全体デザインの段階で、最適なデザイナー等の配置を実質的に都市計画コンサルタントが行い、まちと川をつなぐコンセプトをランドスケープデザイナーのイメージスケッチとともに立案し、このスケッチが軸の強調や緑地のデザインに影響している。

また、まちづくり推進会議を（A1調達方式）設置し、同じ委員で最初から最後までデザイン面を中心に継続的に確認、議論されている。

(2) 日向市駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅、駅前広場が、東西軸と南北軸の交点に位置し、賑わいのある「顔」を創出し、都市構造と調和。	
	一体性	ラチ外コンコースから駅広、周辺街路まで同じ舗装やストリートファニチャーで統一され一体性を持つ。	同上
施設デザイン	舗装等	ラチ外から駅広まで同じレンガ舗装で統一。車道のうち停車帯は小舗石舗装で、縁石はバリアフリーに配慮した自然石オリジナル加工。	
	ストリートファニチャー	景観性、地元技術、オリジナルデザイン	
	緑地等	地域のシンボルである史跡（西都原）をモチーフとした緩やかな起伏を持つ交流広場，地元の樹種をメインとした高木，車いすの方も参加できる舗装された園路デザインが採用されている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	周辺都市環境（街路・緑地）との眺望動線利用の軸・連続性		
事業特性	先行事業、検討体制		
検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・南北東西シンボル軸の形成 ・都市計画道路網の見直し	東西基軸の物理的強調 ・JR 高架橋のスパ ン拡張（標準 1 0 m⇒2 0 m）	東西軸の強調 ・一体性のある舗 装、軸を強調す る直線舗装の デザイン
アクターと役割	都市計画コンサル：地区の特性把握、軸のコンセプト立案 街なか魅力検討委員会：コンセプト確認・議論・承認	建築構造：スパン拡大時のコスト比較 JR：高架橋の設計施工、コスト比較を受けた決断	デザイナー：東西軸連続性、軸協調の詳細デザイン 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導
ガバナンスツール	B3. 景観整備方針へ落とし込み A1. 委員会設置 B3. 道路交通中長期計画を立案	b1. コスト検証（スパンが大きくなるとコストが下がることを証明）	A1. デザイナー指名 b3. 学識経験者個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導
関与者群	関係機関	市民	
全体デザイン	<p data-bbox="403 1467 491 1500">概念図</p>		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、バリアフリー、オリジナルデザイン	ラチ外から駅広まで同じレンガ舗装で統一。車道のうち停車帯は小舗石舗装で、縁石はバリアフリーに配慮した自然石オリジナル加工。		
	事業特性	先行事業、検討体制 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群			市民
	概念図	<p>The diagram illustrates the project's workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '検討プロセス' (Review Process). The review process includes '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of landscape-conscious original design), '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications), and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). This process involves 'デザイナー' (Designers) and '学識経験者' (Experts). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section details the tasks of designers, administrative staff, and manufacturers. 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes 'A1. 一貫した会議体制のシステム' (A1. Unified meeting system). '関与者群' (Stakeholders) include '市民' (Citizens). The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) shows a landscape with original design, unified paving, and natural stone curbs.</p>		

対象		内容				
施設デザイン	ストーリー アニメ チャ	景観性、地元技術、オリジナルデザイン	駅舎庇と連続するシェルター、周辺街区と同じ照明柱、車止め、日向の色を選定したサイン、地元産杉材のベンチなどのオリジナルデザイン			
		事業特性	先行事業、検討体制 法令：道路構造令、バリアフリー法			
		検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・日向らしいデザインの立案（周辺街区整備で開発）	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証	
		アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見	
		ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加	
		関与者群	市民			
		照明柱・車止め・ベンチ	<p>事業特性 三位一体 駅舎・駅周辺 街区活性化 都市 街路 活性化</p> <p>検討プロセス 景観に配慮したオリジナルデザインの立案・日向らしいデザインの立案（周辺街区整備で開発） 標準でない仕様の採用・コスト、意匠等の妥当性・性能等の法令順守机上確認 品質・利用性等の検証・縁石のバリアフリー検証</p> <p>アクターと役割 デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 学識経験者：全体のデザイン調整、関係者への助言 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論 行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見</p> <p>ガバナンスツール A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者によるデザインのブラッシュアップ指導 A1. 一貫した会議体制のシステム a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置 b1. 試作協力依頼 b1. メーカー協力 b3. 市民参加</p> <p>関与者群 市民：意見</p> <p>デザインのアウトプット 景観性・ライフサイクルコスト・現場主義活用・オリジナルデザイン 地産産材を地産の技術で耐久性向上・製作加工し、地元産業が参加した維持管理方法を考慮したオリジナルデザイン</p>			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性、歴史文化性、維持管理、着・誇り、地域価値	地域のシンボルである史跡（西都原）をモチーフとした緩やかな起伏を持つ交流広場，地元の樹種をメインとした高木，車いすの方も参加できる舗装された園路デザインが採用されている。			
	事業特性	検討体制 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画 ・地元の樹種やシンボルの活用	維持管理性の担保 ・費用、手間の低減	市民意向の反映 ・市民参加	現場監理 ・現場での調整
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	行政担当：維持管理方法の検討 市民：維持管理協力の参加	行政担当：市民参加企画 駅前広場検討委員会・WG：現場で議論 デザイナー：デザインへの反映	デザイナー：現場町営会議、がんデザイン監修 施工者：現場での調整 市民：地元樹種樹木等の提供
	ガバナンスツール	b1. 樹木現地確認 b3. 学識経験者：個別助言	b3. 住民参加による維持管理方法の仕組み	b3. 市民参加の仕組み A1. 会議設置	A1. 施工デザイン監理の発注 a1. 民家からの移植受け入れ
	関与者群		市民：意見	市民：意見	
	概念図				



### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- ・事業推進にあたっては、公式ツールA3仕様書により委員会、WG等が設置されるとともに、A1調達方式によりデザイナーに再委託されデザイン決定から実施まで継続を担保している。
- ・デザイン評価にあたっては、公式ツールB3景観計画等をコンセプト立案の評価として用いており、また非公式のb1組織文化、b2情報・相互参照、b3直接支援により、行政の組織文化、学識者の助言、地元産業の参加、をデザインの評価として用いられている。

(3) 恵那駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	一般的デザイン	駅前広場整備単体事業で、全体デザインは改築の主題であるバリアフリー改善の機能により決定されたデザイン。	
施設デザイン	舗装等	歩道はインターロッキング舗装、スロープ部は洗い出し舗装で、バリアフリーを考慮し場所により工夫されている。	
	ストリーチ	<p>景観性・ライフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザイン： 地場産木材を用い地場の技術で建設でき、維持管理できるオリジナルデザインの木造シェルター</p> <p>マイナス評価： 質の高いデザインが駅広の部分にとどまる</p>	
	緑地等	一般的デザイン	既存のモニュメント周辺の緑地がそのまま存知されている。



2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象		内容		
全体デザイン	事業特性	駅前広場利用検討委員会（景観専門家不在）で計画策定済み 事業：詳細設計済み、工事発注段階		
	検討プロセス			
	アクターと役割			
	ガバナンスツール			
	関与者群			
	概念図	(ユニバーサルデザインを中心に検討されており、全体デザインは検討されていない)		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	事業特性	駅前広場利用検討委員会（景観専門家不在）で計画策定済み 事業：詳細設計済み、工事発注段階		
	検討プロセス			
	アクターと役割			
	ガバナンスツール			
	関与者群			
	概念図	(特にデザイン面から検討されていない)		

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	事業特性	駅前広場利用検討委員会（景観専門家不在）で計画策定済み 事業：詳細設計済み、工事発注段階		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・木曾らしいデザインの立案（バスシェルターのみ）	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・建築基準法、道路構造令等の法規準拠の確認
	アクターと役割	行政担当：個別相談，助言受入れ，庁内調整，建築家に随意契約発注 景観アドバイザー：個別助言 建築家：オリジナルデザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：LCCコスト確認，庁内調整 景観アドバイザー：既製品と地元技術の違い助言 建築家：施工費，地元技術の活用提案	行政担当：設計監理発注  建築家：設計監理  地域産業：地元産材，地元技術で施工
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識者：個別助言 b2. 地域の木の文化	a1. コスト検証・庁内調整 b3. 学識者：個別助言	A1. 設計監理 a1. 地元工務店協力
	関与者群	地域産業：建築家紹介		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '検討プロセス' (Review Process). The review process involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape) and '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications). This leads to '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). The process is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), including '行政担当' (Administrative staff), '景観アドバイザー' (Landscape advisor), and '建築家' (Architect). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) like 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning a designer with know-how) and 'b3. 学識者：個別助言' (Academic advice) are used. '関与者群' (Stakeholders) include '地域産業：建築家紹介' (Local industry: Architect introduction). The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which includes '景観性・ライフサイクルコスト・地場技術活用・オリジナルデザイン' (Landscape, lifecycle cost, local technology use, original design) and a photo of the bus shelter. A note mentions 'マイナス評価：質の高いデザインが駅広の部分にとどまる' (Negative evaluation: High-quality design is limited to the station plaza area).</p>		

対象		内容			
施設デザイン	緑地等	事業特性	駅前広場利用検討委員会（景観専門家不在）で計画策定済み 事業：詳細設計済み、工事発注段階		
		検討プロセス			
		アクターと役割			
		ガバナンスツール			
		関与者群			
		概念図			

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

駅前広場単独事業であるが、利用検討委員会はバリアフリーについて主に検討しており、景観の専門家も委員に入っていなかったため、景観面の検討がされていない。そこで、別件の景観アドバイザーが（b3直接支援）個別助言し、フォーカルポイントとしてのバスシェルターのみデザインの対象とし、（A1調達方式）木製でオリジナルデザインができるデザイナーに図有為契約で委託し、標準でないシェルターであるがライフサイクルコストで優位性を考慮し、地元建設会社（a1組織規範）が建築家の設計監理（A1調達方式）にのっとり建設している。地元産木材、地元大工の技術によってオリジナルデザインが実現され、恵那駅前の新たな顔を形成しているものである。

(4) 東京駅 丸の内駅前広場

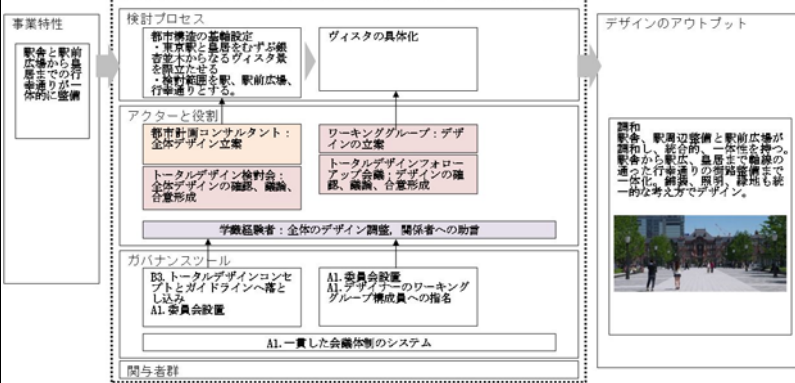
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、皇居まで軸線の通った行幸通りの街路整備まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
施設デザイン	舗装等	オリジナル石舗装のパターンで構成されている。	
	ストリートファニチャ	シェルター、照明柱、車止め等すべてのストリートファニチャが東京の顔として新しいオリジナルデザインが提案されている。	
	緑地等	皇居までの軸線を強調高木の列植、広場にシンメトリーに配置された芝生広場で構成されている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、皇居まで軸線の通った行幸通りの街路整備まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
事業特性	駅舎と駅前広場から皇居までの行幸通りが一体的に整備		
検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・東京駅と皇居をむずぶ銀杏並木からなるヴィスタ景を際立たせる ・検討範囲を駅、駅前広場、行幸通りとする。	ヴィスタの具体化	
アクターと役割	トータルデザイン検討会：全体デザインの確認、議論、合意形成 都市計画コンサルタント：全体デザイン立案	トータルデザインフォローアップ会議：デザインの確認、議論、合意形成 ワーキンググループ：デザインの立案	
ガバナンスツール	B3. トータルデザインコンセプトとガイドラインへ落とし込み A1. 委員会設置	A1. 委員会設置 デザイナーのワーキンググループ構成員への指名	
関係者群			
全体デザイン	<p data-bbox="405 1579 491 1608">概念図</p> 		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、バリアフリー、オリジナルデザイン	オリジナル石舗装のパターンで構成されている。		
	事業特性	先行事業、検討体制、周辺の建築物 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・ 駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・ コスト、意匠等の妥当性 ・ 性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・ 縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群	関係機関		宮内庁
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) including '先行事業' (Previous Projects) and '検討体制' (Review System), and '周辺の建築物' (Surrounding Buildings). These lead into the '検討プロセス' (Review Process), which involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape), '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications), and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section identifies 'デザイナー' (Designers), '学識経験者' (Experts), and '行政担当' (Administrative staff). The 'ガバナンスツール' (Governance Tools) section details 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of designers with know-how) and 'b3. 学識経験者によるデザインのブラッシュアップ指導' (Guidance by experts). The '関係機関' (Stakeholders) and '宮内庁' (Imperial Household Agency) are also shown. The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is a '景観性・オリジナルデザイン：オリジナル石舗装のパターンで構成されている' (Landscape-oriented original design: composed of original stone paving patterns), accompanied by a photograph of the site.</p>		

対象		内容		
施設デザイン ストリート ファニ チャ	景観性、オリジナルデザイン	シェルター、照明柱、車止め等すべてのストリートファニチャが東京の顔として新しいオリジナルデザインが提案されている。		
	事業特性	コスト、施工スケジュール、管理区分 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案	設計計算	現場管理
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案 学識経験者：デザインの妥当性確認	デザイナー：デザインに基づく設計計算，実施設計図作成 行政担当：設計計算，実施設計図の確認	行政担当：工事の出来形確認 デザイナー：現場監理 施工者：デザイナーの指示に応じて調整
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：デザインの評価，助言	a1. コスト検証・序内調整 A3. 設計計算	A1. 現場監理 b1. 施工者協力
	関与者群	関係機関		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project workflow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) includes 'コスト' (Cost), '施工スケジュール' (Construction Schedule), and '管理区分' (Management District). These lead into the '検討プロセス' (Review Process), which consists of three main stages: '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape), '設計計算' (Design Calculation), and '現場管理' (Site Management). Below this, 'アクターと役割' (Actors and Roles) are defined: 'デザイナー：オリジナルデザイン提案' (Designer: Proposal of original design) and '学識経験者等：デザインの妥当性確認' (Experts: Confirmation of design appropriateness) for the first stage; 'デザイナー：デザインに基づく設計計算，実施設計図作成' (Designer: Design calculation and implementation drawing creation) and '行政担当：設計計算，実施設計図の確認' (Admin: Design calculation and implementation drawing confirmation) for the second stage; and '行政担当：工事の出来形確認' (Admin: Confirmation of work completion), 'デザイナー：現場監理' (Designer: Site supervision), and '施工者：デザイナーの指示に応じて調整' (Construction worker: Adjustment according to designer's instructions) for the third stage. 'ガバナンスツール' (Governance Tools) include 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of designer with know-how), 'b3. 学識経験者等：デザインの評価，助言' (Evaluation and advice from experts), 'a1. コスト検証・序内調整' (Cost verification and internal adjustment), 'A3. 設計計算' (Design calculation), 'A1. 現場監理' (Site supervision), and 'b1. 施工者協力' (Construction worker cooperation). '関与者群' (Stakeholders) are also indicated. On the right, 'デザインのアウトプット' (Design Output) shows '景観性・オリジナルデザイン：シェルター、照明柱、車止め等すべてのストリートファニチャが東京の顔として新しいオリジナルデザインが提案されている。' (Landscape-oriented original design: All street furniture like shelters, lighting poles, and stoppers are proposed as new original designs as the face of Tokyo). An image of a street scene is included.</p>		

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性、地域価値	皇居までの軸線を強調高木の列植、広場にシンメトリーに配置された芝生広場で構成されている。			
	事業特性	上位計画（ヴィジョン） 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映，維持管理性の担保	現場監理，利活用の促進	
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
	関与者群				
	概念図				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

東京駅周辺の再生整備に関する研究委員会で土地利用等について検討したうえで、トータルデザイン検討会でトータルデザインコンセプト、デザインガイドラインを策定。具体化のためにトータルデザイン・フォローアップ会議が設置された。フォローアップ会議の下にワーキンググループが設置され、デザイナーが構成員に指名されて、事業者であるJR、三菱地所、東京都等とやり取りしながらデザインを立案、決定している。デザインはデザイナーが立案し、具体的な図面化は各事業者が行っている。照明柱等のストリートファニチャーはオリジナルであり、試作や製作監理などを行い、東京の顔に相応しい景観を作り上げている。



(5) 女川駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、シンボル空間まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
施設デザイン	舗装等	駅広からシンボル空間まで複数のレンガ舗装で統一。	
	ストリートファニチャ	駅広からシンボル空間まで同一のオリジナルデザインのストリートファニチャ。	
	緑地等	駅広からシンボル空間まで要所に緑地と列植した高木が配され、駅前には車両も侵入できる仕様の芝生広場を採用。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎から駅広、シンボル空間まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
事業特性	先行事業、検討体制		
検討プロセス	コンセプト立案 ・歩行者プロムナードを軸に海への眺望を活かした空間像	都市構造の基軸設定化	具体化 ・形に落とし込む
アクターと役割	住民によるまちづくりWG：都市空間像を提案	中心市街地エリア復興協議会：ワークショップによりレンガ道の整備方針を町に提言	復興まちづくり会議：町長、専門家による会議でその場で意思決定
ガバナンスツール	b1. 組織文化（民間からの提案）	b1. 組織文化（民間からの提案）	A1. デザイナー委員指名 b3. 組織文化（その場で決める意思決定の文化）
関与者群			市民
全体デザイン	<p>概念図</p> <p>The concept diagram illustrates the design process. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) including '先行事業' (Pre-project) and '検討体制' (Review System). The '検討プロセス' (Review Process) involves 'コンセプト立案' (Concept Development) and '都市構造の基軸設定化' (Setting Urban Structure Axes). This leads to '具体化' (Concretization) and '形に落とし込む' (Incorporating into form). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section shows '住民によるまちづくりWG' (Resident-led community planning WG) and '復興まちづくり会議' (Reconstruction community planning meeting). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) include 'b1. 組織文化' (Organizational Culture) and 'A1. デザイナー委員指名' (Designer committee appointment). The '関与者群' (Stakeholders) section lists '市民' (Citizens) and '市民意見' (Citizen opinions). The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is a harmonized station and surrounding area design.</p>		

対象		内容			
施設デザイン 舗装等	景観性、バリアフリー、オリジナルデザイン	駅広からシンボル空間まで複数のレンガ舗装で統一。			
	事業特性	先行事業、検討体制、周辺の建築物 法令：道路構造令、バリアフリー法			
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・ 駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・ コスト、意匠等の妥当性 ・ 性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・ 縁石のバリアフリー検証	
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見	
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加	
	関与者群	関係機関	市民		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) including '先行事業' (Previous Projects), '検討体制' (Review System), and '周辺の建築物' (Surrounding Buildings). This leads to the '検討プロセス' (Review Process), which involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of landscape-conscious original design) and '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section identifies 'デザイナー' (Designer), '行政担当' (Administrative Staff), and '学識経験者' (Experts). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of experienced designers) and 'A1. 会議設置' (Meeting establishment). The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is '景観性・オリジナルデザイン：駅広からシンボル空間まで複数のレンガ舗装で統一。' (Landscape-oriented original design: uniform brick paving from station plaza to symbol space).</p>			

対象		内容			
施設デザイン	ストーリー ストファニ チャ	景観性、オリジナルデザイン	駅広からシンボル空間まで同一のオリジナルデザインのストリートファニチャ。		
		事業特性	コスト、施工スケジュール、管理区分 法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・女川らしいデザインの立案（周辺街区整備で開発）	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
		アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
		ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 試作協力依頼 b1. メーカー協力 b3. 市民参加
		関与者群	市民		
		<p>概念図</p> <p>The concept diagram illustrates the project's framework. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) includes 'コスト' (Cost), '施工スケジュール' (Construction Schedule), and '管理区分' (Management Division). The central '検討プロセス' (Review Process) involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape), '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications), and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). This process is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), including 'デザイナー' (Designer), '学識経験者' (Experts), '地域産業' (Local Industry), and 'メーカー' (Manufacturer). The 'ガバナンスツール' (Governance Tools) include 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of experienced designers), 'b3. 学識経験者によるデザインのブラッシュアップ指導' (Guidance from experts), and 'A1. 会議設置' (Meeting establishment). The '関与者群' (Stakeholders) are '市民' (Citizens), with 'A1. 一貫した会議体制のシステム' (Unified meeting system) as a key element. On the right, 'デザインのアウトプット' (Design Output) shows '景観性・オリジナルデザイン・駅広からシンボル空間まで同一のオリジナルデザインのストリートファニチャ' (Landscape-oriented original design street furniture from station square to symbol space) and an image of the finished street furniture.</p>			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性、地域価値	駅広からシンボル空間まで要所に緑地と列植した高木が配され、駅前には車両も侵入できる仕様の芝生広場を採用。			
	事業特性	上位計画（ビジョン） 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映、維持管理性の担保	現場監理，利活用の促進	
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
	関与者群				
	概念図				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察




住民のまちづくりWGから歩行者プロムナードを軸に海への眺望を活かした空間像のコンセプトが提案され、中心市街地エリア復興協議会の連続ワークショップによりレンガ道の整備方針を町に提言、まちが復興まちづくり会議を設置し、町長、専門家による会議でその場で意思決定する体制により実現している。会議運営の支援にコーディネート業務が毎年発注されて円滑な合意形成に寄与している。

復興で期間が限られていたこともあり町長を含むデザイナーによる会議で迅速に具体的意思決定する仕組みが機能している。

(6) 富山駅 南口駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真	
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。南北に貫くLRTが駅舎から駅広まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
施設デザイン	舗装等	複数の自然石舗装によりパターンが構成されている。		
	ストリーニアニチャ	景観性、オリジナル	シェルターを中心にオリジナルデザイン。	
	緑地等	景観性	軌道の両側の緑地帯を配置、駅前に桜を14本配置している。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。南北に貫くLRTが駅舎から駅広まで軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
	事業特性	先行計画		
	検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・南北軸の形成	コンセプト ・駅及び周辺地区の調和の方針	景観デザイン計画 ・駅舎及び駅前広場のデザインの基本的な方向を示すデザイン指針とその将来のイメージをベースで具体化
	アクターと役割	富山駅周縁整備協議会：土地利用南北軸形成	景観デザイン検討委員会：コンセプトの策定	専門部会：プロポで景観デザイナーを選定、デザイン計画の確認議論 景観デザイナー：コンセプトを具体化し、景観デザイン計画作成
	ガバナンスツール	A1. 委員会設置	A1. 委員会設置	A1. デザイナー指名（プロポ委員会設置）
	関与者群			
概念図				

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、オリジナル	複数の自然石舗装によりパターンが構成されている。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案	標準でない仕様の採用	品質・利用性等の検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 委員会、学識者等：デザインの妥当性確認	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群			市民
	概念図	<p>事業特性</p> <p>先行計画</p> <p>検討プロセス</p> <p>アクターと役割</p> <p>ガバナンスツール</p> <p>関与者群</p> <p>デザインのアウトプット</p> <p>オリジナルデザイン：複数の自然石舗装によりパターンが構成されている。</p>		



対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	景観性、オリジナルデザイン	シェルターを中心にオリジナルデザイン。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	地域性、気候風土	軌道の両側の緑地帯を配置、駅前に桜を14本配置している。			
	事業特性	先行計画 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映、維持管理性の担保	現場監理、利活用の促進	
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注、社会実験、イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議、現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
	関与者群				
	概念図				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察





南北軸の形成は関係機関が集まる推進協議会で決定し、そのコンセプトの具体化を景観検討委員会が担い、さらにデザインの具体化をプロポーザルで選んだ景観デザイナーが担っている。

駅前広場、駅舎等、対象によって設計者が異なるが、プロポーザルで選ばれた景観デザイナーが最後まで監修的な立場に関わることにより、質の高い調和の全体デザインが実現されている。

(7) 天理駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真	
全体デザイン	統合性	駅前広場環境空間として、地域の古墳の風景をモチーフに反復することで統合性を持つデザイン。駅前広場整備事業だが、交通広場と環境空間は別に検討されている。		
施設デザイン	舗装等	景観性	洗い出し舗装や人工芝、天然芝などが同心円状のモチーフ状に描かれている。	
	ストリーニアニ ストファ チャ	景観性、歴 史文化、オ リジナルデ ザイン	同心円のモチーフはベンチや展望台、庇などになるオリジナルデザイン。サイン、照明柱もオリジナルデザイン。	
	緑地等	景観性	同心円状のモチーフ状に緑地、高木等が配置されている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
統合性	駅前広場環境空間として、地域の古墳の風景をモチーフに反復することで統合性を持つデザイン。駅前広場整備事業だが、交通広場と環境空間は別に検討されている。			
事業特性	駅前広場単独事業、工事費 10 億、事業期間 3 年			
検討プロセス	優秀なデザイナーの選定方法の検討	特徴的なデザインの立案・選定	デザインの具現化	
アクターと役割	行政担当：地元協議会と協議し目指す姿を要項に具体化	デザイナー：要項を受け、地域のシンボルをモチーフ化 選定委員会：地元協議会 4 と行政 1 による審査で選定	デザイナー：デザイン基本計画を作成、その後デザイン監修 建設コン：デザイン計画をもとに VE 提案 (20⇒11 億)、実施設計図作成	
ガバナンスツール	A1. 調達：プロポ方式 A3. 地元との協議調整	A1. 地元も入った審査委員会設置 A3. 審査基準 (コンセプト, デザイン配点高)	B3, デザイン基本計画策定 A1. デザイン監修委託 A1. 建設コン設計発注 b3. 地元との協議調整	
関与者群	首長 地元協議会		首長 地元協議会	
全体デザイン	<p>概念図</p>			

対象		内容	
施設デザイン 舗装等	景観性	洗い出し舗装や人工芝、天然芝などが同心円状のモチーフ状に描かれている。	
	事業特性	選定デザイン案 法令：道路構造令、バリアフリー法	
	検討プロセス	既製品選択の場合) 地域になじむ色彩、 素材等をメーカー 既製品カタログから 選択	既製品アレンジの 場合) 既製品をベ ースに色や仕上げ を調整
	アクターと 役割	設計者：メーカーカ タログから3案比較 行政担当：組織の 持っている標準コ ストやグレードア ップの考え方によ り、3案比較から選 択	設計者：メーカー の協力を得て、既 製品をベースに色 や仕上げを調整 行政担当：庁内調 整、コスト確認・ 調整、仕様の確認 メーカー：調整協 力
	ガバナンス ツール	A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範	a1. コスト検証・庁 内調整、メーカ ー協力
	関与者群		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the design process flow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '選定デザイン案' (Selected Design Case). This feeds into two parallel '検討プロセス' (Review Processes). The left process involves '既製品選択' (Existing Product Selection) where '設計者' (Designer) compares 3 cases from the manufacturer's catalog, and '行政担当' (Admin) manages the process based on standard costs and upgrades. The right process involves '既製品アレンジ' (Existing Product Arrangement) where '設計者' (Designer) adjusts colors and finishes based on manufacturer products, with '行政担当' (Admin) handling internal adjustments and cost verification, and 'メーカー' (Manufacturer) providing adjustment support. Both processes utilize 'ガバナンスツール' (Governance Tools) like '仕様書三案比較' (Specification 3-case comparison) and 'コスト検証' (Cost verification). The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which includes '景観性' (Landscape) features like concentric circular motifs.</p>	

対象		内容			
施設デザイン	ストーリー ストラチャ	景観性、歴史文化、オリジナルデザイン	同心円のモチーフはベンチや展望台、底などになるオリジナルデザイン。サイン、照明柱もオリジナルデザイン。		
		事業特性	選定デザイン案 法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	優秀なデザイナーの選定方法の検討	特徴的なデザインの立案・選定	デザインの具現化
		アクターと役割	行政担当：地元協議会と協議し目指す姿を要項に具体化	デザイナー：要項を受け、地域のシンボルをモチーフ化 選定委員会：地元協議会4と行政1による審査で選定	デザイナー：デザイン基本計画を作成、その後デザイン監修 建設コン：デザイン計画をもとにVE提案（20⇒11億）、実施設計図作成
		ガバナンスツール	A1. 調達：プロポ方式 A3. 地元との協議調整	A1. 地元も入った審査委員会設置 A3. 審査基準（コンセプト、デザイン配点高）	B3, デザイン基本計画策定 A1. デザイン監修委託 A1. 建設コン設計発注 b3. 地元との協議調整
		関与者群	首長 地元協議会		首長 地元協議会
		<p>概念図</p> <p>The diagram illustrates the design process flow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '検討プロセス' (Review Process) which includes three steps: ①優秀なデザイナーの選定方法の検討 (Review of selection methods for excellent designers), ②特徴的なデザインの立案・選定 (Proposal and selection of distinctive designs), and ③デザインの具現化 (Realization of design). This process involves 'アクターと役割' (Actors and Roles) where administrative staff coordinate with the local association to specify requirements, and designers create a basic plan and supervise. 'ガバナンスツール' (Governance Tools) include procurement methods (A1, A3) and review committees (A1, A3). '関与者群' (Stakeholders) include the chief and local association, with roles for proposal, team formation, and opinion provision. The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is a landscape with original design motifs like concentric circles, integrated through iterative refinement.</p>			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性	同心円状のモチーフ状に緑地、高木等が配置されている。			
	事業特性	選定デザイン案 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映，維持管理性の担保	現場監理，利活用の促進	
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
	関与者群				
	概念図				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- ・プロポ実施前に地域の協議会と意見摺合せした要項を作成。
- ・地域協議会を中心とした審査会、デザインを重視した審査基準
- ・要項を受けたデザイナーの提案により目標像を設定。
- ・デザイン案をもとに、デザイン監修業務を請け、建設コンサルタントと協働することで実現性を担保。

(8) 南万騎が原駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	統合性	駅前広場環境空間として、高低差を曲線を持つ階段とスロープ、統一した舗装で連続させた、統合性、一体性を持つデザイン。	
施設デザイン	舗装等	高低差のある駅前広場と曲線を持つコンクリート階段とインターロッキング舗装で特徴的なパターンを描いている。	
	ストリーニアニチャ	既製品のアレンジ。	
	緑地等	既存の高木を現地に存置し、それを前提に全体計画を作成。	



2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
	統合性	駅前広場環境空間として、高低差と曲線を持つ階段とスロープ、統一した舗装で連続させた、統合性、一体性を持つデザイン。		
	事業特性	環境空間対象		
	検討プロセス	高低差と既存樹木の保全から制約が厳しいため、階段を既存樹木の配置に合わせて曲線で棚田状のデザインを立案		
	アクターと役割	デザイナー：既存樹木の配置と地形を読んで造形を提案		
	ガバナンスツール	A1. 優秀なデザイナーへの委託		
	関与者群	横浜市、鉄道事業者		
全体デザイン	概念図	<p>The diagram illustrates the design process for the station square. It starts with 'Project Characteristics' (事業特性) where the environment space is the target (環境空間対象). This leads to the 'Design Process' (検討プロセス), which involves addressing constraints from high/low differences and tree preservation to create a terraced design (棚田状のデザイン) that fits the existing tree layout. The 'Actors and Roles' (アクターと役割) section shows the designer reading the tree placement and terrain to propose the form. 'Governance Tools' (ガバナンスツール) include commissioning to an excellent designer (A1). The final 'Design Output' (デザインのアウトプット) is a design that integrates the environment space with steps and slopes, unified paving, and overall integration and unity.</p>		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性	高低差のある駅前広場と曲線を持つコンクリート階段とインターロッキング舗装で特徴的なパターンを描いている。		
	事業特性	選定デザイン案 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	既製品選択の場合) 地域になじむ色彩、素材等をメーカー既製品カタログから選択	既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整	
	アクターと役割	設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により、3案比較から選択	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や仕上げを調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力	
	ガバナンスツール	A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力	
	関与者群			
	概念図	<p>事業特性 選定デザイン案</p> <p>検討プロセス (既製品選択の場合) 地域になじむ色彩、素材等をメーカー既製品カタログから選択</p> <p>検討プロセス (既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整</p> <p>デザインのアウトプット 景観性：高低差のある駅前広場と曲線を持つコンクリート階段とインターロッキング舗装で特徴的なパターンを描いている。</p> <p>アクターと役割 設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により、3案比較から選択</p> <p>アクターと役割 設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や仕上げを調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力</p> <p>ガバナンスツール A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範</p> <p>ガバナンスツール a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力</p> <p>関与者群</p>		

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	一般	既製品のアレンジ。		
	事業特性	全体デザインと同様の和風・茶系以外は特にみられない。 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	地域性、気候風土	ゾーンごとに限られたスペースを活用し、四季の感じられる高木をコーナーなどの隙間に配置。			
	事業特性	先行計画 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映、維持管理性の担保	現場監理、利活用の促進	
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注、社会実験、イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議、現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
	関与者群				
概念図					

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

鉄道事業者が整備する駅前広場のうち環境空間を対象としたデザイン。  
 既存樹木の保存と4mの高低差の解消が限られた範囲で行う必要があり制約の大きな計画であった。  
 厳しい条件をクリアし、地域の顔となるデザインができる優秀なデザイナーがゼネコンから紹介され、鉄道事業者が随意契約。  
 デザイナーの発想により既存樹木の高さを考慮した曲線、棚田状の平面形状と高低差解消のデザインを提案。  
 舗装材のパターンと合わせてオリジナルなデザインを実現

(9) 姫路駅 北駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、一体性を持つ。駅舎から駅広、姫路城まで大手前通りにつながる軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
施設デザイン	舗装等	大手町通へと続く軸線状に複数の自然石舗装が使い分けられている。	
	ストリーニアニチャ	地域の特徴的なデザインをモチーフとしたオリジナルデザイン。	
	緑地等	大手町通へと続く軸線状に高木が配され、駅前のイベント広場の芝生、サンクンガーデンの中木・低木等の場所に応じた多様な植栽がデザインされている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、一体性を持つ。駅舎から駅広、姫路城まで大手前通りにつながる軸線の通った一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
	事業特性	先行計画		
	検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・ 駅から姫路城までのシンボル軸の形成 ・ 都市計画道路として戦後計画	レイアウト案の競合 ・ 市、民間等複数からレイアウト案が提案	レイアウト案の絞り込み ・ 交通空間を周辺都市計画と一緒に考えることで、歩行者優先で城までの軸線を具体化
	アクターと役割	市長：戦後の都市計画で大手前通りのシンボル軸を形成	市：昨日からレイアウトを検討 商工会、民間団体：まちの顔となるレイアウトを提案	学識者：これまでの案を比較しながら、公開でレイアウト検討 デザイナー：軸を強調する詳細デザイン
	ガバナンスツール	a2. 先行事業	b1. 組織文化（民間主導で議論する文化）	b1. 組織文化（NPO主催で専門家WSを開催） A1. デザイナー指名
	関与者群	地域（商工会）、議会、市民、専門家		
	概念図			

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、オリジナルデザイン	大手町通へと続く軸線状に複数の自然石舗装が使い分けられている。		
	事業特性	先行事業、検討体制、周辺の建築物 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群			市民
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's framework. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) including '先行事業' (Pilot Project), '検討体制' (Review System), and '関連の建築物' (Related Buildings). This leads to the '検討プロセス' (Review Process), which involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape), '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications), and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section identifies 'デザイナー' (Designer), '学識経験者' (Experts), '行政担当' (Administrative staff), '駅前広場検討委員会・WG' (Station Plaza Review Committee/WG), and 'メーカー' (Manufacturer). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of experienced designers), 'a1. コスト検証・庁内調整' (Cost verification and internal adjustment), and 'b1. 現場主義の組織文化' (On-site oriented organizational culture). The '関与者群' (Stakeholder Groups) section lists '市民' (Citizens) and '市民：意見' (Citizens: Opinions). The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is a street with '景観性・オリジナルデザイン' (Landscape-oriented original design) and '大手町通へと続く軸線状に複数の自然石舗装が使い分けられている' (Multiple natural stone paving materials used in an axis-line pattern along Tenma Street).</p>		

対象		内容			
施設デザイン	ストーリー ファンチャ	景観性、オリジナルデザイン	地域の特徴的なデザインをモチーフとしたオリジナルデザイン。		
		事業特性	コスト、施工スケジュール、管理区分 法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・姫路らしいデザインの立案（周辺街区整備で開発）	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
		アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
		ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
		関与者群			市民
		<p>概念図</p> <p>The diagram illustrates the project's framework. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) includes 'コスト' (Cost), '施工スケジュール' (Construction Schedule), and '管理区分' (Management Area). These lead to the '検討プロセス' (Design Process), which involves '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of landscape-conscious original design), '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications), and '品質・利用性等の検証' (Verification of quality and usability). The '検討プロセス' is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), including 'デザイナー' (Designer), '学識経験者' (Academic experts), '地域産業' (Local industry), and 'メーカー' (Manufacturer). The '検討プロセス' also leads to 'デザインのアウトプット' (Design Output), which is '景観性・オリジナルデザイン：地域の特徴的なデザインをモチーフとしたオリジナルデザイン' (Landscape-oriented original design: original design inspired by local characteristics). The '検討プロセス' is supported by 'ガバナンスツール' (Governance Tools), including 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning of designers with know-how), 'a1. コスト検証・庁内調整' (Cost verification and internal adjustment), and 'b1. 現場主義の組織文化' (On-site oriented organizational culture). The '検討プロセス' is supported by '関与者群' (Stakeholders), including '市民' (Citizens) and '意見' (Opinions).</p>			



対象		内容					
施設デザイン	緑地等	景観性、オリジナル	大手町通へと続く軸線状に高木が配され、駅前のイベント広場の芝生、サンクンガーデンの中木・低木等の場所に応じた多様な植栽がデザインされている。				
		事業特性	上位計画（ビジョン） 法令：建築基準法				
		検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画 ・地元の樹種やシンボルの活用	維持管理性の担保 ・費用、手間の低減	市民意向の反映 ・市民参加	現場監理 ・現場での調整	
		アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	行政担当：維持管理方法の検討 市民：維持管理協力の参加	行政担当：市民参加企画 駅前広場検討委員会・WG： 現場で議論 デザイナー： デザインへの反映	デザイナー：現場町営会議、がんデザイン監修 施工者：現場での調整 市民：地元樹種樹木等の提供	
		ガバナンスツール	b1. 樹木現地確認 b3. 学識経験者：個別助言	b3. 住民参加による維持管理方法の仕組み	b3. 市民参加の仕組み A1. 会議設置	A1. 施工デザイン監理の発注 a1. 民家からの移植受け入れ	
		関与者群		市民：意見	市民：意見		
	概念図	<p>The diagram illustrates the project's structure. On the left, 'Business Characteristics' (上位計画) leads to 'Review Process' (検討プロセス), which includes 'Actors and Roles' (アクターと役割), 'Governance Tools' (ガバナンスツール), and 'Stakeholders' (関与者群). The 'Review Process' is divided into four stages: 1. Climate/soil-based green space planning and local tree/symbol utilization; 2. Maintenance security and cost/time reduction; 3. Reflection of citizen intentions and participation; 4. Promotion of utilization and trial operation. 'Actors and Roles' involves designers, local experts, and citizens. 'Governance Tools' includes on-site confirmation, resident participation, citizen participation mechanisms, and construction supervision. 'Stakeholders' are citizens providing input. On the right, 'Design Output' (デザインのアウトプット) shows the final landscape design with a photo of the site.</p>					


### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

戦後、市長の主導により、駅から姫路城までのヴィスタ空間が設定された。駅周辺の再整備のため、市、民間から多くのレイアウト案が提案されたため、市民NPOが中心となり、学識者によるワークショップが開かれ、公開で議論された。具体的にはヴィスタ空間に受けた歩行者動線のあり方について、数回の議論を経て、市がレイアウト案の修正、採用を表明した。学識者は当初NPOから参加を打診され、その後市とアドバイザーの契約を結んでいる。

(10) 西鉄柳川駅 西口駅前広場, 東口駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	一体性	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎、自由通路から駅広まで、ストリートファニチャ、舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
施設デザイン	舗装等	レンガ舗装やインターロッキングなどでパターンが描かれている。	
	ストリートファニチャ	シェルター、照明中、ベンチ等すべてオリジナルデザイン。	
	緑地等	イベントでの利用などを考慮し、高木や緑地が配置されている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
全体デザイン	一体性	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎、自由通路から駅広まで、ストリートファニチャ、舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
	事業特性	先行事業、検討体制		
	検討プロセス	要素ごとに統一的なデザイン立案	統一的な図面、仕様書等で発注	
	アクターと役割	設計者：統一的なデザインを立案	行政担当：図面、市長諸島を統一し工事発注	
	ガバナンスツール	a3. 調整会議等で要素を統一	A3. 統一した図面、仕様書等	
	関与者群			
	概念図	<p>デザインのアウトプット</p> <p>一体性： 駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎、自由通路から駅広まで、ストリートファニチャ、舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。</p>		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、オリジナルデザイン	レンガ舗装やインターロッキングなどでパターンが描かれている。		
	事業特性	先行事業、検討体制、周辺の建築物 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるブラッシュアップ指導	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群			市民
	概念図			

対象		内容			
施設デザイン ストーリー スタフェ チャ	景観性、地域価値	シェルター、照明中、ベンチ等すべてオリジナルデザイン。			
	事業特性	上位計画（ビジョン） 法令：道路構造令、バリアフリー法			
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・柳川らしいデザインの立案（周辺街区整備で開発）	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証	
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 駅前広場検討委員会・WG：デザインの妥当性議論	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修 地域産業：地元産材の耐久性向上研究開発 メーカー：試験製作 市民：試験参加、意見	
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加	
	関与者群				
	概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '上位計画' (Upper Plan). This feeds into the '検討プロセス' (Review Process), which includes '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of landscape-conscious original design) and '標準でない仕様の採用' (Adoption of non-standard specifications). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section identifies 'デザイナー' (Designer), '学識経験者' (Academic/Expert), '地域産業' (Local Industry), and 'メーカー' (Manufacturer). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning) and 'b3. 学識経験者による個別助言' (Individual advice). '関与者群' (Stakeholders) includes '市民' (Citizens). The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which is '景観性・オリジナルデザイン：シェルター、照明中、ベンチ等すべてオリジナルデザイン' (Landscape-oriented original design for shelters, lighting, benches, etc.).</p>			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性、歴文化性、維持管理、愛着・誇り、地域価値	地域のシンボルである史跡（西都原）をモチーフとした緩やかな起伏を持つ交流広場，地元の樹種をメインとした高木，車いすの方も参加できる舗装された園路デザインが採用されている。			
	事業特性	検討体制 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画 ・地元の樹種やシンボルの活用	維持管理性の担保 ・費用、手間の低減	市民意向の反映 ・市民参加	現場監理 ・現場での調整
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	行政担当：維持管理方法の検討 市民：維持管理協力の参加	行政担当：市民参加企画 駅前広場検討委員会・WG： 現場で議論 デザイナー：デザインへの反映	デザイナー：現場町営会議、がんデザイン監修 施工者：現場での調整 市民：地元樹種樹木等の提供
	ガバナンスツール	b1. 樹木現地確認 b3. 学識経験者：個別助言	b3. 住民参加による維持管理方法の仕組み	b3. 市民参加の仕組み A1. 会議設置	A1. 施工デザイン監理の発注 a1. 民家からの移植受け入れ
	関与者群		市民：意見	市民：意見	
	概念図	<p>The diagram illustrates the project's conceptual framework. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) and '検討プロセス' (Review Process) leading to 'デザインのアウトプット' (Design Output). The '検討プロセス' includes: 気候風土に根差した緑地計画・地元の樹種やシンボルの活用; 維持管理性の担保・費用、手間の低減; 市民意向の反映・市民参加; and 利害関係の促進・実践適用. The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section includes: デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討; 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導; 行政担当：維持管理方法の検討; 市民：維持管理協力の参加; 行政担当：市民参加企画; 駅前広場検討委員会・WG：現場で議論; デザイナー：デザインへの反映; デザイナー：現場町営会議、現場デザイン監修; 施工者：現場での調整; 市民：地元樹種樹木等の提供. The 'ガバナンスツール' (Governance Tools) section includes: b1. 樹木現地確認; b3. 学識経験者：個別助言; b3. 住民参加による維持管理方法の仕組み; b3. 市民参加の仕組み; A1. 会議設置; A1. 施工デザイン監理の発注; a1. 民家からの移植受け入れ. The '関与者群' (Stakeholder Groups) section includes: 市民：意見; 市民：意見. The 'デザインのアウトプット' (Design Output) includes: 気候風土・維持管理・愛着と誇り・価値創出イベントでの利用などを考慮し、高木や緑地が配置されている。 An image of the site is also shown.</p>			

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

駅周辺に調和を求める施設等がないため、駅前広場と東西通路全体で一体性を持つデザインが実現されている。  
高架化により東西が分断されているが、東西通路では、地域の情報発信なども行われ、文壇が感じられないデザインとなっている。また、照明柱等のストリートファニチャーも共通である。

(11) 狭山市駅 駅前広場

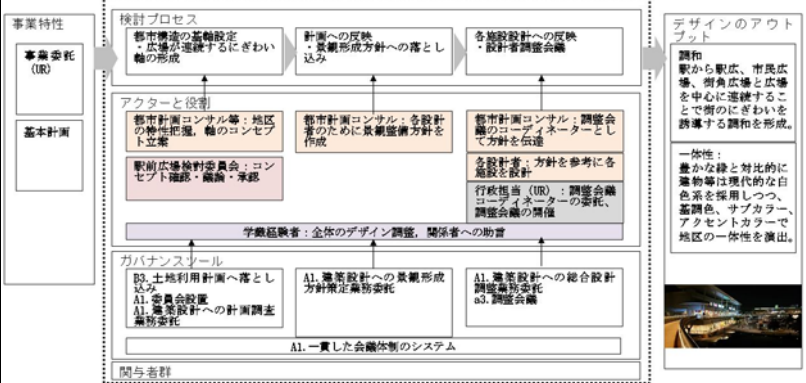
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅から駅広、市民広場、街角広場と広場を中心に連続することで街のにぎわいを誘導する調和を形成。	
	一体性	豊かな緑と対比的に建物等は現代的な白色系を採用しつつ、基調色、サブカラー、アクセントカラーで地区の一体性を演出。	
施設デザイン	舗装等	インターロッキングブロックと一般的なコンクリート縁石、側溝だが色彩計画により落ち着いた低彩度色に。	
	ストリートファニチャ	一般的な既製品だが、統一されたサインデザイン等。	
	緑地等	景観性・気候風土、着と誇り 河岸段丘の地形や既存樹木を活かした緑地デザイン。四季を感じる樹木や花。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅から駅広、市民広場、街角広場と広場を中心に連続することで街のにぎわいを誘導する調和を形成。		
一体性	豊かな緑と対比的に建物等は現代的な白色系を採用しつつ、基調色、サブカラー、アクセントカラーで地区の一体性を演出。		
事業特性	事業委託（UR）、基本計画		
検討プロセス	都市構造の基軸設定 ・広場が連続するにぎわい軸の形成	計画への反映 ・景観形成方針への落とし込み	各施設設計への反映 ・設計者調整会議
アクターと役割	都市計画コンサル：地区の特性把握、軸のコンセプト立案 まちづくり検討委員会：コンセプト確認・議論・承認	都市計画コンサル：各設計者のために景観整備方針を作成	都市計画コンサル：調整会議のコーディネーターとして方針を伝達 各設計者：方針を参考に各施設を設計 行政担当（UR）：調整会議コーディネーターの委託、調整会議の開催
ガバナンスツール	B3. 土地利用計画へ落とし込み A1. 委員会設置 建築設計への計画調査業務委託	A1. 建築設計への景観形成方針策定業務委託	A1. 建築設計への総合設計調整業務委託 a3. 調整会議
関係者群			
全体デザイン	<p data-bbox="405 1552 491 1585">概念図</p> 		



対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性	インターロッキングブロックと一般的なコンクリート縁石、側溝だが色彩計画により落ち着いた低彩度色に。		
	事業特性	事業委託 (UR)、基本計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	(既製品選択の場合) 地域になじむ色彩, 素材等をメーカー既製品カタログから選択	(既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整	
	アクターと役割	設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により, 3案比較から選択	設計者：メーカーの協力を得て, 既製品をベースに色や仕上げを調整 行政担当：庁内調整, コスト確認・調整, 仕様の確認 メーカー：調整協力	
	ガバナンスツール	A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範	a1. コスト検証・庁内調整, メーカー協力	
	関与者群			
	概念図	<p>事業特性 事業委託 (UR) 基本計画</p> <p>検討プロセス (既製品選択の場合) 地域になじむ色彩、素材等をメーカー既製品カタログから選択</p> <p>検討プロセス (既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整</p> <p>アクターと役割 設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により, 3案比較から選択</p> <p>アクターと役割 設計者：メーカーの協力を得て, 既製品をベースに色や仕上げを調整 行政担当：庁内調整, コスト確認・調整, 仕様の確認 メーカー：調整協力</p> <p>ガバナンスツール A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範</p> <p>ガバナンスツール a1. コスト検証・庁内調整, メーカー協力</p> <p>関与者群</p> <p>デザインのアウトプット 景観性： インターロッキングブロックと一般的なコンクリート縁石、側溝だが色彩計画により落ち着いた低彩度色に。</p>		

対象		内容			
施設デザイン	ストーリーチャ	景観性	一般的な既製品だが、統一されたサインデザイン等。		
		事業特性	事業委託 (UR)、基本計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	既製品をベースに色や仕上げを調整		
		アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
		ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
		関与者群			
		概念図			

対象		内容			
施設デザイン 緑地等	景観性・気候風土、愛着と誇り	河岸段丘の地形や既存樹木を活かした緑地デザイン。四季を感じる樹木や花。			
	事業特性	事業委託（UR）、基本計画 法令：建築基準法			
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画 ・地元の樹種やシンボルの活用	維持管理性の担保 ・費用、手間の低減	市民意向の反映 ・市民参加	現場監理 ・現場での調整
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	行政担当：維持管理方法の検討 市民：維持管理協力の参加	行政担当：市民参加企画 駅前広場検討委員会・WG： 現場で議論 デザイナー：デザインへの反映	デザイナー：現場町営会議、がんデザイン監修 施工者：現場での調整 市民：地元樹種樹木等の提供
	ガバナンスツール	b1. 樹木現地確認 b3. 学識経験者：個別助言	b3. 住民参加による維持管理方法の仕組み	b3. 市民参加の仕組み A1. 会議設置	A1. 施工デザイン監理の発注 a1. 民家からの移植受け入れ
	関与者群		市民：意見	市民：意見	
	概念図				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- ・基本計画から継続的に随契により検討してきた建築家が景観形成マスタープラン及びガイドラインを作成し、それをもとに各設計者が設計を進めつつ、全体を総合設計調整会議を開催して調整している。
- ・各施設の設計成果は各設計者の力量にゆだねられているが、全体としてはマスタープランや調整会議により調和、一体性が図られている。

(12) 北本駅 西口駅前広場

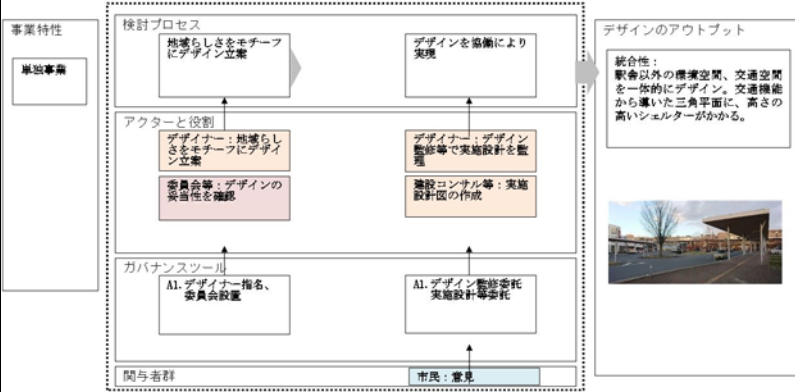
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	統合性	駅舎以外の環境空間、交通空間を一体的にデザイン。交通機能から導いた三角平面に、高さの高いシェルターがかかる。	
施設デザイン	舗装等	一般的なインターロッキングだが一部駐車場県広場に緑化ブロックが採用されている。	
	ストリーニアニストフチャ	高さの高いシェルターとそこに添架するサイン等はオリジナルデザイン。	
	緑地等	市民とのワークショップでだされた地域の原風景を地域の樹種で駅前の顔としてデザイン。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
統合性	駅舎以外の環境空間、交通空間を一体的にデザイン。交通機能から導いた三角平面に、高さの高いシェルターがかかる。		
事業特性	駅広単独		
検討プロセス	地域らしさをモチーフにデザイン立案	デザインを協働により実現	
アクターと役割	デザイナー：地域らしさをモチーフにデザイン立案 委員会等：デザインの妥当性を確認	デザイナー：デザイン監修等で実施設計を監理 建設コンサル等：実施設計図の作成	
ガバナンスツール	A1. デザイナー指名、委員会設置	A1. デザイン監修委託、実施設計等委託	
関与者群	市民		
全体デザイン	<p data-bbox="405 1308 491 1339">概念図</p> 		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	一般	一般的なインターロッキングだが一部駐車場県広場に緑化ブロックが採用されている。		
	事業特性	法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	地域になじむ色彩、素材等をメーカー既製品カタログから選択		
	アクターと役割	設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により、3案比較から選択		
	ガバナンスツール	A3.仕様書三案比較 a1.組織規範		
	関与者群			
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the design process. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) on the left, which points to a central dashed box containing three main stages: '検討プロセス' (Review Process), 'アクターと役割' (Actors and Roles), and 'ガバナンスツール' (Governance Tools). '検討プロセス' includes '地域になじむ色彩、素材等をメーカー既製品カタログから選択' (Selecting colors and materials that fit the local area from manufacturer catalogs). 'アクターと役割' lists '設計者：メーカーカタログから3案比較' (Designer: 3 case comparisons from manufacturer catalogs) and '行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により、3案比較から選択' (Administrative staff: Selection from 3 case comparisons based on standard costs and upgrade ideas). 'ガバナンスツール' includes 'A3.仕様書三案比較' (A3. 3 case comparison of specifications) and 'a1.組織規範' (a1. Organizational standards). An arrow from '関与者群' (Stakeholders) also points to the central process. The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which includes a photo of the green interlocking blocks and the text '景観性：一般的なインターロッキングだが一部駐車場県広場に緑化ブロックが採用されている。' (Landscape: General interlocking, but green interlocking blocks are used in some parking lots and prefectural squares).</p>		

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	オリジナルデザイン	高さの高いシェルターとそこに添架するサイン等はオリジナルデザイン。		
	事業特性	駅前広場単特事業 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案	設計計算	現場監理
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、学識経験者：デザインの妥当性確認	デザイナー：デザインに基づく設計計算、実施設計図作成 行政担当：設計計算、実施設計図の確認	行政担当：工事の出来形確認 デザイナー：現場監理 施工者：デザイナーの指示に応じて調整
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託 b3. 学識経験者等：デザインの評価、助言	a1. コスト検証・序内調整 A1. 会議設置	A1. 現場監理 b1. 施工者協力
	関与者群			
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to '検討プロセス' (Design Process), which includes '景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (Proposal of original design considering landscape), '設計計算' (Design Calculation), and '現場監理' (Site Supervision). Below this, 'アクターと役割' (Actors and Roles) lists: 'デザイナー：オリジナルデザイン提案' (Designer: Original design proposal), '学識経験者等：デザインの妥当性確認' (Experts: Design appropriateness confirmation), 'デザイナー：デザインに基づく設計計算、実施設計図作成' (Designer: Design calculation and implementation drawing creation), '行政担当：設計計算、実施設計図の確認' (Admin: Design calculation and implementation drawing confirmation), '行政担当：工事の出来形確認' (Admin: Work completion confirmation), and 'デザイナー：現場監理' (Designer: Site supervision). '施工者：デザイナーの指示に応じて調整' (Construction worker: Adjustment according to designer's instructions) is also shown. 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes: 'A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託' (Commissioning to designer with know-how), 'b3. 学識経験者等：デザインの評価、助言' (Experts: Design evaluation and advice), 'a1. コスト検証・序内調整' (Cost verification and internal adjustment), 'A3. 設計計算' (Design calculation), 'A1. 現場監理' (Site supervision), and 'b1. 施工者協力' (Construction worker cooperation). '関与者群' (Stakeholders) is at the bottom. The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which is '景観性・オリジナルデザイン：高さの高いシェルターとそこに添架するサイン等はオリジナルデザイン。' (Landscape-oriented original design: tall shelter and signs attached to it are original design). An image of the shelter is included.</p>		

対象		内容		
施設デザイン 緑地等	地域性、気候風土	市民とのワークショップでだされた地域の原風景を地域の樹種で駅前の顔としてデザイン。		
	事業特性	先行計画 法令：建築基準法		
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	市民意向の反映，維持管理性の担保	現場監理，利活用の促進
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修 施工者：現場での調整
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整
	関与者群			
	概念図			

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

学識者と大学研究室がつくる会議、つかう会議を運営し、市民が参加して議論。デザインは学識者の建築家が建設コンサルタントの下請けとして担当し、上物の設計監理を行っている。

事業は駅前広場単独事業で駅舎や周辺の街区の建築がばらばらであったため、デザイナーとしての建築家が、大きなキャノピーによる場の統合のアイディアを提案した。キャノピー下が行動で車両が通行するため高さが高くなり、都市的なスケールのキャノピーとして駅前広場の顔を特徴づけている。





つかう会議では、地域の活動をされている方が参加し、設計施工中にイベントを開催したり、セミナーを開催し、使い方を議論している。そこでの話し合いを受けて、在来種を用いた緑地等のデザインや地域の木材を軒天に活用したデザインなどが生まれている。



(13) 熊本駅 西口駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	統合性	駅周辺整備は一体的な体制で行われているが、駅前広場の上物を対象にコンペでデザインを公募。選定案は屋根、壁による特徴的な統合性を持つオリジナルデザインを実現。	
施設デザイン	舗装等	一般的な透水性コンクリートブロック平板。	
	ストリーマニアチャ	オリジナルデザイン シェルターを構成する屋根や壁などに照明やサインなどが統合されたオリジナルデザイン。	
	緑地等	地域の気候風土、維持管理を考慮して自然樹形に近い樹種で、雑木林の雰囲気や四季の変化などを楽しめる植栽デザイン。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
全体デザイン	統合性	統一的なモチーフによる統合性		
	事業特性	熊本アートポリス、駅周辺整備計画・検討体制、対象範囲（上物）、先行事業（駅舎設計）		
	検討プロセス	優秀なデザイナーの選定方法の検討	特徴的なデザインの立案・選定	デザインの具現化
	アクターと役割	行政担当：県のコンペ事業に参加	建築家：要項を受け、地域のシンボルをモチーフ化  選定委員会：建築家による審査で選定	建築家：設計監理  行政担当：構造物の位置づけ協議、道路構造物の整合性調整
	ガバナンスツール	A1. 調達：設計競技 B3. 県のコンペ事業	A1. 建築家のための審査委員会設置 b1. 審査基準（東の屋根、西の壁）	A1, 設計監理発注（上物） A1. 設計別途発注（インフラ） b1. 建築土木総合施行者による施工
	関与者群	県：プロポ事務局	選定委員会（建築家）：デザイン選定 市民（アンケート）	デザイン会議：報告
概念図				

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	一般	一般的な透水性コンクリートブロック平板。		
	事業特性	法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	(既製品選択の場合) 地域になじむ色彩, 素材等をメーカー既製品カタログから選択		
	アクターと役割	設計者：メーカーカタログから3案比較 行政担当：組織の持っている標準コストやグレードアップの考え方により, 3案比較から選択		
	ガバナンスツール	A3. 仕様書三案比較 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. On the left, a box labeled '事業特性' (Project Characteristics) has an arrow pointing to a dashed-line box containing the '検討プロセス' (Review Process). Inside this dashed box, '検討プロセス' is at the top, followed by 'アクターと役割' (Actors and Roles), 'ガバナンスツール' (Governance Tools), and '関与者群' (Stakeholders) at the bottom. Arrows indicate an upward flow from '関与者群' to 'ガバナンスツール', then to 'アクターと役割', and finally to '検討プロセス'. An arrow also points from '事業特性' to '検討プロセス'. To the right of the dashed box, an arrow points to a box labeled 'デザインのアウトプット' (Design Output), which contains '景観性：地域になじむ色彩, 素材の舗装等' (Landscape: Local colors, paving materials, etc.).</p>		

対象		内容			
施設デザイン ストーリー チャ	オリジナルデザイン	シェルターを構成する屋根や壁などに照明やサインなどが統合されたオリジナルデザイン。			
	事業特性	熊本アートポリス、駅周辺整備計画・検討体制、対象範囲（上物）、先行事業（駅舎設計） 法令：道路構造令、バリアフリー法			
	検討プロセス	優秀なデザイナーの選定方法の検討	特徴的なデザインの立案・選定	デザインの具現化	
	アクターと役割	行政担当：県のコンペ事業に参加	建築家：要項を受け、地域のシンボルをモチーフ化  選定委員会：建築家による審査で選定	建築家：設計監理  行政担当：構造物の位置づけ協議、道路構造物の整合性調整	
	ガバナンスツール	A1. 調達：設計競技 B3. 県のコンペ事業	A1. 建築家のための審査委員会設置 b1. 審査基準（東の屋根、西の壁）	A1. 設計監理発注（上物） A1. 設計別途発注（インフラ） b1. 建築土木総合施行者による施工	
	関与者群	県：プロポ事務局	選定委員会（建築家）：デザイン選定 市民（アンケート）	デザイン会議：報告	
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's workflow. It starts with 'Project Characteristics' (e.g., integrated station building, 1.5-story building) and 'Stakeholders' (County, Propo Agency). The 'Selection Process' involves selecting designers, evaluating designs, and realizing them. 'Governance Tools' include design competitions and county competitions. 'Design Outputs' focus on integration with the station building and specific design elements like the roof and walls. A note mentions a 'Minus Evaluation' (2-story building after construction, accessibility improvement).</p>			

対象		内容				
施設デザイン	緑地等	地域の気候風土	地域の気候風土、維持管理を考慮して自然樹形に近い樹種で、雑木林の雰囲気や四季の変化などを楽しめる植栽デザイン。			
		事業特性	市民、選考委員会、デザイン会議 法令：建築基準法			
		検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	維持管理性の担保	現場監理	
		アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注、社会実験、イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議、現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
		ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
		関与者群				
	概念図	<p>The diagram illustrates the flow from project characteristics to design output. It is organized into four main horizontal layers: <ul style="list-style-type: none"> <li><b>検討プロセス (Review Process):</b> ① Climate-based green site plan, ② Maintenance assurance, ③ Site supervision.</li> <li><b>アクターと役割 (Actors and Roles):</b> Designer (proposal/specification), Admin (method check), Admin (commissioning), Designer (reflection), Designer (on-site adjustment), and Contractor (on-site adjustment).</li> <li><b>ガバナンスツール (Governance Tools):</b> a1. Local species adoption, a1. Maintenance method, A1. Design supervision, b1. On-site adjustment.</li> <li><b>デザインのアウトプット (Design Output):</b> Climate-adapted design with maintenance assurance.</li> </ul> Arrows indicate the flow of information and influence between these components.</p>				


### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- 設計競技でデザイン案を公募しているため、全体デザインと各施設のデザインは実現構造が同じである。基本的に建築家が募集要項をもとにデザインを立案し、関与者群の選考員が選定する。その後、設計監理業務を随意契約し、設計監理を選定された建築家が行うが、適宜デザイン会議等に報告する。
- 一方で、舗装等は、事業特性としてのコストが影響し、一般的な舗装材が選定されている。全体デザインでストリートファニチャが通常のシェルターよりも広範囲に屋根をかけるために予定している事業費を超え、全体デザインに影響の少ない部分、今回の舗装等については、デザインの表現をコストに合わせたと考えられる。

(14) 日立駅 駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、自由通路、周辺関連施設と駅前広場の配置、長さ等の関係性を持ち、海への眺望や高さを抑えたボリュームなど目立らしいデザインで調和	
	一体性	東西の駅前広場の要素（舗装、照明、緑地（植栽））も統一的な考え方でデザインされ、一体性を持つ。	
施設デザイン	舗装等	一般的なインターロッキングブロックだがコンクリート特殊色。	
	ストリートファニチャ	シェルターは、メーカー既製品を駅舎デザインの方針に合わせてアレンジ。ベンチ、植栽用ポットは駅舎と同じコンセプトのオリジナルデザイン。	
	緑地等	海岸口は人工地盤上であることを考慮しプランター（植栽ポッド）をデザインしオリーブを植栽。中央口改築は既存の緑地を踏襲。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅舎、自由通路、周辺関連施設と駅前広場が配置、長さ等の関係性を持ち、海への眺望や高さを抑えたボリュームなど日立らしいデザインで調和		
事業特性	上位計画		
検討プロセス	優秀なデザイナーの選定 ・デザイン競技の実施	調和のデザインの立案 ・風景への眺望を主役としたデザイン	デザインの実現 ・デザイン監修業務
アクターと役割	行政担当：建築家5社を選んで参加依頼、地域の顔となる目標を掲げた要項を作成  選定委員会：上位計画委員会委員長を軸に建築家による審査委員会を設置	デザイナー（建築家）：友好の趣旨を受けてデザインを提案	デザイナー（建築家）：デザイン監修業務を受託し、関係者と定期的な打合せでデザイン提案・調整  設計者：JR、コンサル等、デザイナーの案をもとに実施設計  行政担当：両者を調整
ガバナンスツール	B3. 地域の目標を要項へ落とし込み A1. 選定委員会設置 デザイン競技	B3. 地域の目標を要項へ落とし込み	A1. デザイン監修発注 a3. 調整会議
関与者群	構想委員会		
全体デザイン	<p data-bbox="405 1608 491 1637">概念図</p> <p>The diagram illustrates the design process flow:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>関与者群 (Stakeholders):</b> 構想委員会 (Concept Committee)</li> <li><b>ガバナンスツール (Governance Tools):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>B3. 地域の目標を要項へ落とし込み (Incorporate regional goals into requirements)</li> <li>A1. 選定委員会設置 (Establish selection committee)</li> <li>デザイン競技 (Design competition)</li> </ul> </li> <li><b>アクターと役割 (Actors and Roles):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政担当: 建築家5社を選んで参加依頼、地域の顔となる目標を掲げた要項を作成 (Admin: Select 5 architects, set goals)</li> <li>デザイナー(建築家): 友好の趣旨を受けてデザインを提案 (Designer: Propose design based on friendly intent)</li> <li>デザイナー(建築家): デザイン監修業務を受託し、関係者と定期的な打合せでデザイン提案・調整 (Designer: Receive supervision, adjust with stakeholders)</li> <li>選定委員会: 上位計画委員会委員長を軸に建築家による審査委員会を設置 (Selection Committee: Establish review committee)</li> <li>行政担当: 両者を調整 (Admin: Adjust both)</li> </ul> </li> <li><b>検討プロセス (Review Process):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>優秀なデザイナーの選定・デザイン競技の実施 (Select excellent designer, hold competition)</li> <li>調和のデザインの立案・風景への眺望を主役としたデザイン (Develop design, focus on landscape view)</li> <li>デザインの実現・デザイン監修業務 (Implement design, supervision)</li> </ul> </li> <li><b>デザインのアウトプット (Design Output):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>調和 (Harmony)</li> <li>周辺都市構造との眺望・動線・利用等の軸・連続性の形成による調和 (Harmony through axes and continuity with surrounding urban structure)</li> </ul> </li> </ul>		

対象	内容			
全体デザイン	一体性	東西の駅前広場の要素（舗装、照明、緑地（植栽））も統一的な考え方でデザインされ、一体性を持つ。		
	事業特性			
	検討プロセス	要素ごとに統一的なデザイン立案	統一的な図面，仕様書等で発注	
	アクターと役割	設計者：統一的なデザインを立案 行政担当：担当部署間を調整し統一的设计を採用	行政担当：図面，仕様書等を統一し工事発注	
	ガバナンスツール	a3. 調整会議等で要素を統一	A3. 統一した図面，仕様書等	
	関与者群	JR		
概念図				



対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性	一般的なインターロッキングブロックだがコンクリート特殊色。		
	事業特性	法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	(既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や仕上げを調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容			
施設デザイン	ストーリー チャ	景観性、オリジナルデザイン	シェルターは、メーカー既製品を駅舎デザインの方針に合わせてアレンジ。ベンチ、植栽用ポットは駅舎と同じコンセプトのオリジナルデザイン。		
		事業特性	法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	(既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整		
		アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
		ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
		関与者群			
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) points to '検討プロセス' (Design Process). The '検討プロセス' box contains a sub-box: '② (既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整'. Below this is the 'アクターと役割' (Actors and Roles) section, which lists: '設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整' (Designer: Adjusting color and material composition based on manufacturer products with cooperation), '行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認' (Admin: Internal adjustment, cost confirmation, and specification confirmation), and 'メーカー：調整協力' (Manufacturer: Adjustment cooperation). Below that is the 'ガバナンスツール' (Governance Tools) section, listing 'a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力' and 'a1. 組織規範'. At the bottom is '関与者群' (Stakeholders). On the right, 'デザインのアウットプット' (Design Output) is shown, with the text: '景観性：周辺環境に配慮した色彩、部材構成の既製品アレンジ' (Landscape: Arrangement of manufacturer products with color and material composition considering the surrounding environment). Arrows indicate the flow from the process and actors to the final design output.</p>			

対象		内容				
施設デザイン	緑地等	気候風土、維持管理	海岸口は人工地盤上であることを考慮しプランター（植栽ポット）をデザインしオリーブを植栽。中央口改築は既存の緑地を踏襲。			
		事業特性	法令：建築基準法			
		検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	維持管理性の担保	現場監理	
		アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討 デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注、社会実験、イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議、現場デザイン監修 施工者：現場での調整	
		ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
		関与者群				
	概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) leads to '検討プロセス' (Design Process), which is divided into three stages: ① Climate and local soil-based green space planning, ② Maintenance management assurance, and ③ On-site supervision. Below this, 'アクターと役割' (Actors and Roles) lists: Designer (local green space proposal, materials/specs), Admin (maintenance method review), Designer (design reflection), Admin (commissioning, social experiments, events), Designer (on-site adjustment meetings, design supervision), and Construction (on-site adjustment). 'ガバナンスツール' (Governance Tools) includes: a1. Local species adoption, a1. Maintenance methods, and A1. Construction design supervision/b1. On-site adjustment. '関与者群' (Stakeholders) is at the bottom. On the right, 'デザインのアウトプット' (Design Output) is 'Climate and local soil-based green space design that ensures maintainability'.</p>				




### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- デザイン競技により先行する上位計画策定委員会の委員長及び建築、都市の専門家による選定委員会が5者からデザイン監修者が選ばれているが、実施要項で求められるデザインの方向性が明確に示され、かつ地域の景観等の特性をよく理解した建築家が、地域らしさのデザインを的確に提案している。
- 設計では、デザイン監修者が、設計者のJR、建設コンサルタントと市担当者が合同で打ち合わせをし、デザインのすり合わせ、実施図面への反映を行っている。
- 駅前広場でもストリートファニチャは建築家が随契により設計まで行っている。道路等基盤施設設計は建設コンサルタントが担い、デザインの要点を抑えた役割分担によっている。

(15) 博多駅 博多口駅前広場

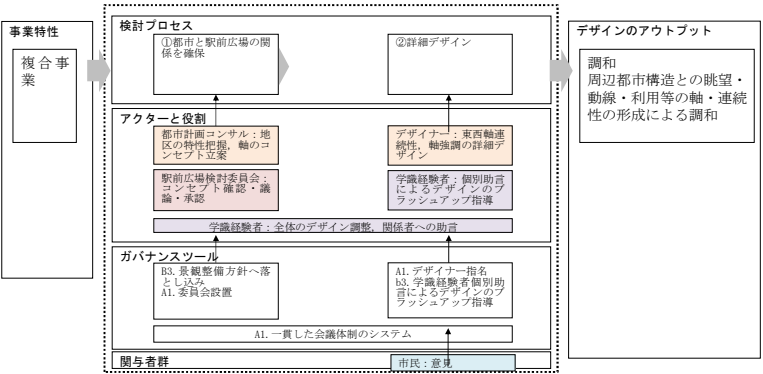
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎とキャノピーから駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。	
施設デザイン	舗装等	JR、市それぞれの施工区分を統一した自然石歩道で構成されている。	
	ストリートファニチャ	シェルター、ベンチは既製品。サインはオリジナルデザイン。	
	緑地等	動線に配慮し、緑陰広場空間を樹種や感覚を複数検討し配置。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅舎、駅周辺整備と駅前広場が調和し、統合的、一体性を持つ。駅舎とキャノピーから駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
事業特性	先行委員会		
検討プロセス	都市と駅前広場の関係を確保	詳細デザイン	
アクターと役割	都市計画コンサル：地区の特性把握、軸のコンセプト立案  駅前広場検討委員会：コンセプト確認・議論・承認	デザイナー：東西軸連続性、軸強調の詳細デザイン  学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	
ガバナンスツール	B3. 景観整備方針へ落とし込み A1. 委員会設置  A1. 一貫した会議体制	A1. デザイナー指名 b3. 学識経験者個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導  のシステム	
関与者群		市民：参加意見	
全体デザイン	<p data-bbox="400 1541 491 1576">概念図</p> 		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、オリジナル	JR、市それぞれの施工区分を統一した自然石歩道で構成されている。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案	標準でない仕様の採用	品質・利用性等の検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認  委員会、学識者等：デザインの妥当性確認	行政担当：メーカー等への協力依頼 デザイナー：メーカーへのデザイン監修  メーカー：試験製作
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群			市民：参加意見
	概念図	<p>The concept diagram is a flowchart enclosed in a dashed box. It is organized into several horizontal layers with arrows indicating flow from bottom to top. At the bottom is a box for 'Stakeholders' (市民：参加意見). Above it is the 'Governance Tools' (ガバナンスツール) layer, containing 'A1. Commissioning to designers with know-how' and 'a1. Cost verification and intra-office adjustment, A1. Meeting setup'. The next layer is 'Actors and Roles' (アクターと役割), which includes 'Designer: Original design proposal, material/specification check', 'Administrative staff: Intra-office adjustment, cost confirmation/adjustment, specification confirmation', and 'Committee/Scholars: Confirmation of design appropriateness'. Above this is the 'Design Process' (検討プロセス) layer, with three steps: '1. Proposal of original design considering landscape', '2. Adoption of non-standard specifications', and '3. Verification of quality/usability'. At the top right is the 'Design Output' (デザインのアウトプット) box, which states: 'Original design: Considering surrounding environment and historical/cultural context, original paving etc.' A box for 'Project Characteristics' (事業特性) is on the left, with an arrow pointing towards the process.</p>		

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	景観性	シェルター、ベンチは既製品。サインはオリジナルデザイン。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	(既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容				
施設デザイン	緑地等	景観性	動線に配慮し、緑陰広場空間を樹種や感覚を複数検討し配置。			
		事業特性	先行計画 法令：建築基準法			
		検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	維持管理性の担保	現場監理	
		アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討  デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催  デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修  施工者：現場での調整	
		ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整	
		関与者群				
	概念図	<p>The diagram illustrates the conceptual framework of the design process. It is organized into four main horizontal layers, with arrows indicating a flow from bottom to top.      <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Bottom Layer (関与者群 - Stakeholders):</b> This layer is the foundation, with arrows pointing up to the tools and actors.</li> <li><b>Second Layer (ガバナンスツール - Governance Tools):</b> Contains three boxes: 'a1. 在来種採用' (Local species adoption), 'a1. 維持管理方法' (Maintenance methods), and 'A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整' (Construction design supervision and on-site adjustment).</li> <li><b>Third Layer (アクターと役割 - Actors and Roles):</b> Contains three boxes: 'デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討' (Designer: Local green space design proposal, materials/specification review), '行政担当：維持管理方法の検討' (Admin: Maintenance method review), and 'デザイナー：デザインへ反映' (Designer: Reflection in design). Below these are '行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催' (Admin: On-site supervision, social experiments, event planning) and 'デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修' (Designer: On-site adjustment meetings, design supervision). At the bottom of this layer is '施工者：現場での調整' (Construction workers: On-site adjustment).</li> <li><b>Top Layer (検討プロセス - Review Process):</b> Contains three boxes: '①気候風土に根差した緑地計画' (Climate-grounded green space plan), '②. 維持管理性の担保' (Maintenance security), and '③現場監理' (On-site supervision).</li> </ul>     On the right side, a box labeled 'デザインのアウトプット' (Design Output) states: '気候風土・地域の気候風土に適し、維持管理性を担保したデザイン' (Design suitable for climate/ground and local climate, with maintenance security).   </p>				

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

福岡の顔を作るという過年度の方針に基づき、多数の関係者による委員会を立ち上げ、多様な意見を議論しながら、取れんしたデザインにつながっている。座長と学識者を中心とした要素の調整による最小化の思想が徹底され、シンプルな構成となっている。

3つのコンセプトを立案し、そのうちの一つの歩行者の流れを空間構成から施設配置、施設のデザインにつなげて、細部までデザインにつなげている。

委員会で基本的なデザイン計画を合意形成し、その後の設計・現場はデザイナーの委員が設計者をフォローして実現している。



(16) 長野駅 善光寺口駅前広場地区

1) アウトプットとしてのデザインの質

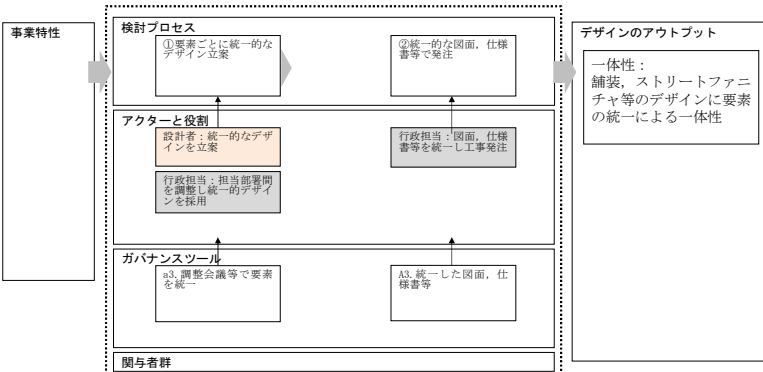
表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	統合性	地域のシンボルの善光寺をモチーフとした大庇、列柱により、駅舎、駅前広場が統合性を持つ。	
	一体性	駅舎大庇列柱から駅広シユルターまで木材を活用、石材舗装、照明、緑地等も統一的な要素で一体性を持つ。	
施設デザイン	舗装等	駅から善光寺へ続く街路まで一体的に善光寺の参道をイメージする大判の自然石舗装。	
	ストリーファニチャ	景観性、歴史文化、地域の技術、オリジナルデザイン シユルターは地元産木材を表面材としたオリジナルデザイン。その他の照明柱、車止め、サイン等は既製品。	
	緑地等	地域性、気候風土 ゾーンごとに限られたスペースを活用し、四季の感じられる高木をコーナーなどの隙間に配置。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
統合性	地域のシンボルの善光寺をモチーフとした大庇、列柱により、駅舎、駅前広場が統合性を持つ。		
事業特性	先行計画（委員会設置提言）		
検討プロセス	地域らしさをモチーフにデザイン立案	デザインを協働により実現	
アクターと役割	デザイナー：地域らしさをモチーフにデザイン立案  委員会等：デザインの妥当性を確認	デザイナー：デザイン監修等で実施設計を監理  建設コンサル等：実施設計図の作成	
ガバナンスツール	A1. デザイナー指名、委員会設置	A1. デザイン監修委託 実施設計等委託	
関与者群	市民		
全体デザイン	<p>事業特性 単独事業</p> <p>検討プロセス</p> <p>①地域らしさをモチーフにデザイン立案</p> <p>②デザインを協働により実現</p> <p>デザインのアウトプット</p> <p>統合性： 一のデザイン要素により駅前広場全体の統合性</p> <p>アクターと役割</p> <p>デザイナー：地域らしさをモチーフにデザイン立案</p> <p>デザイナー：デザイン監修等で実施設計を監理</p> <p>委員会等：デザインの妥当性を確認</p> <p>建設コンサル等：実施設計図の作成</p> <p>ガバナンスツール</p> <p>A1. デザイナー指名、委員会設置</p> <p>A1. デザイン監修委託 実施設計等委託</p> <p>関与者群</p> <p>市民：意見</p> <p>概念図</p>		

対象	内容			
全体デザイン	一体性	駅舎大庇列柱から駅広シェルターまで木材を活用、石材舗装、照明、緑地等も統一的な要素で一体性を持つ。		
	事業特性	先行計画（委員会設置提言）		
	検討プロセス	要素ごとに統一的なデザイン立案	統一的な図面，仕様書等で発注	
	アクターと役割	設計者：統一的なデザインを立案 行政担当：担当部署間を調整し統一的デザインを採用	行政担当：図面，仕様書等を統一し工事発注	
	ガバナンスツール	a3. 調整会議等で要素を統一	A3. 統一した図面，仕様書等	
	関与者群			
	概念図	 <p>The diagram illustrates the process of achieving design uniformity. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) leading to a '検討プロセス' (Review Process) where '①要素ごとに統一的なデザイン立案' (Unified design proposal for each element) is implemented. This leads to '②統一的な図面，仕様書等で発注' (Ordering unified drawings and specifications). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section shows '設計者：統一的なデザインを立案' (Designer: Unified design proposal) and '行政担当：担当部署間を調整し統一的デザインを採用' (Admin: Adjusting between departments to adopt unified design). The 'ガバナンスツール' (Governance Tools) section shows 'a3. 調整会議等で要素を統一' (a3. Unifying elements through adjustment meetings) and 'A3. 統一した図面，仕様書等' (A3. Unified drawings and specifications). The final 'デザインのアウトプット' (Design Output) is '一体性：舗装，ストリートファニチャ等のデザインに要素の統一による一体性' (Uniformity: Uniformity of elements in paving, street furniture etc. design). The '関与者群' (Stakeholders) are also indicated at the bottom.</p>		

対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性、バリアフリー	駅から善光寺へ続く街路まで一体的に善光寺の参道をイメージする大判の自然石舗装。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案	標準でない仕様の採用	品質・利用性等の検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認  委員会、学識者等：デザインの妥当性確認	行政担当：メーカー等への協力依頼  デザイナー：メーカーへのデザイン監修  メーカー：試験製作
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義の組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群	市民		
	概念図	<p>The concept diagram illustrates the project's workflow. It starts with '事業特性' (Project Characteristics) and '関与者群' (Stakeholders) at the bottom. '関与者群' includes '市民：参加意見' (Citizens: Participation Opinions). The process flows through 'ガバナンスツール' (Governance Tools), which includes 'A1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置' (a1. Cost verification, internal adjustment, A1. Meeting setup) and 'b1. 現場主義組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加' (b1. Field-oriented organizational culture, a1. Manufacturer cooperation, b3. Citizen participation). This leads to '検討プロセス' (Design Process), which includes '①景観に配慮したオリジナルデザインの立案' (1. Proposal of original design considering landscape), '②標準でない仕様の採用' (2. Adoption of non-standard specifications), and '③品質・利用性等の検証' (3. Verification of quality, usability, etc.). The '検討プロセス' is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), which includes 'デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討' (Designer: Proposal of original design, material/specification review), '行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認' (Administrative staff: Internal adjustment, cost confirmation/adjustment, specification confirmation), '行政担当：メーカー等への協力依頼' (Administrative staff: Request for cooperation from manufacturers), 'デザイナー：メーカーへのデザイン監修' (Designer: Design supervision for manufacturer), '委員会、学識者等：デザインの妥当性確認' (Committee, experts, etc.: Confirmation of design appropriateness), and 'メーカー：試験製作' (Manufacturer: Trial production). The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), which is 'オリジナルデザイン：周辺環境や歴史文化等を考慮したオリジナルの舗装等' (Original design: Original paving etc. considering surrounding environment and historical culture).</p>		

対象		内容			
施設デザイン	ストーリー チャ	景観性、歴史文化、地域の技術、オリジナルデザイン	シェルターは地元産木材を表面材としたオリジナルデザイン。その他の照明柱、車止め、サイン等は既製品。		
		事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
		検討プロセス	(既製品アレンジの場合)既製品をベースに色や仕上げを調整		
		アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整  行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認  メーカー：調整協力		
		ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
		関与者群			
	概念図				

対象		内容		
施設デザイン 緑地等	地域性、気候風土	ゾーンごとに限られたスペースを活用し、四季の感じられる高木をコーナーなどの隙間に配置。		
	事業特性	先行計画 法令：建築基準法		
	検討プロセス	気候風土に根差した緑地計画	維持管理性の担保	現場監理
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案，素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討  デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注，社会実験，イベント等の企画開催 デザイナー：現場調整会議，現場デザイン監修  施工者：現場での調整
	ガバナンスツール	a1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整
	関与者群			
	概念図	<p>The diagram illustrates the conceptual framework of the design process. It is organized into several interconnected components:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>事業特性 (Project Characteristics):</b> Points to the initial '検討プロセス' (Review Process).</li> <li><b>検討プロセス (Review Process):</b> A central flowchart with three main stages:       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 気候風土に根差した緑地計画 (Climate-based green space planning)</li> <li>② 維持管理性の担保 (Ensuring maintainability)</li> <li>③ 現場監理 (On-site supervision)</li> </ol> </li> <li><b>アクターと役割 (Actors and Roles):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイナー (Designer): 地域らしい緑地デザイン提案, 素材・仕様検討 (Local green space design proposal, material/specification review)</li> <li>行政担当 (Admin): 維持管理方法の検討 (Review of maintenance methods)</li> <li>行政担当 (Admin): 現場監理発注, 社会実験, イベント等の企画開催 (On-site supervision commissioning, social experiments, event planning)</li> <li>デザイナー (Designer): デザインへ反映 (Reflection in design)</li> <li>デザイナー (Designer): 現場調整会議, 現場デザイン監修 (On-site adjustment meetings, on-site design supervision)</li> <li>施工者 (Construction): 現場での調整 (On-site adjustment)</li> </ul> </li> <li><b>ガバナンスツール (Governance Tools):</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>a1. 在来種採用 (Local species adoption)</li> <li>a1. 維持管理方法 (Maintenance methods)</li> <li>A1. 施工デザイン監理の発注 (Commissioning of construction design supervision)</li> <li>b1. 現場での調整 (On-site adjustment)</li> </ul> </li> <li><b>関与者群 (Stakeholders):</b> A box at the bottom representing the community of participants.</li> <li><b>デザインのアウトプット (Design Output):</b> The final result: 気候風土：地域の気候風土に適し、維持管理性を担保したデザイン (Design suitable for local climate and ensuring maintainability).</li> </ul>		





### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

- ・ 先行する計画委員会で景観デザインの重要性が提言され、景観検討委員会を設置。
- ・ 全体デザインでは、先行計画でのビジョンが地域らしさに影響し、建設コンサルタントが委員会運営を行うとともにデザインを提案し、委員会での議論及び委員長個別に指導があり、さらに市民にアンケートを行うことで統合性を持つ大庇のデザインが実現している。

(17) 福井駅 西口駅前広場

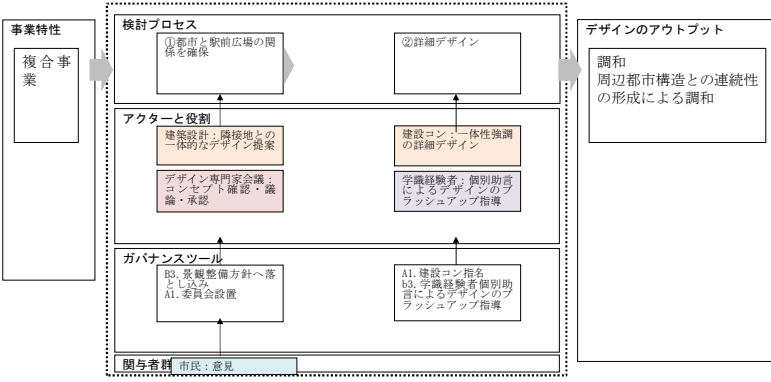
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真	
全体デザイン	調和	駅舎は既存だが、駅前広場と周辺の再開発が、調和、一体性を持つ。再開発の屋内広場から駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
施設デザイン	舗装等	自然石舗装だが、隣接する再開発まで一体的に舗装。		
	ストリーニアニスタ	景観性、オリジナル	シェルターは、冬の風や暗さに配慮し、隣接する再開発ビルと同じオリジナルデザイン。	
	緑地等	気候風土	福井の自然を模した緑地帯を設け、地形、低木、高木でデザイン。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
調和	駅舎は既存だが、駅前広場と周辺の再開発が、調和、一体性を持つ。再開発の屋内広場から駅広まで一体化。舗装、照明、緑地も統一的な考え方でデザイン。		
事業特性	隣接地に再開発事業		
検討プロセス	①都市と駅前広場の関係を確保	②詳細デザイン	
アクターと役割	建築設計：隣接地との一体的なデザイン提案 デザイン専門家会議：コンセプト確認・議論・承認	建設コン：一体性強調の詳細デザイン 学識経験者：個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	
ガバナンスツール	B3. 景観整備方針へ落とし込み A1. 委員会設置	A1. 建設コン指名 b3. 学識経験者個別助言によるデザインのブラッシュアップ指導	
関与者群	市民		
全体デザイン	<p data-bbox="215 1120 383 1153">全体デザイン</p> <p data-bbox="406 1444 494 1478">概念図</p> 		



対象		内容		
施設デザイン 舗装等	景観性	自然石舗装だが、隣接する再開発まで一体的に舗装。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	景観に配慮したオリジナルデザインの立案 ・駅舎等のデザインに相応しいデザインの立案	標準でない仕様の採用 ・コスト、意匠等の妥当性 ・性能等の法令順守机上確認	品質・利用性等の検証 ・縁石のバリアフリー検証
	アクターと役割	デザイナー：オリジナルデザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認  委員会、学識者等：デザインの妥当性確認	行政担当：メーカー等への協力依頼  デザイナー：メーカーへのデザイン監修  メーカー：試験製作
	ガバナンスツール	A1. ノウハウのあるデザイナーへの委託	a1. コスト検証・庁内調整 A1. 会議設置	b1. 現場主義組織文化 a1. メーカー協力 b3. 市民参加
	関与者群	市民		
	概念図			

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	景観性、オリジナル	シェルターは、冬の風や暗さに配慮し、隣接する再開発ビルと同じオリジナルデザイン。		
	事業特性	先行計画 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	②（既製品アレンジの場合）既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整	行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認	メーカー：調整協力
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容		
施設デザイン 緑地等	気候風土	福井の自然を模した緑地帯を設け、地形、低木、高木でデザイン。		
	事業特性	先行計画 法令：建築基準法		
	検討プロセス	①気候風土に根差した緑地計画	②維持管理性の担保	③現場監理
	アクターと役割	デザイナー：地域らしい緑地デザイン提案、素材・仕様検討	行政担当：維持管理方法の検討  デザイナー：デザインへ反映	行政担当：現場監理発注、社会実験、イベント等の企画開催  デザイナー：現場調整会議、現場デザイン監修  施工者：現場での調整
	ガバナンスツール	Aa1. 在来種採用	a1. 維持管理方法	A1. 施工デザイン監理の発注 b1. 現場での調整
	関与者群			
	概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) and '関係者群' (Stakeholders) are shown. The main process is divided into three horizontal layers: '検討プロセス' (Design Process) at the top, 'アクターと役割' (Actors and Roles) in the middle, and 'ガバナンスツール' (Governance Tools) at the bottom. Arrows indicate the flow from these layers into the '検討プロセス' boxes. The '検討プロセス' consists of three steps: ① Climate and wind conditions based green space planning, ② Maintenance management assurance, and ③ On-site supervision. The 'アクターと役割' layer includes roles for designers, administrative staff, and construction workers. The 'ガバナンスツール' layer includes tools like local species adoption, maintenance methods, and supervision. On the right, 'デザインのアウトプット' (Design Output) is shown, which is a design adapted to local climate and wind conditions with maintenance assurance.</p>		



### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察

デザインの専門家による会議を設置し、隣地の再開発事業の範囲と駅前広場を一体的に議論。  
 先行する再開発事業者の設計担当をトータルデザインのデザイン担当とし、デザイン専門家会議の事務局とし、その後の相互調整を円滑にした。  
 9月から12月の短い期間で4回の会議を開催。  
 コンセプト、レイアウトを決めて終わっている。  
 そのため、詳細デザインは委員会の委員を務めていたデザイナーが設計者をフォローして優れたデザインを実現した。

(18) N 駅 駅前広場

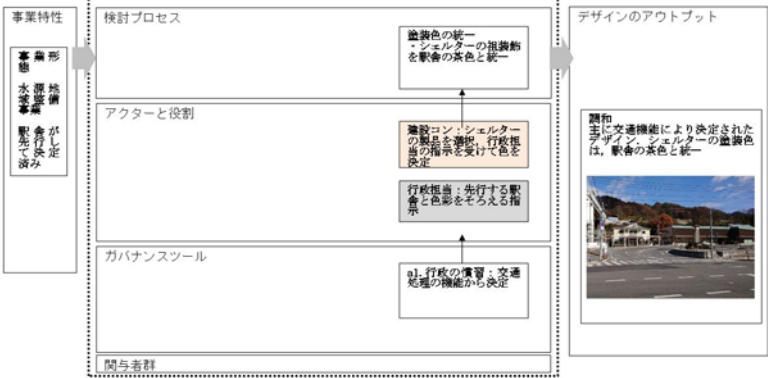
1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	一般	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、駅前広場供用後に施工された民間施設やその他公共施設の色彩は統一されていない。	
施設デザイン	舗装等	一般的なインターロッキング。	
	ストリートファニチャ	一般的な既製品。	
	緑地等	中央分離帯の限られた範囲に芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容		
一般	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、駅前広場供用後に施工された民間施設やその他公共施設の色彩は統一されていない。		
事業特性	N 駅駅前広場は、ダム事業の生活再建関連事業における整備であり、土地利用や範囲についてはその事業内で検討され決定されている。 また、同時に整備されている駅舎は、鉄道事業者が先行して、和風・茶系のデザインで整備中である。駅舎、駅前広場、周辺道路の整備終了後、駅に隣接する民間事業者の店舗棟が整備されている。		
検討プロセス	塗装色の統一 ・シェルターの粗装飾を駅舎の茶色と統一		
アクターと役割	建設コン：シェルターの製品を選択，行政担当の指示を受けて色を決定  行政担当：先行する駅舎と色彩をそろえる指示		
ガバナンスツール	a1. 行政の慣習：交通処理の機能から決定		
関与者群			
全体デザイン	<p data-bbox="405 1518 491 1547">概念図</p>  <p>The concept diagram is a flowchart enclosed in a dashed box. On the left, a vertical box labeled '事業特性' (Project Characteristics) lists '事業形態' (Project Type), '事業内容' (Project Content), and '事業計画' (Project Plan). An arrow points from this box to the '検討プロセス' (Review Process) section. The '検討プロセス' section is divided into three horizontal boxes: '検討プロセス' (top), 'アクターと役割' (Actors and Roles), and 'ガバナンスツール' (Governance Tools). The '検討プロセス' box contains a text box: '塗装色の統一・シェルターの粗装飾を駅舎の茶色と統一'. The 'アクターと役割' box contains two text boxes: '建設コン：シェルターの製品を選択，行政担当の指示を受けて色を決定' and '行政担当：先行する駅舎と色彩をそろえる指示'. The 'ガバナンスツール' box contains a text box: 'a1. 行政の慣習：交通処理の機能から決定'. An arrow points from the '検討プロセス' box to the 'デザインのアウトプット' (Design Output) section on the right. The 'デザインのアウトプット' section contains a text box: '和風・茶系に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一' and a photograph of a station platform with a shelter.</p>		

対象		内容			
施設デザイン	舗装等	一般	一般的なインターロッキング。		
		事業特性	行政から建設コンサルタントに、駅前広場に隣接する橋梁の舗装と同様の舗装とする指示がされている。		
		検討プロセス	既製品の選択		
		アクターと役割	行政担当：隣接する橋梁歩道と同一に指示 建設コン：メーカーへの製品情報提供依頼，三案比較 メーカー：情報提供		
		ガバナンスツール	a1. 行政の慣習：実績のある製品		
		関与者群	市民		
		概念図	<p>The concept diagram illustrates the process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) leads to '検討プロセス' (Review Process). The '検討プロセス' is divided into three stages: 'アクターと役割' (Actors and Roles), 'ガバナンスツール' (Governance Tools), and '関与者群' (Stakeholders). 'アクターと役割' includes '行政担当：隣接する橋梁歩道と同一に指示' (Admin: Same instruction as adjacent bridge sidewalk), '建設コン：メーカーへの製品情報提供依頼，三案比較' (Construction Con: Product information request to manufacturer, 3-case comparison), and 'メーカー：情報提供' (Manufacturer: Information provision). 'ガバナンスツール' includes 'a1. 行政の慣習：実績のある製品' (a1. Admin's habit: Proven products). '関与者群' includes '市民：意見' (Citizens: Opinions). The '検討プロセス' leads to '既製品の選択' (Selection of Existing Products), which then leads to 'デザインのアウトプット' (Design Output). The design output is '一般的なインターロッキング：隣接する橋梁歩道と類似' (General interlocking: Similar to adjacent bridge sidewalk).</p>		

対象		内容		
施設デザイン ストリー ムチャ	一般	一般的な既製品。		
	事業特性	事業特性は，全体デザインと同様の和風・茶系以外は特にみられない。		
	検討プロセス	既製品の選択		
	アクターと役割	行政担当：3案比較から指定  建設コン：メーカーへの製品情報提供依頼，三案比較  メーカー：情報提供		
	ガバナンスツール	a1. 行政の慣習：3案比較から選択 A3. 仕様書：3案比較（当該事例の場合は地域に打診）		
	関与者群	市民		
	概念図	<p>事業特性 先行する駅舎が茶系</p> <p>検討プロセス</p> <p>既製品の選択</p> <p>アクターと役割</p> <p>行政担当：3案比較から指定 建設コン：メーカーへの製品情報提供依頼，三案比較 メーカー：情報提供</p> <p>ガバナンスツール</p> <p>a1. 行政の慣習：3案比較から選択 A3. 仕様書：3案比較（当該事例の場合は地域に打診）</p> <p>関与者群</p> <p>市民：意見</p> <p>デザインのアウトプット</p> <p>一般的な既製品：先行する駅舎と茶系の塗装色をそらえる</p>		

対象		内容			
施設デザイン	緑地等	一般	中央分離帯の限られた範囲に芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている。		
		事業特性	事業特性は、全体デザインと同様の和風・茶系以外は特 にみられない。 法令：建築基準法		
		検討プロセス	残地に最小限の植栽		
		アクターと役割	行政担当：周辺や慣習などから樹種を指定  建コン：行政の指示を受けて作図		
		ガバナンスツール	B1. 標準図 a1. 行政の規範		
		関与者群			
		概念図	<p>The concept diagram illustrates the flow from project characteristics to design outputs. It is organized into three main horizontal sections: 'Implementation Steps' (実現ステップ), 'Actors and Roles' (アクターと役割), and 'Governance Tools' (ガバナンスツール).  - On the left, 'Project Characteristics' (事業特性) points to the 'Implementation Steps' section.  - The 'Implementation Steps' section contains a box for 'Minimum planting in residual land' (残地に最小限の植栽).  - The 'Actors and Roles' section contains two boxes: 'Administrative responsibility: specify tree species based on surroundings and customs' (行政担当：周辺や慣習などから樹種を指定) and 'Construction: create drawings upon administrative instructions' (建コン：行政の指示を受けて作図).  - The 'Governance Tools' section contains a box for 'B1. Standard drawing, a1. Administrative standards' (B1. 標準図 a1. 行政の規範).  - Arrows indicate that the 'Actors and Roles' section influences the 'Implementation Steps', and the 'Governance Tools' section influences the 'Actors and Roles'.  - On the right, 'Design Outputs' (デザインのアウトプット) shows a photo of the implemented landscape with a caption: 'General design: Murasaki Tsubaki and grass are planted in the limited central median area' (一般的デザイン：中央分離帯の限られた範囲に芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている).</p>		

### 3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察





- 基本的に行政担当から、建設コンサルタントへ垂直的な指示が行われ、それに従ってコンサルタントが設計している。
- 舗装、ストリートファニチャについては、標準仕様をメーカーから情報提供を受け、設計図としている。



(19) T 駅北口駅前広場

1) アウトプットとしてのデザインの質

表 駅前広場のデザインの質

対象	デザインの質	質の内容	写真
全体デザイン	一般	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、周辺とは統一されていない。	
施設デザイン	舗装等	暖色系ブロック系舗装を採用。	
	ストリートファニチャ	シェルターは一般的な既製品を軒裏を木質にした地域らしさにアレンジ。その他は既製品から選択。	
	緑地等	コーナーに最小限の高木を配置。	

2) デザインプロセスにおける実現構造

表 駅前広場の実現構造

対象	内容			
全体デザイン	一般	全体的に求められている主に交通機能により決定されたデザイン。シェルターの塗装色は、駅舎の茶色と統一されているが、周辺とは統一されていない。		
	事業特性	上位計画、先行事業（駅舎）		
	検討プロセス			
	アクターと役割			
	ガバナンスツール			
	関与者群			
概念図	(特にデザインに配慮されていない)			

対象	内容			
施設デザイン 舗装等	景観性	暖色系ブロック系舗装を採用。		
	事業特性	先行事業		
	検討プロセス	既製品の選択		
	アクターと役割	行政担当：隣接する橋梁歩道と同一に指示 建設コン：メーカーへの製品情報提供依頼，三案比較 メーカー：情報提供		
	ガバナンスツール	a1. 行政の慣習：実績のある製品		
	関与者群	市民		
概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Business Characteristics) leads to '隣接する歩道の仕様' (Specifications of adjacent sidewalks). This feeds into the '検討プロセス' (Design Process) box, which includes '既製品の選択' (Selection of existing products). The 'アクターと役割' (Actors and Roles) section shows '行政担当' (Administrative staff) providing instructions, '建設コン' (Construction company) providing product information and comparing three cases, and 'メーカー' (Manufacturer) providing information. The 'ガバナンスツール' (Governance Tools) section mentions 'a1. 行政の慣習' (Administrative habits). '関与者群' (Stakeholders) includes '市民' (Citizens) and '市民：意見' (Citizens: Opinions). The final output is 'デザインのアウトプット' (Design Output), specifically '一般的なインターロッキング：隣接する橋梁歩道と類似' (General interlocking: similar to adjacent bridge sidewalks).</p>			

対象		内容		
施設デザイン ストーリー チャ	景観性	シェルターは一般的な既製品を軒裏を木質にした地域らしさにアレンジ。その他は既製品から選択。		
	事業特性	先行事業 法令：道路構造令、バリアフリー法		
	検討プロセス	(既製品アレンジの場合) 既製品をベースに色や仕上げを調整		
	アクターと役割	設計者：メーカーの協力を得て、既製品をベースに色や部材構成を調整 行政担当：庁内調整、コスト確認・調整、仕様の確認 メーカー：調整協力		
	ガバナンスツール	a1. コスト検証・庁内調整、メーカー協力 a1. 組織規範		
	関与者群			
	概念図			

対象		内容			
施設デザイン	緑地等	一般	コーナーに最小限の高木を配置。		
		事業特性	事業特性は、全体デザインと同様の和風・茶系以外は特 にみられない。 法令：建築基準法		
		検討プロセス	残地に最小限の植 栽		
		アクターと 役割	行政担当：周辺や慣 習などから樹種を 指定  建コン：行政の指示 を受けて作図		
		ガバナンス ツール	B1. 標準図 a1. 行政の規範		
		関与者群			
		概念図	<p>The diagram illustrates the design process flow. On the left, '事業特性' (Project Characteristics) leads to '実現ステップ' (Implementation Steps), which includes '残地に最小限の植栽' (Minimum planting in remaining land). This step is supported by 'アクターと役割' (Actors and Roles), where '行政担当：周辺や慣習などから樹種を指定' (Administrative staff: specify tree species from surroundings/habits) and '建コン：行政の指示を受けて作図' (Construction: create drawings based on administrative instructions) are involved. This process is governed by 'ガバナンスツール' (Governance Tools), specifically 'B1. 標準図 a1. 行政の規範' (B1. Standard drawing a1. Administrative standards). The entire process is managed by '関与者群' (Stakeholders). On the right, 'デザインのアウトプット' (Design Output) is shown, featuring a photo of a building and a road with trees, accompanied by the text: '一般的デザイン 中央の植栽の限られた範囲に芝生と町の花であるムラサキツツジが植栽されている。' (General design: In the limited area of central planting, lawn and town flowers like Murasaki Tsutsuji are planted).</p>		
<b>3) 分析のまとめ：デザインの質と実現構造の関係の考察</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観条例に基づく景観アドバイザーの助言、公共施設景観形成ガイドラインがガバナンスツールとなって、景観性に配慮したデザインが実現されている。</li> </ul>					